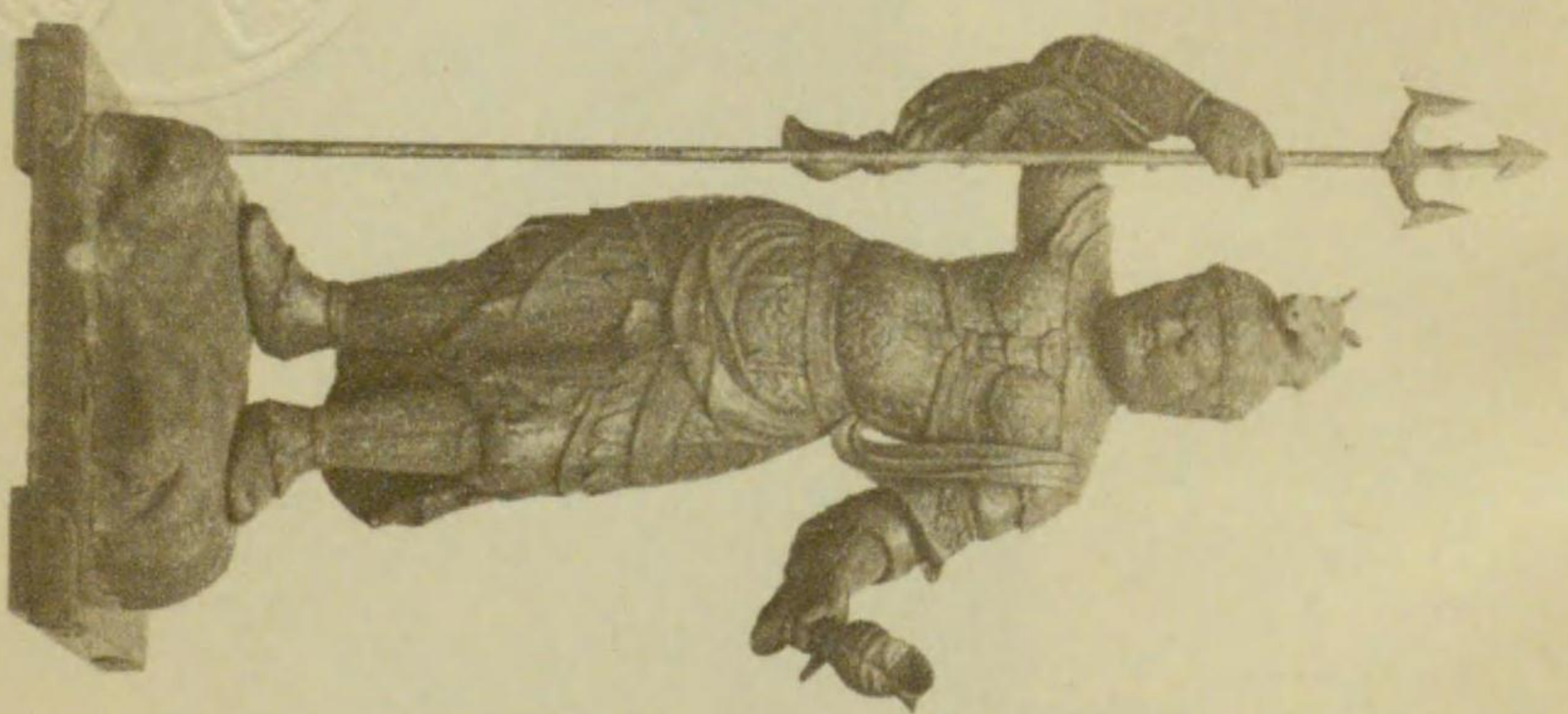


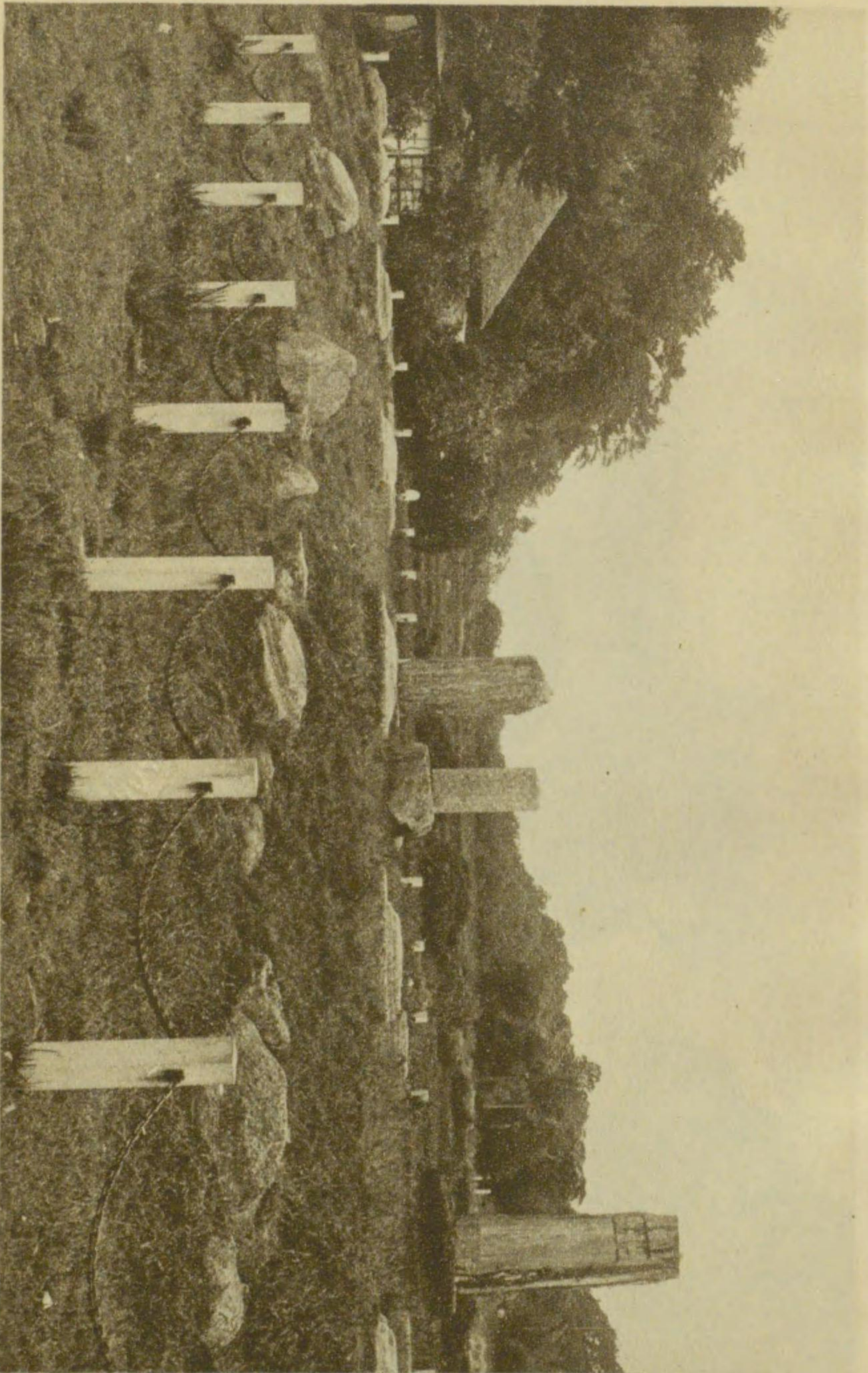
觀世音馬頭寺像



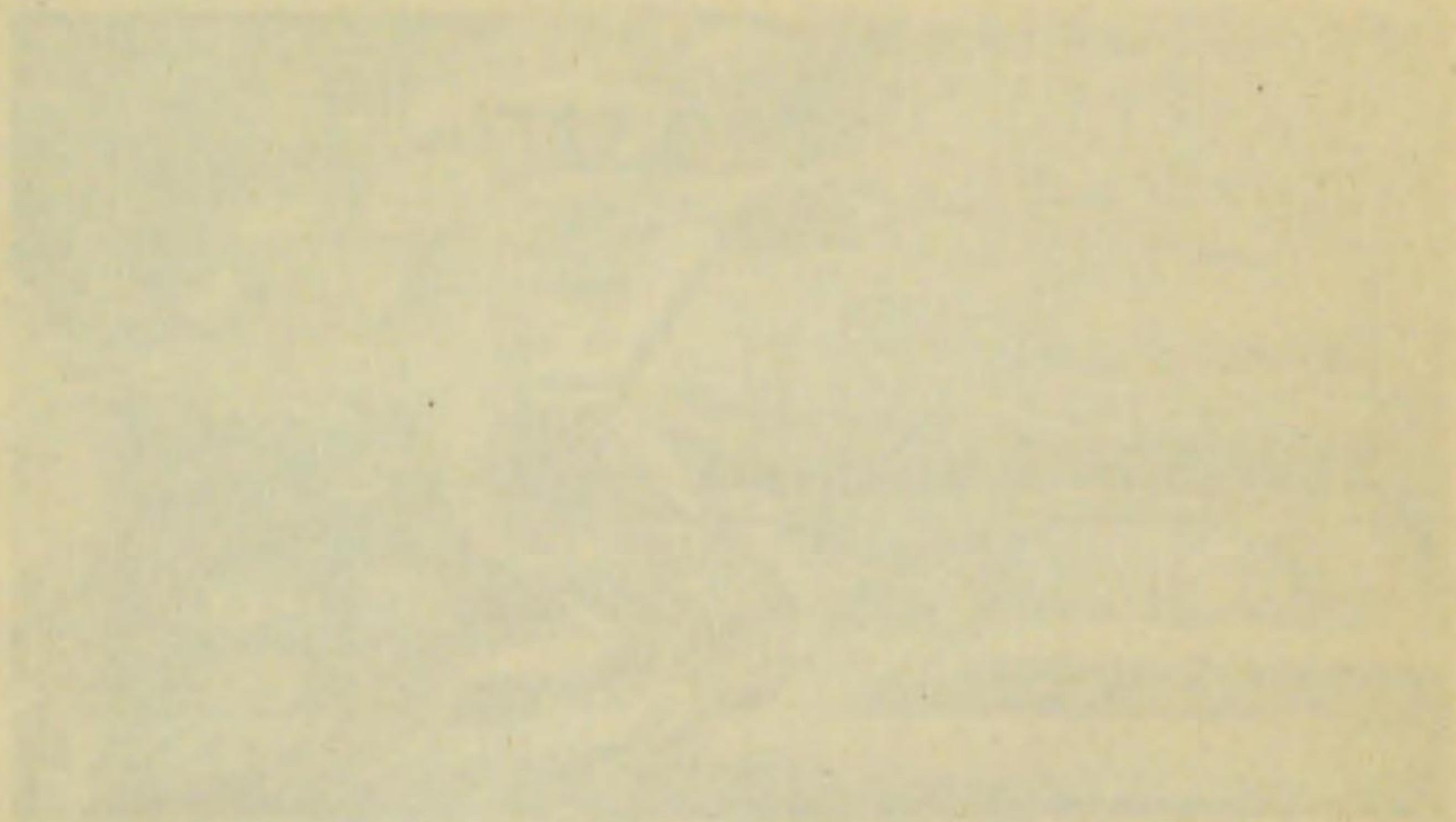
東光院二十神將像



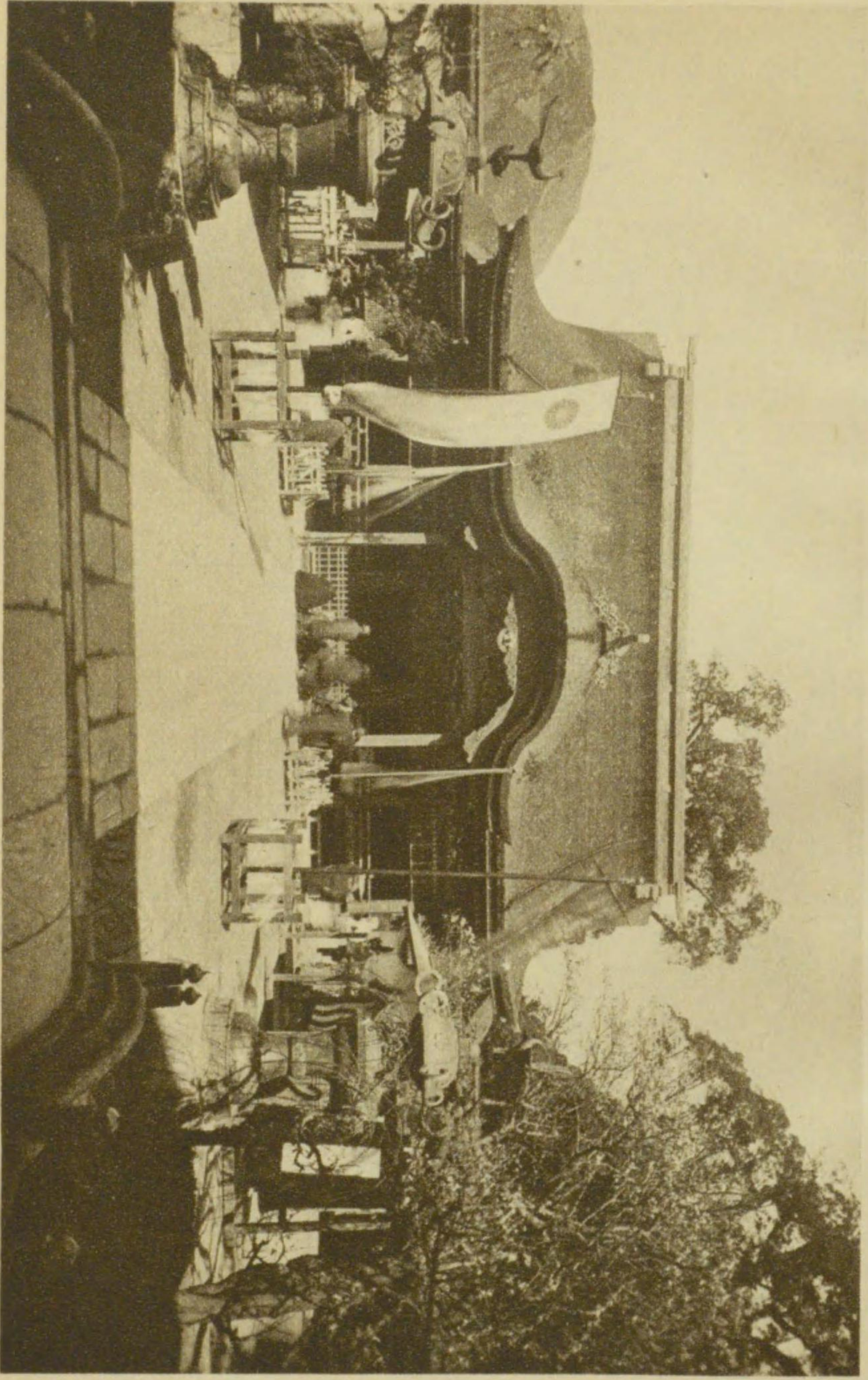




大 宰 府 都 府 樓 址







太 宰 府 神 社





を結んで居る。彫法頗る明快衣文の刻みも流麗にして藤原末期の作と思はれる。左右の脇侍文殊及彌勒の兩像は江戸時代の作であらう。

【大野城址及四王寺址】〔指定史蹟〕（五圖な3）太宰府址の後方に聳ゆる山上に存する。太宰府町及宇美町から何れも約二軒、大城山を西限とし、大原山を東限として、その間の四王寺の山谷を中心に、屏風の如くたて廻らされた山頂に、延長五、三〇餘米に及ぶ土壘が、諸所に石壘を混へて、不規則に環状をなして繞らされた壁壘址で、天智天皇四年勅して百濟人を遣はして肥前の椽城（記夷城）と同時に南北相對して築營せしめ給うた大野城の遺址である。水城と同じく太宰府防備の目的に出たものに外ならない。文武天皇二年太宰府に命じて修築せしめた事がある。奈良末期に至り光仁天皇寶龜五年、新羅祈禱の爲めに太宰府をして四天王塑像四軀を造りて山上に安置せしめ、最勝王經四天王護國品を讀誦修せしむるに及び四王寺が創建せられ、城は四王寺城とも稱せられるに至つた。寺運はその後太

宰府と共に衰へ、鎌倉時代に入りて少貳氏によりて維持せられたが、室町中期に至り今川了俊九州探題となり、少貳氏太宰府を追はれるに及び外護を失ひて廢滅した。遺址は土壘、石壘の外に城門址、水門、礎石等を存し、石壘は横嶽口、坂本口及宇美口等に遺存し、宇美口のものには俗に百間石垣と呼ばれ、長さ一八〇米、高さ三米半に及び、城門址は國分口、坂本口、太宰府口等に存し礎石、敷石様のものが遺つて居る。また四王寺部落の東北山頂に主殿司の遺址と稱せられる巨大の礎石群が存する。四王寺關係の遺址は大城山上の毘沙門堂址、國分口附近の廣目天堂址、太宰府口に近い增長天堂址、大原山上の持國天堂址等で礎石、井戸等が遺存し、毘沙門堂石祠の背後からは昭和二年經塚を發掘して經筒、石佛等を發見した。また城址の南にある岩屋山城址は天正十四年島津義久が薩南の大軍を率ゐて豊臣秀吉方の高橋紹運をこゝに攻めて戦死せしめた古戦場で、山上にその墓がある。

【太宰府神社】〔官幣神社〕（五圖た5）驛の東北約四軒、



筑紫郡太宰府町にあり、自動車の便がある。

當社の起原は菅原道眞謫居の地榎木寺に薨ずるや、  
柩車安樂寺の地に至りて動かさず、即ちその所に葬り以  
て廟所とした。延喜五年公の隨臣味酒安行が神託に依  
りて始めて神殿を建て天満大自在天神と稱したと傳  
ふ。爾來朝廷及武家の崇敬厚く、社殿も漸次壯嚴を加  
へ、神領も數國に及んだことがあり、古來文教の神と  
して京都北野神社と共に廣く信仰されて居る。

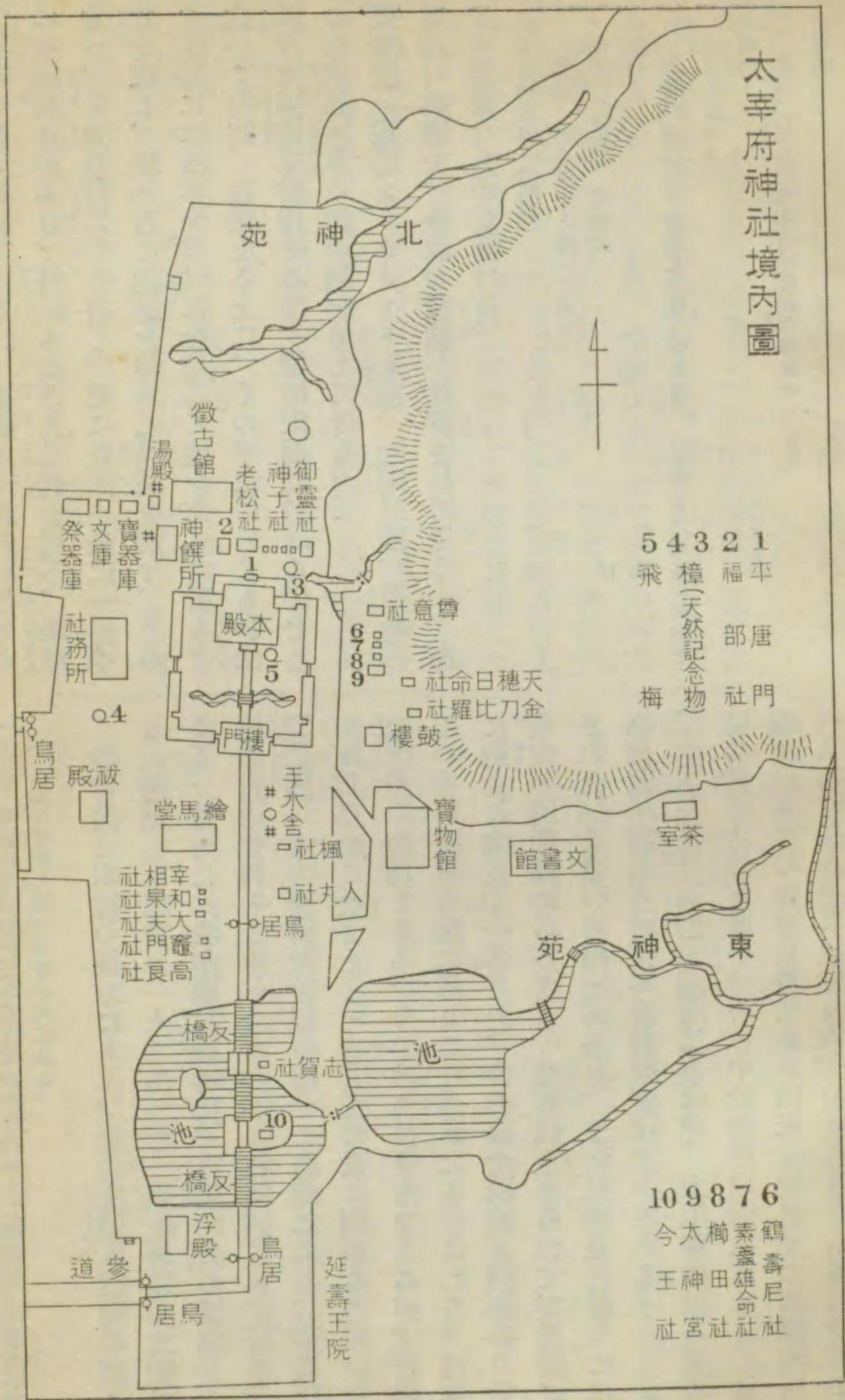
參道の左右に軒をつらねた賣店の間を過ぎ境内に入  
ると、池上に架せられた三橋があり、第二の橋際には  
國寶になつて居る小祠志賀社がある。かくて池上を渡  
り石の鳥居を過ぎると左手に繪馬堂、祓殿、右手に寶  
物館を見て正面に進むと朱塗檜皮葺の樓門がある。樓  
門の左右よりは同じく朱塗の廻廊を出し、本殿の前庭  
をかこんで居る。樓門廻廊等は明治年間の建築である  
が。本殿は小早川隆景が天正年間當國の主となるに及  
んで再建したものである。境内廣く池邊をはじめ所々  
に樟の巨樹があり風致を添へて居る。

例祭八月二十五日。一月七日の夜に行はれる追儺祭  
は、俗に「鬼すべ」と稱し、境内の祓殿に於て行はれ  
る。殿の背後に松葉、藁を夥しく積み上げ、これに點  
火し、猛煙に包まれた中を鬼方各棍棒を揮つて社殿の  
側面を破り、鬼を殿内に迎へ入れる。その行事夜半に  
及び壯烈を極める。また當日午後六時から鬻換の行事  
がある。

本殿〔國寶〕五間社流造、屋根は檜皮葺で、正面に  
は中央に大唐破風の向拜、左右に車寄が附て居る。内  
部は床黒塗にして金箔押の圓柱を建て、奥に黒塗の壇  
を作り、壇上に黒塗の板唐戸を立て神座が設けられ、  
内々陣には菅公の遺骸を納められてある。建築は手法  
雄大、裝飾頗る華麗豪放、桃山時代の特徴を發揮して  
居る。

末社志賀社〔國寶〕境内反橋際にあり、長祿二年に  
再建された方一間、單層、屋根入母屋造柿葺の小社殿  
である。本殿はかくの如く極めて小規模な建築である  
のに、その構造手法の複雑珍奇なるは稀に見る所であ

太宰府神社境内圖





る。屋根は入母屋造であるが、正面に千鳥破風とその前に唐破風とがあり、桁組も四手先詰組を用ゐ、尾極を加へ、支輪及軒天井を有し、更に各面中央に一個の墓股を配し、腰四方に廻椽を繞らし高欄を付け、その下の腰組には四手先挿肘木を用ゐて椽を支へて居る。構造かくの如く複雑なる上に、その手法に於ても和様唐様及天竺様を併用せる等、室町末期に於ける粹をあつめた建築彫形の如き觀を呈して居る。

寶物殿 鐵筋コンクリート朱塗、七間三面、單層入母屋造の建築で、多數の寶物が陳列されて居るが、左にその重要なものを擧げる。

- 一 毛拔形太刀 「國寶」 無銘、菅公佩用と傳へて居る。 一口
- 一 太刀 「國寶」 銘俊次 一口
- 一 鰐口 一口
- 一 神鏡 銅製、徑二尺、慶長五年豊臣朝臣廣門の安樂寺天満宮に奉納せしものである。 二面
- 一 餘香帖 文祿二年大谷刑部小輔吉繼の奉納せしもの。 八册

明治三十五年一千年祭記念のため作られた書畫帖で、當時の著名な書家人物の筆蹟が何はれる。

徴古館 本殿の後方にあり、その玄關は維新の際こゝに滞留した五卿の一人であつた三條卿居館の玄關である。館内には我が國石器時代、古墳時代の遺物その他考古の資料となるべきものが多數陳列されて居る。

【飛梅】 太宰府神社神殿の向つて右側にある、「東風吹かば匂ひおこせよ……」の菅公の歌に因める名高い飛來傳説の梅樹である。今のは無論新木であるが、昔偲ぶの香が賽者の袂に移りてなつかしう思はれる。飛梅に對して大正十一年三月、今の皇太后陛下御參拜の折葉山の御用邸からわざ／＼持ち越させられて寄進遊ばされた「きさいの梅」があり、また東神苑北神苑には梅樹數千株あり、花時清香を漂はすのである。

【太宰府神社の樟】 「指定天然記念物」 太宰府神社の境内には樟の大樹が多い。その中社務所南側にあるものは地上一米半の高さに於て約一四米二、根元の周圍約三六米七である。本殿裏の傾斜地にあるものは低地點よ

り一米半の高さに於て、幹圍約一七米で、いづれも天然記念物に指定せられて居る。

【竈門神社】 「官幣小社」 (五圖か4) 太宰府神社の東北二

軒半、筑紫郡太宰府町内山にあり、竈門山山麓の下宮までは自動車の便がある。祭神玉依姬命は海神の御女で、鷓鴣草葺不合尊の妃となり給ひ、五瀬命、神武天皇等四柱の御子を生み給うて後竈門山に降居給うたと傳へて居る。天武天皇白鳳二年始めて神殿を創建したと傳へ、皇室の尊崇厚く延喜の制名神大社に列せられた。戰國時代には荒廢甚だしかつたが、黒田氏入國後は社殿の再築等があつた。上宮は坂道約三軒の寶滿山山頂の大磐石の上に鎮座して居る。例祭は十一月十五日である。

【寶滿山】 (五圖あ2) 一名竈門山と云ひ、傳説と史實

に富んだ名山である。山頂は竈門神社の奥宮のある寶滿山(八〇〇米餘)とその北東數町にある元寶滿山(八九九米)との二峰より成り、元寶滿は北方峰續きの三郡山(九七米)と共に所謂三郡山塊の雄である。

元寶滿の山頂は草原性であるが、寶滿山の頂は奇岩怪石重疊して巨岩多く、社務所の背後にある物見岩は好き眺望所である。

登山するには太宰府から徒歩約三軒で東南麓の内山なる竈門神社に達し、寶滿城址即ち九重ヶ原を経て登る。登路急峻、途中鐵鎖に依つて登る所もある。

寶滿から峰傳ひに三郡、砥石、若杉を経て篠栗に下る三郡山塊の縦走は一日行程の興味ある山旅コースで、五月頃は石楠花の美花が見られる。

【内山館址】 (五圖か3) 竈門神社の東北一軒半太宰府

町内山九重ヶ原にある。少貳氏代々の居館址で、堀と土手とが二重に遺存して居る。源頼朝奥州征伐の時武藤小次郎資頼、太宰少貳に任せられ、爾來子孫世襲してこゝに居住し少貳を以て稱號とした。少貳政資永正中水城に於て討死し、十一代二百二十餘年にして滅亡した。資頼の墓と稱するものが都府樓址の東三〇〇米にある。

【古處山つげ原始林】 「指定天然記念物」 朝倉軌道甘木乘



換兩筑軌道秋月驛の東北約四料、嘉穂郡千手村字古處山と朝倉郡秋月町字古處山とに跨り、海拔六三米、大姫つげを主とし、浅間つげ、丸葉つげをも産し、植栽地もあるが、天然生の部分もあつて、後者の面積約八三アールである。

【南淋寺（八坂寺）】「真言宗御室派」朝倉軌道比良松の東北三料、朝倉郡宮野村宮野八坂にある。本尊の薬師如來坐像は木造で相好圓滿、威嚴に富み、姿態の均衡よく細部の彫法も巧みで高さ二尺三寸四分あり、藤原時代初期の作で國寶に指定されて居る。厨子に左の銘文が墨書されて居る。

西海道筑前國上座郡醫王山南淋寺本尊者傳教大師一刀三禮刻彫七佛藥師第一之尊南無善明稱吉祥王照信如來 厨子依及破損奉再興者也 本願當住職大僧都快遍厨子作者佛師佐藤新右衛門尉藤原朝臣宗次 承應三甲午六月如意珠日

【基肆城址】基山驛の西北約三料、佐賀縣三養基郡基山村を中心として福岡縣筑紫郡山口、筑紫兩村に互り

に筑紫山脈の諸峯を一眸に集め、太宰府附近一帯の地形を大觀する事が出来る。

【大興善寺（小松山觀世音）】「天台宗」基山驛の西約四料、三養基郡基山村園部にある。寺寶の廣目天及多聞天立像は共に木造、藤原時代の作で國寶に指定されて居る。

【大保ゴルフコース】基山驛の東二料、三國村大保にあり、福岡ゴルフクラブに屬する、九ホール、二八〇〇ヤードのフラットコースで樹木地帯を占め、數箇の小

森林と三箇の沼が點在し、四方開豁眺望がよい。

【太刀洗川】田代驛の東約五料半、三井郡太刀洗村にある。正平十四年菊池武光懷良親王を奉じ、太宰少貳頼尙と戦ひ血刀を洗つたところである。

て築造せられ、土壘、石壘、城門址その他水門、建造物の礎石等を遺存して居る。天智天皇四年百濟人をしめて大野城と同時に築かした椽城（記夷城）の遺址である。大規模の山城址で、木戸口若くは宮浦口から登れば南方の入口にある住吉神社境内に水門が存し、東西兩側から繞つて來る土壘線はこゝの石垣と連絡し、溪流を通ずる水門と百濟式石垣とは、築造當時の面影をその儘見る事が出来る。溪流に沿うて進み、更に左道を登れば「芋のがんぎ」と稱する一種の土壘址があり、蒲鉾形の三箇の大凸堤と四條の溝とが南北に並んで居るものを見て南方の最高所に達する。また右道を登れば萩原越の東北門址や太宰府口の北御門の遺址を経て北帝の頂上に上り、尾根傳ひに南方の最高所に到る事が出来る。城址内に於て建造物の遺址と見るべき礎石で「芋のがんぎ」の東北に存するものは最も大規模で、四十四箇の礎石が遺存し、附近から出土した八葉蓮瓣の丸瓦は築城當時の遺物で、佐賀市徴古館に出陳せられて居る。山頂南方の高所に立てば筑紫平野並

【田代太田古墳】「指定史蹟」田代驛の西北二料、三養基郡田代村田代にある。臺地の上に造られた庚申塚と呼ばれる圓墳で、石室は三室連なり、奥室正面の壁には赤、緑、白の顔料を以て三角形、同心圓及その變形紋、S字形、鈎形その他が描かれて居る。

【鳥栖町】（二圖ら）鳥栖驛所在地。筑後川南境を流れて地勢平坦、東西三料餘に過ぎないが、南北は約五料六に及び、面積は一九方料に近い。産物は蠶絲を第一とし、賣藥、石鹼等これに次ぐ。名所に菅公姿見の池、遺梅等がある。人口一萬四千。

【朝日山城址】鳥栖驛の西三料、旭村江島朝日にある。鐵路の南側に迫つて見える丘陵で、山頂は鎌倉時代以降土豪朝日氏及これに代つた筑紫氏等の古城址で古來要害の地をなした。中腹には御野立所址記念碑建ち、肥筑平野を一眸に收める景勝の地である。

【千栗八幡神社】「縣社」肥前旭驛の西三料、三養基郡北茂安村白壁にある。神龜年間の創建と云ひ、古來宇佐八幡宮の別宮として聞え、藩主鍋島家の崇敬が篤



折尾久留米間

かつた。

【千栗土居】肥前旭驛の南約三軒、三養基郡北茂安村、南茂安村にある。筑後川の一大堤塘にして、長さ約一  
二軒に及び、成富兵庫茂安の設計にかゝり、杉樹が繁  
茂して居る。

謁菅右府祠廟

都府樓唯看瓦色  
相公此句燥髮誦  
想見傑構堆畫覺  
宰帥虛名實閑廢  
儒生衰散眞罕事  
洞知沈痼須良藥  
酬知何暇恤人言  
爲鬼爲蜮奚足尤  
國瘁天數豈與公  
世態幾回浮雲變  
寢廟棟宇彌岐嶷  
顧望府樓空斷礎  
行人田間拾缺瓦

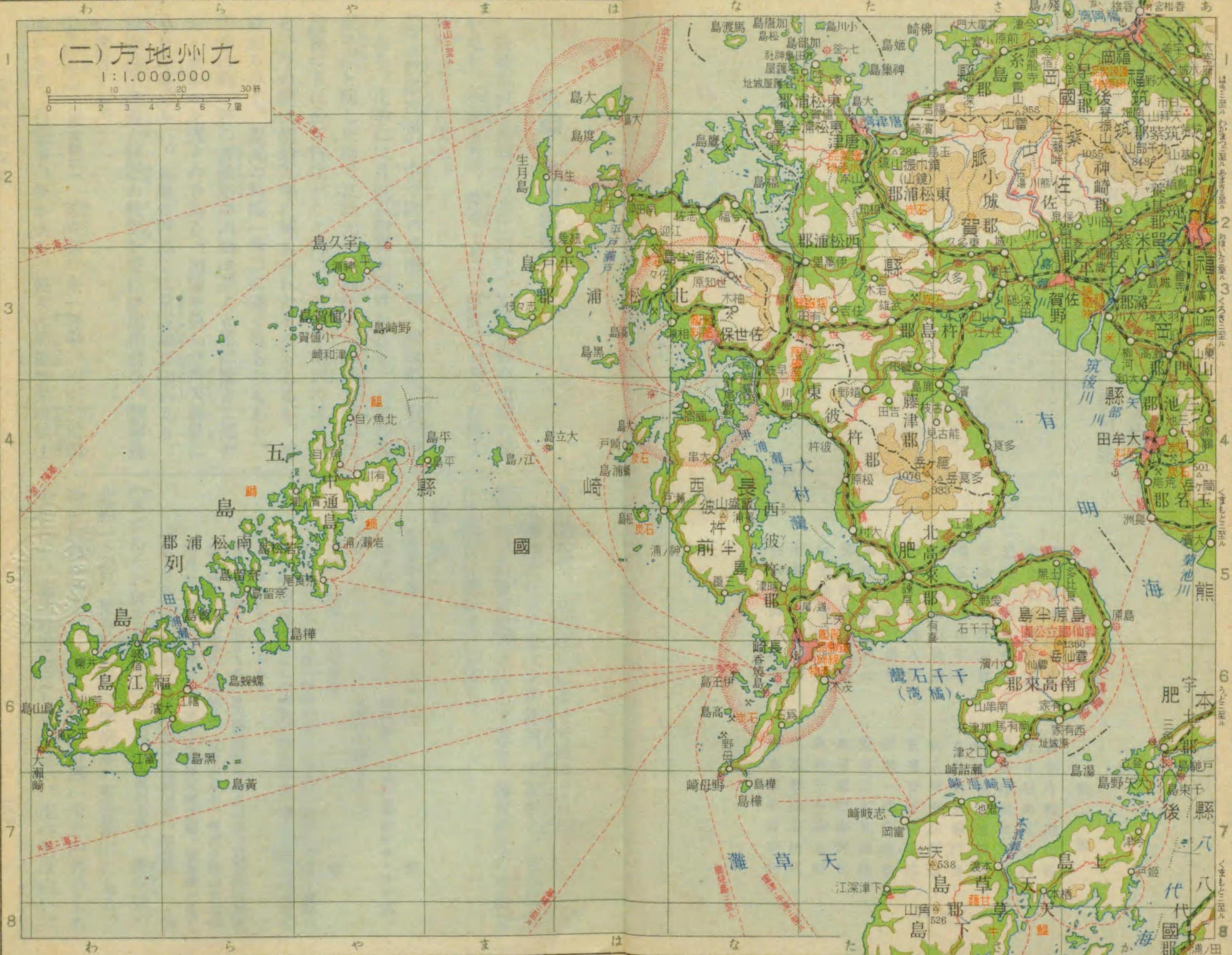
賴山陽

觀音寺獨聽鐘聲  
今日始向此際行  
華鯨雄吼法王城  
思罪卻掃掩柴荆  
久矣銓衡論門地  
銳意蟠根試利器  
奮搏自折凌雲翅  
群鷄一鶴宜相忌  
豎鑑已矣又剛弓  
獨有威德傳無窮  
祝典于今群兆億  
寺餘數椽亦傾仄  
猶存相公看時色



(二) 九州地方

1:1,000,000





鳥栖 佐世保間

長崎本線は鳥栖から西に向ひて筑後平野の田圃の間を走り、中原八軒五、神埼七軒二、伊賀屋四軒五を経て佐賀四軒八に至る。

【目達原櫻馬場】 中原驛の西南三軒、神埼郡三田川村にあり、花季には目達原假驛が設けられる。古來目達原松原と稱した地で文祿元年肥前肥後の鍋島加藤兩侯觀覽の下に於て行はれたと傳ふる目達原敵討の址である。今の櫻は明治五年に植ゑられたものであるが、成長頗る早く、根元の周圍一米二に達するものもあり、花季は約一軒の直線路の兩側は花より花に續きて花の大トンネルを成すのである。馬場を挟んだ辨天神社にもまた櫻が多い。馬場の西側には常設競馬場があり、陽春櫻花爛漫の候花の吹雪を脊に肥馬相競ひ、觀客殊に雜沓する。

【東妙寺】 「眞言律宗」 神埼驛の東一軒半、三田川村田手にあり、自動車の便がある。佐々木高綱舍弟唯阿上

鳥栖佐世保間

人の開基で、足利尊氏によつて再興された。

本尊釋迦如來坐像は木造漆箔、玉眼嵌入、左手に願印右手に施無畏印を結んで居る。鎌倉時代の精緻な作で國寶に指定されて居る。

寶物

一 聖觀音立像 「國寶」 木造

高さ三尺六寸、一木造、肩幅廣く、左手に蓮枝をさ、げて立つて居る。地方色に富んだ平安時代の作である。

一 梵網經 「國寶」 紙本墨書

天授四年三月御生母三位局の第二十八回の御忌辰に當り追福のため金銀砂子切箔散らしの料紙に懷良親王の自ら書寫し給うたもので、奥書に左の文がある。

戊午歳季春下澣廿九日。遠迎靈照院禪尼之忌景。謹書梵網經戒品之妙文。蓋聞得戒之所熟者。以孝心爲本。佛果之勝因者以緣持爲最。然則依一經之功。讚嘆之德轉五障之緣。登本覺之位。伏冀三界所有之群類。同連疾證菩提之願望矣。懷良親王 九拜

【たけのくにわ自生北限地帯】 「指定天然記念物」 神埼驛の

北約一二軒、東脊振村松隈字坂本の東脊振山にある。殆ど純林をなして巨樹に富み、幹圍一米二内外のもの少からず、葉は培養種よりも小さく、花の色は白い。



【えひめあやめ自生南限地帯】〔指定天然記念物〕 神埼驛の西北約四軒、西郷村尾崎の日隈山頂並に佐賀郡久保泉村川久保の帯隈山麓にあつて、殊に後者に多い。この植物は朝鮮及滿洲地方に産する小さい鳶尾科植物にして、當地はその南限地帯に當る。

【蓮池公園】 神埼驛の南約七軒、蓮池村蓮池にある。舊蓮池城址にして、假山林池の風致があり、老松古樟の鬱蒼たるあり、殊に櫻の名所として知られて居る。

佐賀驛 佐賀市神野町

門司から 一三三料三 三時間  
長崎から 一三三料八 三時間

▽乗合自動車 蒲田津行、今町行、川久保行、唐津行、古湯行 諸富行、久留米行、早津江行、湯原行

▽佐賀電気軌道 佐賀驛前、肥前川上間 七軒八 一日平均

乗車人員 二、七六二人 降車人員 二、七六四人  
發送貨物噸數 一三〇噸 到着貨物噸數 二六〇噸

主要發送貨物 米、綿糸  
主要到着貨物 石炭、鹽、綿、人造肥料、セメント

【佐賀市】(七圖) 筑紫平野に位し、地勢平坦にして海

▽百貨店 玉屋デパート(吳服町)

▽新聞社 佐賀毎日新聞社(松原町)、佐賀新聞社(唐人町)

▽旅館 榮徳屋(白山町)、曙旅館(八幡小路)、松木屋(新馬道)、鶴屋(白山町)、松川屋(新馬道)

▽料理店 楊柳亭(松原町裏門)、豊(水ヶ江町)、清蓮亭(松原町)

▽娯樂場 [劇場] 佐賀劇場(松原町)、神野劇場(神野町)  
喜樂座(興賀町) [映畫館] 宇宙館(白山町)、朝日館(新道)、昭和館(松原町)、日出館(伊勢町)

▽土産物 丸房露、ノンキー、伽羅楠、蟹漬、ムツゴロ、佐賀ネル

【楠神社】 驛の南約八〇米、市内松原町八幡小路八幡神社境内にあり、楠公父子を祀る。湊川建碑に先つくと二十九年、寛文三年佐賀藩士深江信溪の創設で、全國にて楠公父子を祀つた嚆矢である。

【松原神社】(縣社)(七圖さ) 驛の南一軒半、市内松原公園内にあり、自動車の便がある。市の産土神で、藩祖鍋島直茂及同夫人、同清久、勝茂、龍造寺隆信、同政治家等を合祀し、安永元年六月直茂の法號に因み、

拔僅に三米、多布施川その中央を貫流する。もと龍造寺、鍋島等の諸氏の城下にして、明治十六年以來佐賀縣廳の所在地となり、大正十一年十月神野村を合併し、東西四軒餘、南北四軒弱、面積九方軒である。工産物は年額四百萬圓に近く、綿織物が最要のもので、鐵器類これに次ぐ。市内の繁華な通は唐人町、吳服町、元町等である。人口四萬七千。

▽官公廳その他 市役所(松原町)、縣廳(赤松町)、地方裁判所(同)、稅務署(同)、歩兵第四十八聯隊分隊(市外高木瀬村)、營林署(興賀町)、農事試驗場(神野町)、商工會議所(松原町)、商工獎勵館(同)、高等學校(市外本庄村)、圖書館(松原町)、公會堂(同) 協和館(同)、教育會館(同)、徵古館(同)

▽銀行 佐賀百六銀行(吳服町)、佐賀庶民金庫(松原町) 佐賀中央銀行支店(吳服町)、不動貯金銀行支店(同)、肥前合同貯蓄銀行支店(白山町)、日本勸業銀行支店(松原町)

▽會社 工場 高取會社(白山町)、佐賀電気軌道會社(神野町) 戶上電機製作所(大財町)、米穀取引所(松原町)、佐賀合同運送會社(神野町)、佐賀メンネル會社(赤松町)、佐賀無盡會社(水ヶ江町)、錦華紡績會社支店(唐人町)、鐘淵紡績製絲部佐賀支部(神野町)、東邦電力會社支店(唐人町)

日峰明神と名付けられ、明治八年縣社に列せられた。社寶の太刀一口は來國光の銘あり、また脇指一口は國廣 鎌倉住人文保二年二月日の銘を有し、共に鍋島直映の寄進にかゝり、二口とも國寶である。境内松原川に臨み、社頭老楠繁茂し、神苑は風致に富んで居る。神苑の西に連りて鍋島閑叟公銅像園がある。

【佐嘉神社】(別格官幣社) 松原神社の西隣にある。もと松原神社の南殿に祀られた鍋島直正を祭神として昭和八年九月現社格に列せられた。祭神直正は幕末の藩主で、文化十一年に生れ、天保元年襲封以來、銳意藩政刷新に努力し文武の教養を獎勵し、長崎港の防備に獨力を以て砲臺を築いた。また歐米の學術武藝を講じ、反射爐を建設し、銃砲を鑄造し、幕命に應じて、品川臺場の備砲を鑄造した。その他海軍學校の創設、艦船の購入製作に盡力し、また蘭學寮を設け、精鍊所を創建し、醫學校を興して西洋醫術を研究せしめ、嘉永の初年に種痘の法を究め、自己の子女に試みて天下に普及せしめた。晩年隱居して閑叟と號し明治四年薨



じた。例祭十月十二日。築地大砲鑄造所址、多布施反射爐址、中折訓練場址、高岸精煉所址等が市の内外に遺つて居る。

【鍋島閑叟公銅像園】松原神社神苑の隣にある。舊藩學校弘道館の遺跡にして、明治四十一年舊藩士民相謀りて舊藩主鍋島直正（閑叟）の銅像を建設し、左側に公の近侍であつた古川松根翁の銅像を置いた。附近一帯は公園で、内に佐賀圖書館がある。弘道館は日本三弘道館の一で、天明二年鍋島治茂の設立にかゝり、明治四年廢校になつたが、副島種臣、大隈重信、江藤新平、大木喬任、佐野常民その他幾多の偉人を教養したところである。

【佐賀市徴古館】佐嘉神社神苑内西隣にある。鐵筋コンクリート造、昭和二年開館、鍋島直正その他歴代藩主及佐賀藩の先哲偉人の遺品著書及郷土史資料等を陳列して居る。珍奇の遺物としては機關車、貨車、蒸汽船の雛形がある。安政二年、直正、藩士佐野常民等に命じて研究せしめ、精煉方にて製作せしめた品である

と云ふ。

【佐賀城址】驛の南約二軒、市内赤松町にあり、自動車の方がある。龍造寺、鍋島歴代の居城址である。城は龜甲城とも呼ばれ周圍四軒に及び、内外二重の濠は今一部分殘存する。建物は明治七年佐賀の亂の際に本丸の一部を残して悉く烏有に歸し、今、僅に彈痕點々たる鯨門が縣立商業學校の正門となつて遺つて居る。尙、鍋島閑叟（直正）の書院は城内の赤松小學校々舎の一部となつて保存されて居る。

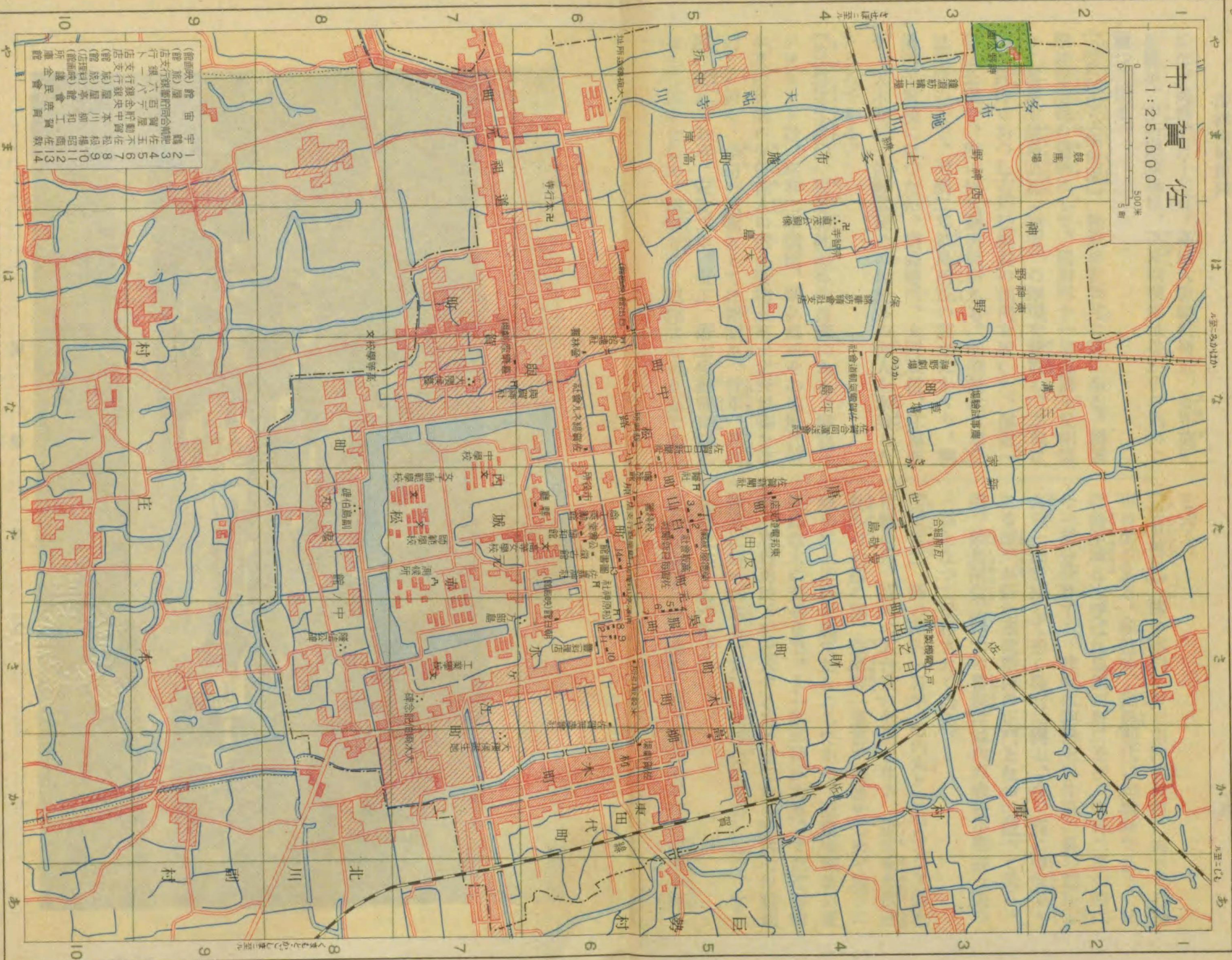
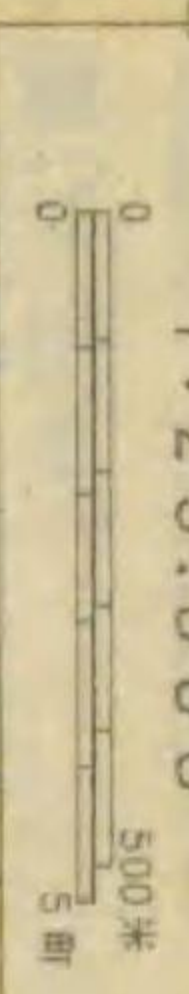
【萬部島】驛の南約一軒半、市内水ヶ江町にある。藩主相續の折、國內の天台宗の僧侶を集め、國家安泰武運長久の祈禱の爲、法華經一萬部を讀誦せしめ、地下に埋めて上に碑を建てたところである。龍造寺家兼以來鍋島直大に至るまで、十一基の碑があり、また江藤新平、島義勇以下を記念する爲に建てた「明治七年戰死諸君之碑」がある。昔時は清淨なる孤島として、立入を禁止してあつた。

【大隈公園】驛の南約二軒、市内水ヶ江町會所小路に



# 市賀佐

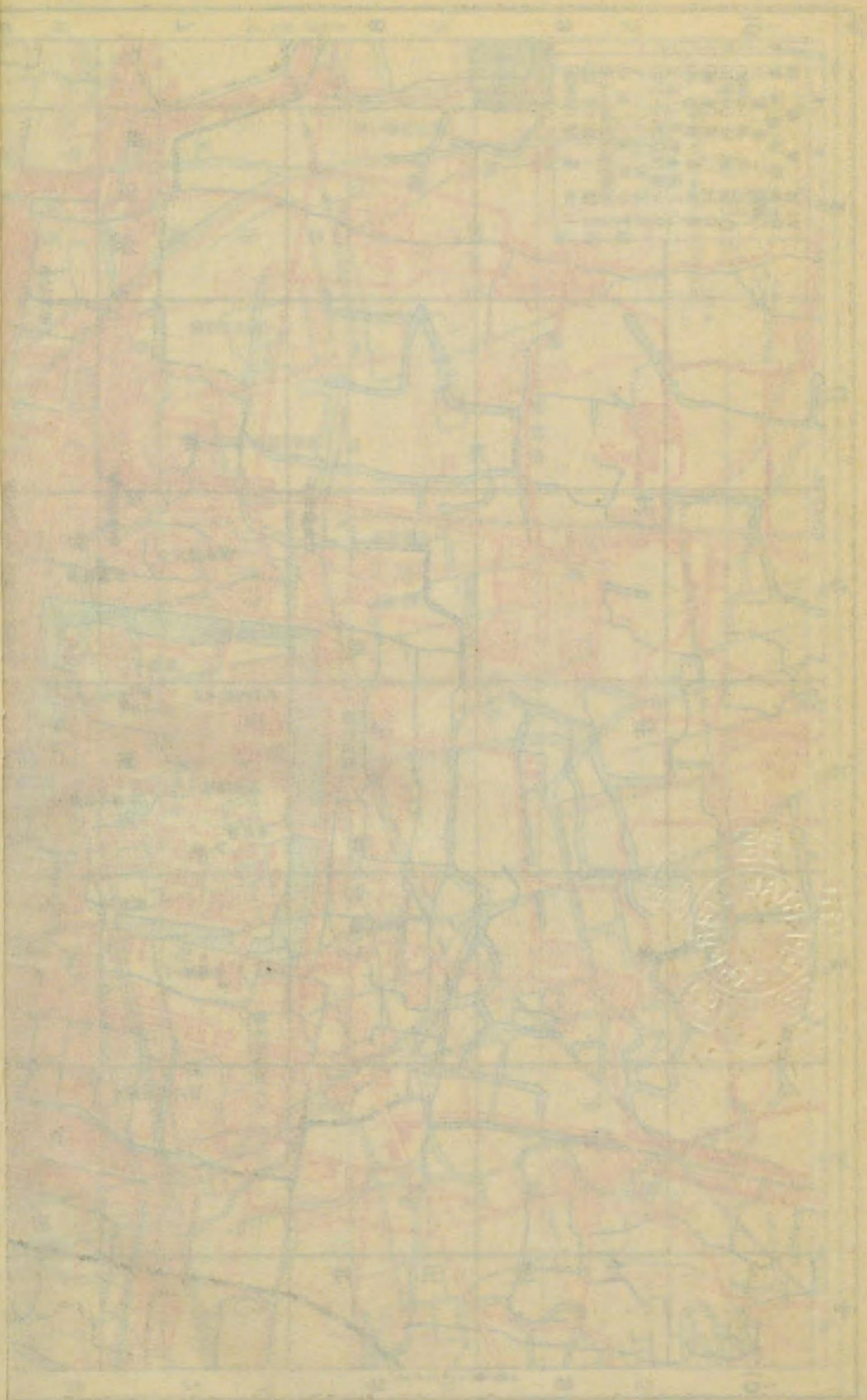
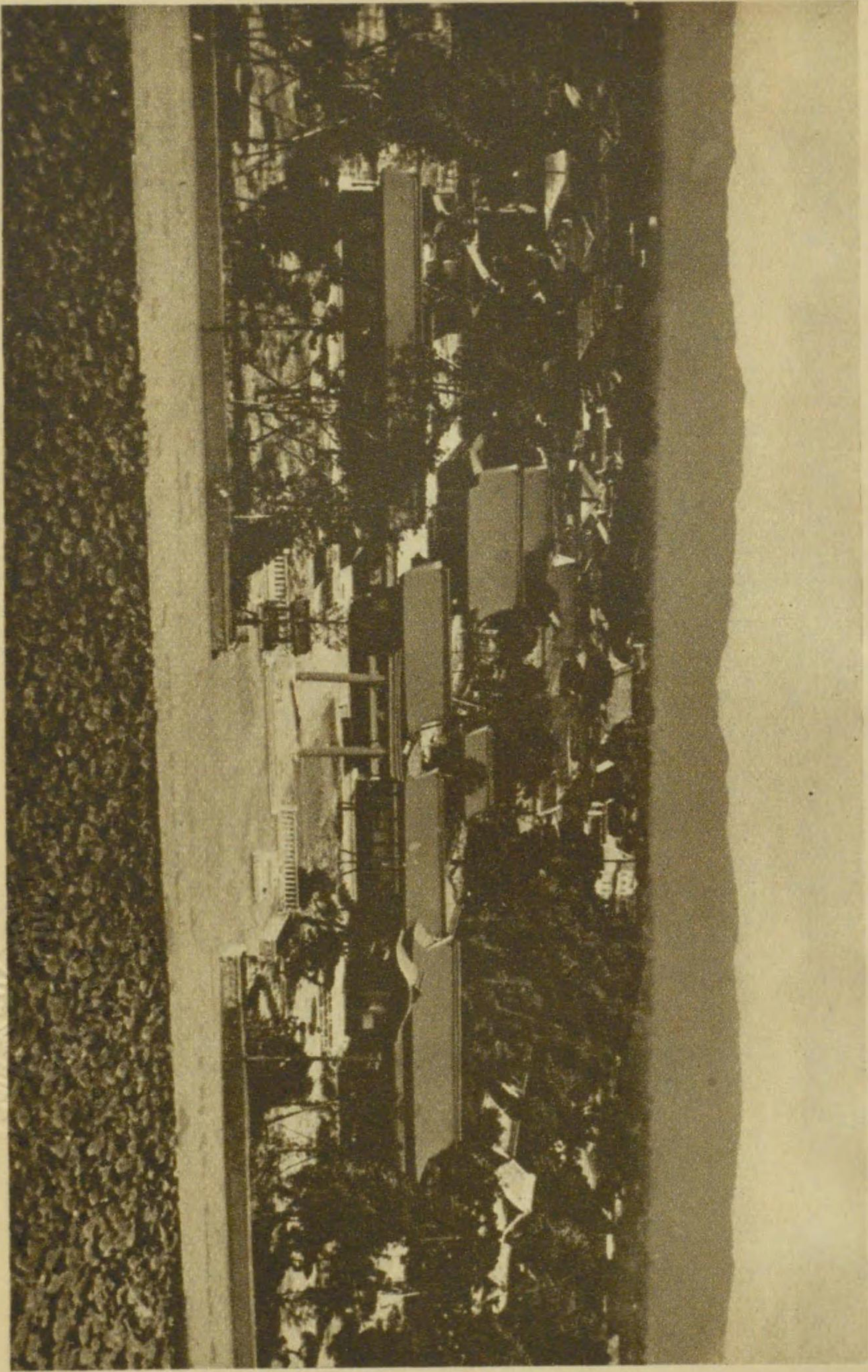
1:25,000



- 1 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 2 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 3 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 4 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 5 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 6 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 7 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 8 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 9 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀
- 10 宇鶴肥王不佐松橋昭昭佐賀



社 神 基 佐





ある。大隈重信誕生の地で、舊宅建物の大部分を遺存し、庭前に久米邦武撰文の記念碑を建設して附近一帯を公園としてある。

【龍泰寺】〔曹洞宗〕驛の南約一軒七、市内赤松町にある。本尊觀世音菩薩、開基は舊藩主龍造寺隆信、創建は永祿六年。境内に大隈重信の墓がある。

【興賀神社】〔縣社〕驛の西南約二軒、市内興賀町にあり、自動車の便がある。

當社は豐玉姬命を祀る、佐賀城の鎮守として鍋島家の崇敬厚く、現存の拜殿及本殿は藩祖直茂の造營にかゝるものと傳へ江戸時代の建築であるが、樓門はこれより古く室町時代の建築で國寶に指定されて居る。

三間一戸の樓門、丹塗銅瓦葺の建築で、桁組は上層三手先を組み、下層には出組を用ゐ、斗束を立て、板臺股を置いて居る。その形式すべて桃山時代の精神を表現して居る。社寶の太刀は康光の作と傳へ國寶である。

【本行寺】〔日蓮宗〕驛の西約二軒四、市内西田代町にある。本尊釋迦牟尼如來、開山は行學院日政上人、開

基は龍造寺胤家にして永正十五年創立。境内に江藤新平の墓がある。

【鍋島直茂公銅像園】驛の西北約一軒二、市内多布施町にある。鍋島直茂の銅像が建設され、周圍は運動場となつて居る。

【神野公園】驛の西北約二軒三、市内神野町字西神野にある。舊藩主鍋島閑叟當時政務の餘暇悠遊のため、弘化三年茶屋を建設したところで、地域廣く、假山水石幽清の美を極め、四時杖を曳くものが多い。

【海軍所址】驛の南約一五軒、中川副村早津江津にあるが、舊藩主鍋島直正が海軍兵學を學ばしめる爲に創設した學校の跡で、もと縣立商船學校がこゝにあつた。

【石井閣】驛の北約七軒、春日村尼寺にある。元和年間成富兵庫茂安佐賀市の水利を圖るため、象の鼻、天狗の鼻等の奇巧を設け、水流を迂回旋轉せしめて閘門に注がしめ、爾來幾百年市民その恩恵に浴して居る。

同所に氏の水功の碑があり、毎年兵庫祭が執行される。

【高城寺】〔臨濟宗東禪寺派〕驛の北約八軒、佐賀電氣軌



道惣座の東一軒、佐賀郡春日村久池井にある。文永七年北條氏の創立にかゝり、圓鑑禪師(順空を開山として居る。寺寶の圓鑑禪師坐像は木造、高さ四尺餘、極彩色で玉眼嵌入、鎌倉時代末期の作で國寶に指定されて居る。

【神奈備峯】 同佐賀郡春日村久池井にある。峯は西南より東北に延んで三段階をなし、樹木繁り、中腹に自然石を廻して居る。これは當時の磐境であらうか。上段に富士社を祀り、山麓に甘南備社があつて拜殿のみ存して居る。

【健福寺】 「眞言宗御室派」 驛の北約一〇軒、佐賀電氣軌道惣座の西二軒、佐賀郡川上村大願寺にある。和銅年間の創建と傳へる古寺で、寺寶の鐘は曾て山嘯のため佐賀に流失して同地の龍泰寺に留まつて藩侯時報の用に供せられたが、後當寺に復歸したもので、高さ二尺三寸餘、建久七年十一月の銘文があり、國寶に指定されて居る。

【川上川】 驛の北約八軒、佐賀郡川上村にある。川上

役に鍋島直茂が持ち歸つて繁殖させたと傳へて居る。

佐賀から西に向へば鍋島二軒一を過ぎ久保田三軒四に至りて唐津線を北に岐つ。

唐津線

この線は久保田から北に岐れ、唐津炭田地方を縦走し唐津港に至る運炭線で、延長四二軒五、久保田を出ると北折して小城五軒一に至り西に進んで東多久五軒五、多久四軒六、嚴木五軒六、岩屋二軒五、相知二軒七、を過ぎる。山本六軒九では岸岳に至る小支線を西南に岐ち、東唐津を経て博多に通ずる北九州鐵道はこゝから東北に向つて居る。山本から松浦川の流れを右窓眼近かに見て北進し鬼塚三軒七を経て唐津三軒六に入り西唐津二軒三に行つて居る。

【櫻岡公園】 小城驛の北約半軒、小城町にある。舊小城藩の城址で、もと鯖岡と云つた。元和年中藩主鍋島元茂始めて櫻樹を植ゑ、その子直能吉野の櫻を移植し、

橋を中心に山容と水態の美に富み、古來鮎の名所として知られ、鶉飼も行はれ、四季清遊に適して居る。

【河上神社(淀姫神社)】 「縣社」 同川上村川上川畔にあり、與止比女神を祀る式内の古社で、中世川上一宮と稱した。老杉古樟鬱蒼として社頭を蔽うて居る。

【熊之川温泉】 驛の西北一六軒、川上川の上流山峽にあり、自動車の便がある。無色透明の單純泉で、リウマチス、婦人病、皮膚病、創傷などに効くと云ふ。旅館 新屋、角屋外數軒。

【古湯温泉】 驛の西北二〇軒、熊之川温泉より更に川上川の上流四軒、川上、古湯、天川の三流の會するところであり、自動車の便がある。四圍翠緑の小盆地で熊の川よりは賑つて居る。泉質効能など熊之川に同じ。旅館 東京家、旭屋、扇屋外數軒。

【鶉】 「指定天然記念物」 佐賀市、佐賀、三養基、神埼、小城、杵島、藤津の各郡に棲息する鳥の一種で、朝鮮鳥、高麗鳥、勝鳥などの異名がある。人を識別する能力があり、老幼男女によつて警戒を異にする。朝鮮の

亭を築き園を擴めて、櫻岡と改稱した。木下順庵は直能の依囑で櫻岡記を作り、林春齋、同鳳岡等は櫻岡十境、櫻岡二十景の詩を賦したので、岡の名は天下に聞えた。園内岡上には後西天皇御宸翰の碑がある。また阿蘇大宮司惟直の碑その他數基の碑がある。

【小城の樟】 「指定天然記念物」 小城驛の北約一軒、小城町縣立高等女學校構内にある。舊城門址に樹ち、根元の周圍九米九、それより一米半上の幹圍六米六、地方的の巨樹にして、根元に石を巻き込んで居る。

【多久聖廟】 「國寶指定史蹟」 多久驛の南約五軒、小城郡多久村にあり、役場前まで約四軒、自動車の便がある。この聖廟は寶永五年即ち今より二百二十餘年前多久の邑主多久茂文の創建する所である。茂文は佐賀藩の儒者で、學校を興し、孔子像及四哲、即ち顔子、曾子、思子、及孟子の像を祀るために建てたのが即ちこの聖廟である。

本廟三間四面重層入母屋造、銅板葺正面に一間の向拜を附し、その屋根は唐破風造になつて居る。内部は



内外兩陣に分かれ、内陣は一段高く、正面及左右に設けられた階段によつて登る。床は板張にして奥に長方形の壇を設け、八角の厨子を置き、孔子像を安置して居る。また聖壇前面左右の龕には、四配像を安置して居る。

本建築はすべて我が建築家の意匠になつたものであるが、その平面細部裝飾等、皆支那の様式に倣つて居るため頗る支那趣味を發揮せる建築で、我が國に現存せるこの種聖廟建築中最も壯麗な遺構である。

【鶴戸の石佛】相知驛の西北約一軒半、相知炭坑の南の丘腹にある。岩窟の壁面に浮彫せられた不動明王、同二童子、十一面觀音、四天王等の像がある。大分縣下の石佛と略々同じ頃の遺作であらう。

唐津驛 唐津市唐津

佐賀から 四九軒二

▽北九州鐵道 博多東唐津間

五二軒八

▽乗合自動車 佐賀行、東唐津行

一日平均

乗車人員	七三七人	降車人員	七五八人
發送貨物噸數	二二噸	到着貨物噸數	三四噸

【唐津市】(八圖) 唐津、西唐津兩驛所在地。唐津灣に沿ひ、松浦、町田の二川市内を貫流してこれに注ぎ、南部に丘陵性の高地が連互して居る。東西四軒四、南北八軒四、面積は三一方軒に近い。

この地は往古加羅に渡る要津であつたと稱され、豊臣秀吉の臣寺澤志摩守廣高舞鶴城を築いて市の基礎を固め、大久保、松平、土井、水野、小笠原の諸氏が城主であつたこともある。大正十三年一月滿島村を、昭和六年二月唐津村を編入し、翌年一月市制施行地となつた。

産物は鐵製品が最要のものである。貿易は西港で行はれるが、輸出入ともに未だ少く、港は目下改修中である。市は風光の美と海水浴の適地として知られ、觀光客の往來が盛である。繁華な通は大手通、吳服町等である。人口三萬四千。

▽官公廳その他 市役所(大名小路)、稅務署(大手小路)、稅關

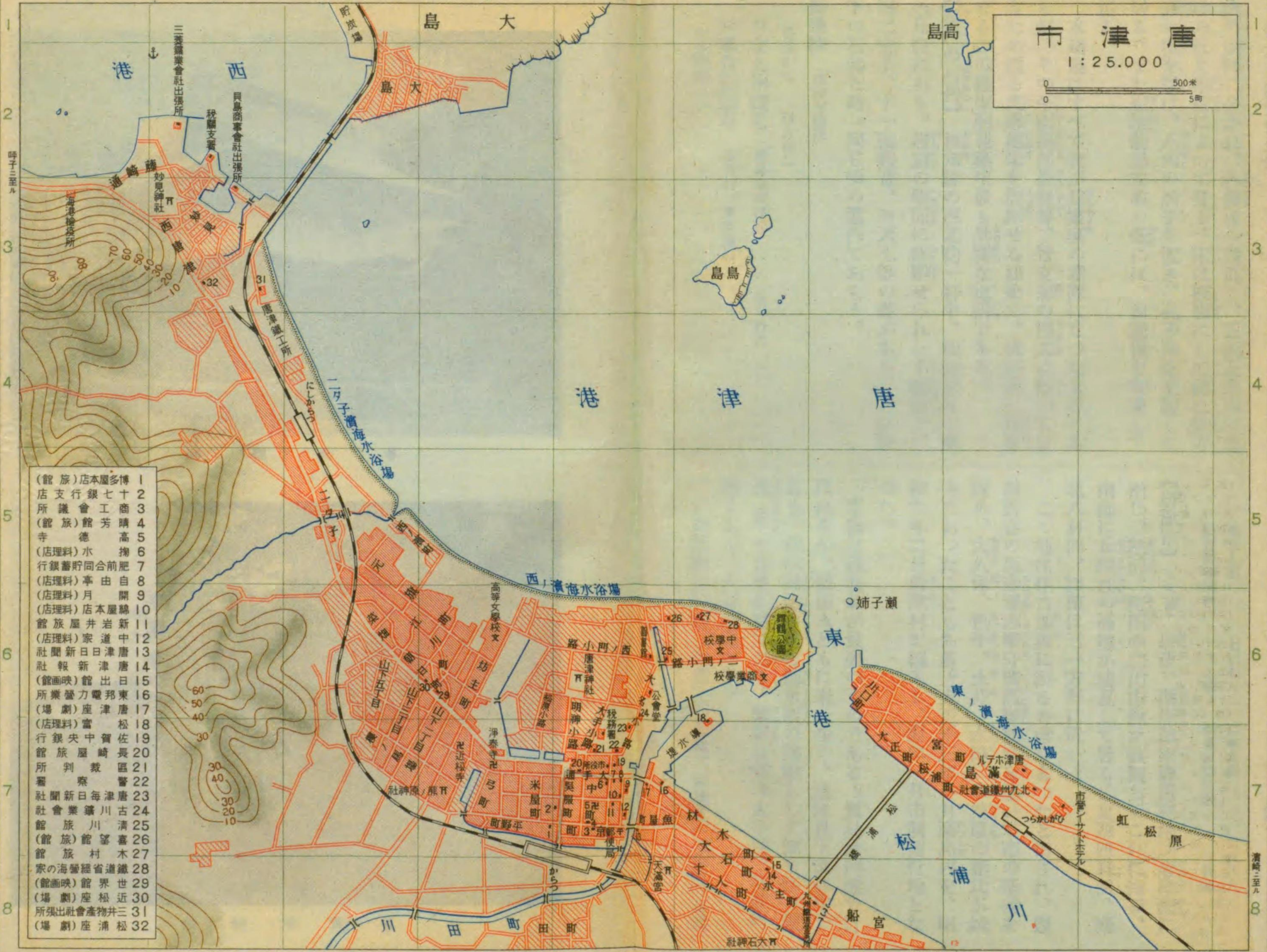




わ ら や ま は な た さ か あ

唐津市

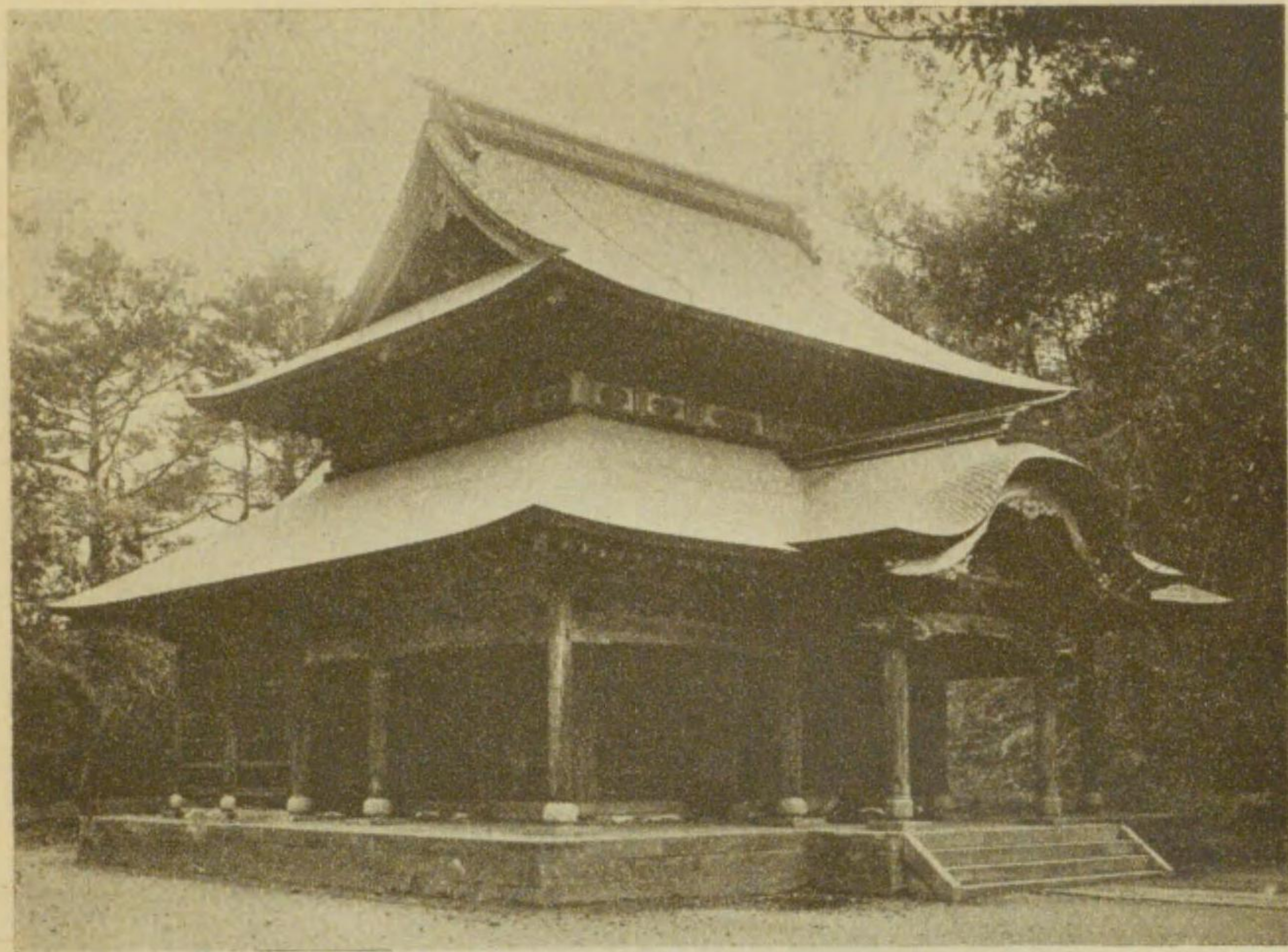
1:25,000



- (館 旅) 店本屋多博 1
- 店 支 行 銀 七 十 2
- 所 議 會 工 商 3
- (館 旅) 館 芳 晴 4
- 寺 德 高 5
- (店 理 料) 水 掬 6
- 行 銀 蓄 貯 同 合 前 肥 7
- (店 理 料) 亭 由 自 8
- (店 理 料) 月 開 9
- (店 理 料) 店 本 屋 綿 10
- 館 旅 屋 井 岩 新 11
- (店 理 料) 家 道 中 12
- 社 聞 新 日 日 津 唐 13
- 社 報 新 津 唐 14
- (館 画 映) 館 出 日 15
- 所 業 營 力 職 邦 東 16
- (場 劇) 座 津 唐 17
- (店 理 料) 富 松 18
- 行 銀 央 中 賀 佐 19
- 館 旅 屋 崎 長 20
- 所 判 裁 區 21
- 署 察 警 22
- 社 聞 新 日 每 津 唐 23
- 社 會 業 礦 川 古 24
- 館 旅 川 清 25
- (館 旅) 館 望 喜 26
- 館 旅 村 木 27
- 家 の 海 營 經 省 道 鐵 28
- (館 画 映) 館 界 世 29
- (場 劇) 座 松 近 30
- 所 張 出 社 會 産 物 井 三 31
- (場 劇) 座 浦 松 32

わ ら や ま は な た さ か あ

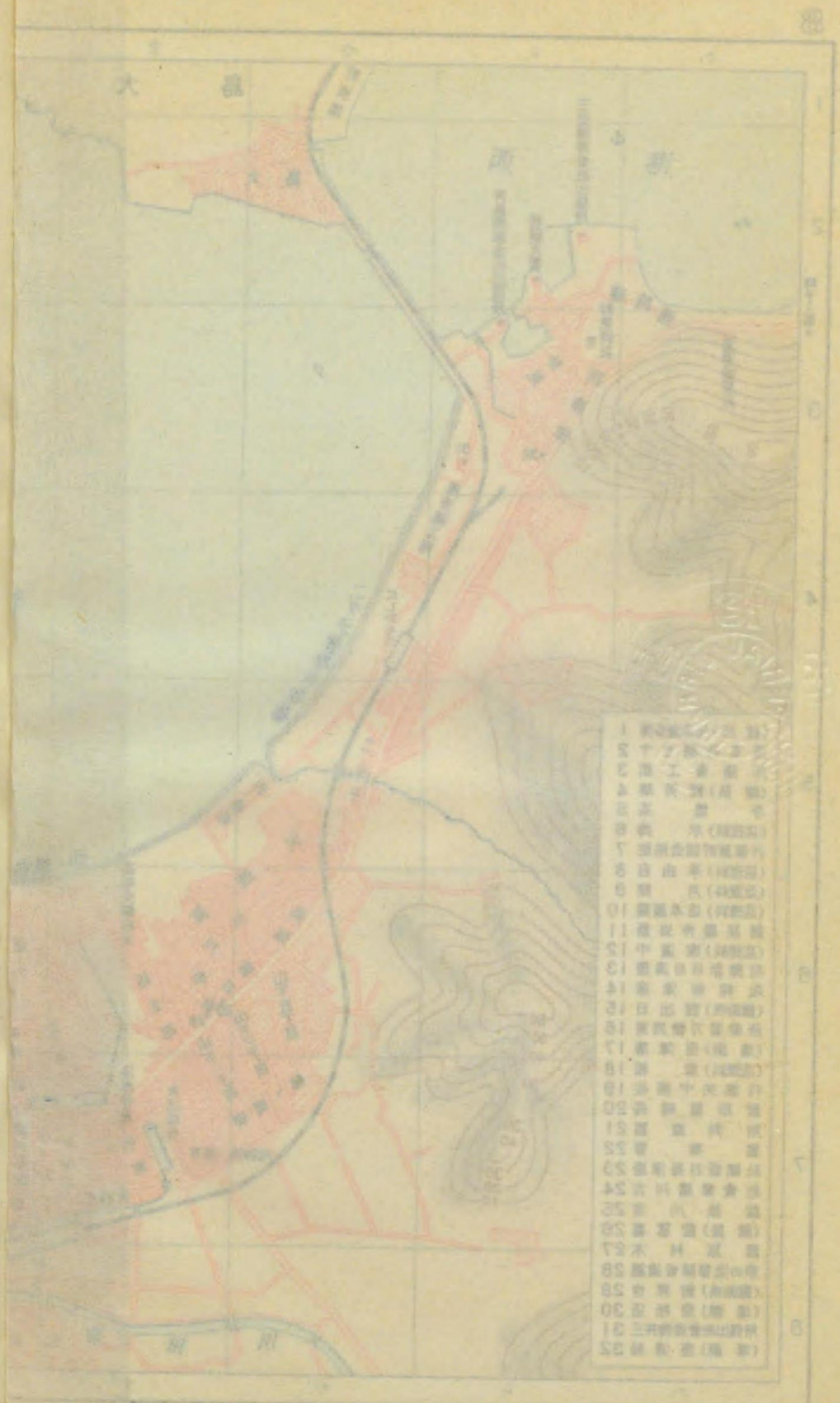




多 久 聖 廟

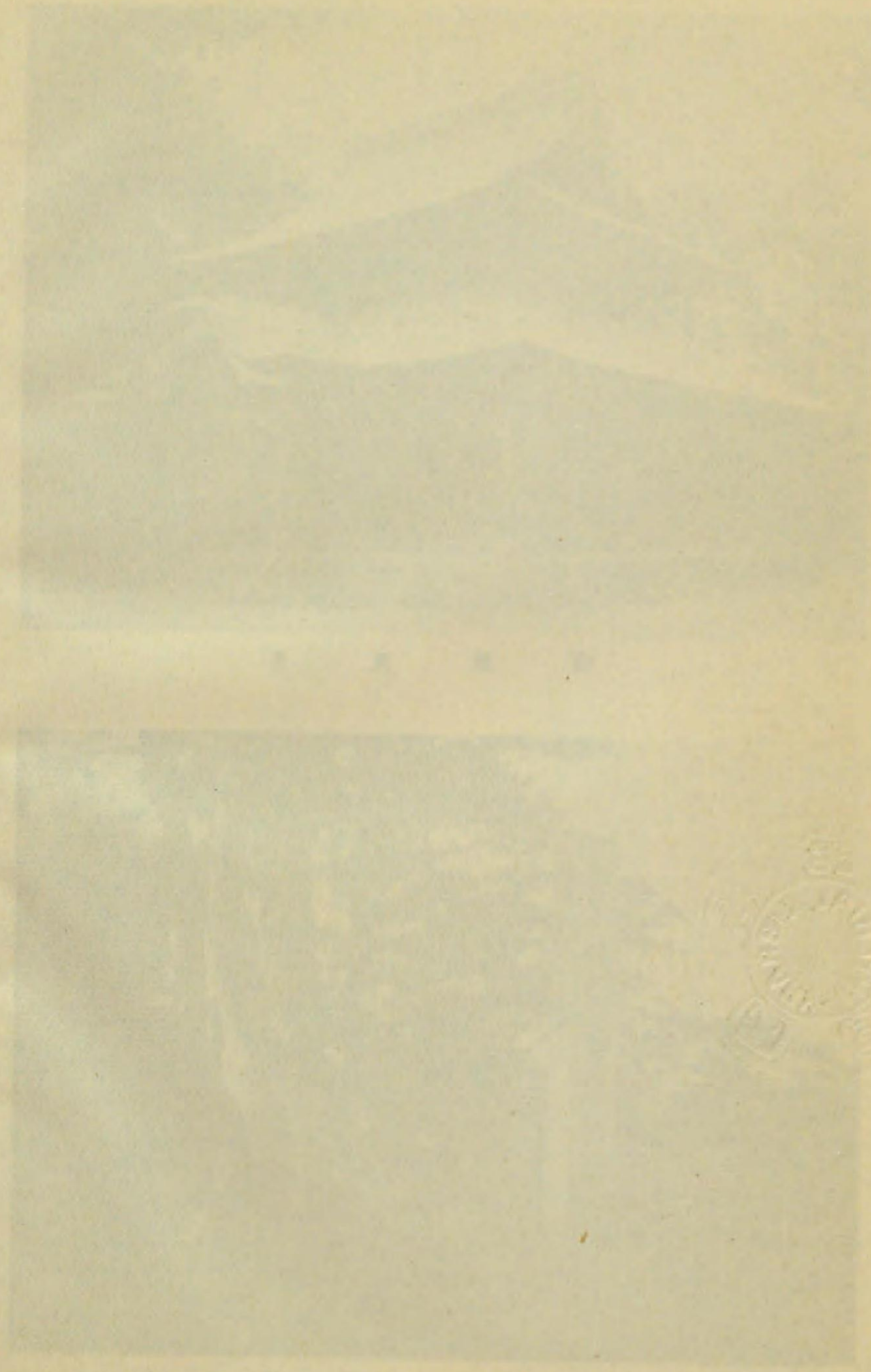
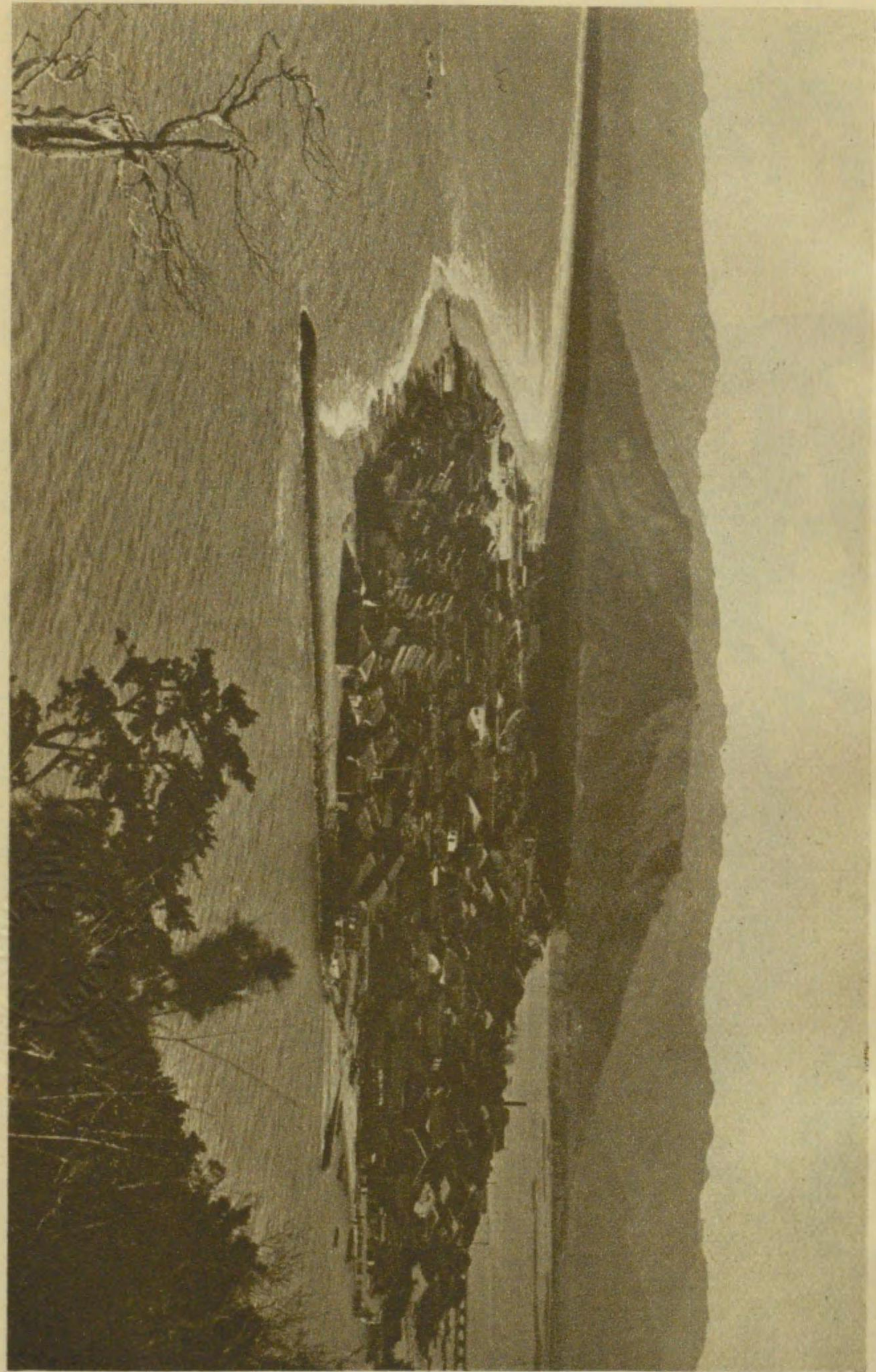


名 護 屋 城 址



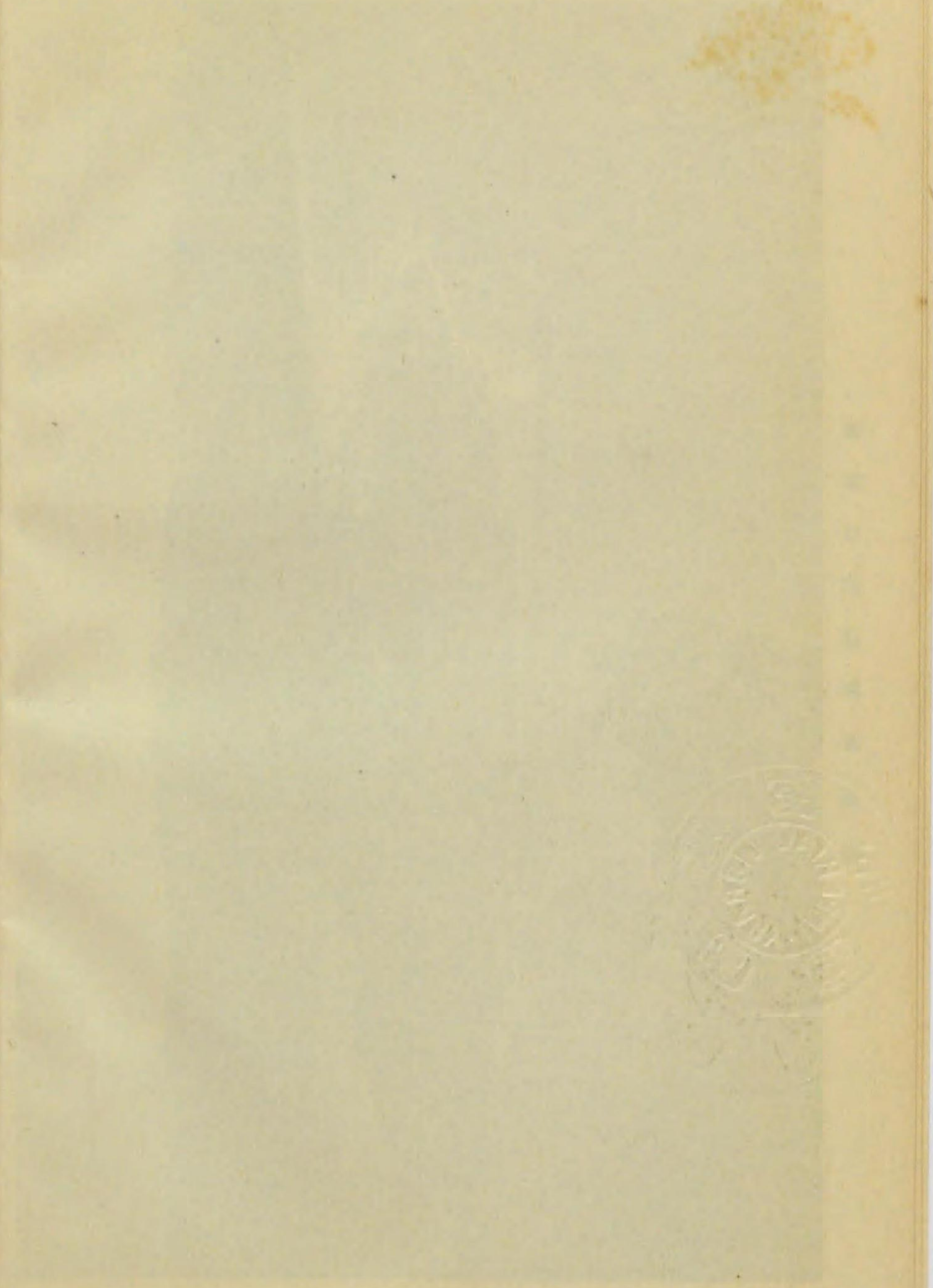
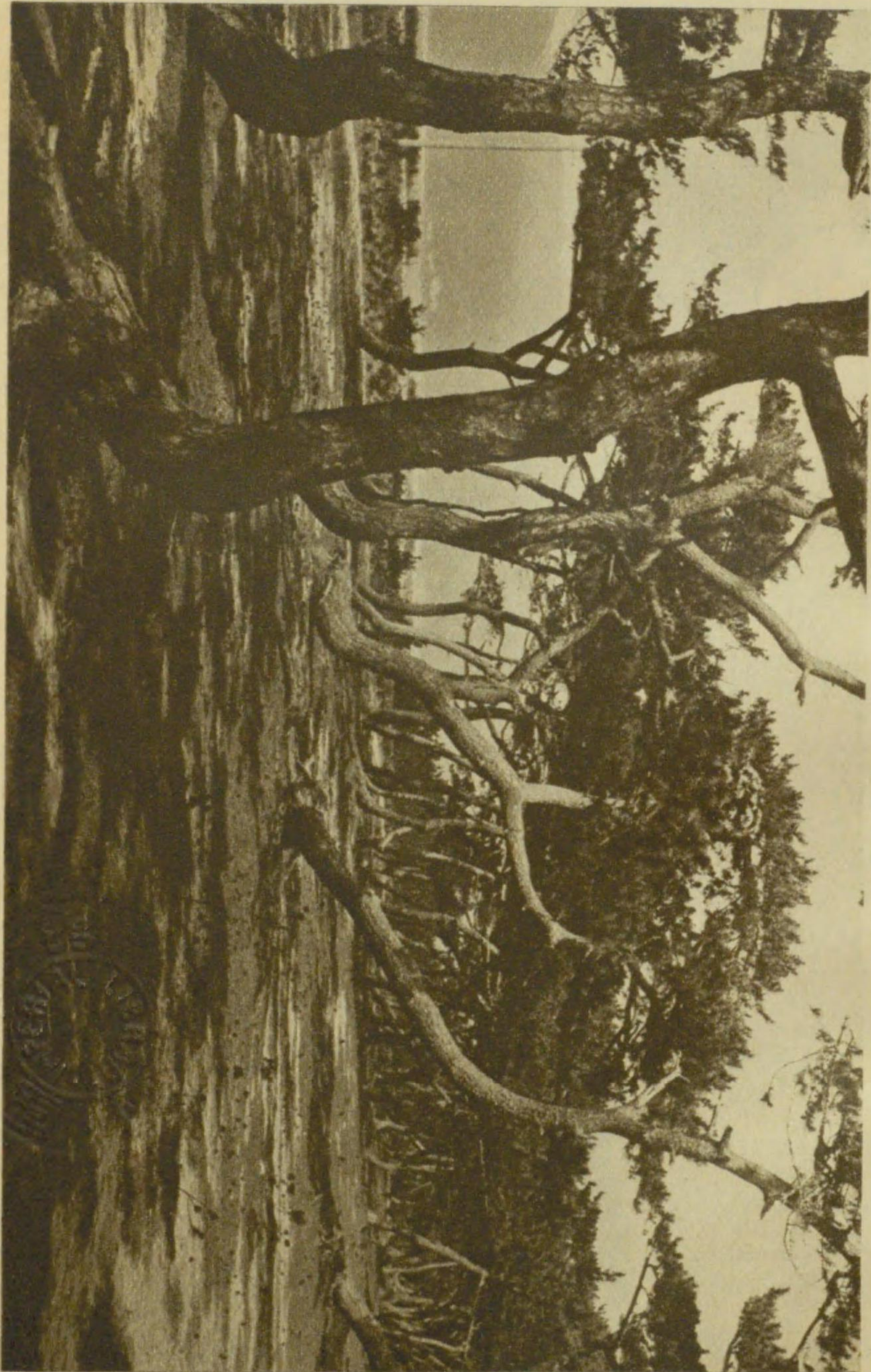


津舞鶴城址の眺望

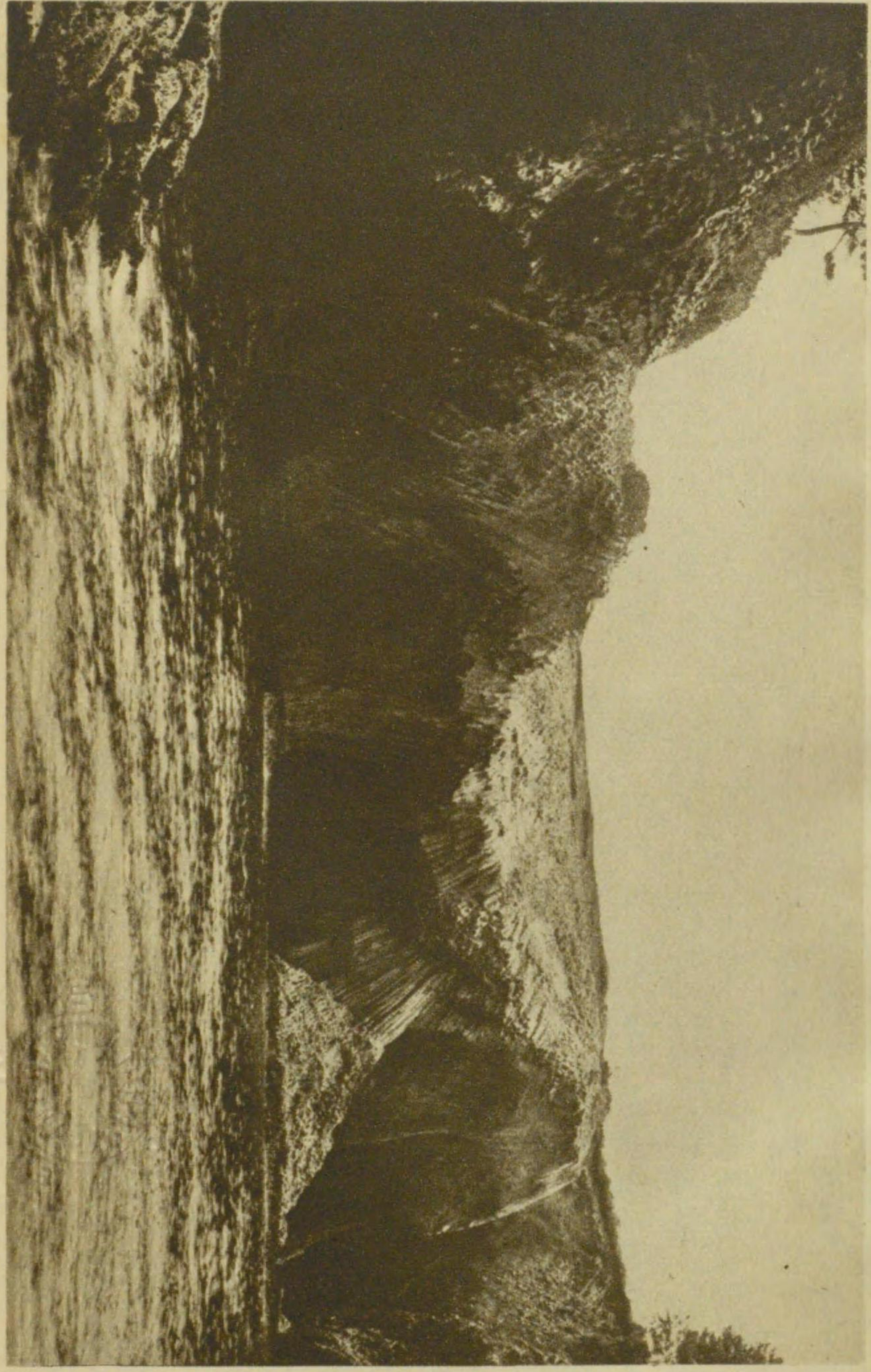




虹の松原







茶 七





支署(西唐津海岸通)、區裁判所(大手小路)、商工會議所(京町)、圖書館(大名小路)、公會堂(同)、鐵道省營海の家(西ノ濱)

▽銀 行 佐賀中央銀行(本町)、肥前合同貯蓄銀行(同)、十七銀行支店(吳服町)

▽會社 工場 三菱鑛業會社出張所(西唐津海岸通)、三井物產會社出張所(二タ子)、貝島商會社出張所(西唐津海岸通)、古川鑛業會社(大名小路)、東邦電力營業所(材木町)、九州鐵道會社營業所(船宮)、北九州鐵道會社(滿島)、唐津鐵工所(二タ子)

▽新聞 社 唐津日日新聞社(魚屋町)、唐津毎日新聞社(大名小路)、唐津新報社(材木町)

▽旅 館 博多屋本店(紺屋町)、新岩井屋旅館(本町)、晴芳館(京町)、長崎屋旅館(大手通)、清川旅館(郭内二ノ門)、喜望館(西ノ濱)、木村旅館(同)、唐津ホテル(滿島)、松屋旅館(虹松原)、東屋旅館(同)、海濱院(同)、シーサイドホテル(同)

▽料 理 店 中道家(木綿町)、綿屋本店(同)、綿屋別邸川の家(海士町)、松富(千代田町)、掬水(本町)、開月(木綿町)、自由亭(同)

▽娛 樂 場 「劇場」近松座(朝日町)、唐津座(材木町)、松浦座(西唐津二丁目) 「映畫館」世界館(朝日町)、日出館(材木町)

▽土 産 物 唐津燒、松浦漬、松露饅頭、松原おこし、唐津半紙

鳥栖佐世保間

▽廻覽順路 驛—近松寺—淨泰寺—舞鶴城址—虹の松

原—諏訪神社—玉島神社—鏡山—惠日寺—呼子—七ツ釜—田島神社—名護屋城址—驛

【近松寺】〔臨濟宗南禪寺派〕驛の西北六〇〇米、市内西寺町にある。後二條天皇乾元元年の創建と傳へ、もと舞鶴城にあつたが、兵燹に罹り、後陽成天皇慶長四年寺澤廣高現在の地に再建して菩提寺とした。文政以來藩主小笠原氏の菩提寺である。庭園は慶長年間、曾呂利新左衛門作と傳へ、唐津城下灣頭の風光を縮寫したものと云ひ、海に擬して敷いた白砂の中央に突出する山は滿島山で、左方は虹松原を、右端は西灣海岸を何れも象つたものと稱せられるが、江戸時代中期の作庭であらう。本堂の傍に淨瑠璃作者として有名な近松門左衛門墓がある。彼は幼時この寺で得道し、歿後分骨したものと云ふ。

【淨泰寺】〔淨土宗〕驛の西北八〇〇米弱、市内新町にある。後陽成天皇天正十五年眞譽上人開山、初代の城主寺澤志摩守廣高の冥福を祈つて建立したものである。



本能寺の變に織田信長を刺した安田作兵衛は天野源右衛門と改名して舊友廣高の客分となり、歿後當寺に葬られた。信長を刺した槍は今寺寶として存し、頗る錆びて居る。

【高德寺】「真宗大谷派」驛の北約四〇〇米、市内中町にある。愛國婦人會の主唱者奥村五百子の誕生地にして、その遺骸もここに葬つてある。銅像は市内大名小路十字路にある。

【舞鶴公園】（八圖な）驛の北約一軒、舞鶴城址で、松浦川の河口左岸に峙ち、虹の松原を東翼、西松原を西翼として、その状恰も鶴の天空に舞ふやうであるから、この名を與へたと云ふ。眺望絶佳である。

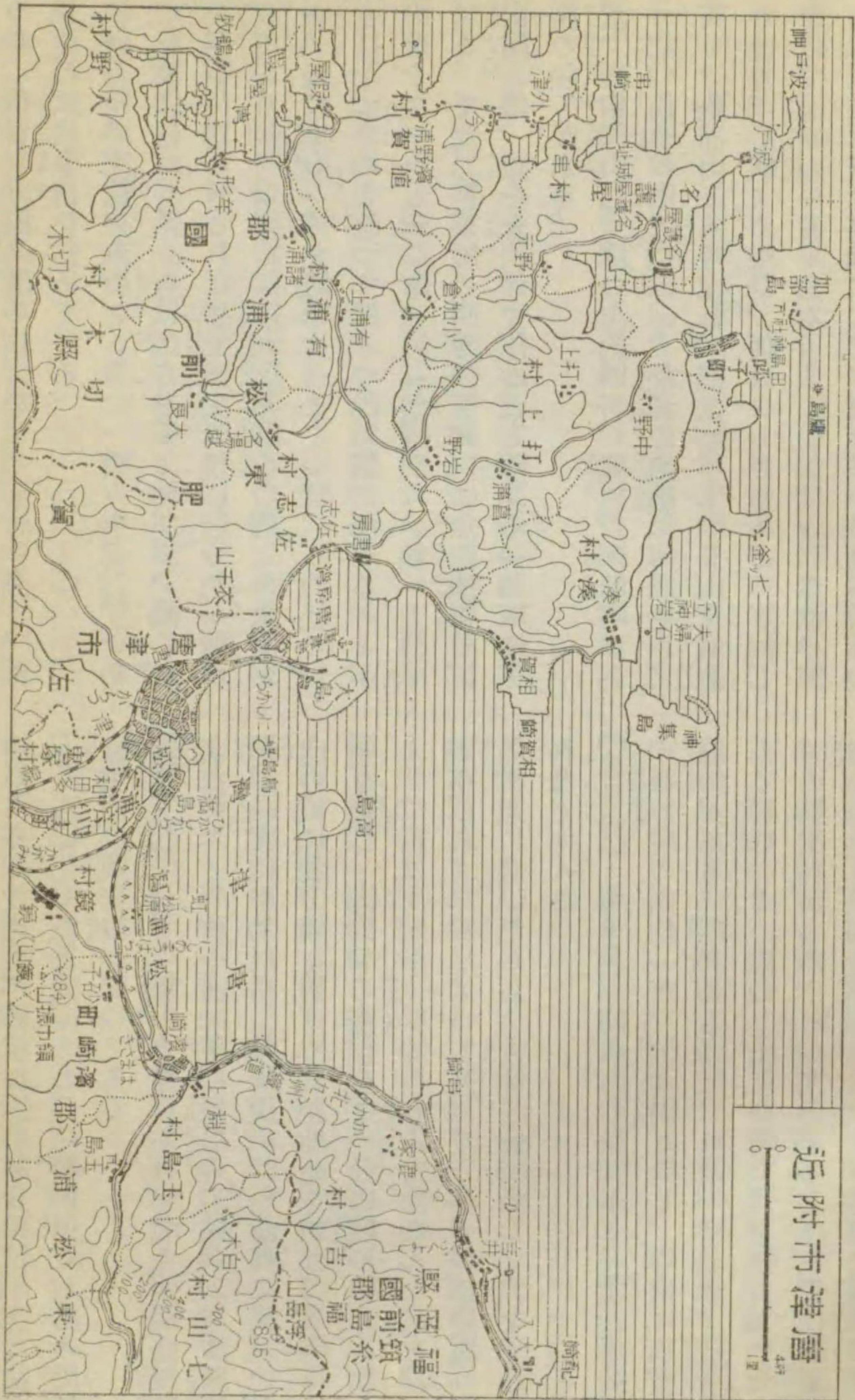
【唐津海水浴場】驛の北一軒の西の濱と、東北一軒半の東の濱即ち虹の松原海岸との二浴場があり、共に砂白く水清き遠淺の理想的浴場である。西の濱には鐵道省營海の家、東の濱には北九州鐵道營濱の家があり、諸設備完備し浴客が多い。

【虹の松原】「指定名勝」驛の東二軒半、自動車の便が

ある。唐津市の東方松浦瀉に沿うた風光明媚なる一帯の黒松林で、寛林または二里の松原とも云ふ。唐津の舞鶴城址の高地から望めば、松原の位置地勢最も分明にして、その背景を成すいはゆる領巾振山の鏡山から浮岳に至る遠近の景勝を、一眸の中に收むることが出来る。

松原は唐津市東方の満島と鏡村鏡、濱崎町濱崎に跨り、延長約四軒半、幅約半軒乃至一軒、面積三六、七〇ヘクタール、その間數百年を経た老松翠を列ねて幾萬株となく續き、弓形を成せる白砂の長汀と相映じて優艶極まりなく、特に夕陽燃ゆるが如く映えて波の色紅をなすの時、砂白く松青く、紅白青の色を重ねて宛然たる二里の大虹をなすのである。

松の樹勢の最も美なるは、松原を縦貫せる道路の南側で、特にその中部二軒茶屋附近には幹圍目通二米乃至三米のもの十數本を數へ、樹幹必ずしも大ならざれど、その幹枝は起伏屈曲し、龍蛇の蟠まれるが如く、鸞鳳の舞ふが如く、具に姿體の雅致を極め、傘松、根





上り松、伏松など園藝的の樹勢を呈せるもの多く、虹の松原の風景価値を高めて居る。

二軒茶屋の東數百米のところに一叢の少松林がある、松樹は何れも低く地に這うて上に伸びず、頗る奇觀を呈して居る。これは砂上發生の爲に起つた一種の畸形であるが、口碑には豊太閤朝鮮役の際この松原を通り、遙に玄海の沖を眺めようとした時、この松の目障りになつたのを怒つて睨みつけた爲に延びることが出来なくなつたと云ひ傳へて「太閤睨みの松」と稱して居る。また二軒茶屋の西方縣道側には加藤清正名護屋出陣の際、鎗を立掛けて休んだと傳ふる「加藤清正鎗掛の松」がある。

【鏡山(領巾振山)】 驛の東約四軒、鏡村、濱崎町にある。虹の松原の南方に聳え、松浦佐用姫の傳説を以て名高く、松浦山とも呼ばれ、海拔三〇四米、全山玄武岩より成り、形状よく整ひ、何れより見るもその形同じきを以て七面山の名もある。頂上に周圍四〇〇米餘の池がある。眺望甚だ豁達にして、海上幾多の島が指顧の

中にある。佐用姫が新羅征討將軍大伴狹手彦の跡を追うて石に化したと云ふところは加部島で、島の田島神社境内に望夫石が祀つてある。

【鏡神社】 「縣社」 鏡山の麓にあり、北九州鐵道鏡驛の北四〇〇米。祭神一宮は神功皇后外三柱、二宮は藤原廣嗣。一宮は神功皇后三韓征伐の時松浦郡に至り、七面山の頂に於て鏡を捧げて天神地祇を祭り、異國降伏を祈り給ひ、御歸朝の際鏡をこの社に鎮め給うたと云ふ。二宮は廣嗣僧玄助等の奸人を除かんと兵を擧げたが事成らず、海に入つて死んだ。その後靈崇屢々顯れ災害頻に起つたから、吉備眞備に勅して社を祀らせられたと傳へる。

【惠日寺】 「曹洞宗」 同鏡山の麓にあり、北九州鐵道虹の松原驛の南約一軒、洞源山と號し、寺寶に國寶の朝鮮鐘がある。銅製高さ二尺、口徑一尺七寸、膚滑かにして形態のよく整つた美しい鐘で、身側に大平六年九月の鑄出銘がある。この文によるとこの鐘は高麗顯宗帝の十七年、即ち今より凡そ九百年前に朝鮮で作られ

たことが明かにされる。また別に追刻された銘文には應安七年勝樂寺に寄進したことが記録してあるから、當寺の所有に歸したのはその後のことである。

當寺の庭は曾呂利新左衛門作と傳へ、頗る古雅な庭である。尙門前の畑中にある小丘は我が國上代の古墳墓で、その形が瓢形をして居るので瓢形古墳と稱して居る。

【諏訪神社】 驛の東七軒半、北九州鐵道濱崎驛下車、濱崎町にあり、唐津から自動車の便がある。延暦年間の創建で、五六月の交「お諏訪様詣り」と云つて近郷からの參詣者が多い。また「お諏訪様の砂」と稱して社内の砂を蝮除にする風習がある。

【玉島神社(神功皇后宮)】 驛の東約一〇軒、北九州鐵道濱崎驛の東二軒半、玉島村南山にある。祭神息長足姫命、創建は宣化天皇の御代大伴狹手彦新羅征伐の時と傳へる。昔は聖母大明神と稱へ、里人は俗に「しやうもん様」と呼んだものである。高い石垣を築いた高燥な地にあつて眺望に富み、玉島川の清流は直下を流

れて居る。現今の社殿は享保年間藩主土井氏の建立にかゝり、社寶中備州長船家助應永二十一年二月日の銘ある太刀一口は國寶に指定されて居る。社殿の裏手に神功皇后垂綸の故事に因んで、釣竿竹と稱する竹叢がある。

【立神岩】 驛の西北約一二軒、東松浦郡湊村湊の海岸にある。玄武岩累々として重なり、その中に周圍數丈高さ三〇米に餘る大小二箇の圓柱高く中央に聳え、岩裾の激浪は飛沫を産んで散亂し、恰も自然の畫幅のやうである。

【神集島】 唐津から海上約一〇軒、唐津灣に横たはり、形が船に似て居るので、俗に軍艦島とも云ふ。神功皇后三韓征伐の時、諸神を祀つて戰捷を祈り、船出し給うたところと傳へて居る。今住吉神社があり、弓張山、評議石等の遺蹟もある。石棺等の露出した古墳が多く存して居る。

【呼子港】 驛の西北約一三軒、市内から自動車の便がある。箱庭のやうな美しい港で、遊樂的の氣分が濃い。







呼子から發動汽船、唐津から自動車の便がある。天正十九年豊臣秀吉が、九州の諸侯に命じて築かした處で、加藤清正の設計に成ると云ひ、文祿、慶長兩度の役に我が出征軍の本據地であつた。後荒廢したが本丸、二の丸、三の丸以下諸曲輪の濠渠、石壘、磴道等がよく遺存して居る。唐津街道より城郭内に入れば右方に鯉池と名付けられた濠池あり、山里丸址に入れば、郭内に廣澤寺あり、寺は名護屋越前守藤原經述の妹で秀吉の妾たりし廣澤局の居宅址で、境内に局の墓及大蘇鐵がある。北の門址を通り磴道を過ぎて三の丸址に入り、大手門址を見て引返し本丸址に出れば、西北隅に天守臺址あり、一段高い上に礎石あり土壘が残存する。中央の芝生になつて居る所に「名護屋城址」記念碑が建つて居る。これより東二の丸址に出で、船手門址をその西北隅に見て西二の丸址に入り、淺野彈正曲輪址を眼下に見、搦手門址を見て、再び北の門址に出る事が出来る。山里丸址の西北、臺所屋敷址に在る松尾家には、秀吉の遺墨及遺品類が保存されて居る。城郭の四

邊には小丘陵が波濤狀に起伏する岡上に百數十の陣營址あり、徳川家康の竹の丸陣址以下前田利家、小西行長、木下秀長、加藤清正、福島正則、九鬼嘉隆、上杉景勝、鳥津義弘等の陣址には石壘、礎石、旗竿石等を遺存せるあり、城址と共に史蹟に指定されて居る。またこれ等の陣址の間を縫うて存する幾多の低地溪間は、皆これ遠近から集まつた買人が物資を販り店舗を列ねた所と云ひ、畦畔、田圃の間に一々舊時の町名を存し、雄大であつた當時の規模を窺ふに足るものがある。  
【廣澤寺蘇鐵】〔指定天然記念物〕名護屋城址にある。豊公の愛妾廣澤局の舊居所の庭前に植ゑられ、加藤清正が朝鮮から齎したものと傳へて居る。枝幹數十枝に分れ、根廻り約三米、幹の周圍約二米四、主な枝の太さ一米二、高さ約三米に達して居る。  
【東光寺(有浦寺)】〔曹洞宗〕驛の西約一二杆、東松浦郡有浦村有浦にあり自動車の便がある。本尊の薬師如来坐像は木造、高さ二尺九寸餘、相好優美、藤原時代の作で國寶に指定されて居る。

【高串あこう自生北限地帯】

〔指定天然記念物〕唐津驛から西約一八杆、東松浦郡入野村田部字高串瀨にあり、伊萬里線伊萬里からは汽船の便がある。あこうは海灣屈曲せる山崖に散生し、氣根長く露出し、岩壁に密着して居り、本邦に於ける自生北限地帯中最北のものである。

牛尾神社及別當坊がある。

【住の江港】〔六圖さき〕牛津驛の南五杆餘、杵島郡福富村と小城郡芦刈村に跨り、自動車の便がある。六角川の河口を占める開港であるが、貿易は振はない。

佐世保線

本線に戻りて久保田から西に向へば牛津二杆八を經て肥前山口五杆四に至りて佐世保線を西北に岐ち、本線は南に折れて有明海に沿うて諫早に向つて居るが、本項には便宜上肥前山口から佐世保線に入つて記することにした。

【常福寺(西山大師)】

〔臨濟宗南禪寺派〕牛津驛の西約三杆、小城郡砥川村上砥川にある。本尊薬師如来坐像は木造で平安時代の様式を存し、寺寶藤原時代の作木造帝釋天立像と共に國寶に指定されて居る。

【牛尾山梅林】

牛津驛の西北約三杆三、小城町池上字牛尾にある。山上山下到るところ梅樹があり、頂上に

この線は長崎本線肥前山口から分岐し佐世保に至る線で延長四八杆八、肥前山口から西に向ひ大町五杆一、北方二杆三、高橋四杆、武雄二杆三を經て山間に入り三間坂七杆八を出ると佐賀縣から長崎縣に進み隧道を潛つて有田燒の産地として名高い上有田四杆二に至る。上有田の次驛は有田四杆六で伊萬里線はこゝから北に岐れて居る。この伊萬里線は伊萬里を經て伊萬里灣の西岸を北走し、平戸の對岸日の浦を通つて本線の終點佐世保に接する豫定である。

【川古の大樟】

〔指定天然記念物〕高橋驛の北約六杆八、杵島郡若木村川古にある。目通り約二二米、高さ二四米半佐賀縣唯一の巨樹と稱される。



【武雄温泉】 武雄驛の西七〇米、蓬萊山の麓にあり、自動車の便がある。温泉は新館、舊館共に無色透明の単純泉で、皮膚病、呼吸器病、神経系諸症、花柳病などに効くと云ふ。新館の入口には丹塗の樓門があり、それを中心として湯の街氣分が濃く、遊樂的な温泉場である。附近には櫻山公園、御船山、柄崎神社、武雄神社、萩野の御茶屋など見るべきものが多い。旅館 東京屋、春慶屋、角舩、三國屋、東洋館外十數軒。

【櫻山公園】 武雄温泉場の背後、蓬萊山一名白龍峯を中心とした高地一帯を云ふ。天然の奇巖を景物として巧に人工を施し、半腹に櫻、桃、躑躅、楓等を植ゑて四季の景趣を添へてある。

【廣福護國寺】 「臨濟宗」 武雄驛の西北約一料、武雄町温泉場後方の丘上景勝の地にある。

當寺は後宇多天皇より護國の二字を賜はると傳へ、また武雄城主後藤直明聖一國師をこゝに招聘して祈禱所に定めたと云ふ。

現存の本堂は江戸時代の再建にかゝり、本尊の釋迦

坐像も江戸時代の作であるが、その左右に安置されて居る四天王像は古佛像で、國寶に指定されて居る。四天王立像「國寶」何れも木造彩色、增長持國の二像は高さ約三尺五寸、邪鬼を踏み、他の廣目毘沙門の二天は近年補作された岩上に立ち高さ約三尺ある。何れもかなり力を蒙つた鎌倉中期の作である。

【御船山】 武雄驛の南約一料半、昔神功皇后征韓の際、御船をこゝに繋かれたので、この名があると云ふ。蓬萊山と相對して天に沖する烏帽子形の山で、全山火山岩より成り、松杉奇岩の間に茂り、宛然一幅の南畫である。

【萩の尾御茶屋】 武雄驛の西南約二料、御船山の南麓にある。舊藩主の別荘にして奇峯聳立し、幽遠閑雅である。

【大草野の螢】 武雄驛の南約一〇料。藤津郡鹽田町大草野を中心に、鹽田川河畔一帯の地は螢の名所として佐賀縣第一位である。殊に大さの大きいので知られ、悉く源氏螢で、身長一握半以上に及び、光も大きい。

【嬉野温泉】 武雄驛の南一三料餘、大村線彼杵驛からは東北一二料、共に自動車の便がある。四周山を繞らした盆地で、嬉野川の清流に沿うてゴシック式の浴館あり。稍離れて新湯、元湯の浴場もある。温泉は食鹽含有アルカリ性炭酸泉で、リウマチス、神経痛、婦人病、皮膚病、飲用すれば胃腸病、貧血、咽喉カタルなどに効くと云ふ。

遊樂的氣分の濃い温泉場で、橋南谿がその西遊記に隣家の三味の音を聞いて望郷の念に惱まされたことを書いて居るのを見ると、こゝの湯街情調は昔からのことと思はれる。附近はまた嬉野茶の産地で、木の芽香る五月には茶摘唄の聲も流れて茶所温泉のゆかしさを見せる。旅館 和多屋、大村屋、吉田屋、笹屋、龜屋、鶴屋外十數軒。

【嬉野の大茶樹】 「指定天然記念物」 武雄驛の西約一九料、彼杵驛からは東北凡そ一〇料、嬉野町不動山にある。根元の周圍約二米六、根元から大小二十八本の幹が出てその中の四本が主幹となり、樹高約二米八、枝

張の周圍約一六米、全體で二三方米餘りの面積を蔽うて居る。樹齡二百五十年と稱され、茶の巨樹として全國屈指のものであらう。

【嬉野茶園】 嬉野は茶の産地として知られて居る。今を去る四百餘年前、後柏原天皇の御宇、明人紅令民と云ふもの南京釜を持ち來つて地を嬉野に相し、唐製茶を試みたのが始まりで、その後慶長年中肥前白石郷の吉村新兵衛がこゝに茶園を開いて、今の嬉野茶の基礎を築いたのである。獨得の芳烈な香と感じの軟かな味とが特質である。我が國製茶の外國輸出は安政年間に長崎で賣出した嬉野の唐製茶が始まりであると云ふ。

【永壽寺】 「曹洞宗」 嬉野町の東南六料、吉田村寺邊田にあり、自動車の便がある。慶長十九年鍋島茂教の建立で、寺寶中不動明王及二童子像は木造、不動は高さ二尺九寸の坐像、童子は高さ三尺四寸の立像、共に刀法の頗る鮮かな鎌倉時代の作で國寶である。

【黒牟田鑛谷窯址】 三間坂驛の東北約七料、杵島郡武内村眞手野黒牟田の山中にあり、途中まで自動車の便



がある。文祿役後佐賀藩主鍋島直茂、その伴ひ歸つた鮮人陶工を領内に分置起業せしめ、長老宗傳以下一團の陶工この山中に於て高麗焼を試み、黒牟田より内田に掛けて多くの窯址を遺した内の一つで、谷に臨んで造られた登り窯で階段状をなし、よく舊態を存し、椀皿等の完形、變形、作り損じが發見せられる。尙山中に物原山と呼ばれ谷間に無數に堆積した所あり、また原料土採取場址、釉薬原料採取場址等も存する。

出土遺物の一部は、武雄町宮原氏及眞手野の山麓にある圓樂寺に所藏せられる。

【有田町】(六圖た3) 上有田驛所在地。北に黒髮山、南に蓮花石山、金山岳聳え、市街狹長。有田焼の製造を以て知られ、工業學校、窯業試験場等がある。人口六千。

【有田焼】慶長二年佐賀藩主鍋島直茂朝鮮より凱旋の際、數多の陶工隨ひ來りて歸化した。その中に李參平と云ふものがあつて、泉山の磁鑛を發見して製陶に従事した。正保年間東島徳右衛門支那人より彩畫着色の

法を習ひ、これを酒井田柿右衛門に傳へ、柿右衛門は吳洲權兵衛と共に幾多の研究を積んで遂に成功し、藩主の保護により、有田焼の製造は頗る盛大になつた。製品の多くは伊萬里を経て諸方に搬出されたから、世に伊萬里焼と稱された。九谷焼、瀬戸焼、京焼等の製法は有田焼に負ふ所があると云ふ。

有田焼の原料となる石は有田町泉山から産出し、石英粗面岩の風化した長石質のものである。この石を採掘し、杵または機械で微細に粉碎し、水簸によつて粗い部分や鐵分等を除去し、不用の水分を去り、坏土となし、これを以て成形にかゝる。成形は古來用ゐられた蹴轆轤によるを主とし、置物その他種々な異形物は石膏型に押込み、または泥漿を流込んで作る。成形が終れば低火度(攝氏五百度位)で素焼し、それに施畫着色をなし、釉を施して高熱(攝氏一三〇〇度位)で本焼を行ひ、染附が出来る。而して更に赤や金等の錦繪即ち上繪を施して絢爛な染錦とすることが多い。製品は素地純白にして光澤ある品質堅牢な磁器で、實用

し、花期には美觀を呈する。近年全山の勝地を選んで三十三ヶ所の靈場が設けられ、巡禮者や一般登山者が多い。頂上に黒髮山神社を祀つてある。

【肥前耶馬溪】黒髮山の中腹にして、裏登山道に當る。集塊岩が風化侵蝕されたため、奇岩怪石聳立し、溪流所々に碧潭を湛へて壯觀である。

【黒髮山かねこしだ自生地】〔指定天然記念物〕黒髮山の山腹より稍と高き處並に山腹に近い處に産し、「うらじろ」の群落中に混生して居る。「かねこしだ」は「うらじろ」の變化したものらしく、鹿兒島縣高隈山に於ても發見された。

有田驛 佐賀縣西松浦郡有田村

▽伊萬里線 有田平戸口間

三五料六

▽乗合自動車 上有田行、上波佐見行、伊萬里行、今福行

【龍門】伊萬里線藏宿驛の東約四料、西松浦郡大山村大木にある。黒髮山の西北麓に於ける幅約三六米、高さ五四米に餘る斷崖絶壁下に位し、大龍門、小龍門と呼ばれる二箇の洞窟にして、一は長さ約五四米、奥行

的にも美術的にも他の追従を許さぬと云ふ。

有田町、有田村、大川村外二村に互る西松浦郡陶磁器同業組合昭和八年度製造價額は約四百三十萬圓で、六割餘は飲食器を主とする内國向に屬し、輸出向の大部は工業用品である。前記の産額中百二十三萬圓は有田町が占める。

【有田大銀杏】〔指定天然記念物〕上有田驛の北半料、有田町日子神社境内にある。目通り七米六、高さ三六米餘の巨樹で、昔から神木として崇められて居る。

【黒髮山】上有田驛の北約三料六、杵島郡住吉村の西北部にある。海拔六六米、全山樹木鬱蒼として、恰も黒髮のやうな翠緑を湛へて居るので、この名があると云ふ。山中奇勝に富み、天童岩、雄岩、雌岩、龍門、月輪峰、見返峠、大造落、目一つ坊、乳待坊、重ね岩などの奇岩景勝があり、傳説口碑も少くない。またこの山は「かねこしだ」、「いはせきしよう」、「いぶきじやかうさう」、「かぎかづら」等の特種植物を始め、集塊岩上に乾原植物の群落があつて、自然の植物園をな



約一八米、二は長さ約九米、奥行約五米半である。大龍門は數百人を容れることが出来る。右手にある間口約二九米、奥行一四米程の横穴を龍窟と云ひ、奥に石の觀世音像を祀つてある。こゝが黒髪三十三ヶ所の奥の院で、龍門を中心に老樹生ひ茂つた大岩壁を自然の背景として公園を設け、櫻や楓などを植ゑて風致を添へて居る。涼々と流れる谷川の水も清く、幽邃閑雅な清淨境で、夏季の納涼に最もよい。

【伊萬里町】(六圖たる) 伊萬里線伊萬里驛所在地、唐津、武雄、佐世保から自動車の便もある。伊萬里灣の最奥に位し、往時からの要津で窯業、漁業行はれ、伊萬里燒の産は有名である。

町内に香橋神社、戸渡島神社、城山及舊鍋島家御用の窯等があり、十一月二十三、四日の兩日の伊萬里供日には香橋、戸渡島の兩社の神輿、山車を昇ぎ出し、勇壯な祭禮を行ひ、町を擧げて頗る賑ふ。

人口九千。旅館 岩田屋、今福屋。土産物 伊萬里燒、伊里萬蒲鉾。

位し、長さ約九杆、兩岸相迫れるところは二八〇米にも満たない。大村灣口の一水道で、潮汐の干満著しく、殊に陰曆三月三日の節句潮は壯觀を極める。

【千綿溪】 大村線千綿驛下車、千綿村を貫流する千綿川八杆餘の溪谷で、長崎耶馬、肥前金剛と呼ぶこともある。山水の景趣多く、龍頭泉と稱される碧潭は面積約一〇アール、水深二七米、瀑布の高さ凡そ四四米である。

【大村灣】 西彼杵半島の東にある大灣で、琴湖とも呼ばれ、周圍約二〇杆、灣口は針尾島が横たはる爲、伊の浦瀬戸、早岐瀬戸の二海峡となつて居る。大村線の汽車は灣岸を走り、南風崎驛から長崎本線の大草驛に至る約五六杆の間、碧波の上に大小の島嶼浮び、帆船去來し、諸山蜿蜒として連り、風光の明媚なること瀬戸内海に譲らない。灣内で眞珠の養殖が行はれる。

【大村町】(六圖たる) 大村線大村驛所在地。東に多良岳の丘陵を負ひ、西は風光明媚の大村灣に臨んで居る。もと大村氏の城下町として發達し、歩兵第四十六

【七ツ島】 同伊萬里驛の西北約九杆、西松浦郡西山代村久原の海上にあり、伊萬里港から船の便がある。諸島は七ツ島と云はれるが、實は十幾つの小島より成り、青松緑蔭岩高く砂白く、風光がよく、伊萬里松島の稱があり、潮干狩にもよい。

【鷹島】 伊萬里線今福驛の北約七杆にある孤島で、元寇殲滅の地である。島内を流れる多々良川の下流は中川と呼ばれ、「中川の端にて首を斬る」と古書に記されたところで、當年元兵が斬首されたと云ふ河堤はその儘残つて居る。

有田からは西南に折れ三河内七杆五を経て早岐四杆二に至れば大村線が岐れて南し諫早に向つて居る。沿線殆ど大村灣に沿うて走るので、車窓からその明媚な風光が眺められる。

早岐驛 長崎縣東彼杵郡早岐町權常寺免

▽大村線 早岐諫早間

四七杆六

【伊の浦瀬戸(針尾瀬戸)】 針尾島と西彼杵半島の間に

聯隊、海軍航空隊の設置後漸く盛んとなつた。大村城址は玖島城址とも云ひ、町の南端海中に突出した岬端丘陵にあり、近年拓いて公園とし眺望がよい。人口一萬。旅館、乾物屋、常盤、松島屋、濱田屋。

早岐からは北に向ひ、日宇五杆六を過ぎて佐世保三杆三に著く。

佐世保驛 佐世保市自南風町

▽佐世保鐵道

上佐世保 世知原間

二六杆二

左石 柚木間

三杆九

實盛谷 相ノ浦間

二杆五

四ツ指 白ノ浦間

二杆九

▽乗合自動車

上佐世保驛行、田平行

一日平均

乗車人員 二、七〇六人

降車人員 二、六四一人

發送貨物噸數 一〇八噸

到著貨物噸數 三一七噸

主要發送貨物 人造肥料、活鮮魚、礦物、魚肥

主要到著貨物 米、木材、砂糖、木炭、機械類、鐵及鋼製品

【佐世保市】(六圖なる) 北松浦半島の南岸に位し、東

西約九杆八、南北約一〇杆九、面積約五〇方杆であ



る。地勢丘陵多く、日宇、佐世保の二川が流れて居る。もと荒涼たる寒村に過ぎなかつたが、鎮守府設置され、數回の戦役に海軍の策源地となつてから、著しく發展し、昭和二年四月隣接せる日宇、佐世の兩村を編入した。昭和六年の生産約七百萬圓その八割餘は工業物で、人造肥料が首位にある。人口十四萬。

▽官公廳その他

市役所(八幡町)、鎮守府(海軍用地)、海兵團(同)、航空隊(百間鼻)、建築部(海軍用地)、港務部(同)、人事部(同)、經理部(同)、軍需部(同)、工廠(同)、要塞司令部(光月町)重砲兵大隊(保立町)、稅務署(木場田町)、商工會議所(湊町)、區裁判所(木場田町)、圖書館(八幡町)、公會堂(同)、水交社(上町)

▽銀行

佐世保貯蓄銀行(潮見町)、十八銀行支店(松浦町)、九十九銀行支店(常盤町)、伊萬里銀行支店(濱田町)、有田銀行支店(常盤町)、大村銀行支店(榮町)、不動貯金銀行支店(本島町)

▽會社

佐世保鐵道會社(俵町)、西肥自動車會社(相生町)、東邦電力會社支店(戸尾町)、長崎無盡會社支店(松浦町)、大正無盡會社(鳥瀨町)、西部瓦斯會社支店(萬津町)、佐世保魚市場(三浦町)、佐世保水産倉庫(鹽濱町)、野田鐵工所(八幡町)、新見鐵工所(榮町)

▽百貨店

玉屋デパート(榮町)

手刻と傳へる十一面觀世音を安置してある。八月の例祭は參詣者が殊に多い。境内別に大師堂がある。また北面中腹の大洞窟に五百羅漢がある。

【記念公園】

驛の北に當り、谷郷町から八幡町、宮地町、太田町に跨る。面積四〇〇アール餘、丘陵起伏し、老松茂り、逍遙道路、休憩所、二臺、運動場等備はり、港内を俯瞰し、風光に富んで居る。

【巖屋宮(穴妙見)】

驛の北二軒餘、祇園町の郊外にある。俗に穴妙見と稱し、三面丘陵に鎖されて別天地をなし、絶壁高く懸るところに一大洞窟がある。幅五米半弱、深さ約一〇米、洞中に素盞鳴命を祀つてある。

【眼鏡岩】

驛の北二軒餘、佐世保市外北松浦郡大野村西園寺の境内にあり、圓相巖とも云ふ。幅平均一米半の屏風狀砂岩壁に、二個の孔が貫通せるもので、その距離約一米半、北にあるものは略々正圓にして直徑約五米三、南にあるものは不正圓にして直徑これより大きく、約八米である。

【八幡神社】

驛の北二軒、八幡町の丘上にあり、自動

鳥栖佐世保間

▽新聞社

佐世保新報社(光月町)、佐世保日日新聞社(相生町)、佐世保軍港新聞社(天満町)、佐世保新聞社(上京町)、佐世保民友新聞社(濱田町)

▽旅館

池月(木場田町)、油屋(天満町)、山一旅館(島ノ瀨町)、川副旅館(本島町)、丸山旅館(同)、惠比須屋(下京町)、丸宗旅館(驛前)、山下旅館(下京町)

▽料理店

萬松樓(谷郷町)、いろは樓(天満町)、清潮館(潮見町)、精養軒(元町)、常盤井(常盤町)、對冠樓(八幡町)、相生(常盤町)、いろは(上町)、岡崎(本島町)

▽娛樂場

彌生座(榮町)、「映畫館」千日劇場(山縣町)、文藝座(濱田町)、大映座(城山町)、第一中央館(島瀨町)、第二中央館(山縣町)、第三中央館(島地町)

▽土産物

五色餅、軍港せんべい、椿油、翠玉石

【佐世保海水プール】

驛の東南福石町の丘上にある。長さ五〇米、幅一四米、水深平均二米、正式の飛込臺及脱衣場等を設け、高地に納涼場、二臺、木馬及休憩所等がある。また幼児用のプールもある。水は海軍用地から揚水される。

【福石觀音】

驛の東南九〇米弱、福石町にある。福石山清嚴寺と稱し、九州靈場第二十七番で、行基菩薩の

車の便がある。廣瀨の地を占めて一望全市の大半を望み、烏帽子、將冠の二嶺を右左に見る。境内に繪馬殿、參籠殿、武徳殿、村上義光銅像、忠魂碑及小動物園などがあり、老松枝を交へ壯嚴の境地である。

【鶴渡越】

驛の西約四軒、金比良町及赤崎免にあり、自動車の便がある。佐世保港外の九十九島を觀賞するによい場所で、四十三號潜水艦記念碑がある。九十九島は佐世保平戸間海上數里の間に點在する島嶼の總稱で、宛然一幅の名畫である。

【國見岳】

佐世保鐵道世知原下車。長崎縣北松浦郡世知原村と佐賀縣西松浦郡二里村に跨り、景觀頗る雄大、觀楓季節特に登山者が多い。

【九十九島】

佐世保港から平戸港に至る途中一六軒の間に碁布する島嶼の總稱である。兩港間には直航船もあるが、觀賞するには地廻り船に乗るがよい。

【平戸島】

佐世保からは平戸の對岸南田平まで自動車によるか、または北松浦半島の諸港を経由する汽船の便によるがよい。有田から伊萬里線によれば平戸口下



車、汽船便がある。島は平戸瀬戸を以て半島と隔り、地形狭長、東北より西南に至る長さは約三二軒あるが、東西は八軒に過ぎない。土地は火山岩質で、安満岳は航海者の好目標である。住民は約三萬三千、都邑は平戸が著名である。

【平戸町】(六圖は二) 平戸島の北端にあつて良港を有し、島内第一の都邑である。この地はもと平戸藩の城下で、慶長年間和蘭及英吉利と通商した。和蘭商館址、英國商館址、和蘭堀、和蘭井戸等の遺蹟は今尙存して居る。また沖積記念館がある。附近の風光は甚だよい。人口一萬三千。

【平戸和蘭商館址】「指定史蹟」 平戸港崎方の東端、常灯鼻の燈臺址に續き、坂道に沿うて石を積み重ね、貝殻を交へ、セメント様のもので固めた高さ約二米餘、長さ約四〇米の和蘭堀と呼ぶ土堀に圍まれた一角である。慶長年間和蘭人がこの地に於て貿易に従事した所で、同七年には三層の石造館舎を營むに至つたが、寛永十五年島原亂後、幕府事態に鑑み、遂に同十七年商

刀は無銘であるが拵付で、別に太刀圖が一通添ひ、小値賀島にある神島神社の鑢頭太刀と共に國寶に指定されて居る。

【幸橋】 平戸町役場の東北にある石造アーチ橋で、元祿十五年の架工にかゝり、和蘭商館建設に従事した大工豊前の傳授によりて造られたと云ふ。

【千里ヶ濱】 平戸町より西四軒餘、中野村の東南海岸にあり、自動車の便がある。東西約一軒三に互り、磯波徐に去來する白砂青松の地で、濱の中部松下に鄭成功の碑がある。碑の高さ約二米二、幅約一米半、碑面に「鄭延平王慶誕芳蹤」と陰刻され、碑文は藩老葉山鎧軒の撰である。また濱に見誕生と稱するものがある。鄭成功の母田川氏が貝拾ひの際、この巨石に倚つて成功を生んだと傳へられ、今は木柵を設けて保存してある。附近の川内浦に成功の父即ち田川氏の女婿となつた支那人鄭芝龍の宅址がある。

鄭成功は支那人を父とし、邦人を母とし、明に仕へ、世に國姓爺と呼ばれ、清に抗して明の國運を挽回せん

館長フランソア カロンに命じてこれ等宏壯な館舎倉庫を毀たしめ、翌年長崎出島に移したが、それまでは外國貿易上樞要な地であつた。遺址としては土堀の外に、海岸に近く殘存する倉庫の殘壁、エビス埠頭に通ずる道路の傍にある石造の和蘭井戸等があり、崖上には日蘭貿易記念碑が建つて居る。

【英吉利商館址】 平戸町役場の所在地。慶長十八年(西曆一六三三)から元和九年(西曆一六三三)まで英吉利商館がこゝに存在したところで、庭に英文の石造記念碑が建つて居る。

【最教寺(談議所)】 「新義真言宗智山派」 平戸町平戸にある。寺寶の佛涅槃圖は絹本着色、上部中央に雲上の釋迦立像を描き、左右上部に釋尊說法の圖を、また左側の一には地獄の劫火を表はして居る等、普通の涅槃圖と異つた圖様のもので、箱蓋表には松浦鎮信が朝鮮から持歸つた旨が書いてあり、國寶に指定されて居る。

【龜岡神社】(縣社) 平戸町龜岡にある。七郎神社、乙宮神社、八幡神社等を合併した神社で、社寶の鑢頭太刀とした志士である。

【川内浦】 千里ヶ濱の南深く灣入せるところを川内浦と稱し、良港である。初葡萄牙人が平戸に貿易場を開いてから、歐洲諸國人が争うて平戸に來り、多數の船舶を寄泊せしめるに不便となつたので、蘭英船は平戸に上荷して、この川内浦に碇泊したため、居留地及倉庫がこの浦にも建てられたのである。浦から千里ヶ濱に通ずる一小丘を丸山と稱する。貿易の盛時には遊廓地であつたが、寛永十八年貿易港を長崎に移された際この遊廓も追從して移り、今の長崎丸山の名をなすに至つたのである。

【川内甘藷原産地】 中野村の千里ヶ濱に接する北方の畑中に、殆ど本邦最古と云ひ得る甘藷畑がある。面積約一〇アール。船長アダムスが琉球の那覇で甘藷を買入れて、平戸英國商館長コックスに贈り、コックスは元和元年これをこゝに栽培した。この年は琉球王が甘藷を薩摩藩に獻じた元祿十一年より八十三年前に當る。栽培法は今尙傳來當時の儘であると云ふ。



佐賀 長崎間

長崎本線は佐賀から西に向ひて既記の鍋島、久保田、牛津を経て肥前山口から左折し、有明海岸に沿うて西南に走り、福治五軒一、肥前龍王四軒七、肥前鹿島五軒二、肥前濱三軒、肥前七浦三軒九、肥前飯田二軒一、多良四軒一を過ぐ、この間絶えず左窓雲仙岳の容姿が眺められる。

多良を後にして肥前大浦七軒九、小長井六軒七、湯江五軒三、小江三軒三を通りて有明海岸を離れ、肥前長田四軒七、東諫早一軒九を経て諫早二軒九に著く。

【鹿島の櫻】 肥前鹿島驛の西一軒半、鹿島町高津原にあり。松蔭神社附近旭ヶ岡公園一名松蔭公園一帯は櫻樹多く、東北に有明海、肥筑の連山を、東南に多良岳、經ヶ岳を望み、陽春來遊するものが少くない。この櫻は文久年間藩主鍋島直彬が植栽したのに始まり、明治十六年吉野櫻一千株を増植したもので、古木の多いことは九州第一と稱される。直彬が士民と共に花見の宴を開くことは廢藩と共に止んだが、衆樂の碑は今尙存

前濱驛の西南二軒、藤津郡古枝村にある。祭神、倉稻魂大神、猿田彦大神及大宮賣大神の三神。貞享四年鍋島直朝の室萬子華山院家より嘗て分社せし稻荷の靈を勸請し、更に大宮賣、猿田彦二神を合祀したものである。明治十二年縣社に列せられた。本社は賽客の多きこと九州屈指の神社にして、規模宏大である。俗に祐徳院さんと稱し、賽者の數太宰府神社に次ぐと云はれ、京都伏見稻荷、茨城縣笠間稻荷と共に三大稻荷と稱される。

【岩尾山】 肥前鹿島驛の西南三軒餘、藤津郡能古見村にある。眞言宗新義派の開祖覺鑊上人修業の靈地にして、頂上岩窟内に上人自作の佛像を始め多數の佛像を安置し、樹木鬱蒼として幽邃である。

【蓮巖院】 眞言宗御室派 肥前鹿島驛の西南四軒、藤津郡能古見村山浦にある。本堂安置の本尊の薬師如來坐像は木造、高さ二尺八寸、衣紋の刻み流麗、相好優美、藤原時代の作で、寺寶の定朝作と傳へる二軀の木造阿彌陀如來坐像と共に國寶に指定されて居る。

して居る。松蔭神社(縣社)は鍋島忠茂以來累世の舊藩主を祀る。

【誕生院】 眞言宗新義派 肥前鹿島驛の南八〇米弱、鹿島町納富分、字行成にある。密嚴山と號し、本尊不動明王、新義眞言宗の開祖覺鑊上人興教大師誕生の地である。久しく廢滅に歸したが、大正六年復興した。

【藤の森】 誕生院の東八〇米弱、字石木津にある。蟠龍の如き一本の藤の大樹が一千八百年前の名残を留めて居る。古來石祠を建て日本武尊を追崇奉祀した地で、藤の森と稱したと云ふ。藤津郡の名はこの藤の森から起つたものと傳へて居る。

【普明寺の金木犀】 指定天然記念物 肥前鹿島驛の西南約二軒、藤津郡古枝村寺籠の普明寺境内にある。高さ約零米九のところ廻り約二米九、高さ一三米餘の巨樹である。五月、十月兩度の花期には芳香遠く四軒四方にたゞよふと云ふ。普明寺は舊鹿島藩主の菩提寺にして、黄檗宗の巨刹である。

【祐徳稻荷神社】 縣社 肥前鹿島驛からは南四軒、肥

【多良岳】 (六圖さ4) 多良岳は經ヶ岳(二〇壹米)、多良岳(九三米)、五家原岳(二〇五米)、烏帽子岳などからなる群山で長崎縣藤津、東彼杵、北高來三郡に跨り東に有明海西に大村灣を近くに望み、展望甚だ勝れた山岳である。標高は餘り高くないが山頂附近は比較的原始林多く、森林景觀の勝れた興味多い山である。

多良群山は缺損せる舊噴火口の外輪山で經ヶ岳、五家原岳、烏帽子岳などは外壁の山で、多良岳は中央火口丘であり、最高峯經ヶ岳は全く標式的な二重火山である。

有明海や大村灣、筑紫の平原から仰ぐ山姿は海中に聳立する孤峯の如く、秀麗な山形を見せて雲仙と共に長崎半島の秀峯である。西側大村灣方面へは比較的急傾斜をなして居るが、東側有明海へは緩い傾斜を長く曳いて美しい裾野をなして居る。

登山路は長崎本線湯江驛からするもの、大村線竹松驛からするもの、北山麓の嬉野温泉から登るものがある。



長崎本線湯江驛からの登山路は山頂まで約一二料、途中境川の谷にある轟の瀧までは二つの登路がある。一つは湯江から神津倉を経て直接境川谷に沿うて轟の瀧に出で、一つは驛から平原、または善住寺を経て尾根筋に沿うて轟の瀧へ一旦降つて登るのである。境川谷には大小十數の瀧があり、溪流が美しく、就中轟の瀧は最も壯觀である。轟の瀧から本谷に沿うて、烏帽子岳の西山腹を登る。概ねすゝき、木いちご、野いばら等の山道で、金泉寺附近までは杉、檜の數年生の植林帯である。湯江から全部徒歩に依る。

大村線竹松驛からは多良岳金泉寺まで約一五料、途中黒木まで一二料の間萱瀬川に沿うて貸切自動車を通ずる。途中久良原附近には樹齡百年に達すると云ふ杉の模範林がある。

黒木から頂上まで約三料、黒木部落から約半料で次第に登りとなり、最初は杉の植林帯であるが小さな澤を渡ると一層急坂となり、雑木林の密林に蔽はれた中を、ジツクザツクに登ると、五家原岳と經ヶ岳との鞍

部に出る。附近はすゝき等の草原で緑のスクロップを擡げて居る。森林帯からぬけると展望が開け、大村灣や有明海の風光が一瞬に入り、雲仙岳が有明海の上に浮ぶ景觀は優れて居る。

こゝから山腹をからんで約四〇〇米で金泉寺がある。神佛混淆の社寺で堂宇と籠堂とがあり、宿泊することが出来る。金泉寺から多良岳頂上まで約半料、最初はしばらく石段があり、檜、櫟等の原生林の間を急に登ると多良岳頂上に達する。

山頂の展望は標高の低い割合に頗る雄大で、多良岳經ヶ岳、五家原岳とも同様であるが、多良岳頂上は植林帯が茂り、多少展望を缺いて居る。就中經ヶ岳は大村灣と有明海を同時に望める點が優れて居る、半島の脊梁だけに兩海岸の靜波を瞰下し、海中に浮ぶ雲仙岳の全山容は優美である。有明海を隔て、大牟田市方面や遠く阿蘇山等も望まれる。

多良の山々は標高は低いが、到る處原始的景觀を有し、週末の登山に適した雄峰である。

諫早驛

長崎縣北高來郡諫早町永昌

▽大村線

諫早早岐間

四七料六

▽島原鐵道

諫早愛野村島原湊間

四二料三

▽雲仙鐵道

愛野村雲仙小湊間

一七料三

▽口之津鐵道

島原湊加津佐間

三六料三

▽乗合自動車

鹿島行、有喜行、江浦行

【諫早町】

(六圖たす)

もと諫早藩のあつたところで、交通の要地に當り、長崎縣隨一の製絲場がある。城址高城山は公園となり、郊外農事試験場の後方高地一帯はゴルフ場となつた。慶嚴寺は奇巖怪石より成る一山上に位し、建築古雅である。人口一萬八千。

【眼鏡橋】

驛の北半料、町を貫流する本明川に架した大石橋で、天保十年の建設にかゝり、長さ約四三米、幅五米餘、製作優秀である。

【諫早町をしどり渡來地】

〔指定天然記念物〕 驛の東南、諫早町原口名字西小路諫早中學校敷地即ち舊藩主諫早男爵家の庭園にある園池である。面積約二二アール、庭園の中央にい字形をなし、鯉が數多棲む。池面には

例年十月初旬に鴛鴦が渡來し、三月下旬に去る。その數は年によつて増減あり、三百羽位の多數の渡來を見ることもある。

【富川の幽境】 驛の北約一〇料、本明川の上流富川山にあり、川を挟み、老樹蔭鬱、奇巖絶壁兩岸に聳え、高さ約三六米、長さ約三〇〇米の一枚石が河床となつて居る。河水は上宮瀧、月潭、丸淵、眞珠淵等をなし、河岸には釋迦、迦葉、阿難の三大佛を彫刻せるところあり、五百體の大羅漢を彫刻せるところもある。大羅漢は兩岸約一三アールの崖壁にあつて、寛永六年春諫早の領主茂晴が施主となつて竣工したものである。またこの幽境には十一面觀音、子安觀音もある。

【有喜貝塚】 驛の東南約一三料、北高來郡有喜村、里名六本松と呼ぶ海岸から二〇〇米の丘上の畑中にある貝塚で石器、骨角器、土器等と共に曾て貝層中から二箇の原始的組合せ石棺が発見せられ、その一箇には伸展葬の人骨と共に左胸部第二肋骨の下に於て鋒部を足の方にした鐵鍬が存在した。これは鐵鍬を射込まれた



遺骸と見られ、石器時代の末期に於て一方に鐵器の使用者が存在した證左となるものである。

島原半島

【ちすじのり發生地】〔指定天然記念物〕 島原鐵道多比良町驛下車。南高來郡多比良村、土黒村の境を流れる境川沿岸である。境川は有明海に注ぐ小川にして、自生地附近に於ける幅は約七米三乃至約九米一、水は極めて浅い。この海苔は里人かんのり或はながかんのりと稱へ、淡水産紅色の藻類で、本邦には當地と鹿兒島縣とに産するのみだと云ふ。

【島原町】（六圖か5） 島原鐵道の終點、口之津鐵道の起點所在地。松平氏七萬石の舊城下で、有明海に面し、背後に眉山の秀峰を控へ、寛政四年雲仙岳の活動によつて出來た九十九島と稱する數十の島嶼海門に碁布し白砂青松、宛然陸前松島の觀がある。港内船舶の碇泊に便利である。當港は三角、天草、加津佐、茂木、長崎等と航路通じ、雲仙の登山口である。人口二萬二千。

旅館 南風樓、國光屋。

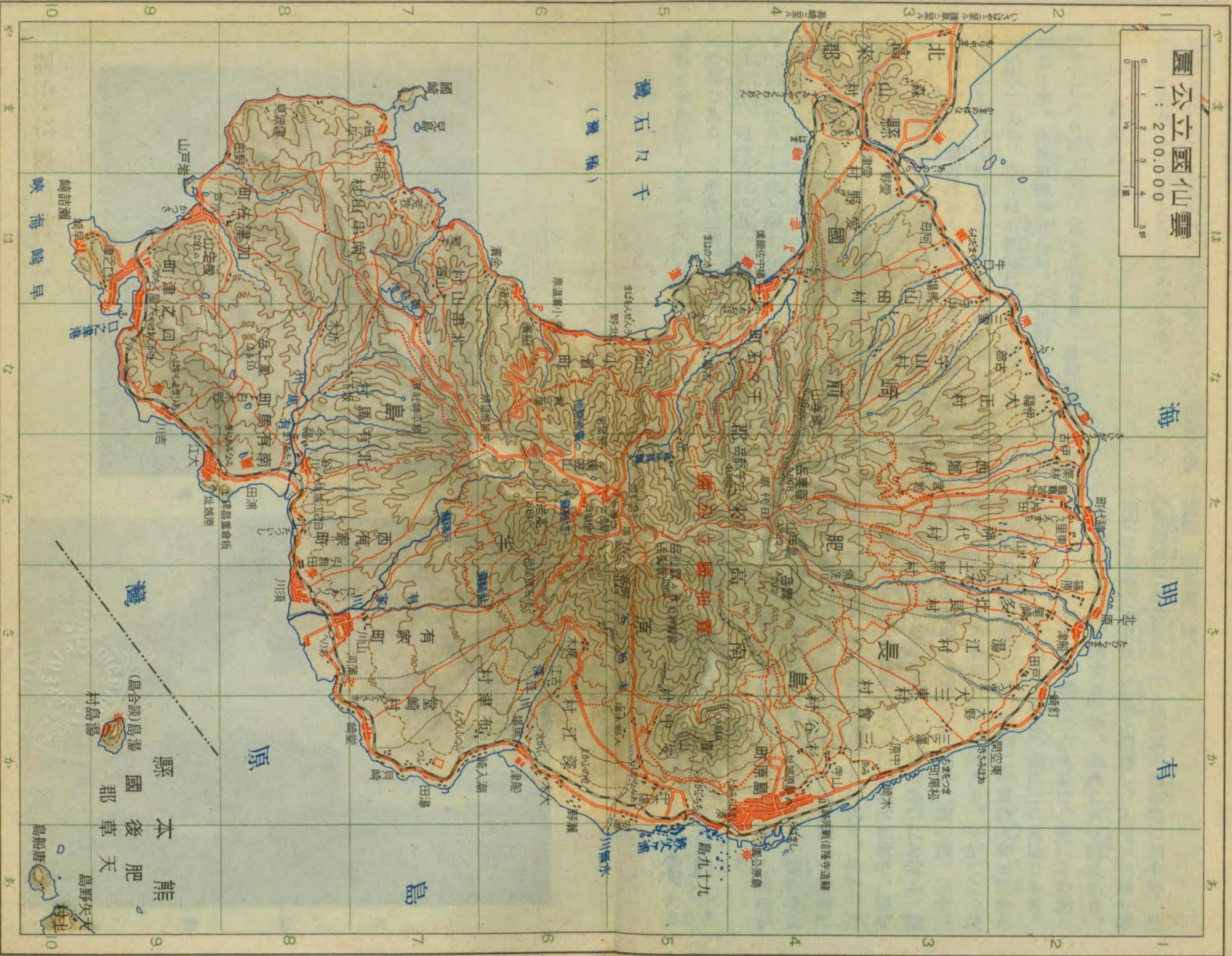
【島原城址（森岳城址）】 島原鐵道島原驛の西半軒、島原町にある。本丸址の石壘を遺存し、内濠が四周を繞り、東西二五米、南北三〇〇米、郭内に天守閣址あり、本丸址の北、女學校の邊が二の丸址で、更にその北の第一小學校、縣立島原中學校の邊は三の丸址である。城は松倉重政の築く所で、元和二年重政大和五條から有馬氏の舊領なる有馬日野江城に入り、やがてこの城を築き五箇年を費して成つた。内外二重の濠、三十三箇の櫓、七箇の城門を有した大城であつたと云ふ。寛永十四年島原亂に叛徒先づこゝに押寄せた所で、翌年子重次の時封除かれて高力忠房これに代り、松平、戸田兩氏を経て再び松平氏入城し、子孫世襲して維新に至つた。附近に天正十二年有馬、島津の軍が龍造寺氏の軍を破り、龍造寺隆信が戰死した沖田畷の古戰場がある。

【舊島原藩藥園址】〔指定史蹟〕 同島原驛の西約二軒、島原町燒野にある。眉山東麓、西南に松林を負うた高



雲仙國公立園

1 : 200,000



千石石灣 (橋橋)

灣

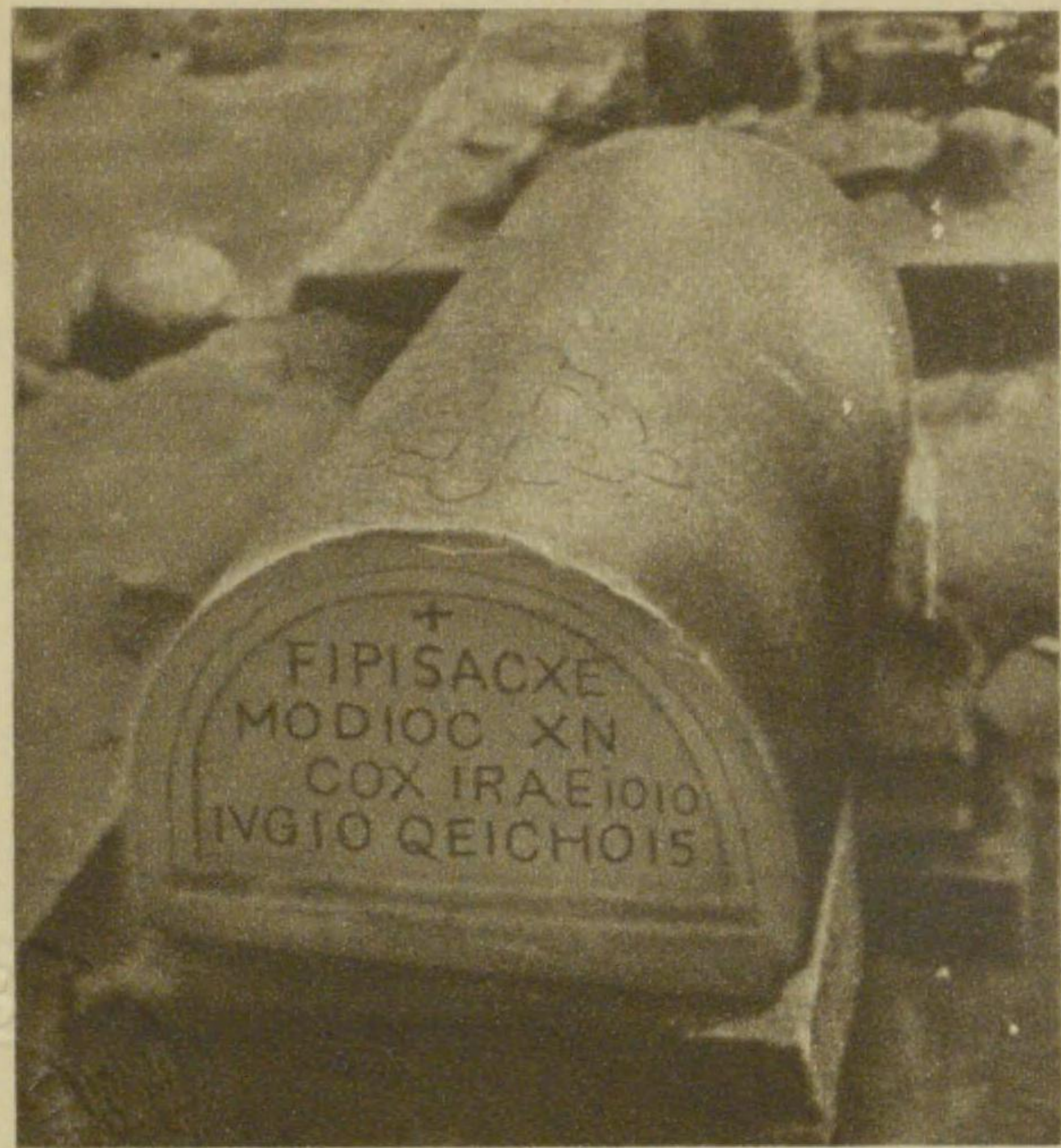
原

島

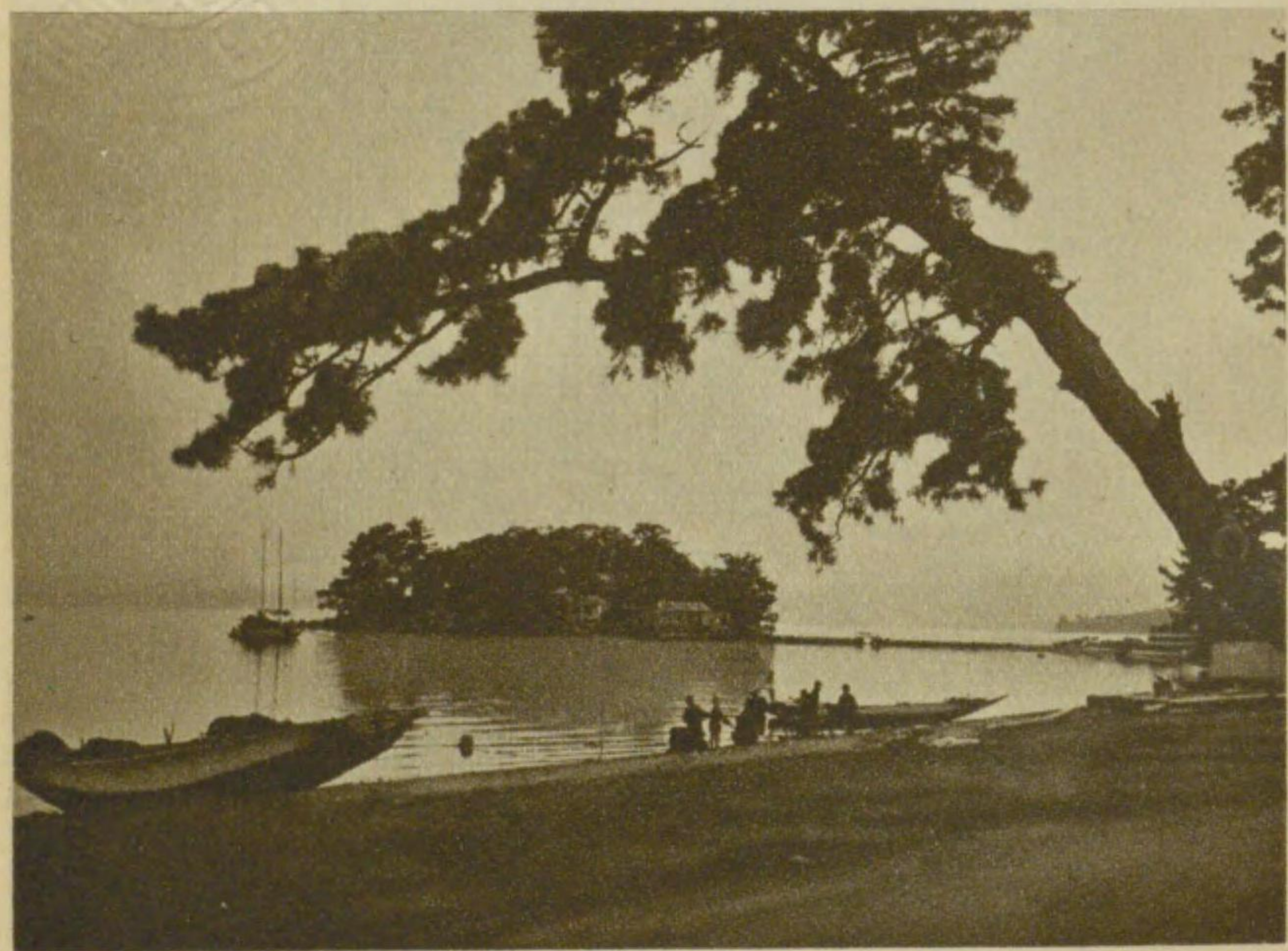
熊肥天  
本後草  
國郡  
縣(島合談)島湯  
村島湯

島野矢天  
島船唐

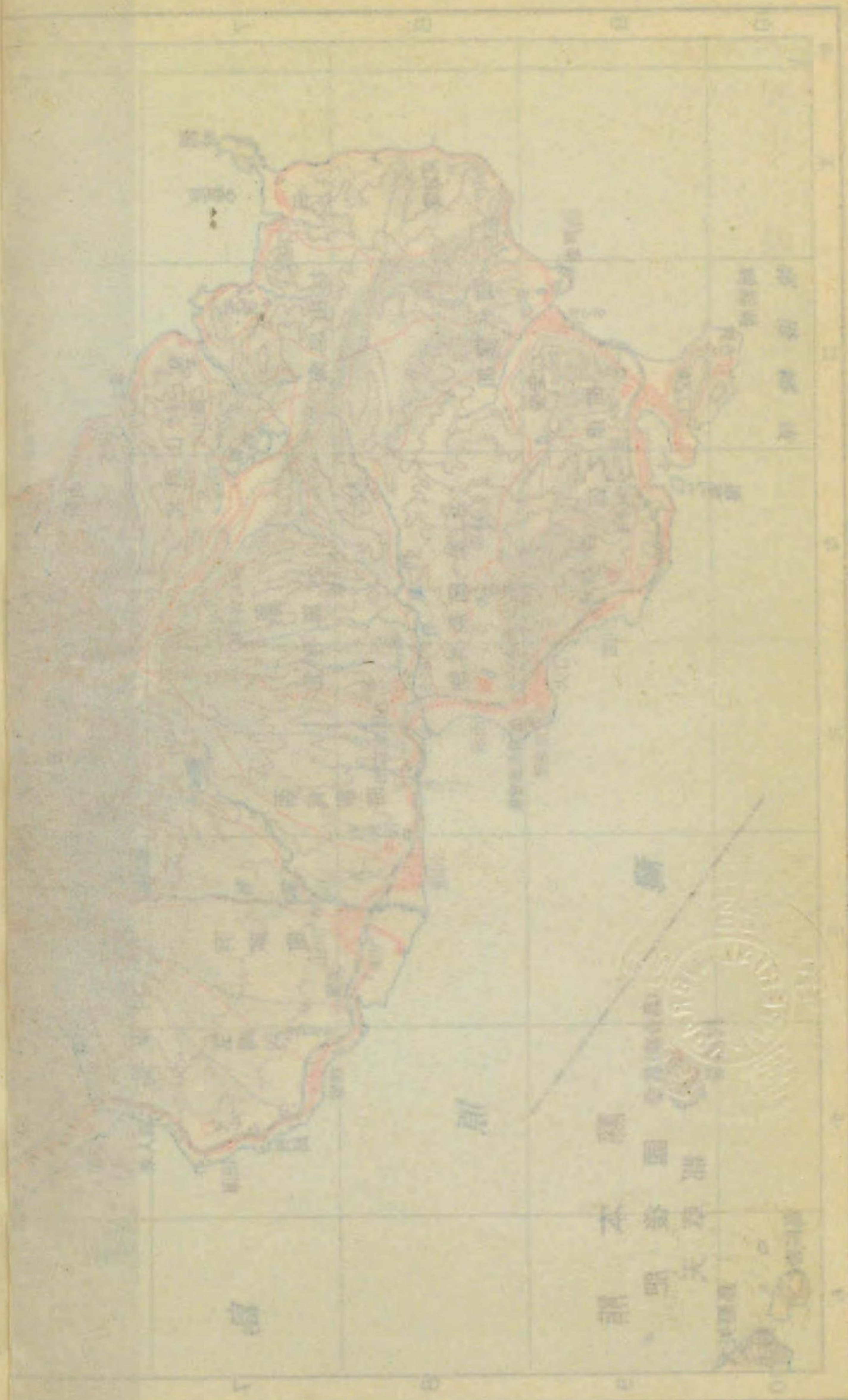




碑墓丹支切の家有

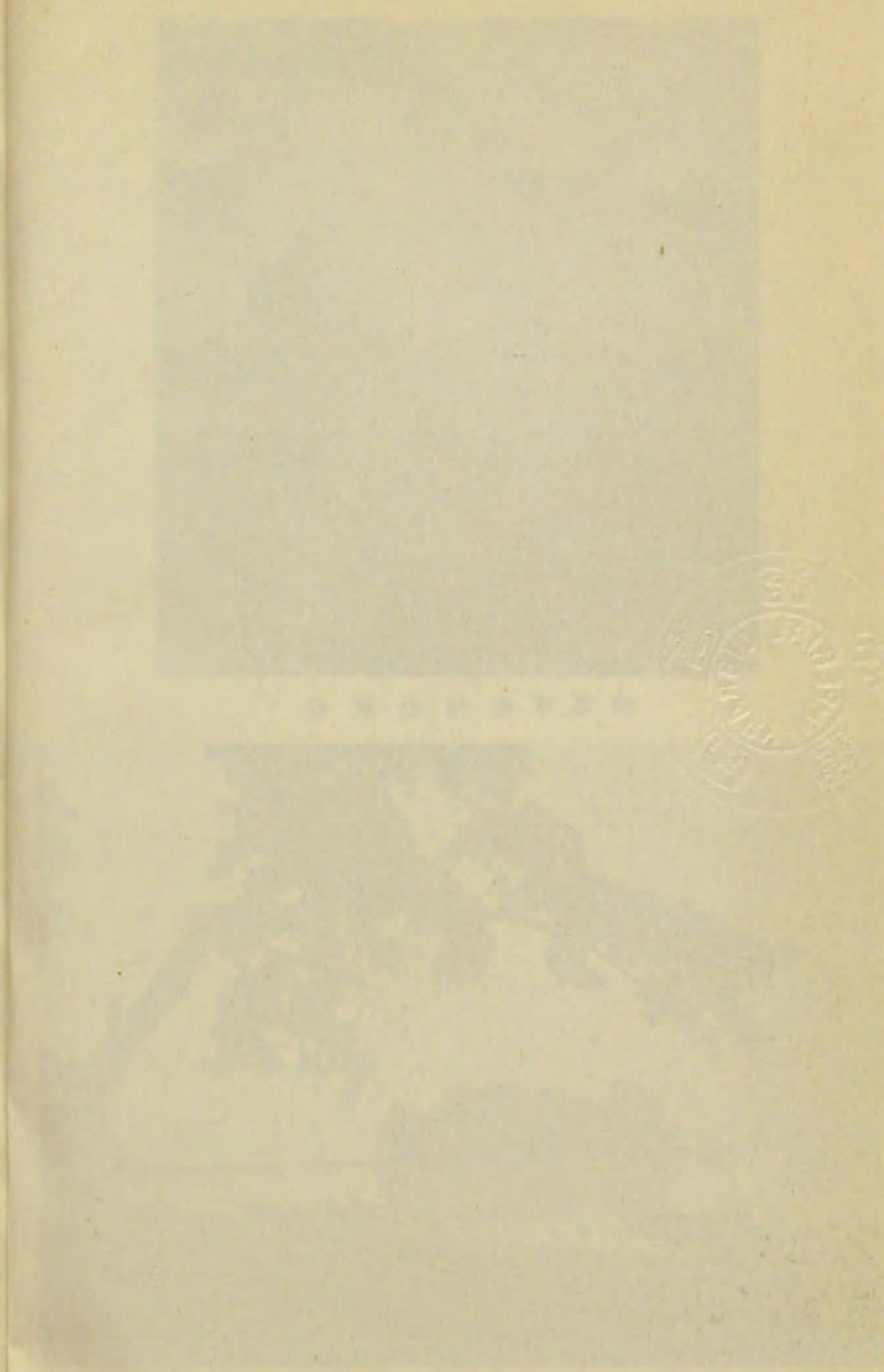
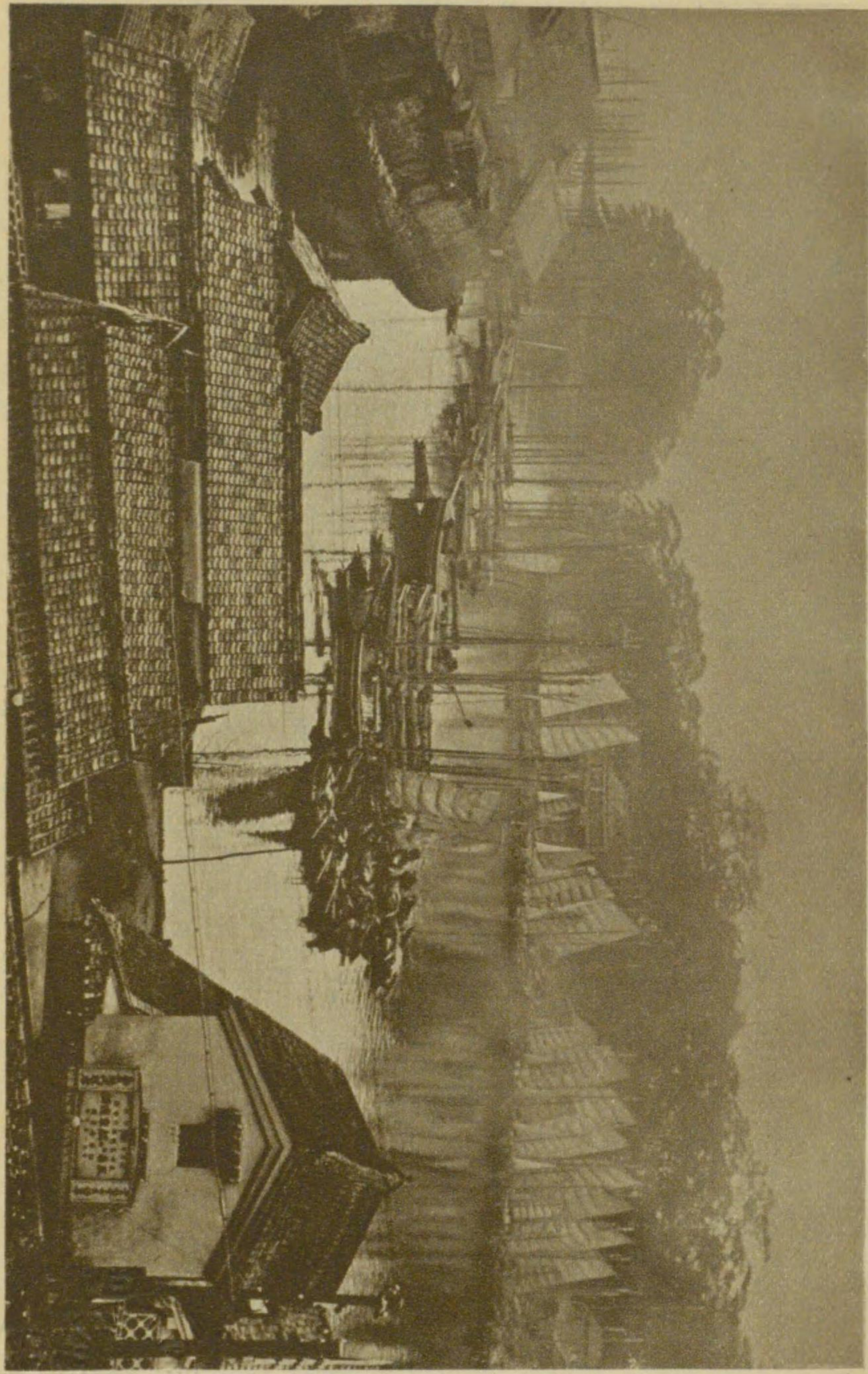


灣 村 大



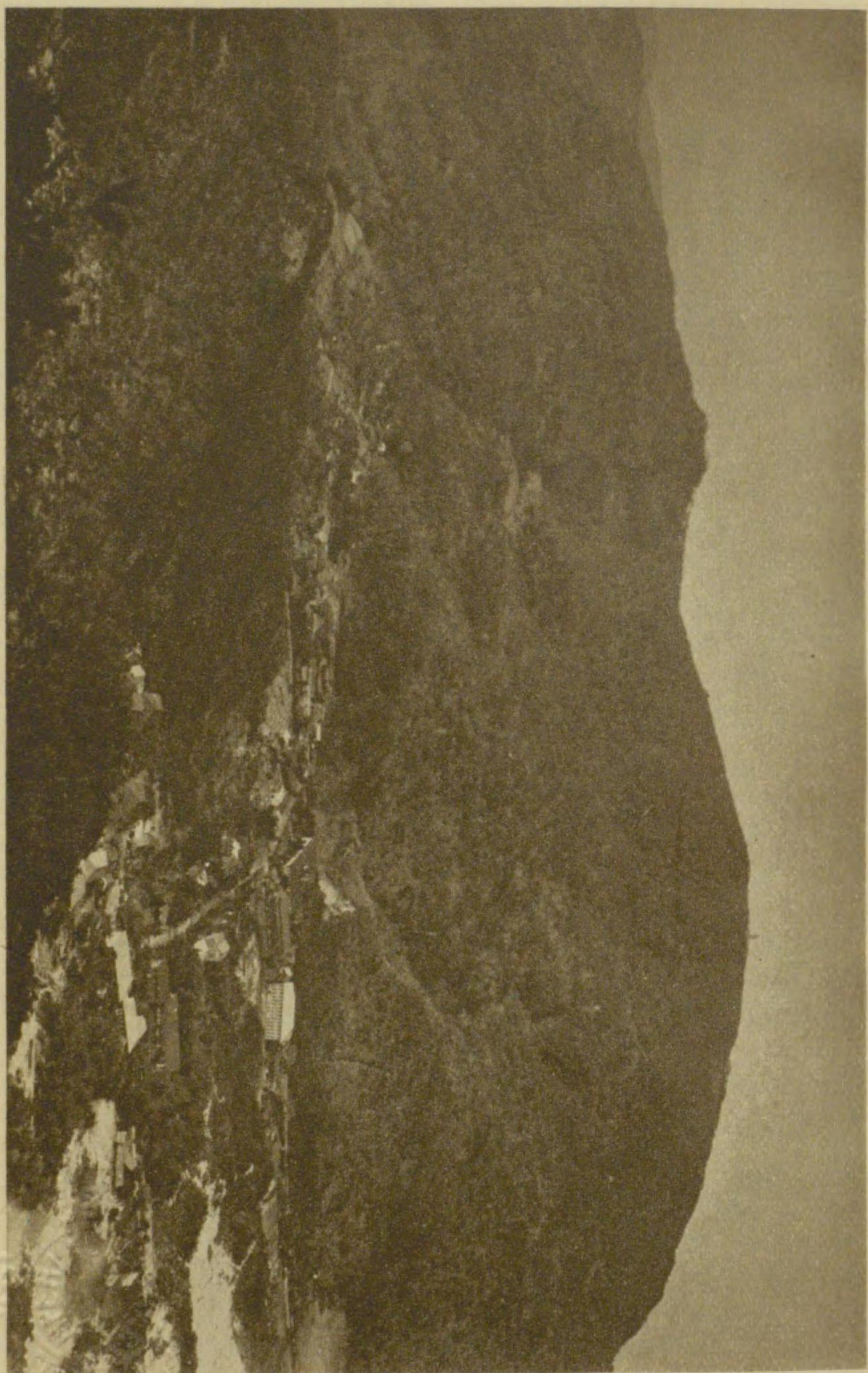


島 原 港





泉 温 仙 雲



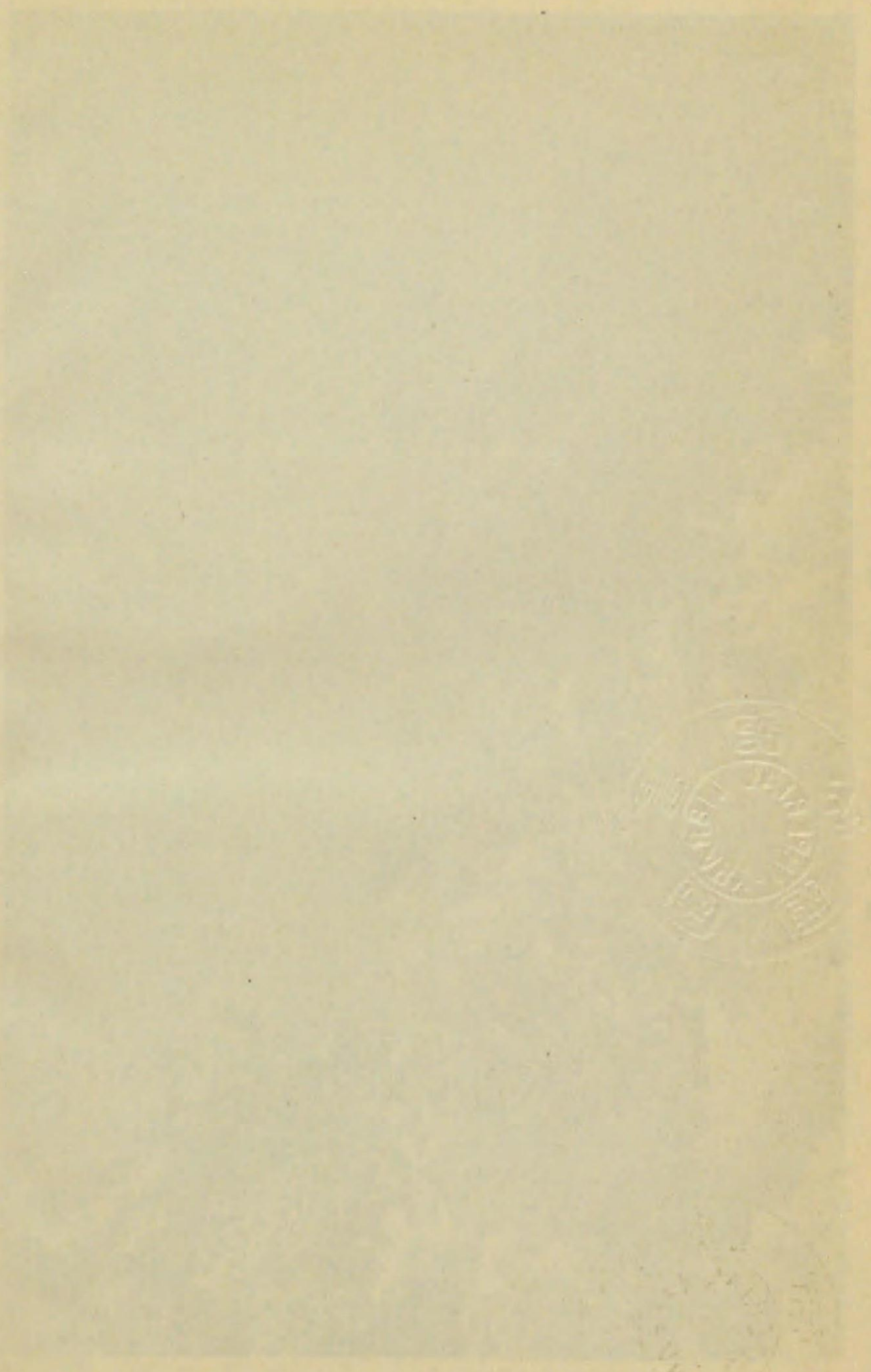


氷霧の仙雲





小濱温泉泉





燥な場所、略、方形の區域に、南は土壘、他は石壘に圍まれて居る。弘化二年島原藩に於て、シーボルトの門弟なる賀來佐一郎を招聘し、藩臣飯島義角と共に地を相して園を拓かしめ、薬用植物を栽培せしめた。園内に伊藤圭介の梅花賦によりて著名な梅の老樹あり、西南隅の高所に薬園方詰所址の礎石あり、左側に薬師佛の石龕、右側に金庫址の石垣等が残つて居る。

【靈丘公園】 島原町の東南端權現山一帯は老松蒼鬱、風光明媚である。園内の靈丘神社は東照宮と舊島原藩祖の靈を合祀してある。山上に招魂社もある。

【秩父ヶ浦公園】 同島原湊驛から南一軒餘、安中村安徳にあり、九十九島を望み、絶勝の海岸である。

【千々石町】 (六圖さ5) 雲仙鐵道千々石驛所在地。千々石灣一名橋灣に沿ふ。海岸は白砂青松の景勝地で、この地に生れた軍神橋中佐の銅像は翠松の間にある。人口七千。

【小濱温泉】 (九圖た5) 雲仙鐵道雲仙小濱驛の南約一軒、諫早、愛野村驛からも自動車の便がある。長崎か

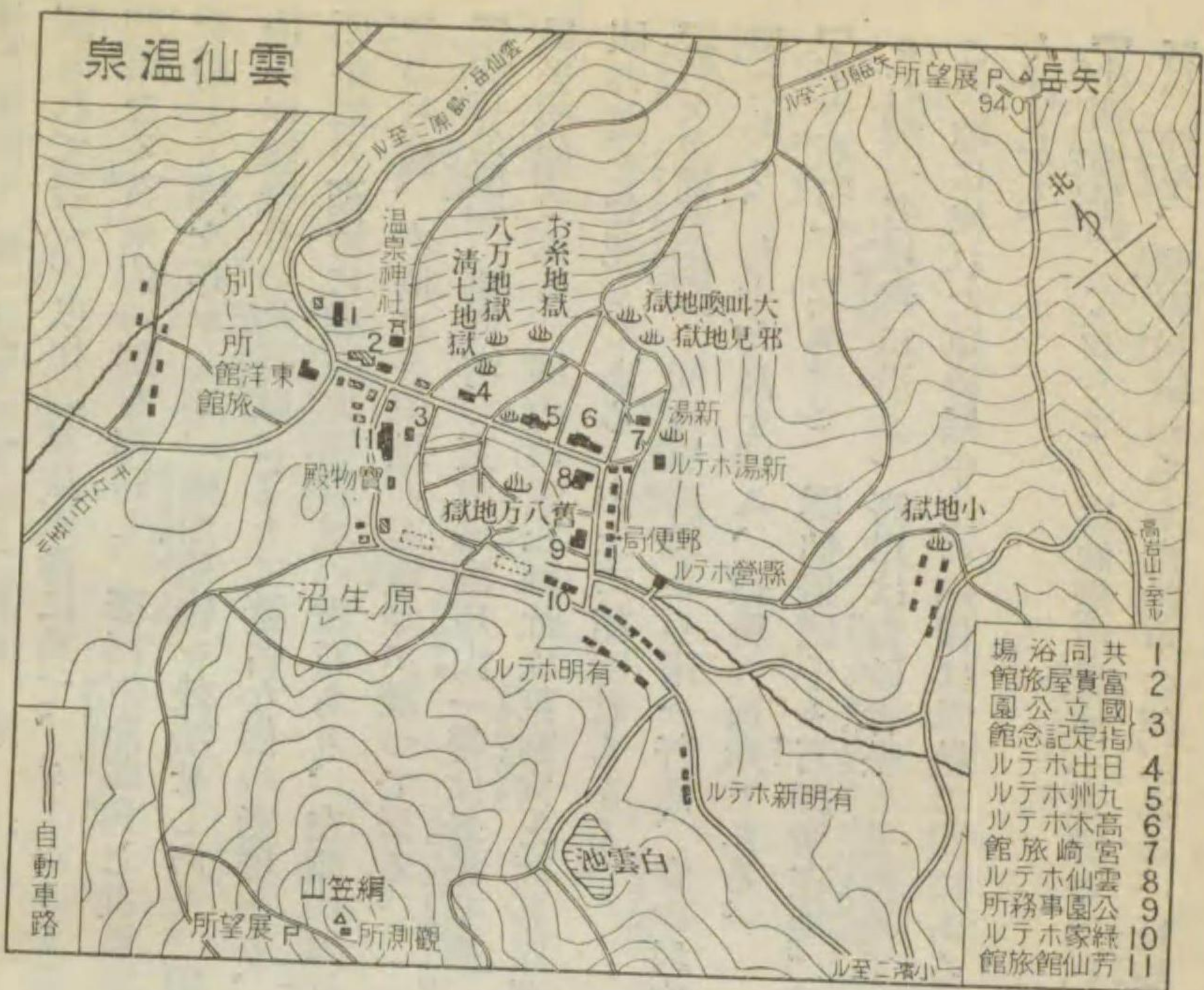
佐賀長崎間

ら自動車で茂木に出で、そこから汽船便によつてもよい。地は島原半島に聳ゆる雲仙岳の西麓、千々石灘の沿岸にあり、遙に野母半島に對し、茂木港と相面し、山光水色の美に富んで居る。

温泉の所有者は本多氏で代々湯太夫と稱して居た。それは慶長の頃からであるが、浴槽を設けて入浴するの法を教へたのは僧の入徳で、島原切支丹一揆の後寛永年間のこと、傳へ、今に入徳湯と云ふのが残つて居る。温泉は鹽類泉で元湯、明治湯は温度四五度乃至五〇度、噴騰湯は温度高く二二度、神経系諸病、婦人病、リウマチス、慢性呼吸器病などに効くと云ふ。旅館一角樓、伊勢屋、角屋、柳川屋、岩田屋、濱松屋外數十軒。

【雲仙國立公園】 (九圖) 雲仙鐵道雲仙小濱驛及島原鐵道島原湊驛から自動車の便があり、長崎諫早からも自動車が出る。この公園は明治四十四年來長崎縣立雲仙公園として開發した温泉地帯を中心とし、島原半島の脊骨をなす東西雲仙火山群を擁擁し、東西約一二軒、





南北約二〇料、面積一三方料弱の地域を以て、昭和九年三月瀬戸内海、霧島と共に、我が國最初の国立公園に指定された。園内眺望雄大、山岳、高原、溪谷、躑躅、紅葉等自然の美を有し、温泉無盡蔵に湧き出で、數多の噴氣孔存し、文化的施設も備はり、一年の登山者は内外人合せて三四十萬人に上ると云ふ。

【雲仙温泉】(九圖さ4) 雲仙岳の西面中腹、矢岳と絹笠山の間にある爆裂火口の跡で、海拔三七米の高地にあり、小濱からも島原からも自動車の便があり、その途上車中からの眺観美が旅行者を喜ばせる。

温泉地帯は雲仙国立公園の中心地で、そこに国立公園事務所があり、觀光客の利便を圖つて居る。温泉場は新湯、古湯、小地獄に分れ、新湯は明治十一年の開拓で近代的設備を整へ、主に夏期外人の避暑客を迎ふる爲、その環境は凡てが外人向で、ホテルも洋式のみであつたが、近年日本室を設くるもの多く、また日本式旅館を見る様になつた。古湯は新湯と地を接して最も古き歴史を有し、行基開基と傳ふる大乘院満明寺

の盛時より利用せられたものらしく、寺は島原の亂の爲灰燼に歸し、今釋迦堂にその名残を止むるばかりである。新湯の外人向に對してはこゝは邦人向の旅館のみである。小地獄は新湯の南一料あまり、享保年間の開湯と傳へ、木賃式の宿が多い。温泉はいづれも硫化水素臭を有する硫黄泉で温度高く六一度乃至八三度、皮膚病、リウマチス、腦病、脚氣、花柳病などに効くと云ふ。

新湯附近には三十有餘の噴氣孔點在し、清七地獄、八萬地獄、お糸地獄、大喚喚地獄、邪見地獄などの名あり、盛に水蒸氣や硫化水素瓦斯を噴出し、濛々たる白烟は四周の緑樹と相映じて温泉氣分を濃厚にする。この一帯の緑樹塊岩の奇景は自然の庭園をなして居るが、逍遙道路を設けて浴客の散策に便して居る。

附近にはゴルフ場、テニスコート、娯樂場、プール大弓場等あり、登山には乗馬、駕籠の便もある。旅館は新湯に九州ホテル、有明ホテル、雲仙ホテル、新湯ホテル、緑屋ホテル、高來ホテル、日の出ホテル等あ

り、九州ホテルの外は何れも日本室の設もある。日本式旅館は新湯に宮崎旅館、古湯に富貴屋、東洋館、芳仙館、湯元旅館、萬屋、絹笠旅館外十數軒あり、東洋館、芳仙館には洋室の設もある。

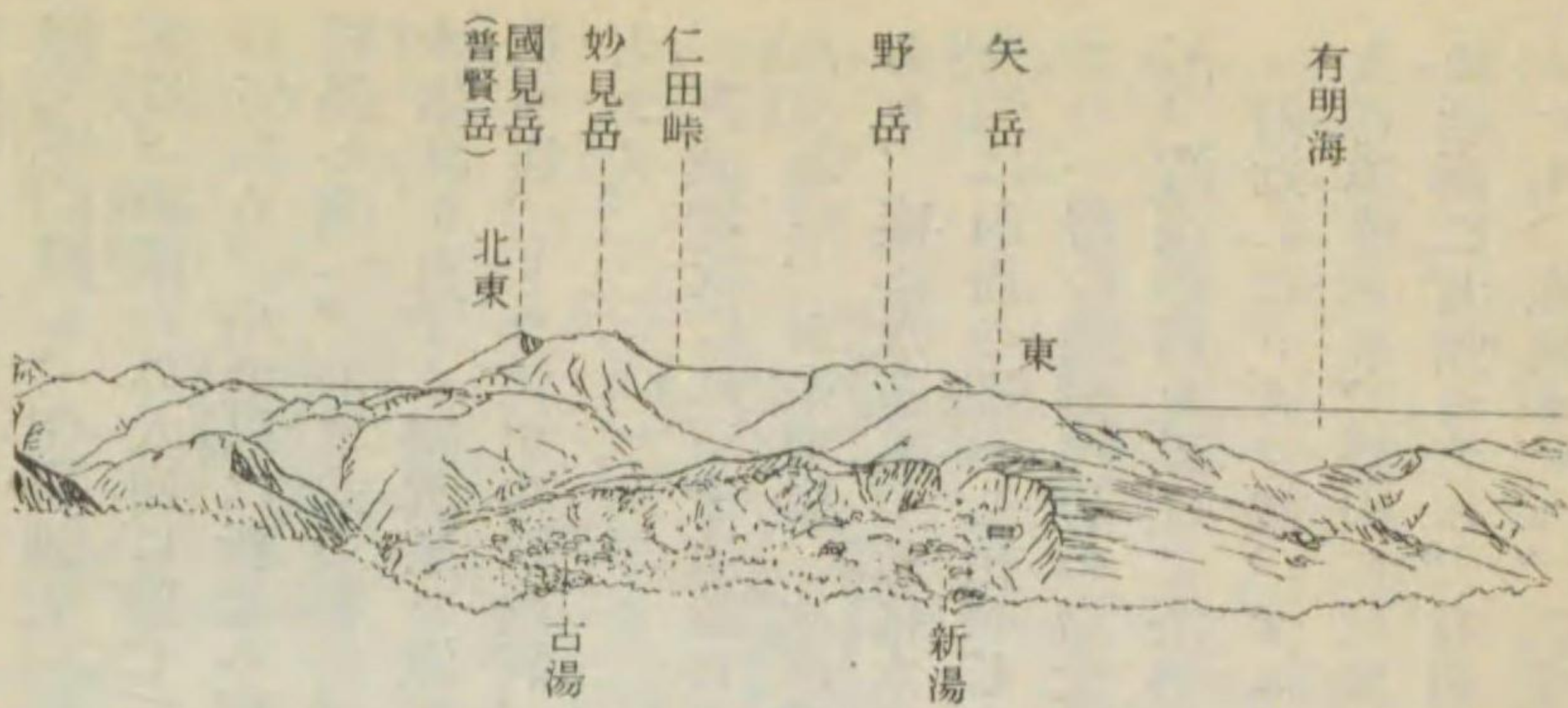
【雲仙ゴルフコース】 温泉場の東北一料にあり、九ホール、三、二〇〇ヤードのスロープコースで一般に開放されて居る。

【雲仙岳】(九圖) 雲仙岳は九州に於ける代表的遊覽地として勝景地として、日本八景の一に選ばれ、また既に国立公園に指定せられ、あまねく世に知られて居る。四面海に圍まれ水平線上から空高く聳ゆる雄峯で、島原半島は概ねこの雲仙火山に依つて構成されて居る。

雲仙岳は妙見、國見、野岳、矢岳、普賢等の群峯からなり、就中普賢岳は最も高く、雲仙登山はこの最高峯(二、三〇〇米)の普賢岳へ登るのである。雲仙岳登山は雲仙温泉を中心として登られる。

普通雲仙岳登山は最高峯普賢岳に登るので公園から高距七〇〇米、距離約六料、二時間半行程で、登山は極

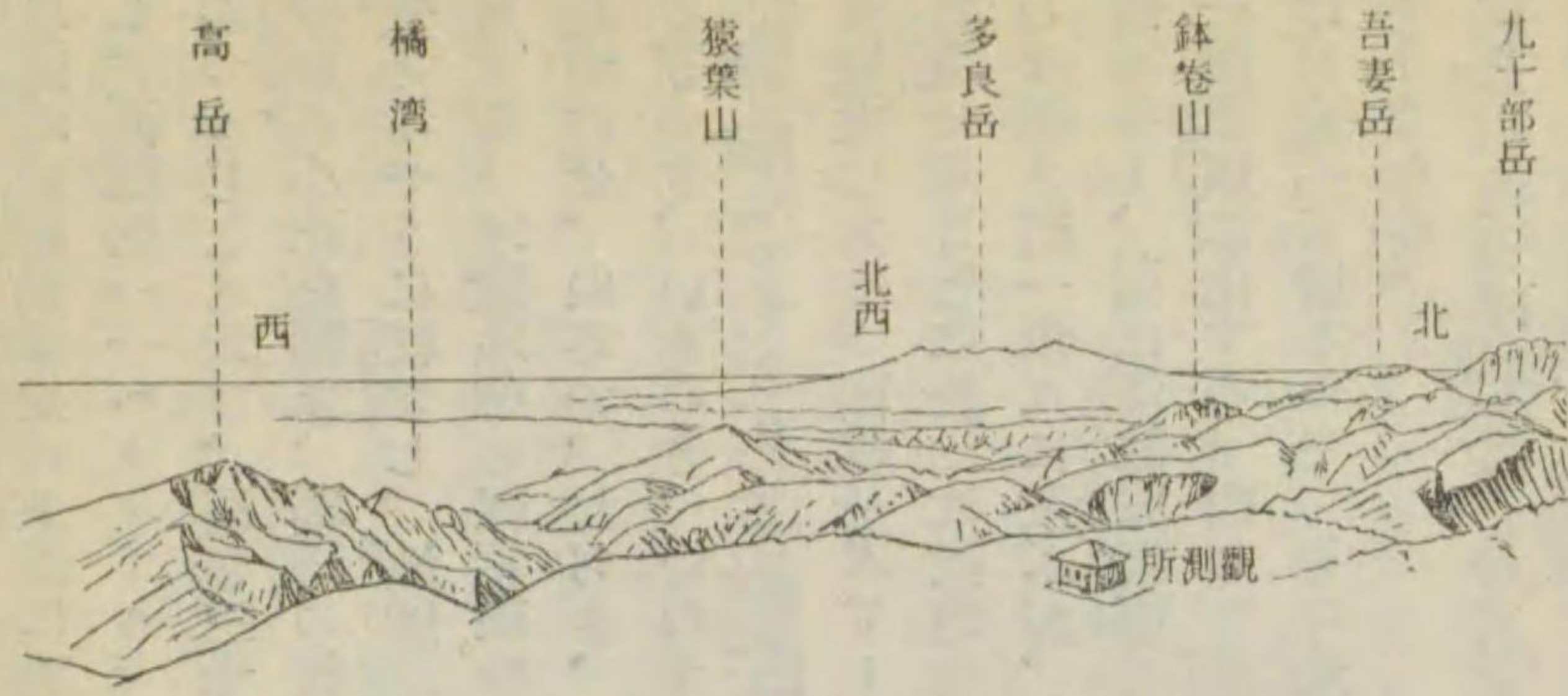




(一) (望展のらか山笠編) 岳仙雲

めて平易である。温泉からゴルフ場の左の灌木林を行くと指導標が幾つかある。この附近一帯は雲仙つゝじの開花期は美観を呈し、ゴルフ場の芝生の緑は爽やかである。やがて妙見岳の南斜面を登るあたりから稍急な登りとなつて展望は次第に開けて来る。そして仁田峠(二、〇〇米)に達する。この附近は特につゝじが多い。仁田峠で左するも

のは妙見岳への登山路で、右するものは野岳への登山路である。普賢岳へは尙中央の良い道を蕪谷へ一旦降る。左下の溪谷は馬蹄形の凹地をなす火山盆地で、赤松谷と云はれて居る。附近に天然氷採取所がある。この一帯には野薊が多いので蕪谷と云はれて居る。樹木は楓類、うつき等が多く紅葉期やうつぎの花盛りには美観を添へる。蕪谷から左へ少し登ると頂上への近道が右にあるが急坂であるから、順路に依るがよい。順路は左へ灌木林の中を鬼人谷の鞍部に達する。それから右へ急な斜面を少し登ると九合目の小屋がある。小屋から頂上までは十分と要しない。仁田峠から約五分程度である。普賢岳頂上からは島原半島の地勢は一眸に入り、島原、有明、橘の海灣はなごやかな眺である。海上に浮ぶ白帆、天草群島は脚下に一々指摘される。東は遠く阿蘇山、九住山を望み、西は橘灣を隔て、五島の島影も望まれ、北は間近に多良岳の連嶺が島原灣に美しい裾野を曳き優美な山姿を見せて居る。更に遙かの東南



(二) (望展のらか山笠編) 岳仙雲

には霧島山、國見、市房などの九州脊梁の山々も見渡され、海と陸、島と山の展望はこの山の特色である。春のつゝじ、秋の紅葉は全山甚だ美観を呈する、また冬の霧氷の美観は特に知られて居る。積雪量は比較的少いのでスキーは僅かの間出来るが、概ね灌木林が多いので、僅かの積雪で滑れるのはゴルフ場附近である。

温泉附近、白雲池、廣河原池、その他キヤムピングに適する箇所も多い。休火山であるから山頂附近には飲用水が少い。概ね山腹帯にキヤムプサイドを求むることが出来る。雲仙山岳の原始味を味ふには九千部山(二、〇三米)、鳥甲山(八三米)、吾妻山(八六米)、鉢巻山(六三米)等の縦走は普賢岳附近と異つた興味あるコースで、山岳愛好家の選ぶ處である。【原生沼沼野植物群落】〔指定天然記念物〕原生沼は新湯の西方數百米を隔て、絹笠山の登山道の附近にある。純然たる山間の泥炭沼野にして、現存の沼地の一部には水蘚層があつて、まうせんこけ、やまどりぜまんい等固有の沼野植物發生し、尙ねぢぎ、れんげつゝじ、しろどうだん、みやまきりしま、いぬつげ等の侵入植物がある。池沼の中部は含水量多くして低地沼野を成し、かきつばたが群生して居る。また數株の赤松の侵入せるものがある。【地獄地帯しろどうだん群落】〔指定天然記念物〕雲仙岳



地獄地帯新湯温泉の上部に於ける松林中に純群落をなし、面積約一ヘクタール。しろどうだんは、どうだんつゝじとも云ひ、高さ三米餘、五月に至れば灰白色壺状の小花を開き、瓔珞の如く垂下する。葉は秋季目覚めるやうに紅葉し、地獄原の赤松林中に一大美觀を呈する。地獄地帯の紅葉植物には、しろどうだんの外、なつはぜ、ぬるで、ねぢき、つた、やまうるし、ななぐぎのき、いものき、いぬざんせう等がある。

【池の原みやまきりしま群落】〔指定天然記念物〕ゴルフ場附近にある。面積一五アール弱。發生の盛なことに密生せることに於て代表的のものと稱され、最大のもの高さ約一米八に及ぶが、六〇糎乃至九〇糎のもの最も多く、花は淡紅濃紫等で、五月中旬頃に咲き亂れ、一面花畑に化する。而して群落中處々に赤松、いぬつげを交へて居るので、その景觀恰も加工せる名花園のやうである。

【野岳いぬつげ群落】〔指定天然記念物〕野岳は温泉火山に珍しき一面芝生の高原である。普賢岳登山道の仁田

峠から右へ折れ二〇米程行けば、野岳の山頂に達する。山頂には巨大なる熔岩が築山の如く集積し、中央の盆地には水を湛へ、到るところいぬつげが群生して皆刈込んだ形をして居る。野岳のいぬつげは純群落として著しく、最も大なるものは高さ約三米九、幹圍一八糎餘に及び、その他一米二乃至一米半のもの多く、約七九ヘクタールに互る高原に群生し、その間みやまきりしまや、山つゝじが散點して趣を添へ、自然の庭園を形造つて居る。

【普賢岳紅葉樹林】〔指定天然記念物〕東雲仙岳の普賢岳を中心として、その外輪山たる江丸岳、妙見岳、國見岳の紅葉樹林一帯を包含し、面積約四五ヘクタールに互る。紅葉の第一展望所は温泉所在地から三軒三弱の仁田峠(海拔二〇八〇米)である。こゝから普賢岳の絶頂まで約八軒、その間に赤松谷、薊谷、鬼人谷の三大谿谷があつて深山性樹木繁茂し、殊に紅葉植物の種類は六十五種の多きに上り、秋季は全山燃ゆるやうな壯觀を呈する。鮮紅色を呈するものにやまもみぢ、てつか

へで、おほいたやめいげつ、こはうちはかへで、ななかまど、やまばうし、やまうるし、おとこようぞめ、しろどうだん、みやまきりしまがあり、暗紅色のものに、むしかり、ねぢき、りやうぶ、みやましぐれ、紫紅色に、おほこまゆみ、こぼのみつばつゝじ、だいでんみつばつゝじがあり、柑色または黄色に、つくばねうつぎ、しらき、けくろもじ、いぬざんしやう、かなぐぎのき、赤褐色に、こぼのがまずみ、のりうつぎ、くまのみづきがある。

草本のおかとのらのを(紅色)、やまのいも(帶黄白色)、ぜんまい(淡褐色)も美觀を添へる。

【諏訪の池】雲仙温泉の南約一二軒、北串山村にあり、池は島原半島の最大湖で、海拔一三米の高地に位し、水面積約四一ヘクタール、上中下の三諏訪池の連環湖である。四面蒼翠に圍まれ、四時深く水を湛へ、數百の群鴨浮び、一段の風致を添へて居る。松林中に諏訪神社がある。

【鮎歸の瀧】口之津鐵道有家驛の西北約二軒七、雲仙

小地獄へ通ずる里道から數百米見岳の麓、有家川の主流にある。高さ約四米半、幅約九一糎、雲仙の瀑布中最も著名である。瀧の上部に畫工鋤雲泉の筆捨石が屹立して居る。

【西有家町】(六圖さ6) 口之津鐵道西有家驛所在地。島原半島の南部に位し。北に雲仙岳を負ひ南は有明海に臨み、須川港をなして居る。機業盛んに行はれ、特産物として須川素麵が有名である。人口一萬二千。旅館 潮湯旅館。

【須川名切支丹墓碑】口之津鐵道西有家驛の東南半軒、西有家町須川須川名の向濱の墓地にあり、砂岩質の石材を用ゐた蒲鉾形の墓碑で、長さ一米二四糎、幅六四糎の大形のものに屬し、厚(高三三糎)ある。この他にある一基の粗製な同形墓碑と共に地中に埋没して居たのが發掘されたもので、蒲鉾形の上面と後端に花十字架を刻しました前部に耶蘇紀元一千六百年慶長十五年七月十六日の日附ある左の羅典文の銘文が陰刻されて居る。



FIPISACXE  
MODIOG XN  
GOXIRAI 1610  
IVG 16 QEICHO 15

この種の蒲鉾形の切支丹墓碑は南北高來郡、西彼杵郡等に互り各所に存するが、多くは花十字架のみで、これの如く銘文のあるのは稀である。通常の蒲鉾形墓碑は有家町に於ては字切支丹の畑中及尾上名、上櫻馬場、中須川名字前田、小川名字榎田等に存し、口之

津町白濱と呼ぶ海岸、北串山村飛子名等にもある。

【原城址】(六圖さ6) 口之津鐵道南有馬驛の東半軒、南高來郡南有馬町大江の海岸に臨んだ丘陵一帯で、丘上耕地の間に土壘、濠址等が遺存する。城は東は海水満潮毎に自然の濠をなし、西は泥田で自ら要害をなし、本丸、二の丸、三の丸、天草丸の四區に別たれる。明應九年の築造で原之城と呼ばれ、始め有馬氏の居城であつたが、慶長十九年有馬氏日向に轉封せられたので、元和年間松倉豊後守重政の居城となつたが、同九年重政島原城に移つてから廢城となつた。然るに寛永十四年十月島原、天草の亂起り、同年十二月天草四郎

時貞三萬七千の衆を率ゐて廢城に入り、壘柵を修築して立籠つた。幕府板倉重昌を將として征伐の軍を發したが、叛徒死守して幕軍却つて死傷多く、翌十五年一月一日、重昌陣頭に討死した。幕府は遂に十三萬に近き大軍を動かしてこれを包圍し、三箇月を閲して同年二月二十八日陥落した。

城址の南端は天草丸址で、その東北の本丸址は縦約一四米、横約三五米で、海拔約三三米あり、一隅に佐分利丸之丞墓あり、崖下の海岸に近く窪地をなして居る蓮池に續きて空濠あり、天草丸址から本丸址に至る道の左側内馬場の石壘は殘存せる唯一の石壘である。空濠を隔て、二の丸及三の丸址、大手門址等があり、三の丸址には出丸の角に板倉重昌戦死の記念碑がある。また城址の西方鐵道線路の西側に鐘懸松、和蘭石火矢臺址等がある。驛の南半軒の海岸にある八幡宮境内には、慶安元年代官鈴木重成建つる所の供養碑あり、また南有馬小學校には城址から發見された鐵製砲彈、刀、土器皿、瓦片等が保存せられて居る。

【口之津町】(六圖さ6) 口之津鐵道東大屋、口之津兩

驛所在地、島原半島南岸の要津で、もと三池炭の輸出が多かつたが、明治四十二年三池築港の完成以來衰退した。開港ではあるが、取引額は甚だ少い。人口九千。

【瀬詰瀬戸(早崎海峽)】(六圖さ7) 口之津町の南端と

天草下島北岸との間で、有明海と橘灣の分れるところである。潮流の早さ干潮時約一六軒七、満潮時約一三軒、満干の際は恰も大川の如く轟音を立て、流れ、陸岸より約九〇米の沖合では大渦巻を起し、直徑約九米一に及ぶ。

【加津佐町】(六圖さ6) 口之津鐵道加津佐驛所在地。

島原半島に於て海岸美の最も秀でて居るところである。灣口には岩戸山、女島山海中に突出し、早崎海峽を挟んで天草の富岡と相對し、遙に野母崎及樺島を望み、後方に雲仙岳の諸峯が重疊して居る。附近は海水浴に適する。人口九千。

【岩戸山樹叢】(指定天然記念物) 同加津佐驛附近。岩戸

山は加津佐濱に突出する小山で海拔二八米、周圍約一

料六である。樹叢は橘、せうべんのき、くわかづがゆの如き暖地性樹種より成り、南方の斷崖には橘三本自生し、最大なるは高さ約三米六、幹周約四五糎ある。地域の狭い割合に植物が豊富で、雲仙岳に見られない植物が自生して居る。

【水月名須崎切支丹墓碑】 同加津佐驛下車、南高來郡加津佐町水月名須崎墓地にあり、六基存するうち、その一基は長さ一米四九糎、幅四一糎、高さ二七糎で蒲鉾形の前端の面に「慶長十八年二月二日」「石村寸」の刻銘がある。尚これより西北約一二軒、小濱街道に近き南串山村池崎部落には前面に「りあん」、右側に「慶長十一年」、左側に「九月三日」の刻銘のあるものが存する。

本線に戻りて諫早から西すれば大村灣岸に出で、喜々津六軒五、大草七軒二を過ぎ、隧道を潜つて長與八軒、道ノ尾三軒五を通り、長崎市内に進んで浦上四軒六を經て長崎一軒六に著く。



長崎からは尚西へ岸壁にある長崎港一軒一まで延び、船車連絡に便して不定期列車が運行されて居る。

【道の尾鑛泉】(六圖たさ) 道の尾驛の東七〇米、ラヂウム含有泉で加熱して居る。リウマチス、痔疾、婦人病などに効くと云ふ。長崎人士の行樂地である。旅館萬象園。

【入船鑛泉】 道の尾驛の西北四軒、自動車の便がある。大村灣に臨める風景地で夏は海水浴も行はれる。含鐵鹽類泉で加熱して居る。胃腸病、脚氣、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 翠江園。

長崎驛 長崎市大黒町

市内電車

▼乗合自動車 雲仙行、茂木町

一日平均

乗車人員 一、四二二人

降車人員 一、二七五人

發送貨物噸數 二〇七噸

到着貨物噸數 二八〇噸

主要發送貨物

主要到着貨物

活鮮魚、鹽乾魚、石油  
米、果物、木材、鐵及鋼  
浦上、長崎、長崎港三驛所在地。

ロン(剗龍、伯龍)と稱する競漕も名物である。

官公廳その他

市役所(櫻町)、縣廳(外浦町)、控訴院(萬歳町)、地方裁判所(同)、税關(羽衣町)、稅務署(本大工町)、要塞司令部(外濱町)、營林署(東上町)、水産試驗場(丸尾町)、醫科大學(山里町)、高等商業學校(片淵町)、圖書館(上山町)、商工會議所(櫻町)、商工獎勵館(爐粕町)、公會堂(袋町)、教育會館(櫻馬場町)、放送局(御船町)、市設觀光案内所(尾上町)、ジャパントーリストビューロー(同)

領事館

英國領事館(大浦町)、米國領事館(同)、支那領事館(常盤町)

銀行

十八銀行(築町)、長崎貯蓄銀行(同)、十七銀行支店(東濱町)、橫濱正金銀行支店(西濱町)、佐世保銀行支店(本紺屋町)、勸業銀行支店(大村町)、不動貯金銀行支店(西濱町)、安田銀行支店(本下町)

會社 工場

三菱重工業會社造船所(飽ノ浦町)、三菱電機會社製作所(平戸小屋町)、三菱重工業會社兵器製作所(茂里町)、長崎紡績會社(幸町)、東邦電力會社支店(袋町)、長崎電氣軌道會社(茂里町)、九州商船會社(元船町)、日本郵船會社支店(常盤町)、三井物産會社支店(同)、三菱鑛業會社出張所(小曾根町)

百貨店

岡政デパート(東濱町)

新聞社

長崎新聞社(玉ノ江町)、長崎日日新聞社(大村町)、東洋日の出新聞社(千馬町)、長崎民友新聞社(大浦町)、長崎佐賀長崎間

三面山を負ひ、西南の一方は海水深く灣入し、面積約四一方軒を占める。この地は戰國時代の頃大村氏に屬し天文の頃まで深江の浦と稱したが、元龜天皇の頃南蠻船、貨物を載せて入泊してから貿易開かれ、寛永十三年の鎖國以後はこゝに外國奉行を置かれ、貿易はこゝ一港のみに限られたため、ますく市況の繁榮を來し、安政の開國に至るまで我が國唯一の海外文化輸入の門戸であつた。

現時貿易は後進の神戸、橫濱、大阪等には及ばないが、相應に取引多く、工業は機械器具業を主とし、昭和七年の生産四千四百萬圓の九割は工産物に屬し、三菱造船所の盛衰は市況に關係が深い。港は近年修築されて大いに面目を改め、優に八千噸級の汽船を接岸することが出来、外國航路船の出入するものが少くない。市内に縣廳、控訴院等がある。最も股賑な町は東西濱の町、鍛冶屋町、石灰町、船大工町、本籠町、廣馬場町、築町、江戸町、本下町等である。長崎の風揚、孟蘭盆會及諏訪大祭は三大名物と云はれて居り、ペー

報知新聞社(桶屋町)

旅館

平野屋(大浦町)、上野屋(萬歳町)、福島屋(大村町)、坂木屋支店(今町)、福屋(外浦町)、舞鶴屋(樺島町)、竹井屋(出島町)、大島屋(樺島町)、みどりや(同)、池田屋(平戸町)、大寶館(長崎驛前)、ジャパホテル(大浦町)

料理店

迎陽亭(上筑後町)、富貴樓(西山町)、カルルス皆花園(中川町)、松亭(本石灰町)、大鶴(同)、萬歳亭(西濱町)、[鋤橋] 満月(萬歳町)、金鍋本店(今町)、一富士(外浦町)、[支那料理] 通天閣(西小島町)、會樂園(同)、四海樓(新地)、ばつてん家(丸山町)

娛樂場

「劇場」南座(本石灰町)、八幡座(八幡町)、永久座(要町)、七樂座(大浦上田町)、「映畫館」電氣館(西濱町)、喜樂館(東濱町)、中座(榎津町)、昭映座(本古川町)

土産物

カステラ、寒菊、口砂香、文且漬、南蠻漬、からすみ、櫻干、鼈甲細工、椿油、洗粉、唐人船

廻覽順路 長崎驛—商工獎勵館—諏訪公園—諏訪神社

—崇福寺—大浦天主堂—出島蘭館址—出島岸壁—長崎驛

長崎港

我が國現在の開港中最も古いものである。港界は小瀬戸浦の南東端より鼠島の外端を経て蔭の尾島長刀崎に引きたる一線と、蔭の尾島三角點より正南



に向ひ香焼島に引きたる一線及香焼島石燈籠の鼻より深堀村堂の埒に引きたる一線以内である。近年出島及元船町地先を埋立て、岸壁を築き、大に面目を改め、優に八千噸級の汽船を接岸することが出来、上海線を始め、外國航路船の寄港するものが多し。昭和五年三月出島岸壁まで臨港鐵道を延長し、水陸の連絡を圖つた。

開港場としては最も古い歴史を有するが、貿易額は割合に多からず、昭和八年には約一千八百萬圓で、輸出は輸入よりも遙に少く、輸出品は石炭、輸入品は綿、礦油を主とする。

【風揚】 孟蘭盆會及諏訪祭と共に長崎三大行事の一つに數へられる。陽春の頃から始まり、往古は市内到る所で行はれたが、電燈線が張られてから、明治三十年に市内のはた揚げを禁止、現在では四月十日金比羅山、同十五日風頭山、同二十一日城の古址、同二十五日女風頭山、同二十八日準提觀音(唐八景)を各紋日として盛大な風合戦が催される。風合戦の文様は萬國旗及信號

旗から生れたものが多い爲、風をこの地では「はた」と稱して居る。

【剗龍(伯龍)】 長崎名物の一で一種の競漕である。舊曆五月五日に行はれるのが原則であるが一定しない。これに用ゐる船は輕快にするため細長く木造とし、壯者三、四十人を乗せる。櫂は所謂打櫂の一種で銅鑼太鼓を叩いて調子を合せ競漕する。勇壯な競技で、場所のは港の内外に於て行ふ。

【孟蘭盆會】 七月十三日から十五日までの三日間の盆祭りも長崎三大行事の一つである。この間四方の山腹にある墓地には多數の燈籠を掲げ、墓前に香を焚き、爆竹の音や火矢の光芒が天に沖する。かくて十五日夜には精靈流しと稱して各町競りて編菰船に西方丸、極樂丸または阿彌陀佛を書いた帆を張り、多數の提灯を掲げ美々しく飾つて銅鑼、鉦などの鳴物にぎやかに掛聲勇しく大波止に繰込み、豫て市の準備せる團平船に送り、船は翌朝港外に投棄する。古くは大波止から海に流したが、港内整理、保安衛生の見地からこれを

禁止された。

【長崎醫科大學】 (二〇三一) 浦上驛の北江平町にあり

電車の便がある。大正十二年四月開設された官立醫科大學にして、もとの長崎醫學專門學校の組織を變更したものである。該專門學校の前身は、萬延元年に創設された長崎養生所に濫觴する第五高等學校醫學部であった。

【浦上天主堂】 浦上驛の北、浦上の高地に巍然として聳え、六千人を容るゝに足る東洋一大會堂である。往年禁教時代に長崎を逐はれた切支丹宗徒がこの浦上の地に止まり、部落民殆んどその信者であつたと云ひ、今尙信仰が厚い。この堂は明治十三年六月舊浦上村庄屋の邸宅を假聖堂に引直し、明治廿八年新に本聖堂を起工、大正三年三月はじめて獻堂式を擧げた。正門の高塔はその後大正十四年五月に竣成した。

【五社山】 長崎驛の北に當り、西坂町に續く高臺で、今は人家稠密した町であるが、昔は耶穌教徒の斬罪、磔刑、焚殺等の極刑が行はれた血腥い史蹟である。

こゝには天草一揆の盟主益田四郎以下三千三百人の埋められた有馬塚及南蠻塚と云ふ二基の塔婆がある。南蠻塚は寛永十七年南蠻人六十一人を慘刑に處した場所だと云ふ。また天和七年葡萄牙人、日本人、朝鮮人等五十五人の伴天連が虐殺され、明治初年まで凡ての犯罪者を獄門に曝したところである。外人間にはセントヒル(聖山)の名によつて知られて居る。二十六聖人殉教の祝日二月五日には、市内は勿論、全國の信徒が山頂に集つて、熱禱の一日を送る。

【本蓮寺】 「日蓮宗」(一〇圖ナ4) 長崎驛の北方西上町にある。切支丹寺サンジ・アンパチスタの址に日慧上人が建立したものである。寺内の南蠻井戸は切支丹宗徒を虐殺して埋葬したところであると云ふ。

【福濟寺】 「黃檗宗」(一〇圖ナ4) 長崎驛の東北市内下筑後町にある。

當寺は寛永年間支那福建泉州の僧覺梅禪師の創建にかゝり、長崎に於ける支那寺の一にして、その建築様式も崇福寺と同様全く支那明式に屬し、大雄寶殿を中



心とする一廊にはこれに附屬する前堂及廻廊を有し、また青蓮堂を中心とする一廊には、中門及廻廊を附屬して居る。この外尙開山堂及大書院がある。

大雄寶殿(本堂または釋迦堂) 〔國寶〕 五間五面重層屋根入母屋造本瓦葺、慶安二年の建築で釋迦、文殊、普賢像を安置して居る。大棟の中央には支那式の八角五層小塔を置いて居る。前面一間通を開放せることまた青蓮堂と同様支那明式の特徴を示して居る。内部は朱塗、床瓦敷にして欄間には牡丹の透彫があり極彩色を施して居る。

前堂及廻廊(護法堂、彌勒堂または天王堂) 〔國寶〕 大雄寶殿の前堂で本堂とは兩側の廻廊によつて連結されて居る。前堂は五間二面、單層、屋根切妻造の建物で、塑像金箔押の布袋像を安置して居る。廻廊は左右各桁行二間、梁間一間、外側は正字形の格子を嵌め、内部は石敷と瓦敷とになつて居る。

青蓮堂(觀音堂) 〔國寶〕 五間四面、單層屋根入母屋造、本瓦葺、慶安三年の建築で觀音像を安置して居る。

ゴシック風の堂塔高く中空に聳えて居る。堂内明窓に用ゐた十五支義の圖を始め、多數のステンドグラスは優れた美術品である。

【諏訪神社】 〔國幣中社〕 (一〇圖三) 長崎驛の東、市内上西山町にある。健御名方大神、八坂刀賣大神を祭神とし、弘治年間、信州諏訪明神を分祠したもので、元龜天正の頃切支丹教徒のため屢々兵火に遭ひ、寛永二年松森の地に社殿の建立ありしが、慶安元年新に現社地なる玉園山の麓に遷宮した。現時の社殿は安政四年罹災後、文久三年舊島原藩主松平主殿頭専らこれが造營にあたり、明治初年に至りて完成したものである。例祭(秋の大祭)は十月八日でおくんちと稱し、同七日から九日まで三日間に亘り、豪華と壯麗を以て有名で、賀茂、住吉と共に日本三大祭の一に數へられる。境内は諏訪公園と稱せられ、グラント將軍手植の榕樹がある。【諏訪祭】 寛永の初佐賀の人青木賢清が大村の公文九郎左衛門と協力して、切支丹宗徒に對抗するため、諏訪三社の祭禮を執行し、寛永十一年長崎奉行の力を借

大棟の中央に寶珠を置き、正面一間通を開放せるはこの種支那式佛殿の普通な構造である。入側及向拜の柱は角柱で礎盤の上に建て居る。内部は床瓦敷、天井は格天井、支那式構造の濃厚な建築である。

大觀門(中門)及廻廊 〔國寶〕 青蓮堂の正面にある四脚門で廻廊はその兩端より出で青蓮堂の兩端に達して居る。大觀門は單層、屋根切妻造、本瓦葺、明式の建築でその手法構造頗る簡單、形態も奇にして普通の四脚門とは甚しく相違して居る。即ち棧唐戸の兩側は桃色の壁となり圓窓を明けて居る。

書院貼付繪 床及襖に山水及松竹梅等を描き、金地に極彩色を施した華麗な障屏畫で、筆者は小原慶山である。慶山は渡邊秀石門下の逸足で花鳥樹石黒龍墨梅に長じ、享保年間に歿した。彼の作品中この障屏畫はその代表作と見るべきものである。

【西中町天主堂】 長崎驛の東北、西中町にあり、「致命の聖マリヤ堂」と稱し、匿名の佛蘭西婦人の獻堂である。明治廿九年の竣工で、奥入り二十三間の大建築、

り、長崎丸山の遊女を利用して祭禮の盛大を圖つた。神事は十月一日から十三日まで執行され、七、八、九の三日間は「おくんち」と云ふ。

六月一日には小屋入りと稱し、八年目毎に輪番に當る十二ヶ町の踊町關係者は諏訪神社に參拜して、その日から奉納踊の稽古にかゝり、十月三日には自慢の庭見せが行はれて、行人は各戸の飾り清められた庭の隅々まで、自由に見ることを許されて居る。七日は拂曉から社前に奉納踊が行はれ、午後一時には本宮から縣廳下大波止の假宮に神輿の渡御があり、非常な賑ひである。

【諏訪公園】 (二〇圖四) 諏訪神社の神域に連る玉園山の一帯で、もと安禪寺のあつたところを明治七年公園としたものである。面積約四三アール、眺望絶佳、東照宮、武徳殿、音樂堂、圖書館、商工獎勵館等があり、記念碑の中にはケンペル、ツンペルク、グラント將軍、シーボルト等に關するものがある。【聖堂址】 長崎驛の東方、伊勢町錢屋橋の袂にある。



創建は正保の頃であるが、その後變遷を経て、今は往時の一部分を存するに過ぎない。聖堂は儒學を學ばんとするものに對し唯一の寶庫であつた。聖堂中大學門と呼ばれる正門はその扉面に大學の文句が一面に彫り付けられ、この文字は支那人呂華の筆である。

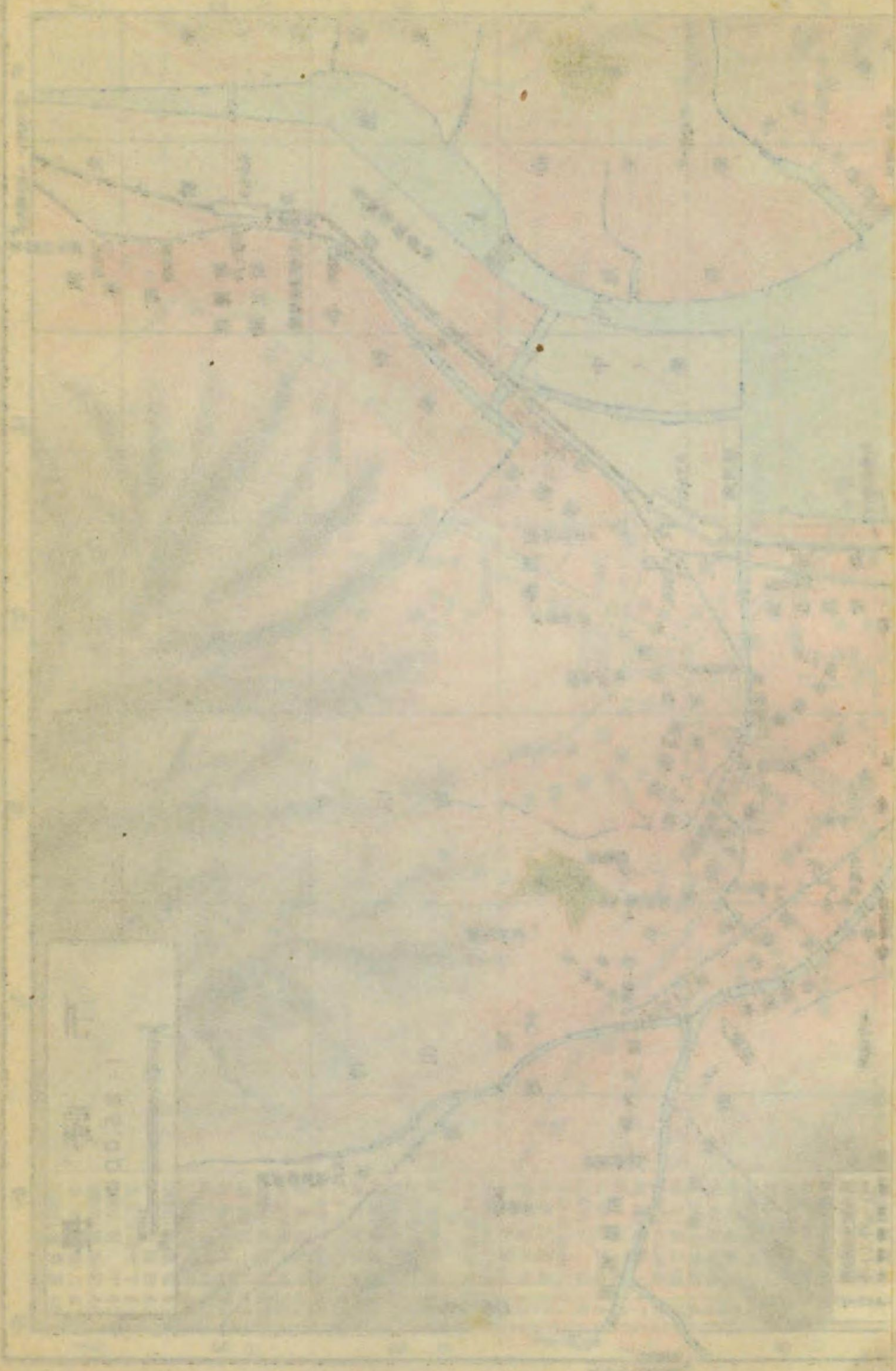
【春徳寺】〔臨濟宗〕（一〇圖か4）長崎驛の東方夫婦川町にある。切支丹宗の總本山トドスオスサントス寺の跡に寛永二十年代官末次平藏が建立した。境内に芭蕉、紗鹿、宇鹿の發句塚、去來、宇鹿の追悼碑等があり、芭蕉の發句塚は時雨塚とも呼ばれる。

【シーボルト宅址】〔指定史蹟〕（一〇圖あ3）長崎驛の東市内鳴瀧町にある。近世我が國文化の一恩人たるフィリップ フランツス フォン シーボルトが島蘭館の醫官として長崎滞在中、奉行の許可を得て設けた別宅で、もと南嶺寺（トドス オス サントス）の址であつたと云ひ、文政六年來朝以來こゝに居住した。今、空地に二箇所の古井戸、石垣等存し、後方の小丘腹に倉庫址ありて高さ約二米の石積の壁等が殘存して居る。

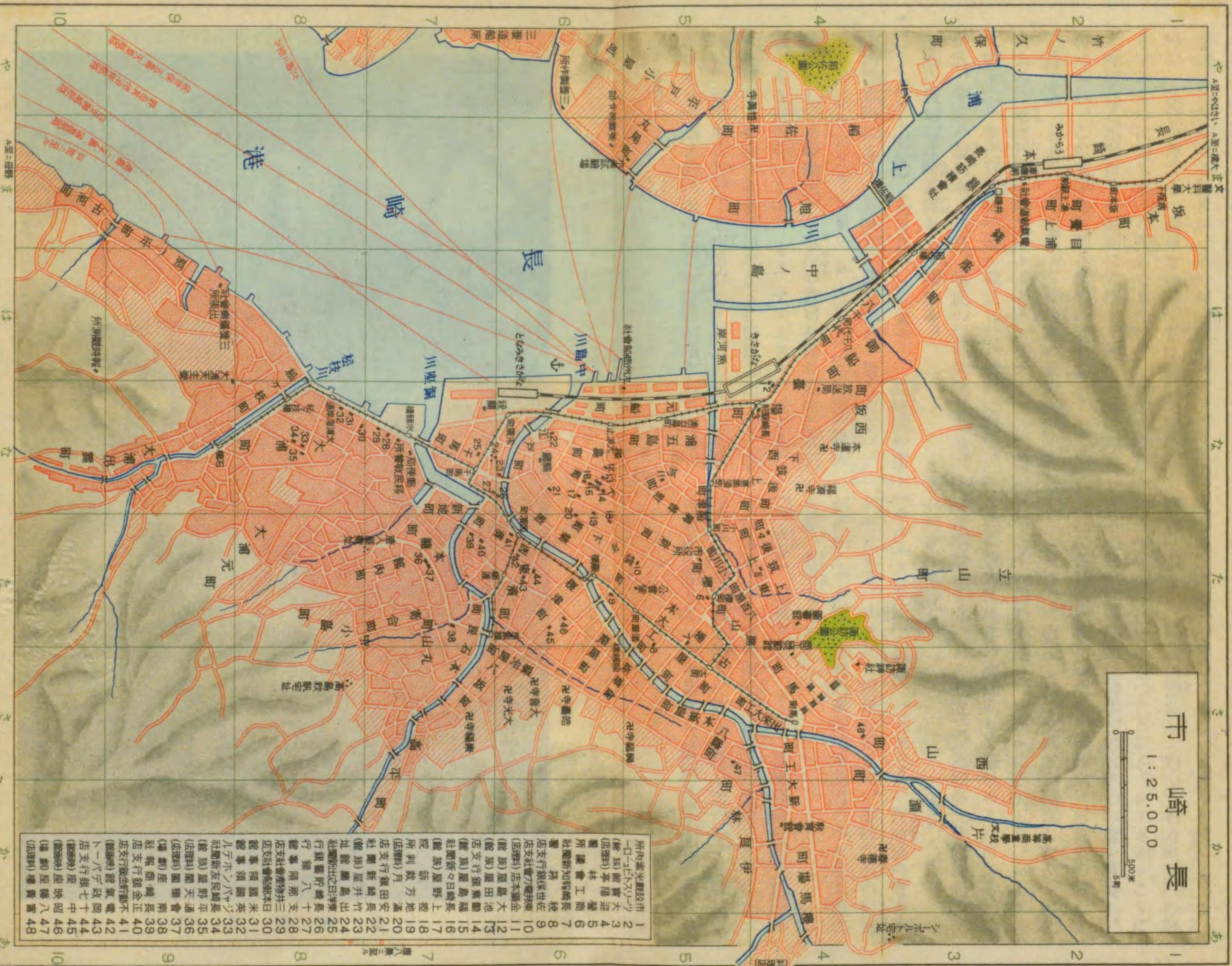
向つて左方の一の井戸の傍にシーボルト樹あり、この前面に當時の二階建書齋あり、向つて右方の井戸の前には平屋建の住宅があつたと云ふ。シーボルトこゝに在りて我が國の學生に醫學、博物學その他を教授し、庭内に各種の植物を栽培し、安政六年再渡來の後もまたこゝに住して教授した。文久二年歸國したが、慶應二年七十一歳で郷國ミュンヘンに逝去した。シーボルト樹の後方に晩年の胸像あり、宅址の入口にある記念碑は明治三十年三月の建立で、施福多先生宅址記の文が刻されて居る。

【カルルス皆花園の櫻】（一〇圖あ4）長崎驛の東方中川町にある。中島川の清流を挾んで、春は萬朶の白雲が棚引く。上流の本河内水源地及南方の小ヶ倉水源地も櫻の名所である。

【興福寺】〔黄檗宗〕（一〇圖あ5）長崎驛の東南、市内寺町にある。寺は明の歸化人歐陽氏の別業であつたが、後明江の人眞圓來朝してこゝに住したので、長崎在住の明人相謀りて一寺を建立し、眞圓を以て開基とした。





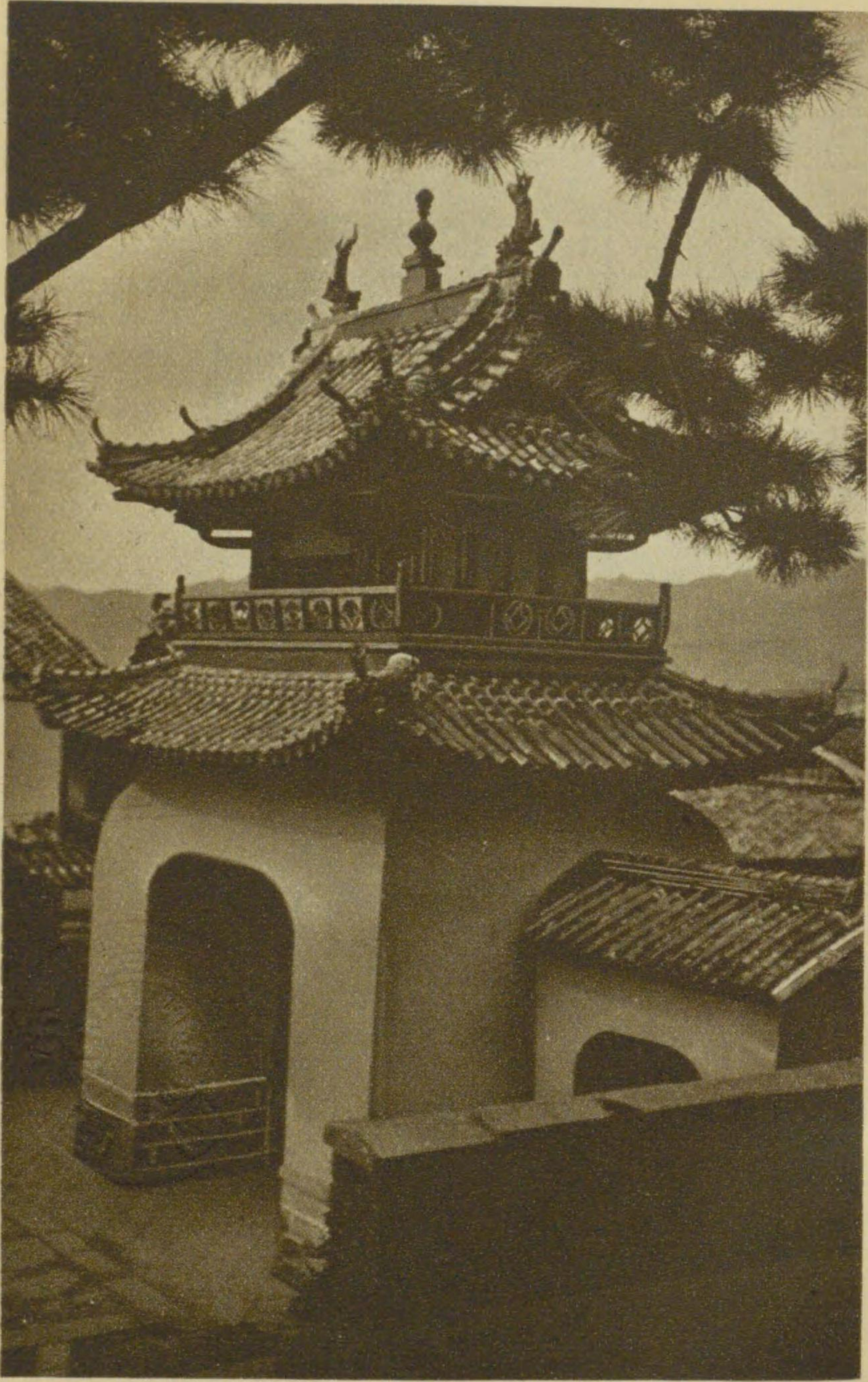


長崎市  
1:25,000

500米  
5町

- 1 市内茶光觀音市
- 2 一〇二五(XXV)ノ
- 3 (店理料) 能事陽
- 4 署所社團新報
- 5 務支社會力電
- 6 店支社會力電
- 7 店支社會力電
- 8 店支社會力電
- 9 店支社會力電
- 10 店支社會力電





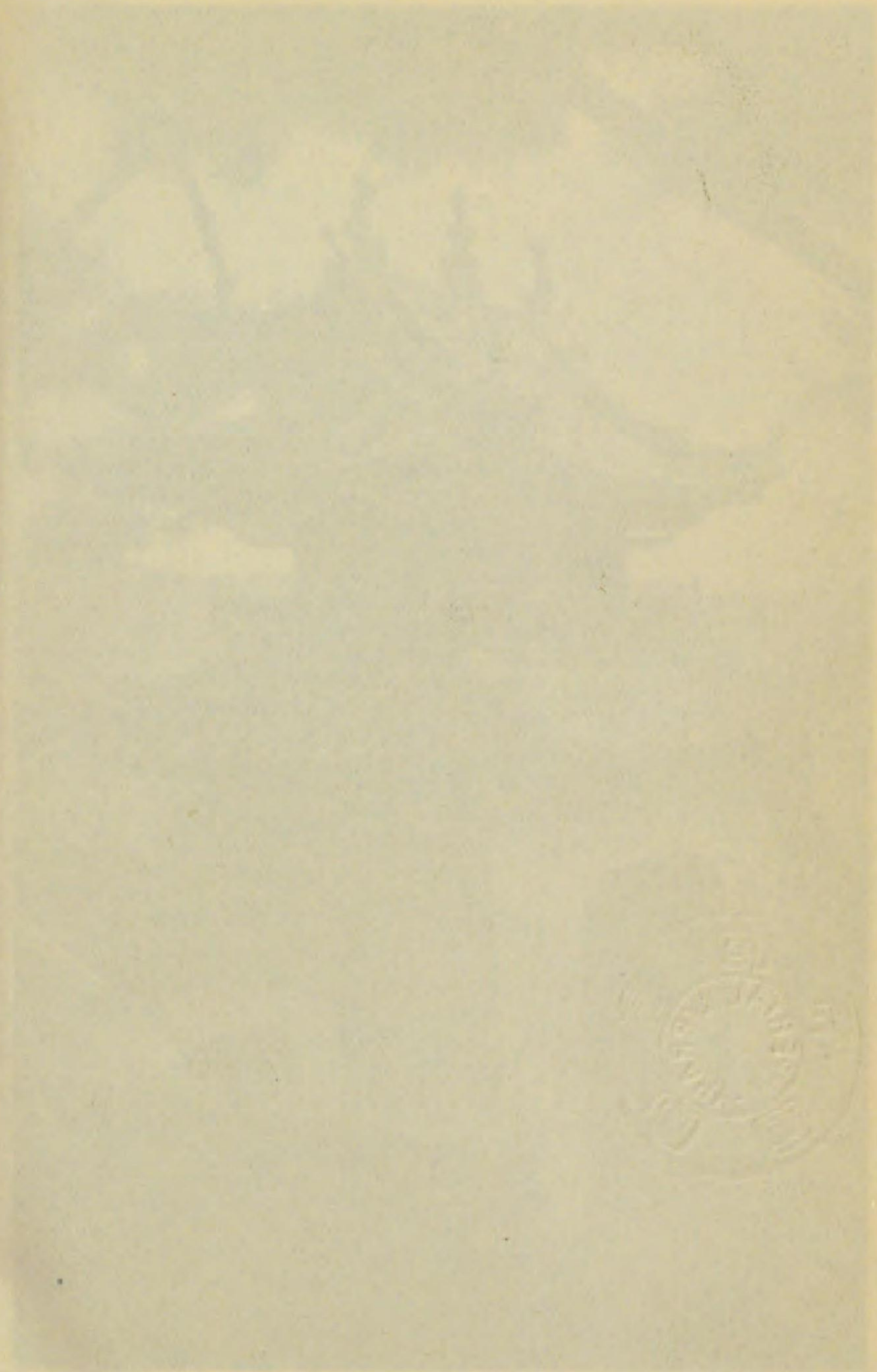
崇 聖 寺 三 門



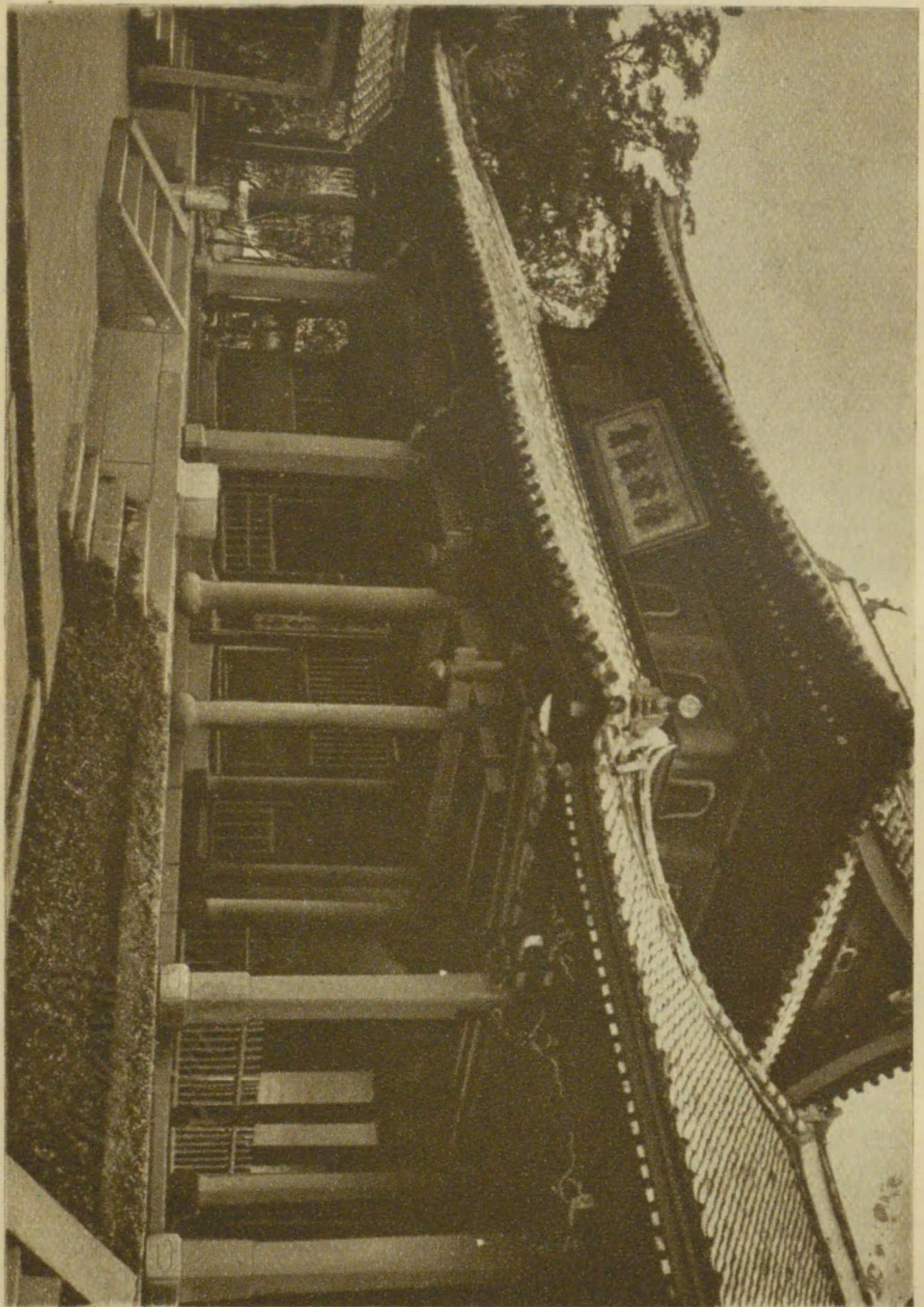




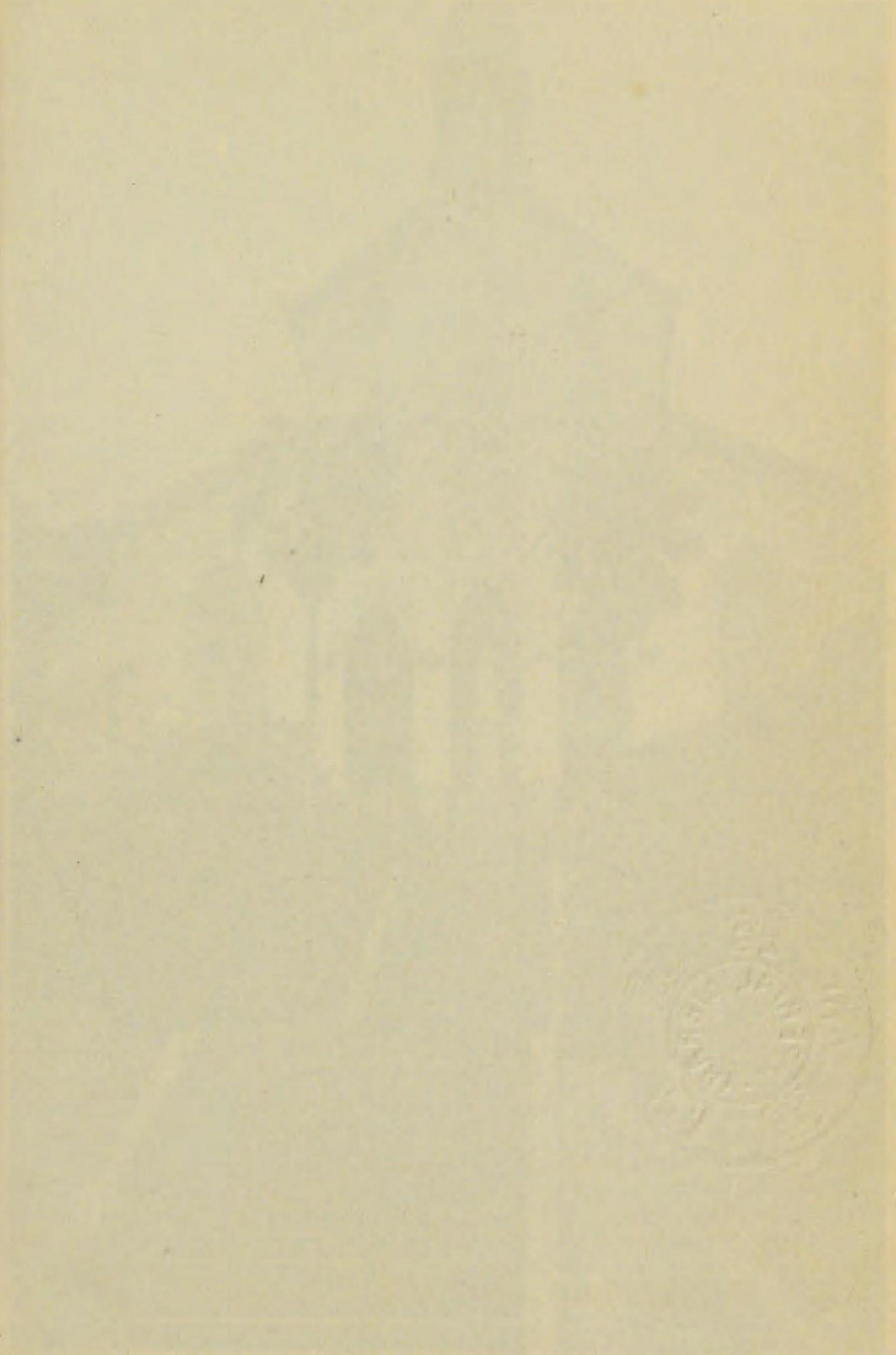
大 浦 天 主 堂



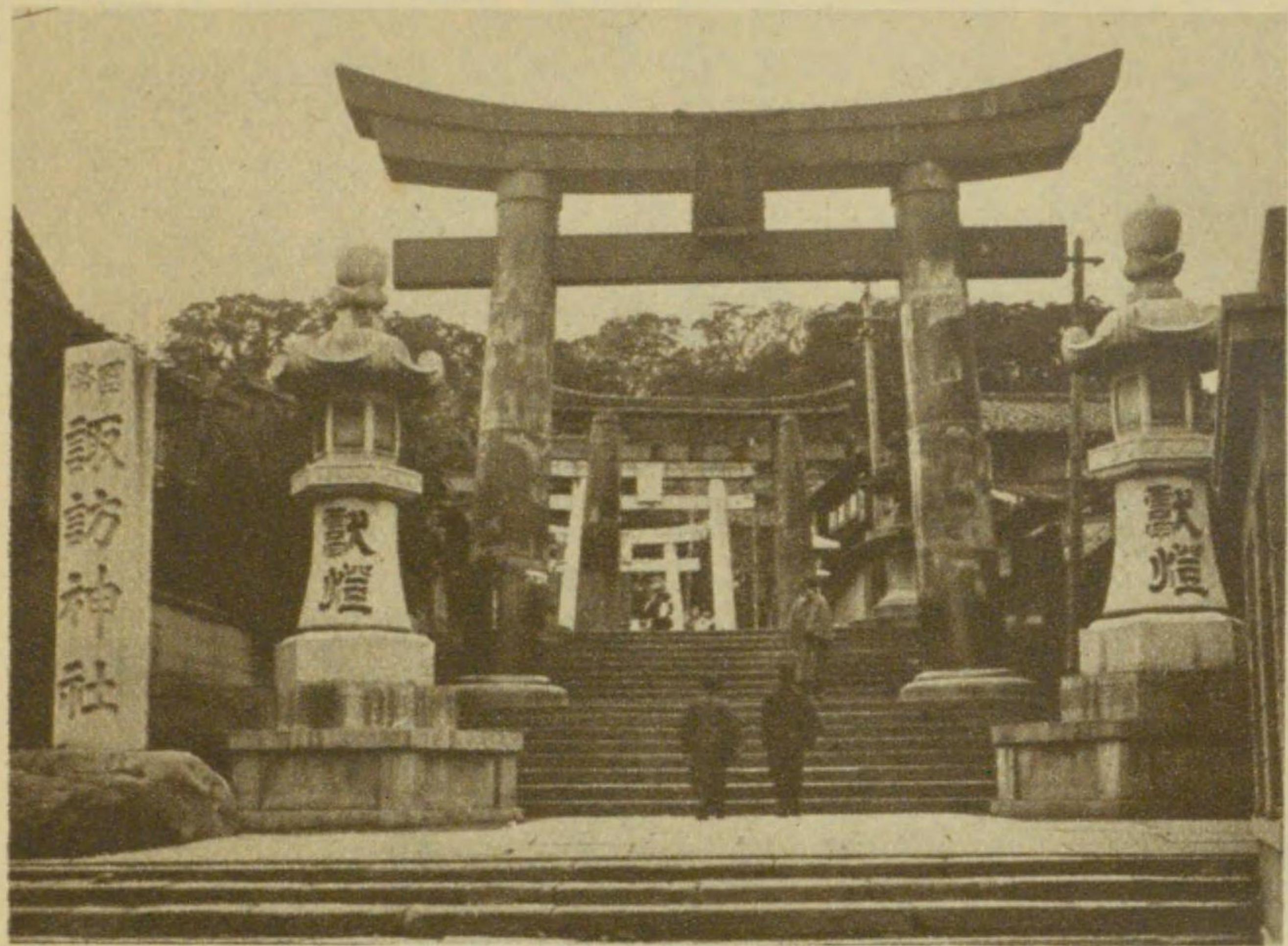




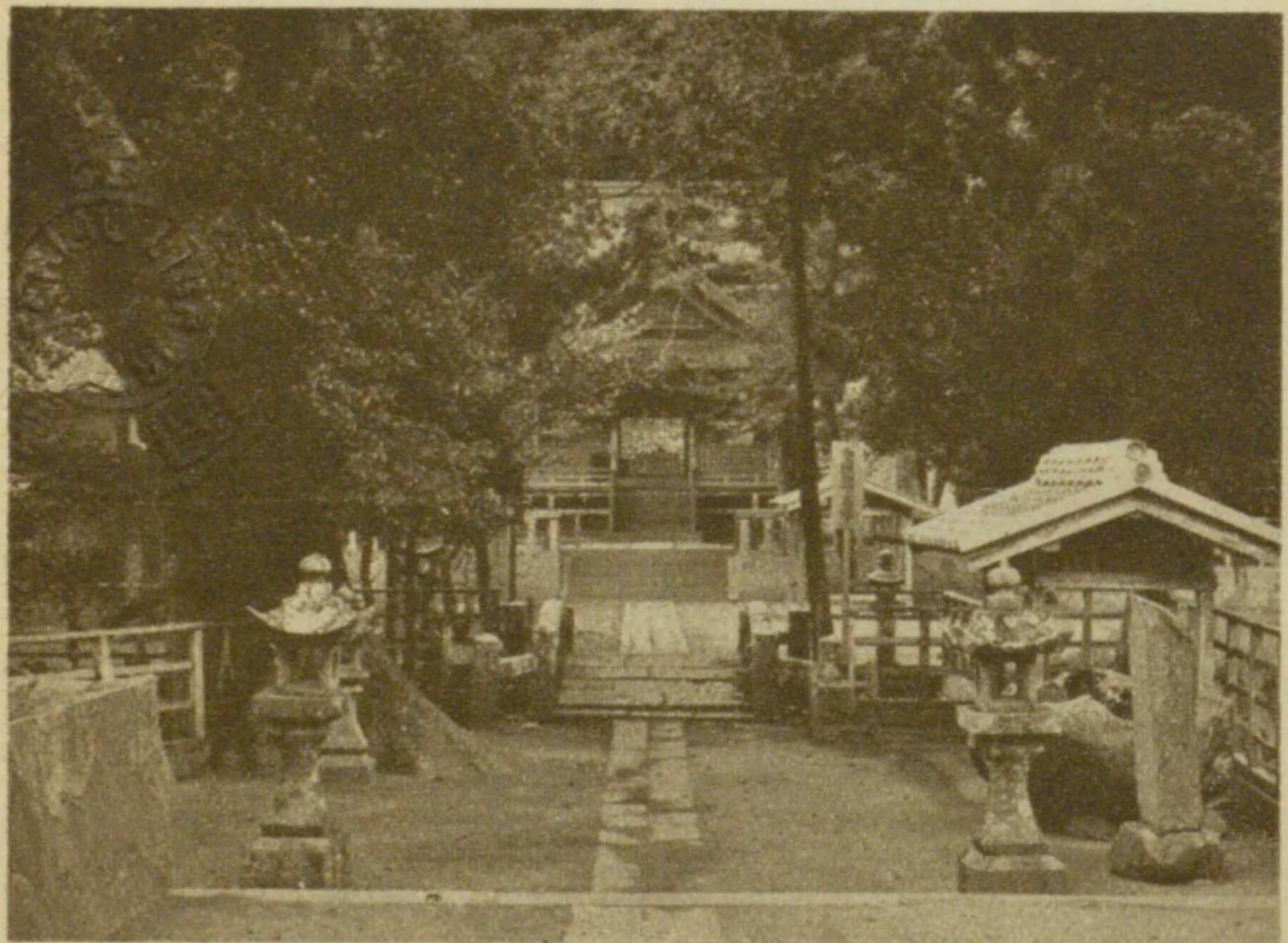
福 濟 寺 木 堂







諏 訪 神 社



壹 岐 住 吉 神 社





寛永年中如定和尚來りて眞圓後繼となり、寺傍に天妃を祀りて、唐船の航海安全の祈禱所となし、承應三年隱元禪師渡來して堂宇を増築し、南京人の菩提寺であつたから俗に南京寺と稱した。三代逸然和尚は長崎漢畫の元祖である。

本堂（大雄寶殿）〔國寶〕 桁行五間、梁間六間、重層、屋根切妻造、四方腰屋根附、本瓦葺で、明治年間の再建にかゝり、支那工匠の計畫に成り、近世南方支那建築の様式を示して居る。

【眼鏡橋】（一〇圖さ） 長崎驛の東酒屋町から磨屋町に通ずる中島川に架けた唐風の石橋で、寛永十一年支那寺興福寺を建設した明僧如定が築造した。唐風拱式割石積の様式による日本最初の眼鏡橋である。脚柱を中に挟んで双圓を描き、満潮時の水面に映る橋影が恰も眼鏡の形に似て居るのでこの稱がある。

【皓臺寺】〔曹洞宗〕（一〇圖さ） 興福寺の南方、市内寺町にある。慶長十三年僧龜翁の開山で、初洪泰寺と號し岩原町にあつたが、寛永三年今の地に移した。同十

九年明正天皇から寺號を海雲山普眼皓臺寺と賜はつた。延寶九年同天皇の内勅を蒙り、肥前一國の寄進を以て鑄造された二丈三尺三寸の佛像を安置する大佛殿が建てられた。慶安元年境内除租の朱印を得、歴代住職は老中連署で任補された。堂宇には本堂、無量閣、庫院、藥師堂、文殊堂、鐘樓、勅額門、山門、大佛堂、大書院等がある。砲術家高島秋帆、寫眞術の鼻祖上野彦馬その他の墳墓がある。

【大音寺】〔淨土宗〕（一〇圖さ） 皓臺寺の東南、今籠町にある。元和元年長崎奉行長谷川權六郎の勸進で、切支丹禁壓に殊功のあつた傳譽上人の開山である。

【大光寺】〔眞宗本願寺派〕（一〇圖さ） 大音寺の東南、今籠町にある。開基は慶了和尚。境内に我が國活版術の恩人本木昌造の墳墓がある。

【崇福寺】〔黃檗宗〕（一〇圖さ） 長崎驛の東南今籠町にある。當寺は寛永年間支那福州方面より渡來した航海業者が資を集め、江戸幕府の許可を得て創建したもので明曆元年隱元禪師こゝに法を説きしことがある。全

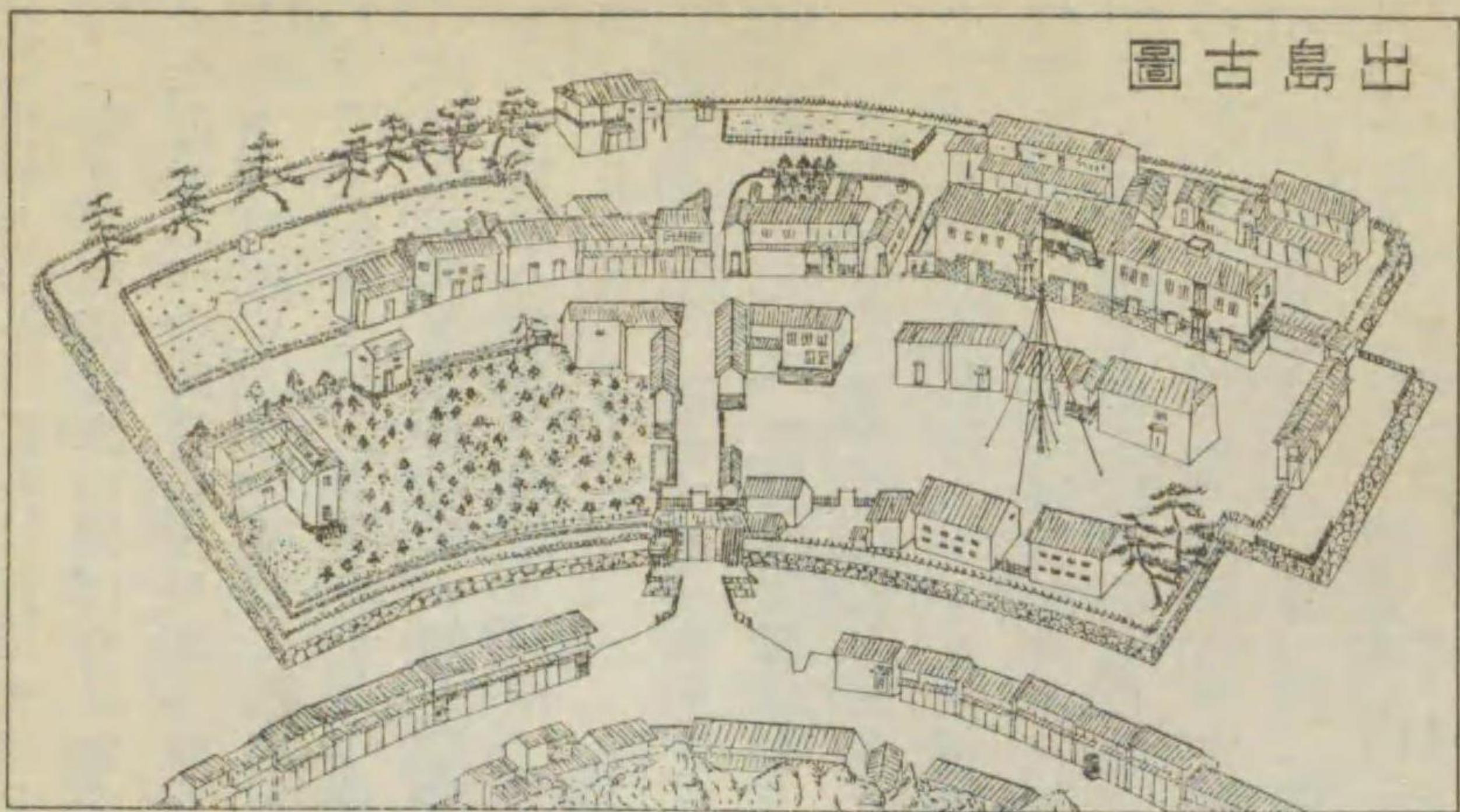


く支那風の寺院で三門、一峰門、護法堂、鐘鼓樓、媽祖廟及開山堂を具備して居る。

三門 「國寶」 當寺の第一門で最初のもは寛永九年に建立されたのであるが、現存のものは文政八年に再建された。三間三戸の樓門で、屋根入母屋造、本瓦葺、その形式は所謂龍宮造と稱するものである。軒著しく反り、下層は側石の上に桃色の漆喰を塗り甍形を成して居る。

一峰門 「國寶」 明暦五年の造営にかゝり、朱塗の四脚門で正面に「第一峯」の扁額を掲げて居る。枘組は天竺様四手先に屬するが、その様式特に珍らしく彩色を加へ、枘組と柱との間には牡丹の彫刻を嵌装し頗る美觀を呈して居る。

護法堂(關帝堂また觀音堂) 「國寶」 享保十六年の建立、構造様式ともに明式を傳へて居る。桁行三間梁間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺朱塗の建築である。正面一間通り石を敷き柱間を吹き放つて居る。天井は船底形にして梁上に立てた束の根本には牡丹唐草の透



出島古圖

術の鼻祖高島秋帆の別邸で、天保九年本邸焼失後移りてこゝに住し、砲術を諸生に教授した舊跡である。瓦葺二階建の建物及同じく二階建の書籍銃器等を納めた倉庫、庭前の小銃射撃の標的となした彈痕石、石燈籠、舊宅の一部を圍む土塀等が遺つて居る。階上の客間雨聲樓は今

彫があり、その作頗る優秀である。枘組には天竺様挿肘木の三手先を用ゐて居る。内部は瓦敷で素木の圓柱を立て、天井は化粧屋根裏を現はした合掌形である。奥壁に接して須彌壇があり、中央に聖觀音像、向つて左に韋馱天、また右側には關帝像を安置して居る。

鐘鼓樓 「國寶」 護法堂の傍にある。桁行三間、梁間二間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺朱塗の建築である。軒の反著しく天竺様二手先の枘組を用ゐて居る。

大雄寶殿(本堂) 「國寶」 寛永六年支那僧超然の創建、桁行五間、梁間六間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺朱塗の建築である。外廻りには開放の廊を設け、柱は隅角に圓柱、中間に角柱を立て、居る。枘組は三斗にして繪様肘木を用ゐる、九ヶ所に火燈窓を開き、内部は瓦敷にして化粧屋根裏を露はして居る。本建築の様式は全く明末の特徴を示し、我が國に於ける黄檗派に屬する最初の建築で我が建築史上貴重な遺構である。

【高島秋帆舊宅】 「指定史蹟」 (一〇圖さ) 長崎驛の東、市電思案橋下車、市内小島町にある。我が國洋式砲

なほ舊態を存するが、秋帆の居室であつた階下の六疊間は櫻の間と呼ばれもと襖、床の間より壁間、天井に至るまで爛漫たる櫻花の圖を以て張られたが、今僅に襖及床貼付だけが遺つて居る。

【濱町通】 長崎驛の南方、長崎商店街の中心區であり、盛場である。柳通から中通、鍛冶屋町から思案橋を渡つて本石灰町、殊にこの附近は丸山に近いので、カフェー、活動寫眞館などあつて、夜は市内第一の歡樂郷である。

【出島和蘭商館址】 「指定史蹟」 (二〇圖な6) 長崎驛の南方、市内出島町にある。この地はもと扇島と呼ばれ、扇形を成した小島で、寛永十一年江戸幕府が長崎商人に命じて葡萄牙人のために海中に埋築せしめた所である。同十三年工竣りて葡萄牙の商館を對岸からこゝに移したが、同十六年に至つて葡萄牙人の通商を禁止退去を命じたため一時空屋となつたが、同十八年平戸から和蘭人を移してその商館となした。爾來安政元年神奈川條約締結に至るまで我が國に於ける唯一の海外



貿易場であつた。歐洲に於てナポレオン一世威を振ふ時に當り、和蘭國旗の掲げられたのはこの地のみであつたと云ふ。當時島の中央から今の通路を進み江戸町に向ひ、突當りに橋を架して内地と唯一の交通路となし、出入を嚴にした。明治十九年及三十二、三年兩度の長崎港灣修築以後現状の如くなつたが、當時の遺構として扇形の町並、通路、河岸、二、三の石堀、倉庫等がある。

【大浦天主堂】〔國寶〕(一〇圖なり) 長崎驛の南、市内南山手町にあり、電車の便がある。

この天主堂は切支丹殉教者二十六名の靈を祀るため文久三年佛國宣教師フューレの創始にかゝり、翌四年宣教師プチジャン師等監督の下に棟梁小山某によつて建築され、同年十二月に竣工した。當初は三側式木造の教會堂であつたが、明治八年宣教師ポアリエ指揮の下に擴張を企て、左右に各一間の側廊を増築し、且つ外壁を煉瓦積となし、現在見る如くゴシック式五側教會堂となり、屋根の西端に八角尖塔を附して居る。内

【天后堂】 長崎驛の南方、館内町にある。唐人屋敷遺蹟の一つである。元文元年在留南京人等の創建、明治

三十九年大改修を施されたもので、木造、瓦葺、煉瓦壁、平屋、八三方米弱の建物である。天后聖母、千里眼、順風耳等の神像を祀り、海上安全が祈られる。

【觀音堂】 長崎驛の南方館内町にある、唐人屋敷遺蹟の一つである。大正六年在留の永記號主によつて改築され、煉瓦造、瓦葺、平屋、約七米三に五米半弱の建物で、觀世音菩薩と關帝とを安置してある。在留唐人の崇敬厚く、今尙毎年祭典を行つて居る。

【悟眞寺】〔淨土宗〕(一〇圖ま4) 長崎驛の西方稻佐町にある。慶長三年僧聖譽が開基した最も古い寺で、後方に外國人の墓があり、境内には密貿易の爲處刑された伊藤小左衛門と丸山の遊女定家を葬つたと云ふ床しい物語を秘めた比翼塚がある。

【稻佐岳】 市の西方に聳えて居る山で、自動車道を開き、登山者の便を圖つてある。山麓から雜木林を縫ひ、八合目からは整然たる杉檜林に入り、山頂附近には屏

部の身廊奥陣及左右側廊等に木造漆喰塗の方法によつて構成されて居る雄大な穹窿、天井の美觀は歎賞に値し、その他細部の構造と共によくゴシック式の手法をあらはして居る。内陣の中央には壯麗な祭壇を構へ、左右側廊には處々に小聖龕を作つて居る。尙各柱間に設けられた大窓は華麗なステンドグラスを嵌装して居る。要するにこの教會堂は佛國宣教師の指揮監督の下に我が國棟梁の經營になつた我が國初期の洋風建築を代表せる貴重な遺構である。

【幽靈堂】 長崎驛の南方廣馬場町にある、唐人屋敷遺蹟の一つである。木造、瓦葺、平屋、普通支那風祠堂式、五米半弱に約七米三の建物で、在留中に死亡した唐人の位牌を納められたらしい。往時毎年行はれた彩舟流は慰靈祭の一つであつた。

【土神堂】 長崎驛の南方、館内町にある。唐人屋敷遺蹟の一つで、土神、財神、天后聖母を祀る。今の建物は木造、瓦葺、平屋、普通支那風祠堂式、九九方米餘であるが、殆ど使用に堪へない。

風岩、巖岩、わんど岩等大小無數の岩石が異觀を呈する。山頂からは市街の全貌は元より、港口附近、五島灘も望まれる。

【三菱造船所】(一〇圖や6) 長崎港の西海岸西泊灣から平戸小屋に至る沿岸一帯延長約二軒九、面積約三五ヘクタールを占め、小菅船渠、製鋼工場、社宅用地等を合せると總面積約七三ヘクタールに及ぶ。安政三年徳川幕府が蘭人を聘して飽の浦機工場を開いたのに始まり、明治十七年三菱社の經營となつた。當時職員四十二人、職工七百六十六人に過ぎなかつたが、大正七、八年頃の好況時代は職工約二萬に達し、今は五千餘の就業員がある。立神工場は造船工事を、飽の浦工場は機械類の製作鑄造を主として居る。船渠は三ヶ所に設けられ、第一船渠は立神に、第二船渠は飽の浦に、第三船渠は八軒屋にあつて、第三船渠は長さ約三三米、幅約三五米、水深約一〇米、我が國最大のものと云はれて居る、戦艦日向、霧島、商船淺間丸、龍田丸等はこゝで建造された。



【唐八景】 長崎驛の南方約六軒、田上、茂木街道峠の茶屋から右に折れて長さ二軒の新觀光道彌生道路を登りつめたところにある丘陵で、頂上まで自動車の便がある。長崎の市街、茂木、天草、雲仙等を一眸に收め、雄大なる風景を有する。こゝは市の行事の一たる風上げの場所で、四月二十八、九日には、全山人を以て埋められる。

【唐人塚】 長崎驛の東南、茂木舊街道右寄りの山路、鶴鳴女學校の少し上手にある古碑で、雜草に包まれて苔蒸して居る。支那人曼徳と遊女登倭とに對する比翼塚だと云ふ。

【茂木町】 (六圖たり) 長崎驛の南一軒、自動車の便がある。天草灘に沿ひ、天草島、島原半島を望み、風光がよい。枇杷の産地として知られ、小濱、富岡、三角等に汽船が往來する。人口一萬一千。旅館 ビーチホテル(純洋式)、油屋、丸徳。

【東望の濱】 長崎驛の東方一二軒餘、矢上村の海岸にあり、自動車の便がある。白沙一帯遠淺で水清く波靜

【瀬戸町】 (六圖なり) 長崎驛の北約三二軒、西彼杵半島の西岸にあつて、松島と對する。浮屋即ち家船多く、明治維新前は六十三隻あつたが、今は凡そ百三十隻ある。買物、説教聴き、埋葬等の際の外上陸せず、漁業を営み、普通教育は瀬戸町に寄宿舎を建設して通學させる。町の人口六千。

【七ツ釜鍾乳洞】 長崎から陸路約五九軒、附近まで自動車の便がある。また長崎、佐世保から七釜まで定期船の便もある。丘陵の中央部にある一大洞穴で、俗に七釜鍾乳洞と云ふ。入口は北面して高さ約一米八、幅約一米半。入口から九米位は通路平坦であるが、これより先は狭道で匍匐して行く。洞口より凡そ五五米にして高さ約九米の清水瀧がある。瀧を過ぐれば更に道開け、約七三米進めば白宮殿と云ふ大さ八疊敷位の廣間があり、天井及兩壁は鍾乳石を以て蔽はれて居る。更に進めば大小長短の鍾乳石、石筍があつて奇觀を呈する。入口より四〇〇米のところは靈泉瀧がある。これより奥は探勝不可能で、洞の全長約五〇〇米と云ふ。

に牧島前に横はり、東望山を擁し、遙に橋灣の穩波、天草の島影、雲仙の山容を望む景勝地である。夏季は絶好の海水浴場となる。東望の對岸に蠟道と云ふ梅の名所がある。

【高島炭坑】 (六圖なり) 長崎港の南方約一三軒、高島村字双子に、支坑は本島の西南凡そ四軒、高濱村字端島にあり、何れも長崎市から船便がある。採掘面積三三〇ヘクタールを超え、斜坑も堅坑もあり、海下からも採掘される。發熱高く、炭質良好、出炭量は逐年増加し、昭和七年には約四十二萬噸である。

【樺島の大鰻棲息地】 (指定天然記念物) 長崎驛の南約二八軒、野母崎に近い樺島村水の浦郷にある。大鰻は直徑約一米半、深さ約四米半、水深約一米八に達する井戸に棲息し「じやうなぎ」または「かにくひ」の名がある。全身黒色にして所々斑點を生じ、體長約一米半、胴の周四二糎弱、重量九斤。本種は印度、馬來地方より濠洲、阿弗利加及南洋地方に産し、本邦にては九州、四國、本州中部にある極めて稀有の動物である。

【崎戸町】 (六圖は4) 西彼杵半島の北端端の浦島にあり、佐世保港より西南約二七軒、長崎からは西北方約五六軒、石炭の産出多く、港は良好で一萬噸級の汽船容易に出入し、石炭積込港として絶好の位置を占め、近年著しく發展した。南方の松島も石炭の産地である。人口一萬七千。

【五島】 (六圖) 長崎、佐世保から汽船の便がある。西彼杵半島の西方、平戸島長軸の延長線上にある列島で、五島の主島を有するからこの名がある。主島は福江、奈留、若松、中通、宇久の諸島で、福江島最も大きく、中通島がこれに次ぐ。中世層、火成岩等より成り、平野に乏しいが、水産は豊富で、鱈、鰯、鯛、柔魚等の漁獲年額百八十萬圓、鰻、鰹節その他の製造物年産額八十三萬圓あり、女男列島附近に産する珊瑚、有川附近の捕鯨も知られて居る。尚本島には生牛の産多く、五島牛と稱せられて居る。住民は十萬を超え、主な都邑は富江、福江である。



【福江町】 (六圖ら6) 長崎の西方約二三軒、五島列島の南端に位し、福江島の東北部にある。もと五島氏の城下で、五島の中心をなし、今支廳を置かれて居る。港は碇泊の便を加へ、物貨の集散が行はれ、長崎、佐世保等から定期船が通ふ。人口一萬一千。

【へご自生北限地帯】 「指定天然記念物」 福江町の西南約八軒、大濱村増田にあり、標高七〇米乃至二〇〇米の間に二十五株を數へる。

【富江町】 (六圖わ6) 福江町の西南約二四軒、舊福江支藩の城下で錨地を有する。近年防波堤を築き、碇泊を便ならしめた。港外七四軒にある女男列島は珊瑚採集の根據地として、船舶の出入が少くない。人口一萬二千。

【玉之浦町】 (六圖わ6) 富江町の西方約二四軒、福江島の西端にある。五島唯一の漁港と稱される深灣を有し、漁民の集散が多く、風光がよい。昭和八年町制を布いた。人口九千。

【へご自生北限地帯】 「指定天然記念物」 玉之浦町荒川矢

の口と外河原村にあつて、矢の口溪谷では七十餘株を算する。

【大瀬崎】 (六圖わ6) 玉之浦町の西南端に位し、一等燈臺及無線電信局がある。明治三十八年日本海大海戦の際、哨艦信濃丸が「敵艦見ゆ」との信號を發したのはこゝから西南約一九軒の沖合であつた。

【壹岐】 (二一圖) 長崎及博多から汽船の便がある。壹岐海峡によつて九州島と隔り、北方の對馬と共に、内地から朝鮮に渡る飛石の如く配置され、交通上、軍事上重要な位置を占めて居る。屬島を合せても面積僅に二三方軒弱、周圍約一七軒に過ぎないが、一國をなし、また一郡である。土地は玄武岩質の準平原で、海岸に屈曲が少くない。住民は約四萬人で農を主業とし、水産業がこれに次ぐ。主な港は郷浦、勝本である。政治上長崎縣の管轄に屬し、支廳を置いてある。島の大部は要塞地帯である。

【武生水町】 (二一圖か3) 壹岐島の西南端に位し、郷浦と稱する港を有し、長崎、博多との間に定期船の便





がある。内地朝鮮間交通の要衝に當り、支廳、築城部、要塞司令部を設けてある。

【住吉神社】〔國幣中社〕 郷野浦から北約六軒、壹岐郡那賀村住吉にある。海上守護の神なる上筒之男命、中筒之男命、底筒之男命を祭神とし、相殿に八千戈神(大國主神)を祭る。式内の名神大社で明治四年現社列に列した。例祭は十一月九日で、この外に軍越の神事がある。

【筒城ヶ濱】 壹岐の東南端石田村印通寺港から約四軒のところにある。錦濱、片部濱、小松濱、大濱、小濱、唐瀬濱、宮の濱の七つより成り、壹岐隨一の景勝地で、前面の島々は云ふに及ばず、北九州の連峯も望まれ、海水浴、潮干狩等も行はれる。

【對馬】 (一一圖) 壹岐から約六九軒、汽船の便がある。壹岐とは對馬海峽を、朝鮮とは朝鮮海峽を挟み、交通上も國防上も重要なところである。もと一大島であつたが、今は上島(南部)、下島(北部)の二島に分れ、その間に淺海灣が横はり、島形狹長である。屬島を含ん

で面積七三方軒に近く、海岸線は約九里軒である。この島は主に中世紀の泥板岩より成り、島内丘陵に富み平地に乏しく、人口五萬を超え、主要産物は鱒、鰯等の水産で、林産、農産等がこれに次ぐ。古來一國で上縣、下縣の二郡に分れ、現今長崎縣に屬して、その支廳を設けてある。また鷄知に重砲兵大隊が置かれ、島の大部が要塞地帯である。島内陸上交通の便が頗る悪く、沿岸に定期船が往來する。

【嚴原町】 (一一圖か3) 上島の東岸中部にある。宗氏の舊城下で、支廳、築城支部等を置かる。島中の良港で、釜山、壹岐、長崎、博多、下關等と定期船が往來する。開港ではあるが、貿易は振はない。人口九千。

【龍良山原始林】〔指定天念記念物〕 嚴原町の西南約一二軒、下縣郡豆酸村にある。龍良山は天道山とも云ひ、同山に於ける原始林は日本暖帯の純代表林にして、下記十八種の常緑樹より成る。しひのき、あかがし、うらじろがし、をがたまのき、しきみ、くすのき、やぶにつけい、あをがし、たぶのき、いすのき、ひさかき、



さかき、もつこく、つばき、かくれみの、くろばい、はひのき、ねずみもち。特にいすのき最も多く幹の周圍目通三米六餘に達するものがあつて、あかがし、たぶのき等と共にその大きさを競ふ。この如き林相は日本全國他に見るを得ない。

【雞知村】(二一圖か) 嚴原町の北約一二軒、上島の北端にあり、自動車の便がある。要塞司令部、重砲兵大隊の所在地で、嘗て要港部のあつた竹敷村は近年當村に編入された。人口五千五百。

【洲藻白岳原始林】嚴原町の北方、下縣郡雞知村にある。本山の植物帯は對馬中部の代表的のものにして、日本分子の分布の西限、朝鮮分子分布の東限をなすものが多い。純日本分子にして分布の西限をなすものもみのき、ひめこまつその他十四種、純朝鮮分子分布の東限をなすものは、てりはこなら、むらさきからまつ外三種である。特にその頂上附近は對馬全島を通じてひめこまつ唯一の産地である。

【海神社】(國幣神社) 上縣郡峯村木坂にあり、嚴原

### 久留米 大分間

九州に於ける鐵道は、これを縦貫する鹿児島線及日豊線は早く開けたが、横斷線は後れて今豊肥線及久大線が通じて居る。久大線は久留米から東へ筑後川南岸を進んで日田を經、大分に達するもので全長一四二軒五普通約五時間を要する。

久留米驛 久留米市京町

門司から 一一五軒四  
鹿児島から 二八四軒六

▽大川鐵道 久留米榎津間 一九軒九

▽九州鐵道 津福久留米福岡間 四一軒七

同 甘木久留米福岡間 三二軒七

▽乗合自動車 市内行、佐賀行、日田行、榎津行、富久行、柳河行

一日平均

乗車人員 三、八六九人 降車人員 三、八二〇人

發送貨物噸數 二七一噸 到着貨物噸數 六四六噸

主要發送貨物 小麥粉、飼料、油脂臘

主要到着貨物 麥、木材、石炭、石油、鹽、砂糖、人造肥料、綿織

### 久留米大分間

港より狩尾まで汽船の便がある。狩尾から西北一軒半、豊玉姫命を祀る、式内名神大社の古社である。例祭八月五日。

【鰐浦ひとつばたご自生地】(指定天然記念物) 上縣郡豊崎村鰐浦字在所陽の諸所にある。即ち琴平山下方宮谷、本宮神社裏手、寶藏院裏山、鰐浦の西岸及東岸、鰐浦淺

棧橋より宮原寛家屋に至る一帯である、ひとつばたごは木屋科に屬する落葉喬木にして、朝鮮及他の東亞大陸地にも産し、高きものは約九米、幹圍約一米九ある。

【きたたき棲息地】(指定天然記念物) きたたきは世界に於て朝鮮、對馬にのみ發見され、對馬では上縣郡に於ける森林に産し、本邦産啄木鳥類中最大なるものゝ一にして「あまのじやくま」または「あまのしやくま」

とも云ふ。全長約五二糎、翼約二六糎、尾約一八糎乃至一九糎弱、嘴峰約六糎半、體の大部分は黒色または濃褐色である。雌は雄よりも小さく、頭頰の赤色部がない。

物、セメント、藥品

【久留米市】(二圖ら) 筑後平野の中央に位し、東に高良山を仰ぎ、西に筑紫二郎の大河を繞らし、古來から農産物の集産地であり、新興の商工都市として發展の途上にある。

元和七年有馬氏がこの地に封ぜられて以來、明治維新まで引續きその居城となり、明治二十二年市制施行大正六年以來三回に鳥飼村、節原村、國分町を編入し、東西約六軒七、南北約二軒二、面積約二四方軒、人口九萬二千、著名な久留米緋の機織を始め、久留米縞、和傘、地下足袋、ゴム靴、籃胎漆器等の工産額多く、二千三百萬圓以上の年額に達し、觀賞植物の栽培も行はれる。

▽官公廳その他 市役所(兩替町)、稅務署(京町)、工業試驗場

(津福本町)、區裁判所(篠山町)、商工會議所(同)、九州醫學專門

學校(旭町)、第十二師團司令部(諏訪野町)、歩兵第二十四旅團司

令部(國分町)、憲兵隊(登川町)、戰車第一聯隊(市外高良内村)、

歩兵第四十八聯隊(國分町)、騎兵第十二聯隊(同)、野砲兵第二十

四聯隊(西町)、獨立山砲兵第三聯隊(同)、輜重兵第十八大隊(市



久留米大分間

外御井町)、工兵第十八大隊(同)、飛行第四聯隊(市外太刀洗)、公會堂(兩替町)、聯隊區司令部(諏訪野町)、偕行社(同)

▽銀行 日本勸業銀行支店(日吉町)、住友銀行支店(同) 第一銀行支店(本町)、十七銀行支店(三本松町)、三和銀行支店(同)

▽會社 工場 日本足袋會社(洗町)、つちや足袋會社(白山町) プリツヂストーンタイヤ會社(洗町)、國武會社(通町)、(緋製造販賣)、佐藤商店(莊島町)、(捺糸業)、久留米織物會社(細工町)、久留米緋會社(通町)、牛島商店(本町)、(久留米緋)、久留米傘會社(西町)、中央硝子會社(三本松町)、大川鐵道會社(大石町)、九州鐵道會社(東町)、連絡自動車會社(京町)、久留米自動車會社(白山町)、國武特許織物工場(莊島町)、鐘ヶ淵紡績工場(篠山町)、日本製粉工場(莊島町)、井上粉味噌工場(東町)、久留米籃胎漆器會社(久籃社)(片原町)、金文堂(米屋町)、臺灣製糖工場(市外荒木)

▽娛樂場 「劇場」 惠比須座(本町) 「映畫館」 映畫俱樂部(日吉町)、旭館(同)、辨天座(尾關町)、太陽館(尾關町)、世界館(東町)

▽新聞社 筑後新聞社(莊島町)、久留米毎日新聞社(白山町)、九州日の出新聞社(莊島町)、九州朝日新聞社(南薰町)

▽旅館 布屋(兩替町)、油屋(本町)、宇賀屋(同)、林松

館(莊島町)、莊林館(同)、久萃館(片原町) 料理店 翠香園(榎原町)、丸嘉(魚屋町)、松源(同)、魚松(莊島町)、礎屋(京町)、筏屋(同) 土産物 久留米緋、籃胎漆器、躑躅、和傘、いつもじ、あわやおこし、産九郎しるこ、緋せんべい、川茸苔、水天飴、まこころ

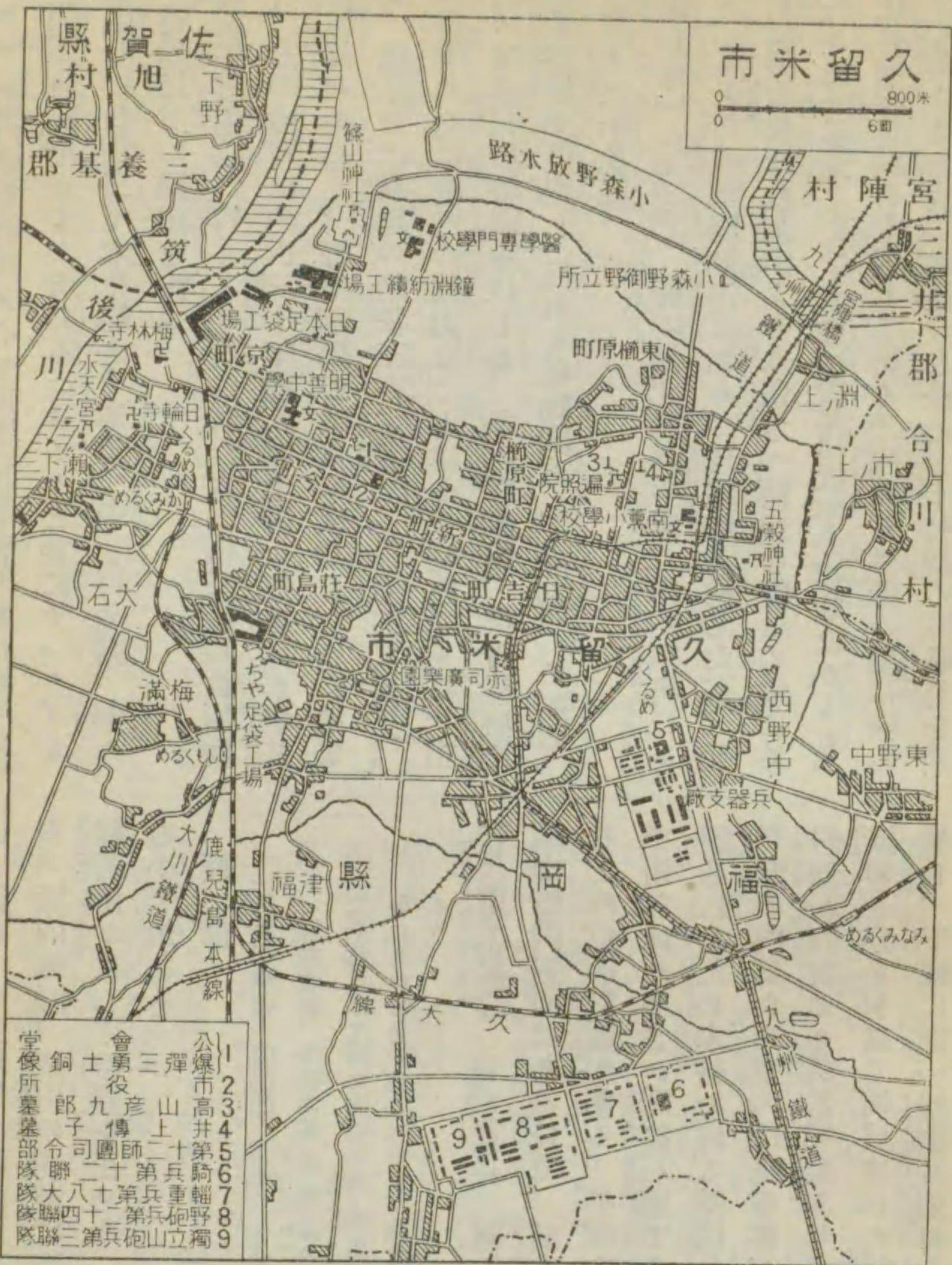
廻覽順路 驛—水天宮—梅林寺—明治天皇大本營址—篠山城址—高山彦九郎墓—三勇士記念館—驛

【久留米緋】 凡そ百三十年前、この地の井上傳女の發明で、民衆的衣類として、好條件を具備して名聲を博し、年産二百餘萬反一千萬圓を産する。

製織地は市を中心として三井、三瀧、八女、浮羽、朝倉の諸郡に及び、近來絹緋、縮緋、上布緋、セーブル緋、ポイル緋、或はコート地、洋服地、綴通等の新製品を出して面目を新にし、ネクタイ、煙草入等の土産品も産額が少くない。

市内兩替町の久留米緋同業組合事務所構内に、井上傳女の碑があり、その業績を讃へて居る。

【護謨靴、地下足袋】 市内の日本足袋會社、つちや足



1	2	3	4	5	6	7	8	9
公爆市高井第騎輔野獨	三	山	上	二	兵	車	砲	野
會勇役	彦	十	第	兵	砲	野	獨	
銅	九	團	師	第	兵	砲	野	獨
堂後所	郎	子	司	團	師	第	兵	砲
隊	令	聯	大	八	二	第	兵	砲
隊	聯	四	二	第	兵	砲	野	獨
隊	聯	三	第	兵	砲	野	獨	

久留米大分間

袋會社の兩工場で製造される本市の重要物産である。兩工場共に近代工業の粹を集めた施設を有し、ゴム靴、ズック靴、地下足袋、支那靴、運動靴、バルカナイト底、アサヒ革靴等の大量製出をなし、國內、支那、滿洲は勿論南洋、歐米にその販路を擴張して居る。年産三千三百万圓。アサヒ地下足袋は軍需品としても用ゐられて居る。

【プリツヂストーンタ



イヤ】市内洗町の同タイヤ工場で製造し、本邦唯一の純國産自動車タイヤである。タイヤと共にチューブも製出し、日産三千本を超え、年産二千七百萬圓、年々十萬本以上の輸出を行ふ。

【久留米躑躅】古くより著はれた本市特産の觀賞植物で、その沿革は約百三十年前久留米藩土坂本氏が實生播種法を創めて、野生躑躅の改良に成功したのに始まる。現今では霧島の新花三百、皐月の新種三百を算へ、花の美の他に樹性の強力なことはその特色である。市内では赤司廣樂園をはじめ、松本和樂園、桑野養盛園靖光園等で産出し、何れも植物園として開放して居る。年産百三十萬圓。

【梅林寺】〔臨濟宗〕驛の西北約三〇〇米、市内京町にある。もと丹波國福知山にあり、瑞巖寺と稱したが、元和七年有馬氏福知山より久留米へ轉封の際この地に移し、その菩提寺となした。本堂は近年の再建にかゝり、如意輪觀音像を安置して居る。内陣と外陣の境に嵌めた大襖には金地に水墨で大松と七十七羽の叭叭鳥を描

部に石枕あり、玉類、刀身、漢式鏡、土器等を出土した。今墳上の一隅に巨大な天井石に用ゐられた石材が置かれて居る。

【水天宮】〔縣社〕驛の西半軒、市内瀬の下町にあり、自動車の便がある。筑後川の左岸廣大な境域を占めて居る。建久年間の創建と傳へ、古來碇船場として附近に船員等を顧客とする料亭等があるので殷盛の境となつた。祭神は安徳天皇である。五月五日から三日間の川祭り大祭には神輿を御座船に移し、また八月五日から三日間の夏祭りには、對岸に千燈明を點じ煙火を打揚げる。共に參拜者遠近より集り雑沓を極める。

境内に眞木和泉守銅像がある。

【伊勢御祖神社】〔縣社〕水天宮の西三〇〇米、大石町速水にあり、自動車の便がある。俗に御石御前と呼ばれる式内社で、石を靈代として祀りしに依りその名があると云ふ。近くに大石競馬場あり、春秋二回に競馬が行はれる。

【久留米城址】驛の北一軒半、市内篠山町にあり、自

いて居る。大正六年狩野雨篷の筆に成つたものである。境内幽靜、紫川の清流に臨み、古松老杉天を摩し、緑苔滑かにして俗塵を止めない。崖上に臨川亭と稱する小閣がある。

寶物

一釋迦三尊像〔國寶〕  
絹本着色、中尊は轉法輪印を結んで居る。佛身は金色、袈裟は赤色にして縁に唐草の盛上彩色がある。文殊及普賢の兩脇士像にも極彩色が施してある。鎌倉末期乃至室町初期の作と思はれる。

【日輪寺古墳】〔指定史蹟〕驛の西三〇〇米、市内京町日輪寺境内正面にある丘で、前方後圓墳の後圓部にあたるとこの丘に石室がある。平面方形をなし平板石を積んで造られた小さい穹窿石室であるが、天井及側壁が破壊されたため木材を以て補はれ、上部に建てられた觀音堂の内部から室内に降る事が出来る。四周に凝灰岩切石四枚より成る槲壁ありて、二重同心圓紋と直弧紋の一分子を以て構成された紋様を線彫りして朱彩を施し、下底に薄い緑泥片岩片を十數枚敷いて居る。内

動車の便がある。西は筑後川に臨み、南方に空濠あり、本丸址は濠の一部尙存し、石壘よく遺存して居る。天正十五年毛利藤四郎秀包の創築で、關ヶ原の役に西軍に應じたため除封せられ、田中吉政こゝに封ぜられたが、その子忠政、元和六年卒して嗣絶え、有馬豊氏これに代りて封ぜられ、子孫世襲して維新に至つた。今、城址に縣社篠山神社がある。また參道の傍に東京から移建した東郷元帥舊書齋がある。

【篠山神社】〔縣社〕久留米城址本丸一帯を境域として居る。俗に御靈社と云ひ藩祖有馬豊氏及頼永、頼徳、頼成を祀る。四月三日の例祭、九月卅日の秋祭りには大いに賑ふ。

社地高燥、四方の展望に富み、筑後川の洋々たる流れが脚下を繞つて曲流し、景勝の地である。

【放水路櫻並木】篠山神社下から東へ約二軒續いて居る。この放水路は筑後川の氾濫を防ぐためのもので大正十二年以來大改修工事中である。將來はこの河道を筑後川の本流となす豫定で、堤上に櫻並木を植ゑ、花



季は美觀を呈する。

【明治天皇久留米大本營址】〔指定史蹟〕 驛の東六〇米、

京町縣立中學明善校構内にあり、自動車の便がある。

明治天皇御治世中最後の「大演習」たりし明治四十四年十

一月舉行の陸軍特別大演習の際に、同月十日から十六

日まで大本營の置かれた處で、建物は現校舎の東に連

り玉座間その他舊規よく存して居る。「大本營」の標札、

御使用の素木造の卓子等が保存され、庭に元帥東郷平

八郎の筆に成る記念碑が建つて居る。

【明善堂】 中學明善校構内玄關前の廣場にあり、寛政

八年十一月篠山町の修道館を改稱移建して開講した當

時のまゝの講堂である。古雅な建物で曾て佐賀、鹿兒

島の事變には、征討宮有栖川宮熾仁親王の御本營とな

つた事がある。また「明善堂印」の古銅印は今も求め

に應じて捺印して居る。

【爆彈三勇士銅像】 驛の東約一軒、久留米市公會堂前

に建つて居る。伍長北川丞、作江伊之助、江下武二三

氏の爆破當時の模型である。

【明治天皇久留米行在所址】〔指定史蹟〕 驛の東二軒半

市内南薰西町京塚の南薰尋常小學校構内にあり、講堂

の南に連なり、明治四十四年十一月陸軍特別大演習の

際、同月十五日小休所となし給うた處で、舊規よく存

し素木の卓子等が保存されて居る。

【高山彦九郎墓】 驛の東二軒、市内寺町の遍照院境内

にあり、自動車の便がある。

碑の前面に「松蔭以白居士」、左右に「寛政五年癸丑

年六月二十七日」及「生國上州新田郡細谷村高山彦九

郎正之墓」と刻する。四時香煙縷々として立ち、簡素

閑雅の靜域を占めて居る。

彦九郎は寛政三奇士の一、志の成らざるを慨いて、

櫛原村森嘉善宅に於て自刃しこゝに葬られた。その自

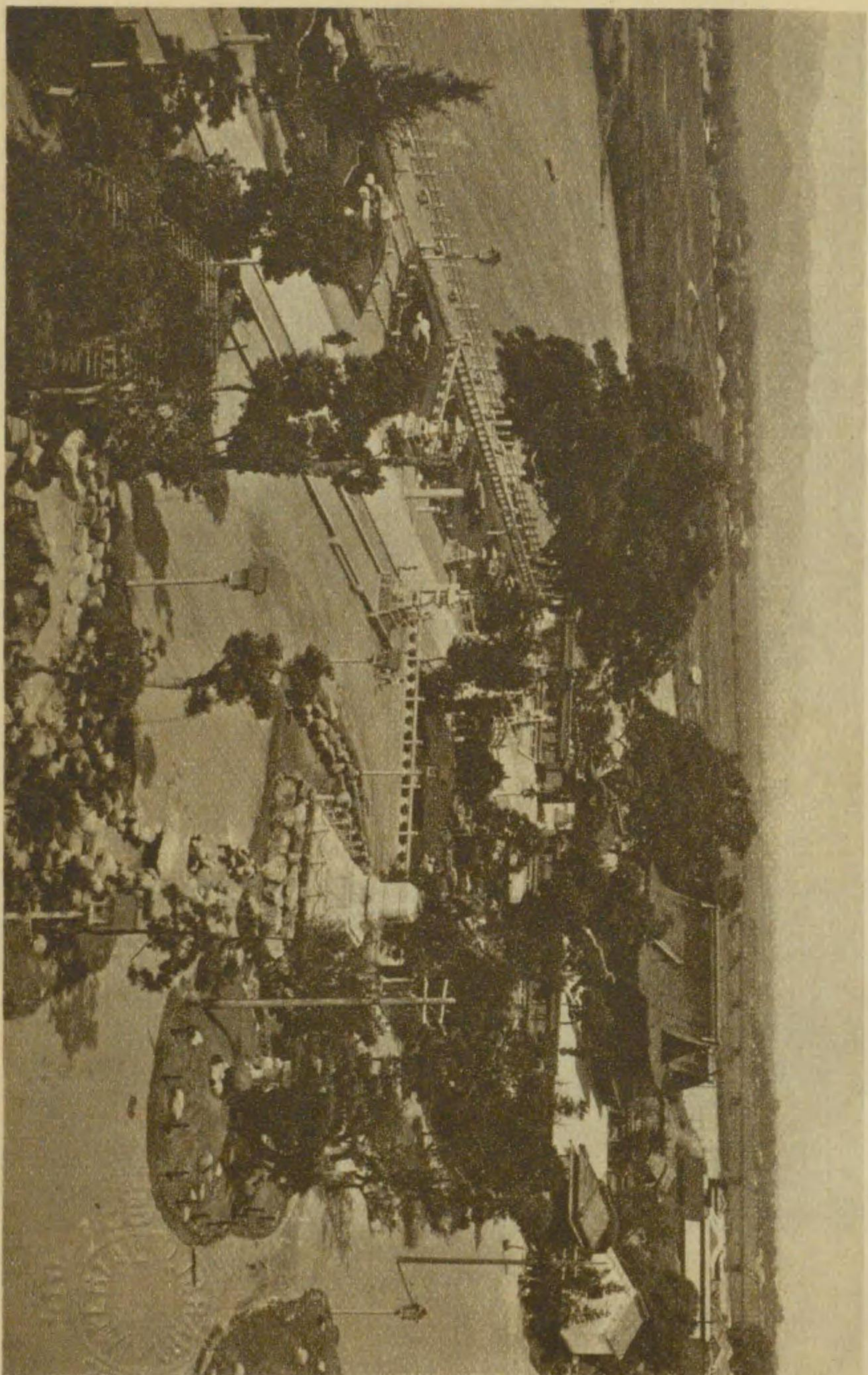
刃地は墓の東北三〇米、今の東櫛原町市立商業學校の

正門前で、檜樹を植ゑ「高山彦九郎終焉地」と刻んだ

碑が建つて居る。

墓の後方に瓢箪形の石標があり、酒瓶が多く供へて

あるが、これは西道俊の墓で、酒癖と齒痛に利益あり

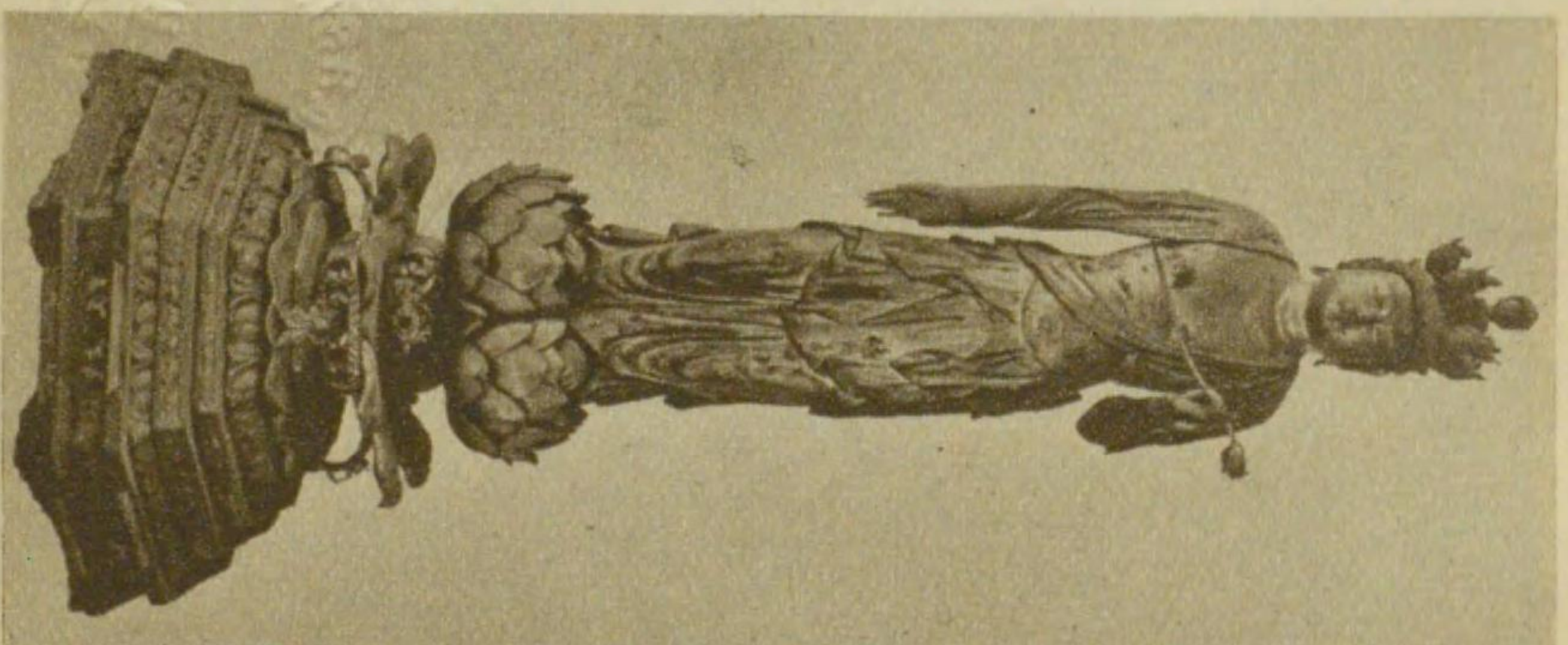




善導寺善導大師像



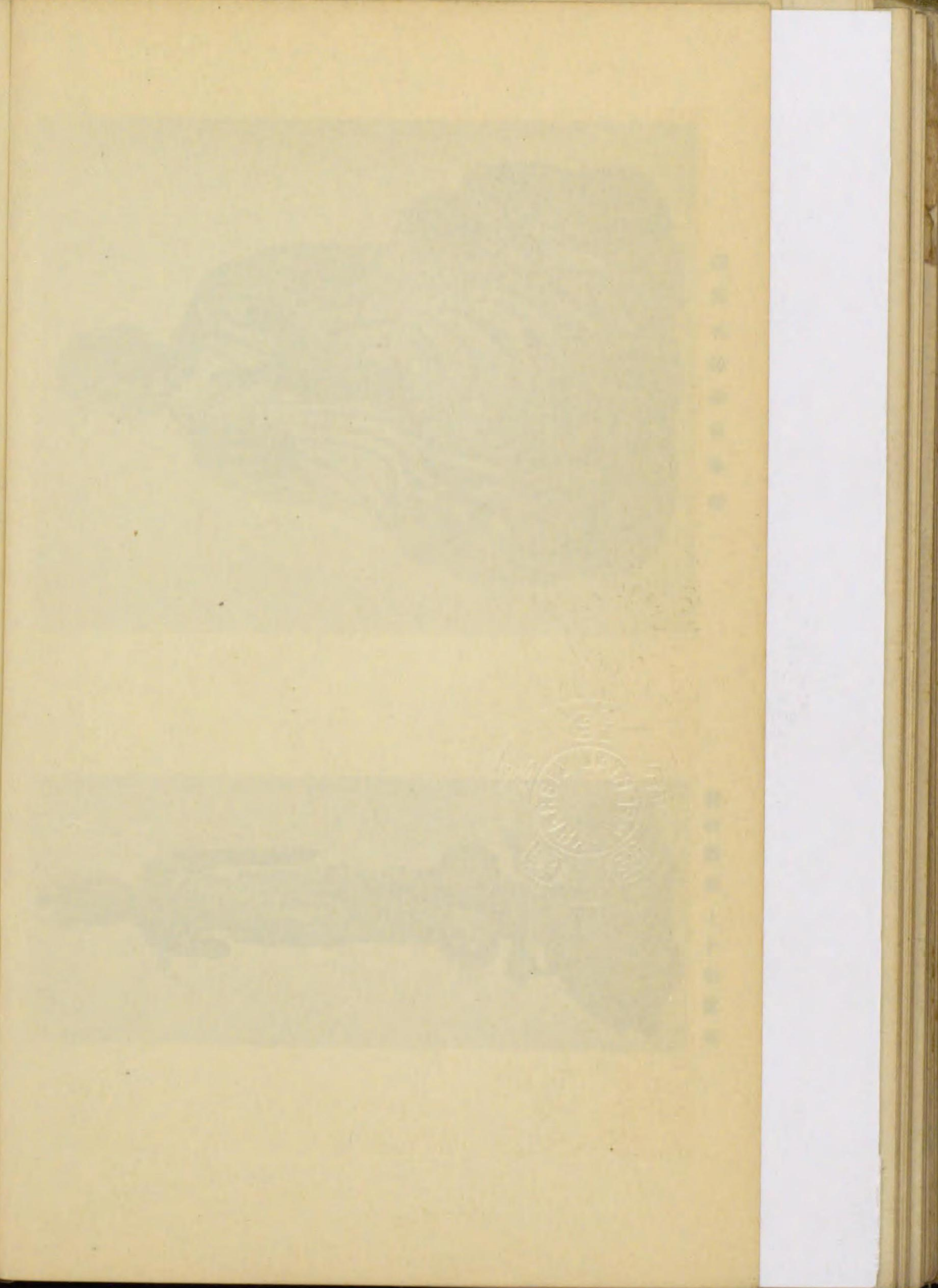
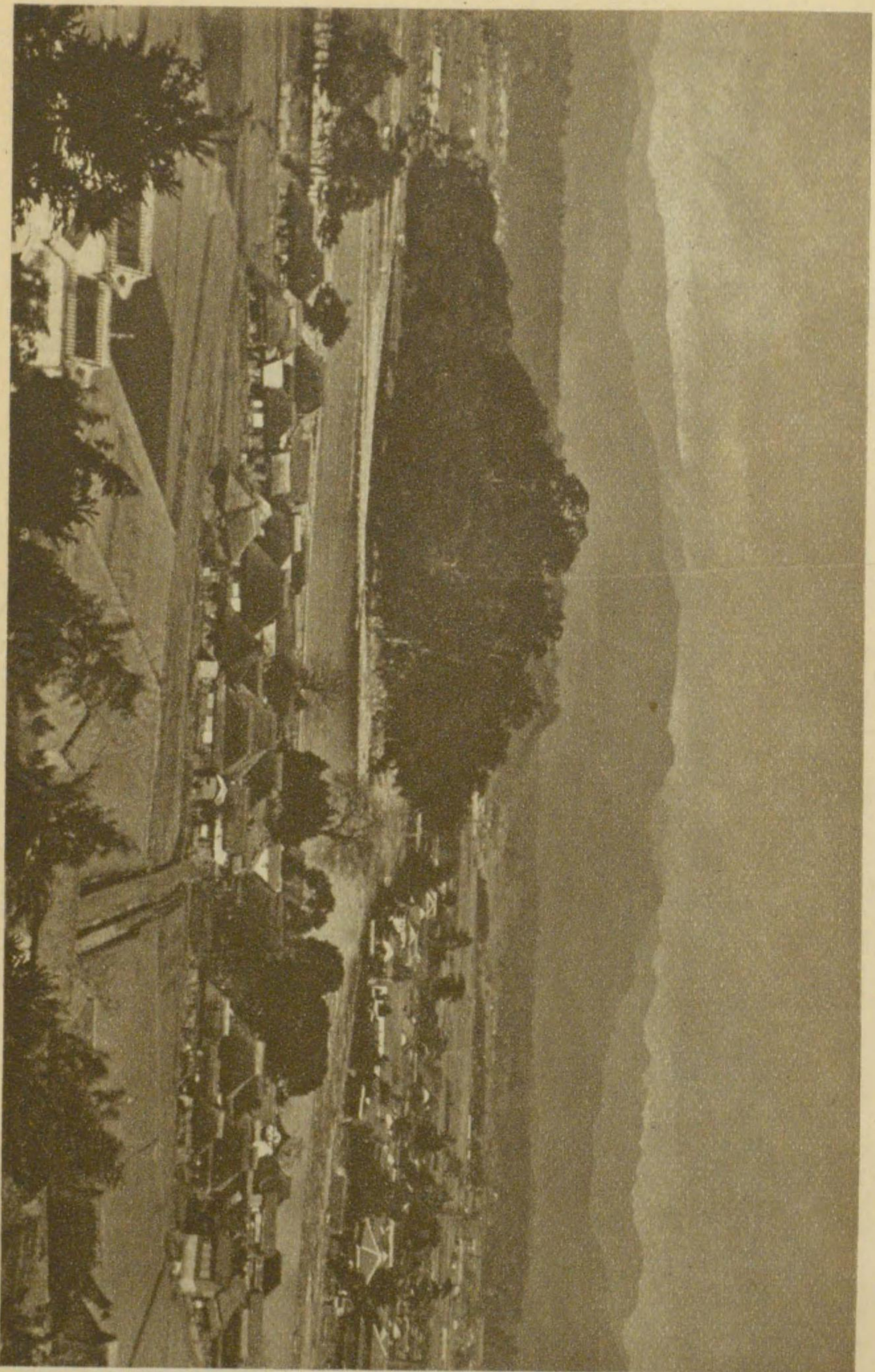
水興寺一觀音像



THE UNIVERSITY OF CHICAGO  
JAN 11 1911

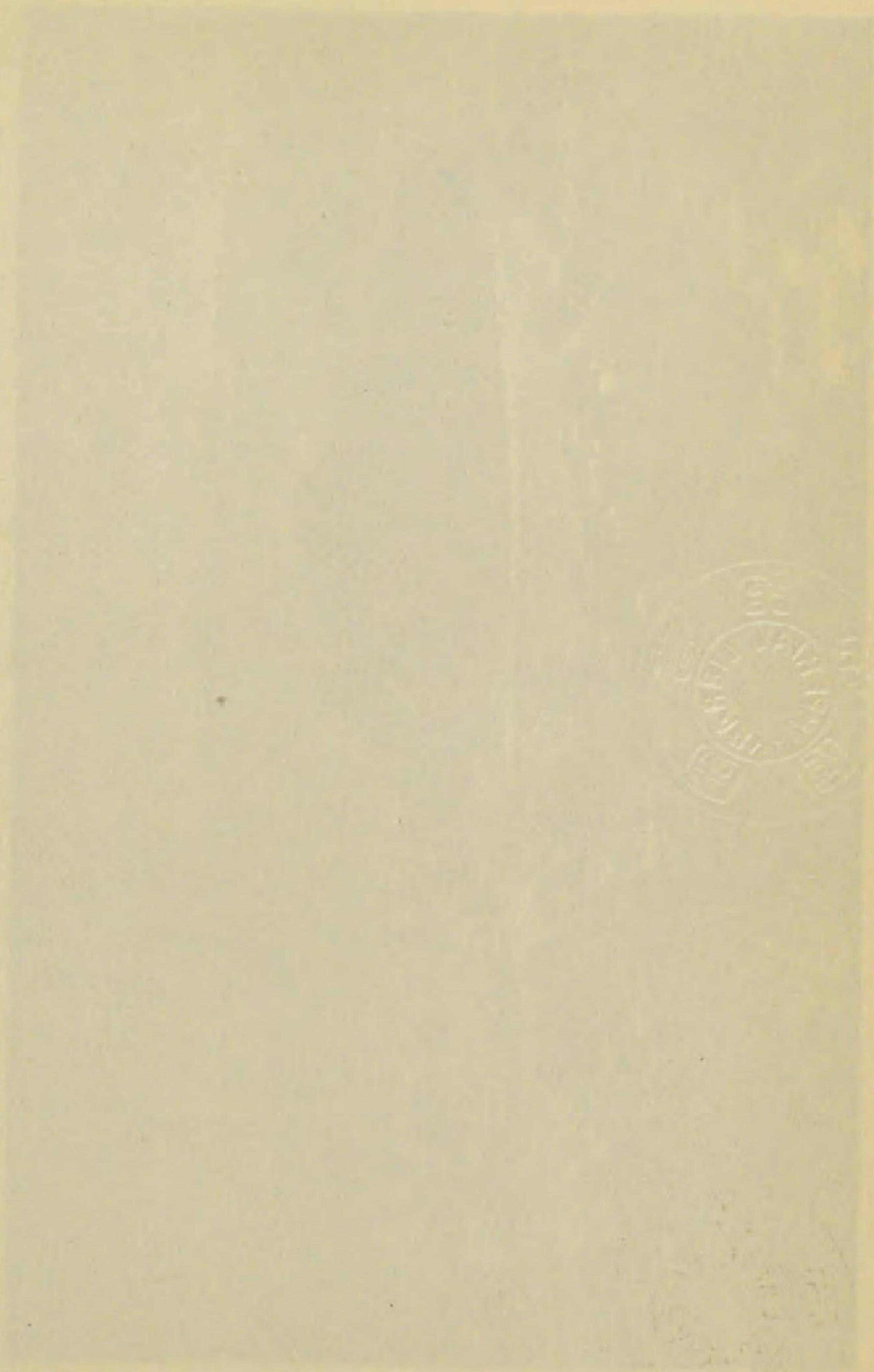
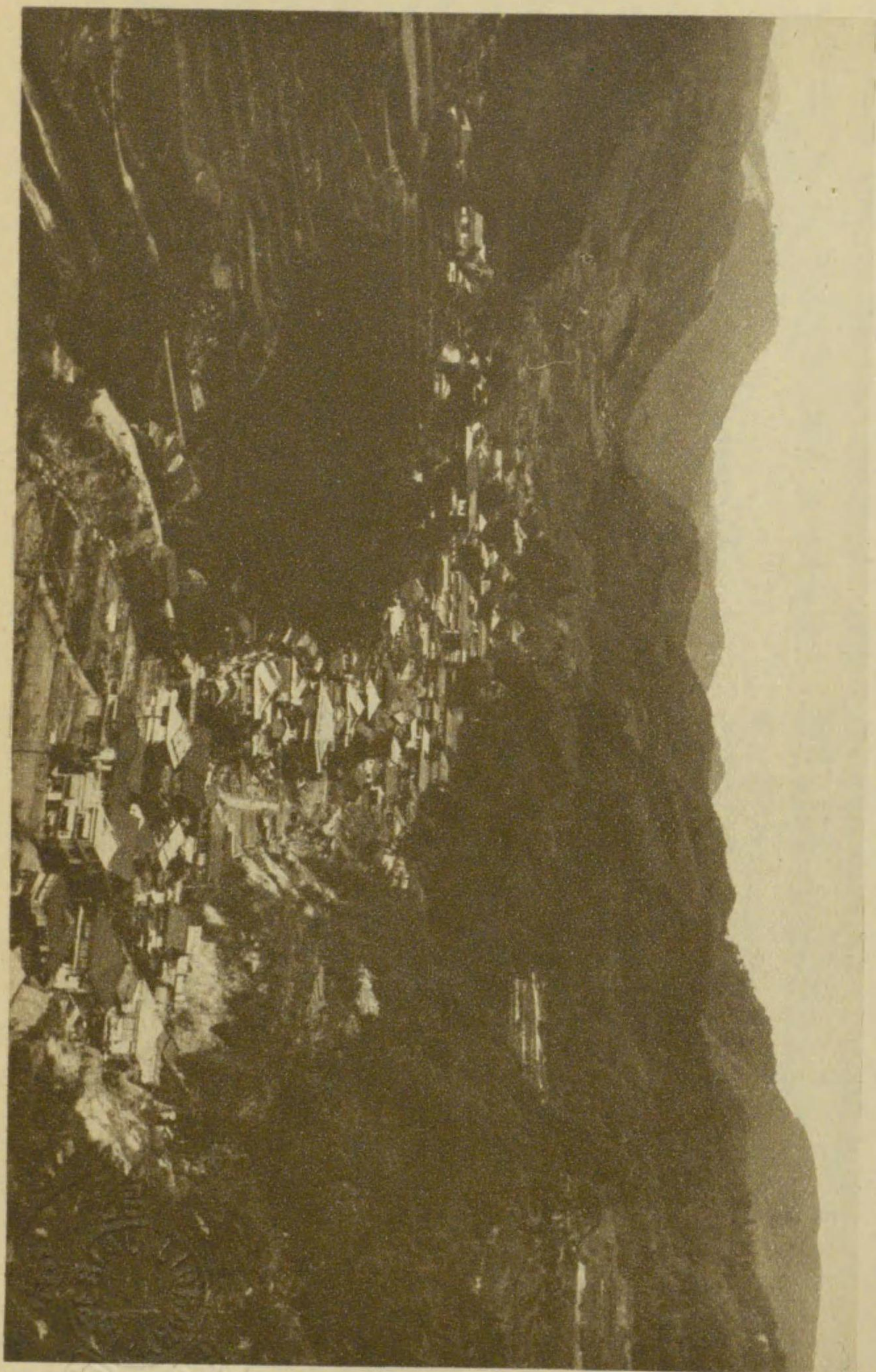


田 日 郷 水





湯 平 温 泉





との信仰により参詣者が多い。

道俊は長崎の儒者で高山彦九郎と志を同うし、親交があり、彦九郎を慕うてこの地に來り、その死を知つて己もその墓前で自刃した。

【無量寺】〔淨土宗〕驛の南約二軒半、市内本町にあり、本堂安置の阿彌陀如來立像は國寶に指定されて居る。木造にして高さ約三尺、姿態頗る秀麗、兩手を胸前にあつめ、上品中生の印を結んで居る。温秀な面貌と優美な刀法はよく藤原時代の特徴を示して居る。

境内庫裡裏に大樟樹があり、幹圍十米に及ぶ巨木で天を被うて聳えて居る。

【井上傳子墓】驛の東二軒、寺町徳雲寺境内にあり、自動車の便がある。傳女は幼より機織を業とし久留米を發明した人で、明治二年八十二歳を以て歿した。

寺内は幕末の志士久徳與十郎重元以下十士切腹の地で「十志士終焉地」の碑がある。

【明治天皇小森野御野立所址】〔指定史蹟〕驛の東約二軒半、市内東櫛原町小森野放水路に臨んだ處で、記念

久留米大分間

碑が建つて居る。明治四十四年十一月の特別大演習の際の御野立所である。この他福岡縣下に於いて八女郡岡山村室岡及同郡下廣川村藤田の兩御野立所址等が史蹟に指定せられて居る。

【宮陣神社】驛の東約二軒半、市外宮ノ陣村筑後川放水路の堤側にあり、自動車の便がある。

懷良親王及良成親王を祀り、境内に懷良親王手植の梅があり、將軍梅と稱し、今尙芳香を放つて居る。

懷良親王は後醍醐帝の第十六皇子、征西將軍として菊池、新田、五條の諸將の兵を率ゐ給うて、賊軍と筑後平野に戦ひ、この地に陣せられた。宮の名もそれに起因するのである。社の北數百米の宮ノ陣村五郎丸の青田の中に五萬騎塚がある。大保原合戦の戦没者の屍を埋めたものと云ふ。

【五穀神社】驛の東南三軒、九州鐵道久留米驛の直ぐ南にあり、驛から自動車の便がある。寛延二年の創建で筑後の大義人稻次因幡を祀り、五穀豊穰を護る神として大衆的尊崇が厚い。境内廣く櫻樹泉石を配し、公



園となつて居る。

稻次因幡は久留米藩國老で、享保の凶作に際し藩主の怒を受けてもなほ赤誠藩主を諫め、農民の一揆を鎮めた人である。

こゝは七月十七日から五日間篠山町祇園丁の祇園社の頓宮となり、賽者雑踏する。

社から高良山に向ふ國道筋久大線踏切の附近に十數本の杉並木があり、千本杉と云ふ。千本杉は寛永年間の植樹で、もとは晝尚暗き並木が連続して居たが、漸次枯滅して今十數本を残すのみである。

【三勇士記念館】 驛の東四軒、工兵第十八大隊營庭にある。鐵筋コンクリート造平屋の小建物に上海事變の爆彈三勇士の着衣類、携帶品及日常用品や廟巷鎮模型等を陳列公開して居る。

【高良山】 驛の東南六軒、市外御井町にあり、山麓まで自動車の便がある。山麓から頂上まで登路約二軒である。一名不瀧山、または高牟禮山と稱し、標高は三三三米で低い、平野の中に屹立し、山頂からは沃野を俯

瞰し、西南遙かに有明海が望まれ、洋々たる筑後川の流を指呼して眺望が佳い。

水繩連山最西端の峯で、山姿幽雅に史實に著名で、櫻樹も多い。山頂に近く高良神社鎮座し、その背後には周圍二軒にわたる神籠石がある。こゝから東への峯續きの發心山(六六米)、鷹取山(八三米)などの連山を縦走するのも興味がある。

【高良神社】 「國幣大社」 高良山にある。祭神高良玉垂命は神功皇后三韓征伐の際に、大に威烈を輝かし、干満二珠を皇后に授けて新羅を攻順はしめることが出来たと云ひ、創建は履中天皇御宇に在りと傳へ、延喜の制名神大社に列し、筑後の一宮であつた。吉野朝時代征西將軍懷良親王こゝに陣し給うた事がある。

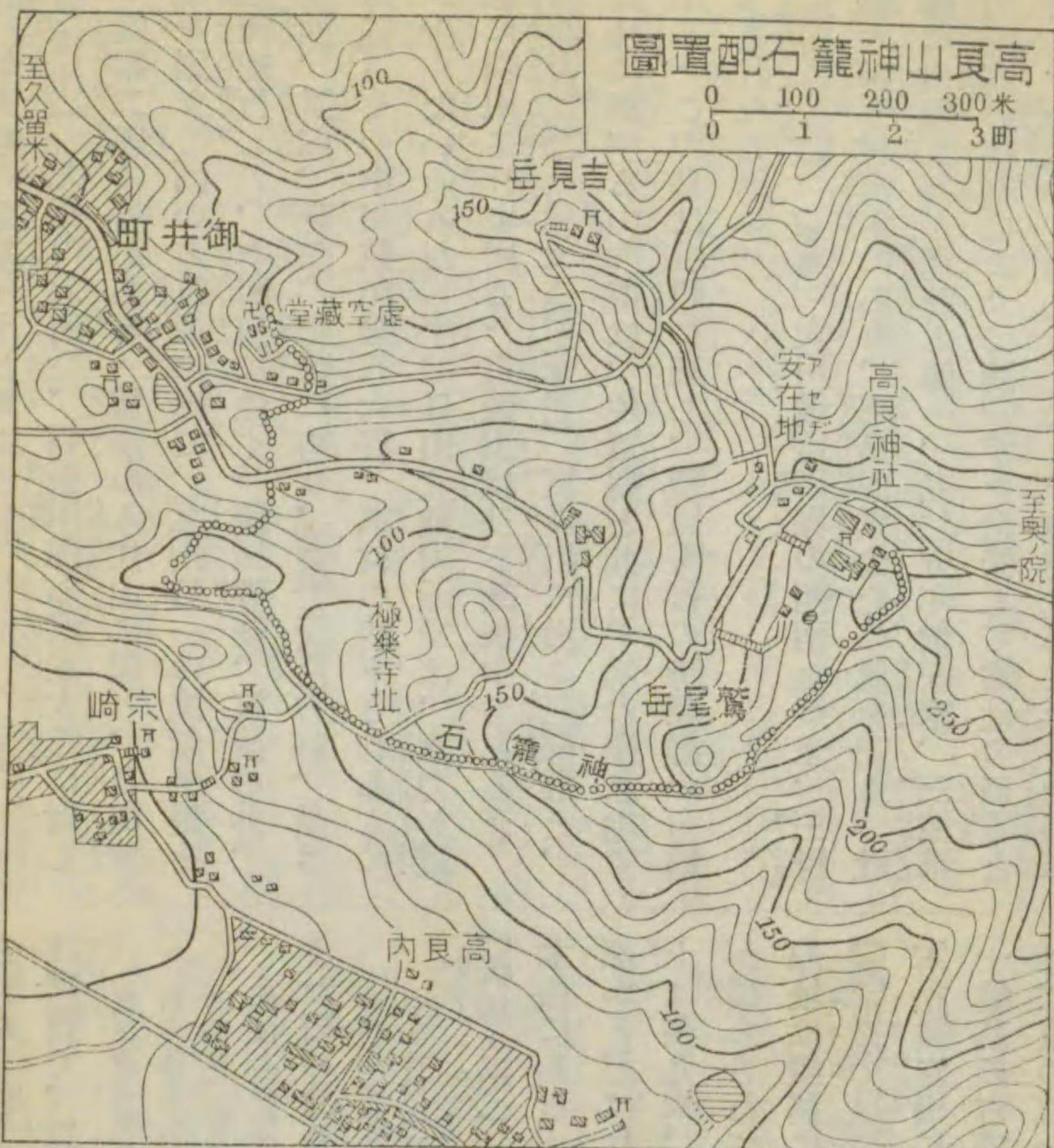
寶物

一平家物語 「國寶」 紙本墨書

十二冊

楮紙の冊子、第十二冊の奥書に應安三年十一月廿九日佛子有阿書とあり、灌頂卷の末に應安四年の覺一の奥書があるが、室町中期覺一本の傳寫である。

【高良山神籠石】 高良神社背後の山腹に切石を一系列に



並列して環狀に繞らした遺址で、本殿の後方に列石の一端現はれ、延長一、五〇米、更に北部の推定線を加ふれば二、五〇米に達し、略々圓形を描いて山腹を周匝し、神社西方の虚空藏堂に終つて居る。石は大部分山中に産する岩石にして長さ多く一米内外で高さ平均六〇糎、正面及外側面を琢磨し、上面また多少加工の形跡を存し、下部は自然の儘に地中に埋めて居る。列石のうち間々、母岩を以て代用し、その上面を等しく削平して高さを揃へて居る。列石は南、北兩處に於て溪流を横斷して居るが、南谷に於いて昭和五年水門址の埋没したものを發見した。糸島郡雷山等に存するものと大同小異の遺址で、上代に築造せられた一種の城



岩の如きものであらうと云ふ。

【筑後川】九州の大河で、利根川即ち坂東太郎に對して筑紫二郎の名がある。豊後の久住山に起り、日田盆地を過ぎて西の方筑後に出で、九州第一の筑紫平野を緩流蛇行して、有明海に注ぐ。流域豊後、筑後の外、豊前、筑前、肥前、肥後に跨り、面積三八五方料、長さ一四料、その中航距離八六料、木材の流下されるものが少くないのみならず、日田盆地附近では、水力が發電に利用されて居る。筑後川は目下改修中である。【鵲棲息地】〔指定天然記念物〕筑後川に沿ふ三潞郡と、これに接する山門郡は、佐賀縣と共に、鵲の棲息地である。この鳥は鴉科に屬し、豊臣秀吉の時朝鮮から輸入されたと云ふ。

【玉垂神社】〔縣社〕大川鐵道御塚の西南三〇米、三潞郡大善寺村宮本にあり、高良玉垂命その他を祀る。社傳に白鳳元年の創建と傳へ、弘仁五年僧安泰、三池郡司師直の傳奏によりて諸堂宇を造營して當社の別當となし、大善寺と稱したと云ふ。建徳元年には征西將軍

内湟の土壘からは埴輪土偶頭部二個が発見せられて居る。環湟を二重、三重に環らした圓形古墳は、類例の現存するものが比較的乏しいものである。

【床島堰】九州鐵道甘木線大堰驛の東二料、久大線田主丸驛からは西北四料、大堰村床島にある。筑後川の堰中最大のもので中御門天皇の正徳二年に築かれた。水路の延長一五料約三十萬アールの田畝に灌漑して居る。傍に床島堰碑及築堰の功勞者高山六右衛門を祀る。大堰神社があり、附近は螢の名所として有名である。

【岩戸山古墳】九州鐵道吉田の西北半料、長峰村吉田の長峰丘陵上に西面した前方後圓墳で、外圍に土壘あり、その内側に環湟を有し、南方の一部は道路開鑿のため土壘も湟も痕を留めない。長軸三三米、後圓部高さ一四米、頂上に大神宮社がある。後圓部の東北に續いて方形の平坦なる小區域が附屬して居るのは異例である。墳丘及土壘上から埴輪圓筒が発見され、また石人、石盾等が多く發見せられたが、更に大正十三年に多數の石人、石盾、石馬、齋瓮等が南方の祠堂の邊か

宮社殿を修造された。社寶の絹本着色玉垂宮緣起二幅は國寶で、箱蓋表に左の刻文がある。

筑後國三潞庄鎮守高良御廟院大善寺玉垂宮緣起事、右緣起者正法明如來降生之靈場玉垂大菩薩垂跡之社壇也、然後村上天皇御子當今御治世也、征西將軍宮鎮西御座之時、經奏聞終其功者也、草創之昔雖畫像之緣起依令破損憑貴賤合力所令書改也、仍狀如件  
また箱の身の底に左の文を刻して居る。  
建徳元年庚戌十二月十三日、大勳進阿闍梨道意、大檀那肥前三郎武安筆者權律師永快

【御塚古墳】〔指定史蹟〕同御塚の北、大善寺村宮本一本松にある。鬼塚と稱せられ圓墳であるが、一見前方部かと思はれる短くして略方形の造出しがある。封土は徑九米、高さ一〇米を有し、周圍にもと三重に湟が環らされてあつた様であるが、今埋められて南方の湟址は鐵路に横切られ、内側の湟のみが遺存して居る。【權現塚古墳】〔指定史蹟〕御塚の北に接して並び、一本松彼岸田にある。御塚と共にもこの地にあつた四十餘基の古墳群の一である。圓形で高さ各々九米、内外二重の湟なほ遺存し、各湟の外側には土壘がある。

ら出土した。石人は扁平なるもの及圓體なるものと二種類あり、赤色顔料の塗抹されたもの、背面に靱を負へるもあり、頭部に美豆良を結び、腰に刀を佩いた扁平石人は夙く東京帝國博物館に收藏せられてある。石盾に靱を浮彫にしたものは東京帝國大學理學部と、福岡縣三潞郡大川町縣社風浪神社とに藏せられてある。また石壺その他の異形のものも存し、大多數は社殿の傍にある小建物内に集められて居る。長峰村吉田の邊から石人山の在る下廣川村一條の邊に至る地域は從來人形原と呼ばれ、釋日本紀所引の筑後國風土記の文に見ゆる筑紫國造磐井の故蹟と傳へ、この古墳を以てその墳墓であらうと説いて居る。

【乘馬(場)古墳(奈良山古墳)】〔指定史蹟〕道路を隔てて岩戸山古墳と相對し、長峰丘陵の最高所に築かれた前方後圓墳である。前方部は西面してその上に墓地がある。後圓部にある石室は前後二室より成り、兩室共壁面に同心圓、三角形等を朱、白、緑の三色を用ゐて描き、奥室の奥壁には朱色の細い線を以て描いた靱の



圖象がある。靱は上段、下段各々形態を異にしたものを描き、傍に同心圓の重圈紋が數個添へられて居る。この古墳からは埴輪圓筒破片が発見せられた。

久大線は久留米を出て暫く鹿兒本線と並び市街地を抜け、九州鐵道と立體交叉して東に折れ、それより南久留米四軒六、御井三軒一を経て、筑後川流域の沃野を東進して善導寺四軒六、筑後草野三軒一、田主丸五軒一、筑後吉井五軒六、筑後千足三軒六、筑後大石三軒、夜明六軒を過ぎる。やがて福岡縣から大分縣に入り光岡六軒一を経て日田二軒四に著く。

【善導寺】〔淨土宗〕善導寺驛の北約一軒、三井郡善導寺村飯田にある。

當寺は建久二年、淨土宗第二祖大紹正宗國師（辨阿上人）の創建にかゝり、當時子院三十六坊を有し、法運頗る隆盛であつた。然るに吉野朝以後屢々兵燹にかり衰微を重ね、江戸時代に入り徳川氏より朱印を賜ひ、或は久留米城主有馬氏の歸依を得、稍々舊觀を復

大紹正宗國師坐像

〔國寶〕木造彩色高さ二尺四寸、兩手で珠數を爪操れる姿を現はした像で、刀法銳利肉付の逞しい寫生的表現に富んだ作である。胎内に文龜四年三月廿六日の墨書銘がある。正宗國師は當寺の開祖にして我が國淨土門の第二祖、淨土宗鎮西派の祖である。

【觀興寺】

〔曹洞宗〕善導寺驛の南一軒半、三井郡山本村耳納にある。地頭草野氏の創建と云ひ、天正年中兵燹に罹り、後、再建された。寺寶の觀興寺緣起二幅は絹本着色、各三幅一舗の大幅で、本尊觀世音菩薩の緣起を描いた鎌倉時代末期の作で、國寶に指定せられて居る。

【專念寺】

〔淨土宗〕筑後草野驛の西南半軒、三井郡草野町草野にある。天福元年の創建で、のち荒廢したのを地頭、草野太郎家清再興し、清嚴上人を中興開山とした。本堂は華麗で九州日光の俗稱あり、本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は木造、漆箔の玉眼入、高さ三尺二寸一分、鎌倉時代の作にかゝる。

するに至つた。現に本堂、釋迦堂、三祖堂、三門、鐘樓、經藏、書院等を具備して居る。

本堂 江戸時代の再建、七間八面、單層、屋根、入母屋造、棧瓦葺、素木造にして桷組は和様二手先を用ゐ、本尊阿彌陀如來像を安置して居る。

釋迦堂 昭和年間の再建、五間五面重層入母屋造、本瓦葺の建築である。正面中央柱間の長押上に嵌装された幕股は桃山時代のもので蓮華唐草の彫刻がある。

三祖堂 三間三面、屋根寶形造、本瓦葺、明治年間の建築にして、堂内須彌壇上の厨子内には中央に善導大師、向つて左に正宗國師、右に法然上人の坐像を安置して居る。

善導大師坐像 〔國寶〕木造彩色、高さ約二尺四寸、曲線に寄れる坐像で、口を少し開き、合掌姿を現はして居る。面貌寫實味に富み、衣文の彫みは頗る豪放である。鎌倉時代の作で胎内に文龜二年の修理銘がある。善導大師は唐の高僧淨土門の開祖で、我が法然上人はその法脈を傳へたものである。

草野町には草野夫婦木、吉木下馬場、吉木東等に裝飾古墳が存する。

【發心山(草野公園)】 筑後草野驛の南一軒、草野町の南部にあり、水繩山脈の中の一峯である。山頂は草野城址で、筑後平野と筑後川の流を瞰下される。山麓は草野公園となつて居る。園内櫻樹頗る多く、萬花開く所溪流貫き走りて風景が佳く、筑後嵐山の稱がある。

附近の祇園神社は建久八年の創祀で社殿宏壯である。【日岡古墳】〔指定史蹟〕筑後吉井驛の東北二軒、浮羽郡千年村若宮、縣社八幡神社境内にあり。社殿の東に横はり、西面する前方後圓墳で長軸八五米を有し、前方部高さ三米餘後圓部高さ四米あり、後圓部にある石室は西南方に羨道を通ずるが、入口は閉鎖し、天井石が支室底部に墜落して封土の頂部から室内に降る事が出来てその上に覆舎と開閉戸の設備がある。石室は長さ約四米、幅二米半、羨道部の方狭まりて平面稍々橢圓形に近く、奥壁は一枚石で小形の割石を用ゐて周邊を補ひ、且せり持ちの架構を示した天井石の一部が殘



存する。左右壁は割石を用ゐる表面を削平して奥壁に續く兩隅は壁面曲線を作り、石室全體巧妙な穹窿を構成したのが尙窺はれる。室内の壁面殆んど凡てに描かれた彩畫模様は考古學、美術史の資料として甚だ珍重すべきもので、夙くより學界に著名なものである。

奥壁 彩畫は高さ幅各々約一米八〇厘の大きさを有する石面の下部を除いた全面に描かれる。朱、黄、緑、白の各色の顔料を用ゐて大形の重圈紋を三箇宛上下二段に並列して描き、その間に一種の蕨手、三角形等が配せられ楕形も描かれて居る。全面の色彩比較的鮮明に、色の異つた顔料を交互に塗り分けて居る。

左右兩壁 割石積の壁面に、草色、白、朱、岱楮等の顔料を用ゐ、奥壁と略々同じ要素から成る模様が殆んど全面に描かれて居る。唯兩壁共奥壁寄りの下部に描かれてない部分のあるは、奥壁の下部と同じくこの場所に棺等が安置せられたためであらう。奥壁に向つて右方の壁面は三角繫（鋸齒紋）と重圈紋とを主としてこれに一種の蕨手紋を配し、また動物形が見える。

向つて左壁面は三角形、重圈紋及蕨手紋を主としてその他一種の動物形とも見るべきもの、二三の楕形等が描かれて居る。尙、殘存して居る天井石の隅には斜行平行線が描かれて居る。

羨道兩壁及天井 朱と草色を用ゐ、三角形の連続した鋸齒紋を主とし、なほ横線、楕形、重圈紋が描かれて居る。

この壁畫は明治二十一年坪井正五郎博士の發見に係るが、輪廓比較的鮮明によく色調の保たれたるものあるは、これ以後に發見せられた裝飾古墳に於ても殆んどその比を見ない。

【月岡古墳】 日岡古墳の西方二〇〇米、八幡神社境内社務所の後方にある。長軸約九四米、西面した前方後圓墳で埴輪圓筒あり、後圓部の頂上に社殿設けられ、内部に石棺が置かれて居る。文化二年の發掘にかゝり、石室は凡て解除せられ、石棺のみを墳上に遺存したもので、長さ三米に近く幅及高さ一米餘、安山岩家形の組合せ式のものに屬し突起八箇を有して居る。當時棺

内から玉類、刀劍、鏡鑑等を、棺外から武器類多數を出し、甲冑八領、携帯用砥石等があつたが今多く散逸して、兜、鏡四面、直刀、鐵鏃、裝飾金具殘片等を神社に所藏して居る。兜は金銅裝鐵製で、前庇を有する優秀なる製作のものに屬する。

【山田堰】 筑後吉井驛の北三軒、筑後川の流惠蘇宿に在り、寛文三年森長兵衛、黒住五郎左衛門等、筑水を引いて灌漑に便するため、一大石堰を築いて樋門を惠蘇宿の八幡社前に設け堰渠を開鑿した。享保、寶曆兩度に川奉行の改修を経、附近田野を濕して居る。

【觀音寺（普門院）】 「眞言宗大覺寺派」 筑後吉井驛の東北四軒、朝倉郡志波村里城にあり、自動車の便がある。天平十九年行基の創立と傳へる寺で、本堂は方三間單層、屋根寶形造、本瓦葺で、和様の構造に唐様の細部を折衷したもので、鎌倉時代中期の建築にかゝり國寶に指定されて居る。本尊十一面觀音立像は木造漆箔の像で高さ五尺二寸八分、平安時代の作にかゝり國寶である。

【圓清寺】 「曹洞宗」 筑後吉井驛の東北約四軒、朝倉郡志波村にあり、もと金應寺と稱した古寺である。寛正中洪水のため境内崩壊して一時廢寺となつたが、慶長十二年黒田孝高の臣栗山利安、主孝高のため新に一字を建立し、圓清寺と云つた。寺内に利安の墓あり、寺寶の朝鮮鐘は非常に精巧な裝飾文様の施されたのが特徴で、高さ三尺三寸八分、國寶に指定されて居る。

【隱家森】 「指定天然記念物」 筑後吉井驛の東北三軒、朝倉軌道志波驛下車、朝倉村山田字丑天神にある。一株の樟にして、目通幹圍約一八米、上部より五大枝を分出し、枝條四方に擴がり、樟の巨樹として有數のものである。

【原鶴温泉】 筑後吉井驛の東北約四軒、筑後川の北岸にあり、自動車の便がある。鹽類泉で皮膚病、胃腸病、リウマチス、腺病などに効くと云ふ。旅館 小野屋、六峯館、原鶴館、泉屋。

【朝倉宮址】 筑後吉井驛の西北七軒、朝倉軌道平松の東北約一軒、宮野村須川にある。齊明天皇七年天皇親



ら百濟救援の軍を督して筑紫に下り、行宮を営み給うた朝倉、橘、廣庭宮がこれで、この地をその舊址と傳へ記念碑が建つて居る。尙、朝倉村山田惠蘇には木丸殿舊址の碑がある。

【楠名重定古墳】〔指定史蹟〕 筑後千足驛の東南一軒、浮羽郡御幸村朝田にあり、圓墳二基小徑を距て、東西に相並んで居る。各、羨道を入りて前室及奥室の兩室から成る石室を有して居る。東墳には奥壁から水平に突出した棚石があるが、顯著なものはこれに描かれた壁畫である。

東墳 奥室の向つて右側の壁面には朱で上下二段に靱の圖象を並列して描いて居る。現今十四個認められるがその他は磨滅して分明しない。靱には柄を表はしたと思はれる蕨形圖象が添へられて居る。この圖象は文政年間久留米藩士矢野一貞、村上量敏が「宮田石窟朱象圖考」にその寫生圖を公にして平田篤胤等學者論議の的となつたものである。尙兩室を境して居る左右から挺出した石材には、向つて左側の石面に同じ様な

圖象が一個朱描きされて居る。

西墳 石壁に一面朱を塗抹して居るのみで、圖象等は見られない。

【塚花塚古墳】〔指定史蹟〕 楠名重定古墳の東南約半軒、浮羽郡御幸村朝田塚花（塚鼻）の縣道の傍にある。圓墳で、羨道は西に開口し、石室は二室に別れて居る。

玄室の奥壁は高さ二米半、幅二米で、その石面全體に互りて朱と藍の二色を以て蕨形を便化した如き模様を上部に描き、下に大小の重圓、及三角形等を配列し、また楯の如き圖象をも加へて描いて居る。前室入口の柱狀の石材に孔二個あり、扉の設備があつた痕跡を示し、別に扉の臺石と思はれる中央に孔を穿つた方形の石が室内から發見された。出土品には諸種の鍍金金具類、刀身、鐵鏃、玉類、鐵彎等があつたと云ふ。

【長野公園】 筑後千足驛の北一軒、千年村大字櫻井字長野にあり、筑後川を堰く長野水門の前に建つ水神社を中心とする一帯の河岸がそれである。櫻、桃多く、夏は螢の名所である。長野堰はその上流の大石堰と共

に、附近の五庄屋の首唱により寛文四年落成した二大堰で、浮羽、朝倉、三井の三郡に亘り、約二千三百ヘクタールの田圃に灌溉して居る。水神社は明治十五年

西約八軒、南北も約八軒に及び、東に豊後富士、南に阿蘇、北に英彦の諸山聳え、海拔八二米、景勝の地として名高い。

【大石井堰】 筑後大石驛の北一軒、大石村古川にあり、長野堰と共に筑水の二大堰堤である。水門の畔に三堰記念碑がある。碑は文政十年の建立、樺島石梁撰で、二大堰と尙上流山春村三春の袋野匿溝との爲に建てたものである。

【日田町】（二圖はら） 日田驛所在地。日田盆地に位し、周圍に日隈山、月隈山、慈眼山、星隈山等時ち、山紫水明、九州京都の稱がある。幕政の時代には九州政治の中心點、文教の中樞地で、江戸、長崎との交通頻繁であつたところである。町の内外名所古蹟少からず、産物は林産加工品を主とする。人口一萬三千。

【久喜宮村の金明竹】 筑後大石驛の北二軒、朝倉郡久喜宮村寒水字山の神に屬する米山の中腹にある。溪谷の急斜面にある苦竹の藪に散在し、その數十餘米に過ぎないが、最も大なるものは周圍二十二、三裡に及び、石川縣篠原の金明竹よりも遙に大きい。

日田驛 大分縣日田郡日田町

▽乗合自動車 杖立行、熊本行、久留米行、福岡行、守實行、

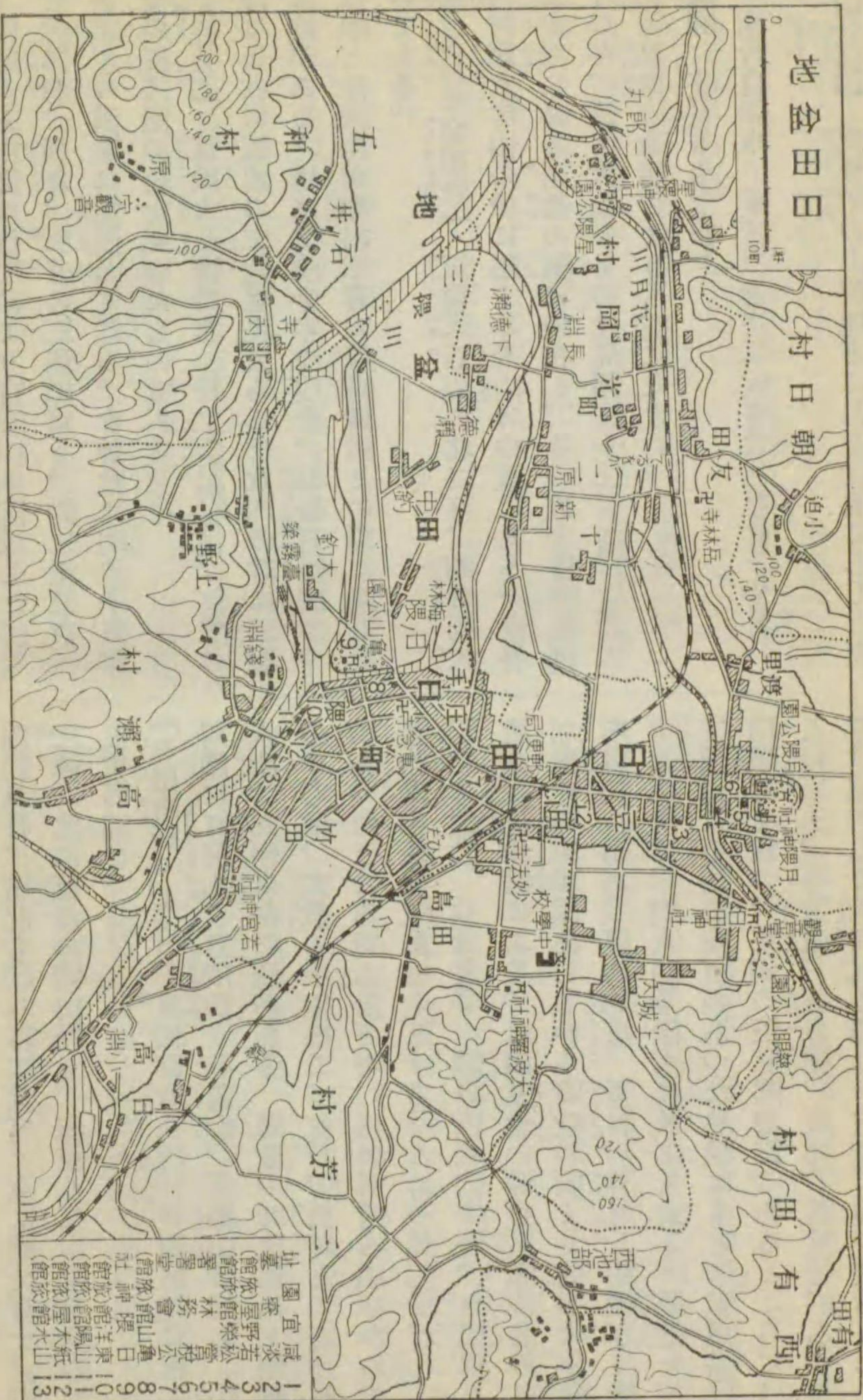
森行

【日田盆地】 筑後川の上流地方にある盆地にして、東

久留米大分間

南熱等を置き、東側の淡窓圖書館のあるところにはもと秋風庵、心遠處、遠思樓、東塾、講堂等があつた所で、總稱して咸宜園と稱した。今舊時の遺構として秋





1-23	(館) 菅野田口
1-24	(館) 菅野田口
1-25	(館) 菅野田口
1-26	(館) 菅野田口
1-27	(館) 菅野田口
1-28	(館) 菅野田口
1-29	(館) 菅野田口
1-30	(館) 菅野田口
1-31	(館) 菅野田口
1-32	(館) 菅野田口
1-33	(館) 菅野田口
1-34	(館) 菅野田口
1-35	(館) 菅野田口
1-36	(館) 菅野田口
1-37	(館) 菅野田口
1-38	(館) 菅野田口
1-39	(館) 菅野田口
1-40	(館) 菅野田口
1-41	(館) 菅野田口
1-42	(館) 菅野田口
1-43	(館) 菅野田口
1-44	(館) 菅野田口
1-45	(館) 菅野田口
1-46	(館) 菅野田口
1-47	(館) 菅野田口
1-48	(館) 菅野田口
1-49	(館) 菅野田口
1-50	(館) 菅野田口

風庵及書庫がある。庵は東西八間半、南北三間半、草葺二階建、天明元年淡窓の伯父月化が建てたもので、後、長春庵、春風園、東屋、和肅堂等と改稱したがまた初名に復した。安政三年淡窓七十五歳を以てこの庵に歿した。書庫は瓦葺、二階建、土蔵造である。尙淡窓の墓所長生園は驛の北三〇米、工藝學校附近にある。

【慈眼山】 驛の東北一軒、日田町豆田下城内にある。一に鷹城山と云ひ松樹鬱茂し、山容極めて古雅な丘陵で、花月川に臨み眺望の廣い勝地である、丘上の松林中に日田、宇佐、國東地方に水利を興して新田を開き、民政に貢献した日田代官鹽谷大四郎の碑石がある。

【永興寺】 「淨土宗」 慈眼山にあり、その觀音堂は丘上景勝の地を占め、右手に月隈、左手に日隈、西方遙かに星隈を望み、堂内には左の古佛像を安置して居る。

十一面觀音像 「國寶」 木造漆箔、高さ約三尺左手を胸側にあげて水瓶を持ち、右手を垂れて、稍々腰を捻り、右足を少し踏み出して立つて居る。面貌慈悲相に

富み温雅な相好を現はして居る。寺傳には惠心僧都の作と稱して居るが鎌倉初期のものと思はれる。

兜跋毘沙門天立像 「國寶」 木造彩色高さ約七尺、寶冠を戴き右手を腹に當て、左手に寶塔を捧げ、女子の兩手の上に立つて居る。京都鞍馬寺の兜跋毘沙門天立像と同一形式で平安時代の作と思はれるが、稍々力に乏しい。

毘沙門天立像 「國寶」 木造彩色、高さ約五尺、藤原時代の様式を示して居る。胎内に「文治三年五月二十八日大藏永秀生年三十五」とある。

毘沙門天立像 「國寶」 木造彩色、腰を捻り、夜叉を踏み鈍重な姿態を示して居る。藤原時代の作と思はれる。

四天王立像 「國寶」 木造彩色、高さ何れも約三尺、廣目天を除き何れも夜叉を踏んで立つて居る。姿態變化に富みよく鎌倉時代の特徵を現はした優秀な作で、多聞天と持國天の胎内に次の墨書銘がある。「元亨元年辛酉年十月十七日南都興福寺大佛師法眼康俊作小佛



師息康成俊慶

【日田神社】 慈眼山の麓三芳村にあり、永興寺境内に接す。日田郡司大藏太夫永季を祀り、相撲の神として角界に有名である。永季は後三條天皇の延久三年天覽相撲にて、銅頭鐵額の出雲小冠者に勝ち、爾來康和元年まで節會に召さるゝこと十三度、一敗もしなかつたと云ふ。墳塋の地は大鶴村鶴河内鰐部落を距る南方五〇米餘の小山嶺にある。

【月隈公園】 驛の北一軒、日田町北豆田にある。俗に城山、丸山、永山と稱され、丸山城、永山城のあつた所で、歴代代官の城地であつた。日隈山、星隈山と合せて日田三丘と稱され、老杉古樅繁り、風色翳すべく、山上に月隈神社を祀る。路傍にある二十有餘の横穴は土蜘蛛種族の遺跡と傳へられるが、日田の國造鳥羽宿禰または豪族日下部一族の古墳であらうと云ふ。こゝから出た枯骨を埋め、中腹に歸宅碑を建て、ある。碑銘は當地の儒者廣瀬淡窓の撰である。

【大波羅宮】 驛の東七〇米、三芳村にある。息香魚が跳り、漁人皆手に箆を持つてこれを掬ひ、頗る壯觀を呈する。最好季は八月である。

【鵜飼】 驛の南六〇米、錢淵橋を中心として、東は樽見、黒岩附近、西は龜山公園下に至る三隈川で行はれる。月明の時を避け暗夜を選び、數隻の鵜舟は舟毎に篝火を焚き、八羽の鵜は鵜匠の心の儘に水中を漁り、頗る美觀を呈する。この川に産する香魚は長良川産よりも美味と稱される。

【三隈川下り】 驛の南六〇米、龜山公園附近から保木公園附近に至る約一二軒の間に行はれ、舟行二時間地球磨川下りと共に頗る壯快である。川は大牟、古川、小股瀬の三流に分れ、船は小股を下る。通船第一の難關大明神の激流を經、神の淵、長溪、小溪の瀬等を過ぎ、櫛崎を廻れば眼界漸く開ける。神の淵の北岸に神淵の大文字が刻され、筆勢遒勁である。「水流箭の如く萬雷吼ゆ」と山陽が詠じたのはこの邊のことであらうか。

長足姫命、譽田別尊、比咩大神の三神を祀り、幽邃森嚴な大社である。鳥居の扁額「大波羅野御屋新呂」の文字は、社藏にかゝる大江匡房の書を模寫したものと云ふ。大鳥居の左方に、古文孝經の全文を勒せる巨碑がある。

【龜山公園】 驛の西一軒、日田町隈の日隈山一名龜翁山にあり、もとの日隈城の址である。後醍醐天皇及楠公を祀る日隈神社鎮座の地で、蒼翠鬱々として水中に時立し、神社の裏手山麓には櫻樹が多い。山上よりはいはゆる水郷日田の全貌より、日田盆地を繞る峯巒を望むを得べく、山水映發、風光明媚、日田第一の勝境である。

【松方神社】 龜山公園日隈神社境内にあり、嘗て日田縣知事として功績のあつた松方正義及同夫人を祀つてある。

【臺霧の築】 驛の西南一軒二、日田町及高瀬村の境をなす三隈川にある。大島、千丈と共に日田三築と稱され、毎年六月一日より二百十日前後仲秋まで、無數の隈山の一にして、四時積翠を湛へ、山脚江に臨む風光明媚の小丘である。山上に星隈神社、山腹に數十の横穴古墳、山麓に高塚式の三郎丸古墳がある。

【穴觀音古墳】 指定史蹟 驛の西南約四軒、日田郡五和村内河野倉園、原にあり、途中まで自動車の便がある。外形は損はれて居るが圓形古墳で石室は羨道部破壊せられ玄室と前室とが遺つて居る。兩室共に壁面に赤及緑の二色の顔料を以て同心圓、蕨手等の文様を描いて居る。後世玄室の奥壁に近く石造觀音像を安置し穴觀音と稱した。尙この古墳から南二軒半街道に沿うた松尾社と呼ぶ社は下の病に功驗ありと云ひ、木製リソガが多く供へられて居る。

【大山溪】 驛の東南一二軒、大山村にある。三芳村小淵橋から三隈川の上流大山川に沿うて遡れば、翠影水に映じ、奇峯雲に聳え、頗る壯觀である。途中に惠良、千丈柚の木築がある。世に所謂大山鮎はこれ等の築にて漁獲されるものである。

【鯛生金山】 驛の東南三〇軒、中津江村合瀬にある。



明治三十二年の發見にかゝり、多額の金銀を産出する。鯛生金山會社の經營で、昭和七年の産額は金百八十五萬瓦、銀九〇萬瓦、九州では佐賀關に次ぐ金山である。産鑛は主としてこの地で製煉して居る。

日田を出て尙東すれば豊後三芳一籽八を經、玖珠川に沿うて進み豊後中川五籽九を通つて天ヶ瀬四籽一に至る。夫より北山田八籽三、豊後森五籽四を過ぎて南進し惠良四籽一、引治三籽四を經て再び東に折れ豊後中村二籽四、野矢五籽一、北由布一〇籽九を通る。北由布から著しく屈折して暫く西進し、南由布三籽四を過ぎて南に折れ、湯平七籽一を經て東進し、庄内四籽九、天神山三籽六、小野屋一籽五を通る。この邊より大分川に沿うて曲折し、鬼瀬五籽、向之原三籽一、賀來六籽二、南大分二籽を過ぎて大分四籽九に著く。

【女子畑水力發電所】 豊後三芳驛の東一籽、玖珠川の上流にあり、九州水力電氣會社の經營である。筑後川水系の玖珠川、大山川の水利を利用し、出力二萬六千

のものである。

【不動尊磨崖佛】 豊後森驛の東約五籽、龍門の瀧に至る途中、玖珠郡東飯田村にあり、自動車の便がある。山麓路傍の巖壁に彫り出した磨崖佛である。中尊不動像は高さ約六尺の坐像で、左右に二童子及天部の立像があり、各尊とも殆んど完全に近く、頗る力の蒙つた作で童子及天部像には朱色殘存し、何れも平安時代の作と思はれる。

【龍門の瀧】 (二二圖あ11) 豊後森驛の東約七籽半、玖珠郡東飯田村龍門寺の境内にある。柱狀節理をなせる安山岩にかゝり、高さ約一五米、幅六米餘、中程で二段となつて、深潭に入つて居る。瀧の東岸を吐月峰、西岸を歸雲洞と呼び、中段瀑流を湛へたところを白雲庭と名づけ、下流巖角に碎けて碧潭に注ぐところを金珠瀧と稱する。

【由布院温泉】 豊後富士と云はれる由布岳の西南麓、海拔四〇米の高地を流るゝ由布川の流域、東西六籽、南北三籽三の盆地の縁を迂回して、北由布、南由布の

七百キロワット、フランシス原動機六箇、三相發電機六箇を設備して居る。

【天ヶ瀬温泉】 天ヶ瀬驛の東半籽、硫黄泉でリウマチがよい。旅館 長屋、久壽屋外數軒。

【日出生臺】 豊後森驛の東約一四籽、森町にあり、面積約四六方籽、波狀をなせる廣原である。陸軍の演習地となり、冬季を除く外、年中殆ど銃砲の音が絶えることなく、數十棟の兵舎及附屬建物がある。

【清水瀑園】 豊後森驛の東北約五籽、森町内帆足にあり、内帆足の瀑とも云ふ。大小四十三の飛瀑懸り、頗る壯觀である。

【大岩扇山】 (二二圖か11) 豊後森驛の東北約四籽、森町帆足及森にある。陸軍の演習地日出生臺の西端にある。平頂圓形の卓子狀山岳にして、標高六九一米、頂部に厚き兩輝石安山岩の熔岩層を戴き、下部は集塊岩及凝灰岩より成る。その熔岩層は四方直立の斷崖を繞らし、崖下に崖錐厚く發達して、熔岩メサの最も標式的

二驛あり、北由布驛の近くに御夢想、田中市、山崎、岳本、湯坪の諸温泉、南由布驛の近くに八山温泉があり、總稱して由布院温泉と云ふ、いはゆる裏別府の温泉で別府からは由布越の自動車を通じて居る。温泉はいづれも炭酸泉で温度五二度乃至六八度、胃腸病、病後衰弱などに効くと云ふ。

この幽寂なる温泉郷を繞つて由布岳、倉木山、蒼岳などが聳え、西南遙に久住の連峯が仰がれる。朝霧立單むる曉色の景觀はこの地の特色で、由布川畔の螢の美觀もこの地の誇りである。旅館 湯坪に日の春、紫明館、久留米屋、敷島、中屋、田中市に山水館、岳本にぬる川屋、山崎に寅屋。

【塚原温泉】 北由布驛から約一〇籽、北由布の湯坪から東北へ八籽を隔て、一郷をなして居る。鶴見岳の中腹に當り、明礬温泉へは約四籽の山路である。温泉は微白濁の硫黄泉で温度七八度、創傷、眼疾、皮膚病などに効くと云ふ。旅館、宇佐屋、櫻屋、泉屋。

【大杵社の大杉】 (指定天然記念物) 南由布驛の東二籽半、



南由布村川南大杵社の境内にあり、自動車の便がある。目通幹圍約一〇米、地上約三米の高さに於て二支幹に分れ、樹勢旺盛、杉の巨樹として有数のものである。【湯平温泉】湯平驛の西三軒半、自動車の便がある。花の川の清流を挟んで浴館相對して軒を連ね、上へ上へと坂の湯の町を形成し、温泉場らしい情調を漂はせて居る。海拔六〇六米、三面翠巒を繞らした閑寂の境である。温泉は弱食鹽泉で大湯、中の湯、下の湯、砂湯、橋本湯あり、婦人病、リウマチス、濕疹、創傷などに効くと云ひ、大湯は特に胃腸病に特效があるので世に知られ、その成分は飲用鑛水として有名なる佛蘭西のビーシー水に似て居ると云ひ、盛に飲用せられて居る。附近には菊畑、五本松、一本松等の遊園地があり、また約四軒を隔て、小田、山下の兩池あり、周圍四軒乃至八軒で風景美を有する。飯田高原の寒の地獄、筋湯方面へは約一六軒である。旅館 鶴屋本家、同別宅、右丸屋、志美津、新屋、日田屋、蛭子屋、東屋、金屋、中田屋、日の出屋外十數軒。

した棚石の前面には線彫りにて、合掌形屋根の多數の家屋を表はし、且人物、動物等を配した一種の風景畫とも見るべきものが彫刻せられて居る。

【高瀬石佛】〔指定史蹟〕 南大分驛の西南約四軒、大分郡東種田村高瀬にあり、附近まで自動車の便がある。七瀬川の南岸に臨んだ凝灰岩の低い丘陵端に、水田から約三米の所に高さ約二米、幅四米の龕洞口を開き、中央に圓彫に近い手法で刻り出した大日如來坐像あり、向つて右側に如意輪觀音、次に馬頭觀音の各坐像を、また向つて左側には大威徳明王坐像及深沙大將立像を何れも高彫に近い半肉彫で表はして居る。中尊の大日如來像高さ約四尺で他の像もこれに準じ、全體寧ろ小規模であるが製作精巧で、赤色の傳彩がよく遺つて居る。この石佛で特徴あるは忿怒部の諸尊を刻出した點で、且つ天井面に掛けて描かれた光背は特異で、大日如來像の舟形光背は赤色顔料を以て圓光及網狀の唐草と火焰を表はし、上端は折曲りて描かれて居るのは大膽な創意に出で、低い天井を利用して巧に効果を收

【豊後國分寺址】〔指定史蹟〕 賀來驛の南二軒、大分郡賀來村國分の國分寺境内にある。金堂址及塔址の礎石が存するが、金堂址に元祿七年に建てられた薬師堂あり、土壇は殆んど破壊されて一部分が残存して居るが、堂の向拜柱礎石、同堂の北側及南側に存する礎石中には柱受の造出あるものがある。塔址はこの西にありて土壇を存し、礎石上に享保九年に建てられた觀音堂があり、心礎は今その床下に現存する。また金堂址の北方、水田中に講堂址の礎礎と認むべき四箇の礎石がある。寺域内から奈良朝時代の様式を示した蓮華紋の巴瓦及唐草瓦が出土したのを寺に所藏して居る。【千代丸古墳】〔指定史蹟〕 賀來驛の西三軒、大分郡石城川村宮苑千代丸の三ヶ尻方宅地内にある。石城川と呼ぶ小川に臨んだ低い臺地の縁に略々南北の方向に築かれた前方後圓墳で著しく原形を損じて居るが全長約三七米あり、後圓部に略々東面して石室が開口して居る。玄室は長方形で斷面梯形を呈し、さ程大ではないが石壁に赤色の塗抹の痕を存し、奥壁から水平に突出

めて居る。馬頭觀音像も背後に雄健な火焰を描出し、大威徳明王像にあつても朱線を以て描いた火焰を負うて居るが何れも大日像と同じ手法を用ゐて居る。深沙大將像は高さ約四尺五寸、胸に九個の鬘髻を並べて瓔珞となし赤い裙帯を纏ひ、臍部には童女の面を表はし、左手に蛇の頭を握り、右手は蛇身を執り胸に當て、居る。朱の他に墨を各部分に加へて居る。この龕の右方三米に長方形の小龕ありて古式造像の形式を示した一根本三莖の蓮座上に三尊佛を浮彫したものがあつた。石佛は仁聞菩薩の作と傳ふるが、平安時代の造像であらう。尙、附近に横穴が存する。



久留米 熊本間

久留米から南進し荒木 四軒九、羽犬塚七軒三、船小屋三軒を過ぐ、この邊車窓から櫛櫛の並木が眼立つて見ゆる。矢部川 三軒一で佐賀線及九州肥筑鐵道の線路に連絡し、渡瀬 六軒九、銀水 五軒二を通つて大牟田 三軒二に至る。

【石人山(石神山)古墳】 荒木驛の東南約六軒、八女郡下廣川村一條にあり、途中まで自動車の便がある。丘陵上を利用して築かれた前方後圓墳で西面し長さ八五米、土壘及埴壇が存し、後圓部に頂上から二米餘の下部に家形組合せの石棺が半ば發掘せられた儘曝露して居る。長さ約二米半、幅一米、高さ一米餘あり、蓋の前、後に各々突起を有し、その前面の一箇には獅子頭等と稱せられる人面様の彫刻があるが當初のものであるか否かは明でない。後面の屋根の傾斜面に直弧紋の彫刻が見られ、石室のヘギ石積の壁が残存して居る。棺身の前面には方形の窓状入口を開いて居る。中央く

びれ部の邊に覆堂のうちに圓體石人が一個樹つて居る。この墳に在つた石人は慶長年中福島城築城の際運び去られたものが多かつたと云ふ。古來岩戸山古墳と共に繼體天皇の朝誅せられた筑紫國造磐井の墳墓であらうと云ふ説がある。

【福島公園石人】 羽犬塚驛乘換南筑軌道福島下車、八女郡福島町にある。慶長年間田中吉政が居城した福島城址で、園内に石人、石馬等が多數集められて居る。古く築城の際一條の石神山より持運んだものと云ひ、また日露戰役記念碑建設の時發見したものがあり、今、二個所に集められて居る。圓體石人で甲を著けたるもの及禪を締めた腰部あり、その他胴部、頭部の斷片、女體にして胸乳を露はしたものの、圓體石人の座形のもの、石馬の胸部等がある。文久二年高良山座主撰文の碑が建つて居る。

【黒木の藤】 「指定天然記念物」 同南筑軌道黒木下車、八女郡黒木町字上前祇園神社境内社殿の前にある。根元の總周圍約六米半、地上約二米にて二本の太き枝に分

かれ、尙數本の支幹がある。藤棚の長さにて測れる枝張りは東西約五四米半、南北約七米三である。本樹は應永二年三月後西征將軍良成親王の植栽と傳へられ、兩度の火災に遇つたが、年々開花し、花穂一米二餘に達し、紫藤の老樹且巨樹として代表的のものである。

【日向神】 同南筑軌道黒木驛より東一六軒、八女郡矢部村にあり、羽犬塚から自動車の便がある。矢部川の上流大淵村の東部より矢部村の境に互り、約二軒二の間溪谷美を呈し、釣鐘岩を中心として龜岩、黒岩、鱸岩、千疊敷岩、男徳女徳、天戸岩、螺貝岩、蹴洞岩、正面岩、七福神岩等の名勝がある。川の右岸にある湯の瀬温泉は日向神明神の御産湯に汲まれたと傳へて居る。日向神は天孫瓊々杵尊のことである。この附近一帶史蹟に富み、紅葉の季節は探勝者が多い。

【良成親王御墓】 同矢部村北矢部御側名、御側川の上流僻地にあり、後征西將軍宮良成親王の征西府が置かれた矢部大柵の地で、御墓の前にある吉野櫻は北白川宮能久親王御手栽にかゝる。

【船小屋鑛泉】 船小屋驛の東約一軒、自動車の便がある。矢部川と松永川の合流點にある水郷の湯町で蝿の名所として知られて居る。もと東古河原と云つたが、土木用の船を格納する假小屋が堤防上に散在して居たので船小屋と呼ぶ様になつた。泉源は松永川の西岸にあり、雀がその水氣に觸れて死ぬのがあつたので雀の地獄と稱して居る。含鐵炭酸泉で飲用すれば血液を増し、身體を強壯にし、胃腸病を治すと云ふ。浴用には加熱して居り、胃腸病、神経系統症、リウマチス、痔疾などに効くと云ふ。日露の役當時陸軍の轉地療養所となり、次第にその名を知られて來たが、脂粉の香の濃い遊樂境で、料理屋兼業の旅館が多い。旅館 樋口軒、玉振館、凌雲館、九州館、大正館外二十數軒。

- 矢部川驛 福岡縣山門郡瀬高町下庄
- ▽佐賀線 矢部川筑後大川間一四軒
- ▽九州肥筑鐵道 矢部川南關間 一三軒六
- ▽乗合自動車 柳河行、福島行、南關行
- 【瀬高町】 (二圖ら6) 矢部川驛所在地。矢部川に跨る



河港で、交通の一要地である。人口一萬六千。  
【中山農事試験場】 矢部川驛の西北一軒、三橋村中山にある。明治十九年舊藩主立花寛治伯の開場で、自ら農耕をなし、農産品評會等を催して農事研究の資とした。見學の爲の來觀者が多い。

【清水寺】 「天台宗」 矢部川驛の東約三軒半、九州肥筑鐵道本吉驛の東一軒半、山門郡東山村本吉清水谷にある。行基菩薩の草創と傳へ、後、慈覺大師堂塔を増築し、洛東の清水寺に擬したが、天正中龍造寺隆信の兵燹に罹り、現時の伽藍は寶永中の造營である。境内極めて廣潤で景勝に富んで居る。

本坊庭園 「指定名勝」 元祿年間の作と云ひ、築造年代は明かでないが、明治初年多少の廢頽があつたのみで舊態が存して居る。三方岡陵を以て包まれ、後方は臺地の下に池を設け、右方遙に瀨瀑を望み、左方近く直瀑がある。池畔の島嶼に石を配し松樹、椒樹あり、山に倚つた清濶な泉水庭をなして居る。

【女山神籠石】 同本吉驛の北一軒、清水寺の西北にある。川の河口に於ける平地に位し、花宗川に跨り、東西二軒七、南北一軒四、面積は三方軒九である。家具、建具等の製造行はれ、年産額二百萬圓を超え、また農産物、清酒等も産する。西南部の若津港は雲仙遊覽船の發着地である。また鱒狩、潮干狩のために來遊するものが少くない。人口一萬四千。

【風浪神社(風浪宮)】 「縣社」 同筑後大川驛の東一軒、三瀨郡大川町酒見にあり、少童命、息長足姫命、住吉神、高良玉垂命を祭る。神功皇后三韓征伐の歸途海神に祈りて風浪の難を免れ給うたので、この地に宮殿を造り少童命を祀り給うたのが起りであると傳へる。  
本殿 「國寶」 三間社流造、屋根柿葺、永祿三年領主蒲生鑑成の再建にかゝり、構造は簡單であるが手法頗る巧妙である。  
五層石塔婆 「國寶」 正平塔と稱せられ、各層四面に佛、天人等の像を彫刻し、尙臺石の四面に左の銘文が刻まれて居る。

肥後州酒見村當所九十九所「權現之御寶前五重石塔一基」者爲

る。石壘が清水山女山の西麓から上りて山頂に掛けて繞り、平面菱形を呈し、四箇の谷を過つて水門四箇所に存して居る。雷山、高良山等のものと同様に、上代の一種の城砦址であらう。

【笛鹿のいちひがし】 「指定天然記念物」 九州肥筑鐵道南關驛下車、南關町關東字笛鹿にある。目通幹圍約九米三、地上約四米の高さに於て二大支幹に分れ、樹勢旺盛、いちひがしの巨樹として有數のものである。

【三柱神社】 「縣社」 佐賀線柳河驛の東南半軒、柳河町高畑にあり。藩祖戸次道雪、立花宗茂及その夫人の靈を祀り俗に新宮と稱する。文政九年八月創建、境域廣潤、白沙青松の間に櫻楓點綴して、四季の景趣勝れて居る。境内に官祭招魂社がある。

【福嚴寺】 「黃檗宗」 同柳河驛の南一軒、山門郡城内村にある。もと曹洞宗の僧緒庵の草創であつたが、後年黃檗宗鎮文これが中興に努めた、藩主立花家累代の菩提所である。

【大川町】 (二圖らり) 佐賀線筑後大川驛所在地。筑後

天「地久御願國滿國土豊饒殊當村安穩萬民快樂乃至法界平等利益」也仍所奉造如件時正平十年乙未十月日願主「彌道慧」彌道一大工藤原介副敬白

大牟田驛 大牟田市不知火町 門司から一四九軒

▽乗合自動車 南關行、山鹿行、三池町行、三池港行 一日平均

乗車人員 二、〇〇三人 降車人員 一、九三二人  
發送貨物噸數 五三七噸 到著貨物噸數 五五六噸  
主要發送貨物 砂糖、穀炭、石炭、人造肥料、藥品、セメント、鹽  
主要到著貨物 米、丸太、石炭、鐵、鐵及鋼、活鮮魚、セメント、鐵及鋼製品、藥品

【大牟田市】 (二圖らり) 大牟田驛所在地、有明海の東岸にあつて大牟田川、諏訪川に跨り、東西約四軒六、南北約四軒九、面積は約一八方軒四である。三池炭山の發達に伴ひ、次第に繁盛となり、大正六年三月市に列し、昭和四年四月三川町を編入した。主産業は工鑛業で、石炭を大宗とし、工業用藥品及染料、亜鉛、綿絲、コークス等を生産する。繁華な通は驛前から不知火町、有明町、築町通並に築町から本町を経て大正町、中島町方面及三川町本通一帶である。潮汐干満の



差(五米半)が大きく四料の沖合まで漕を生ずるから、港は特種の設備を施され、三池港の名で開港となつて居る。人口九萬七千。

▽官公廳その他 市役所(有明町)、税務署(通町二丁目)、長崎

税關支署(新港町)、商工會議所(旭町一丁目)

▽銀行 三池銀行(旭町一丁目)、三池貯蓄銀行(同)

▽會社 鐘淵紡績會社支店(明治町一丁目)、東邦電力會社支店(不知火町二丁目)、三井鑛山會社鑛業所(有明町)、三井物産會社支店(同)、電氣化學工業會社工場(新開町)、大日本製氷會社工場(松原町二丁目)、三池窯業工業會社工場(大浦町)、肥筑物産會社(不知火町一丁目)、魚市場(魚町)、大牟田電氣軌道會社(白金町)

▽新聞社 大牟田毎日新聞社(不知火町二丁目)、くろたいや新聞社(有明町)

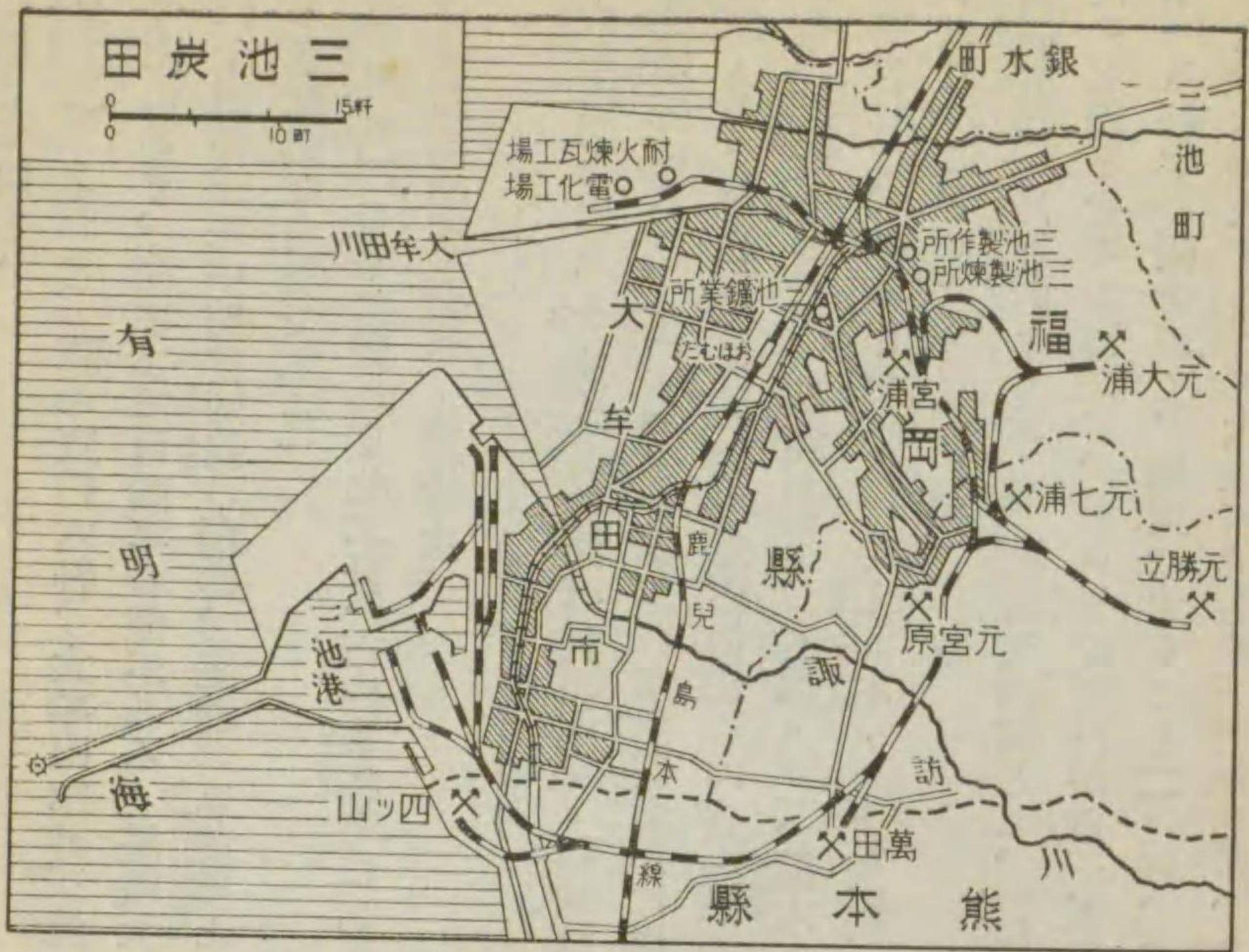
▽旅館 肥前屋(不知火町)、有明館(有明町)、不火知館(同)、明治屋(不知火町)、不二屋旅館(有明町)

▽料理店 西京庵(旭町一丁目)、京政(元町)、圓の井(大正町二丁目)

▽娛樂場 「劇場」中座(不知火町)、地座(大正町一) [映画館] 大陽館(大正町一)、大天地(中島町)、東陽館(同)、鎮西館(泉町)

▽土産物 たいらぎ粕漬、カステラ饅頭、海苔、蒲鉾

【三池炭礦】福岡縣大牟田市、三池郡及熊本縣玉名郡



の一市二郡に跨り、東西約八料、南北約二二料に及び東北は三池山を負ひ、西南は有明海に面し、鑛區面積は採掘及試掘を合せ約三萬三千ヘクタールである。今を距る四百餘年前文明年間の發見と傳へられ、明治六年官有となり、同二十二年一月三井家これを讓受けて銳意事業の擴張に努めた。現今は三井鑛山會社の經營で、本邦第一の炭山である。目下宮浦、萬田及四山の三坑より成り、年出炭額約二百萬噸、坑内外を通じて従業員約七千名を算する、

現在三池炭の名稱を以て採掘せる石炭は通常三池八尺層にして、その厚さ一米半乃至七米六に達し、平均二米四餘(約八尺)である。層中他の岩石層を挟介しない。三池炭は特異の淡褐色を帯び、粘結性を有し、發熱力強大にして瓦斯分に富み、且夾雜物が少いから、汽罐用及瓦斯並にコークス製造用に適し、殊に鍛冶用炭としては全國無比である。

【三池港】大牟田市新港町から南約四料、萬田驛の西北約一料二。三井鑛山會社の築設にかゝり、明治三十

五年十一月起工、明治四十一年四月開港。船渠、内港、航路、外港の諸部に分れて居る。船渠は面積一三五千方米、内港との間に幅二〇米の閘門あり、その作用によつて渠内の水深は常に八米半以上である。船渠東岸は長さ四二米の繫船壁にして、一萬噸級までの船舶三隻を同時に横付けし、主として三池炭荷役の用に充てる。壁上には三池式積込機三臺を備へ、岸壁に沿うて左右に移動し、一臺一晝夜積込量約五千噸である。船渠の南側に長さ九一米の鐵製棧橋があり、普通貨物の荷役に使用される。

内港は面積五〇萬方米、最大干潮時水深九米四乃至一〇米六以上、石炭運送船その他一般船舶の碇泊地である。東岸には長さ九一米の繫船壁及石炭積込機一臺を設置し、船渠に出入不能の大型船の荷役に用ゐる。

内港に達する航路は長さ約一料八、兩導堤間隔一三米、水深七米三以上。北側導堤上に燈臺がある。外港はこの燈臺を中心として三料の半徑を有する圓圏の一弧内の水面にして、水深一〇米乃至一五米、直に深海



部に通じて居る。

【普光寺】「天台宗」驛の東約六軒、大牟田市外三池町字今山にあり、途中まで自動車の便がある。嵯峨天皇弘仁十四年三毛中納言師親の創建、庭前の臥龍梅と稱する老紅梅は有名である。

【三笠神社】「縣社」驛の東北二軒、市内鳥塚町にあり、祭神は高橋紹運夫妻、立花直次。

大牟田を出て、三池炭田の諸坑を望みつゝ、福岡縣から熊本縣に入り、萬田四軒を過ぎれば有明海岸に出で長洲七軒八を通る。この間對岸雲仙岳の山容が眺められる。大野下四軒七、高瀬四軒五、木葉八軒一、植木七軒を過ぎれば、熊本市街に入つて上熊本八軒七を經、熊本三軒二に著く。

【有明海】島原灣とも云ふ。肥前を西側とし、筑後肥後を東側とせる大海灣で、灣口早崎瀬戸から一五軒乃至一八軒半の幅を以て、偏東に走ること二六軒、次いで北方へ彎入すること六五軒である。三角瀬戸、柳之

立願寺にあり、自動車の便がある。式内肥後四座の一にして、祭神は素戔嗚尊の孫大歲神の子波比岐神とも云ひ、大歲神とも云ふ。

【繁根木八幡】高瀬驛の東一軒、高瀬町繁根木にあり自動車の便がある。村上天皇應和二年山城石清水八幡を勧請した所と傳へ、樓門は寛文年間の建築で正面の額に細川重賢の筆である。明治十年薩軍の高瀬攻撃の際、官軍の陣地として死守された。境内に貝塚存し、土器破片等を出し、社殿後方には墓地内に三尊佛を刻し、永祿十一年補陀落渡海云々の銘文あるもの存し、また古墳あり、曾て短甲、兜、頸、鎧、環頭太刀、貝製腕輪等を出した。へぎ石の小石室が残つて居る。

【立願寺温泉】(二圖や7) 高瀬驛の東北約三軒、石貫川の左岸にあり、自動車の便がある。遠く二千餘年前匹野長者の發見と傳へ、今古湯の前庭にその由來を記した記念碑があり、近くに匹野神社がある。温泉は無色透明の弱鹽類泉で胃腸病、リウマチス、婦人病、皮膚病などに効くと云ふ。小丘を隔て、富尾温泉あり、

瀬戸及本渡瀬戸によつて、八代海と連絡する。水深は南部に稍大であるが、概して小にして潮汐干満の差の多いことは内地第一であると云ふ。

【不知火】千燈籠とも記す。有明海の沿岸に於ては毎年八月朔日、節句の夜中頃、海面に表現出沒し、單縦陣形を造り、その一角より光輝を放つと見るや忽ち數里の長きに及び、消えるかと思へば忽ち光輝を發し、轉々明滅自在、不思議な現象である。

【荒尾町】(三圖ら7) 萬田驛所在地。三池炭山のため發達したところで、四つ山は風致に富み、炭坑がある。淨業寺は小代家の菩提寺であつて、源家三代の遺髪塚を始め、小代家代々の墓がある。人口二萬。

【大野下の大蘇鐵】「指定天然記念物」大野下驛下車、大野村大野下字乙丸にある。根廻約一米、十數支幹に分れ、その中最大なもの、根元の周圍約二米、最高のもの、高さ約四米半に及び、蘇鐵の巨樹として代表的のものである。

【疋野神社】「縣社」高瀬驛の北約三軒、玉名郡彌富村單純泉である。旅館 紅葉館、玉榮館、壽館外數軒。富尾に幸運館。

【廣福寺】「曹洞宗」高瀬驛の北六軒、玉名郡石貫村石貫にあり自動車の便がある。元徳二年菊池武時の創建で大智禪師の開山である。大智は宇土郡如來寺の僧で元に航し、徑山寺に淹留する事七箇年、歸航の途次逆風に遭ひて高麗に漂着し、留る事三年にして正中元年歸朝し、瑩山紹瑾和尚に傳法し、菊池郡穴河に聖護寺を建立したが、恰も菊池武時國中の諸士と不和にして諸所に戦ふといへども利あらず、來つて大智に頼つたので聖護寺に隠し置き、自ら上洛して本領安堵の論旨を請得て下向したので、武時は國內を治平する事が出來たから、その報恩のために本寺を建立したと云ふ。大智後に肥前加津佐に圓通寺を建立し、彼處にて示寂した。寺寶に大智禪師墨蹟(正平十九年五月廿三日)その他延元三年三月廿七日付菊池武重の書狀を始め、武士、武光、兼朝(元朝)、持朝、重朝、政朝等菊池氏歴代の關係文書等三十餘通を所藏して居る。



この寺から西一軒半の觀音ヶ岳にある寺址は京都泉涌寺の俊務(月輪大師)の故蹟で、俊務が入宋以前に開いて住み、歸朝以後も住んだ事のある筒岳正法寺の遺址である。

【石貫村那岐横穴群】〔指定史蹟〕 高瀬驛の北五軒、石貫村那岐にあり、自動車の便がある。もと熊野社のあつた丘陵東麓に沿うて約四十個存するうち、入口の飾壁に朱を塗抹し朱、青二色を以て同心圓を描き、内部の奥壁に造出した石厨子の右外壁には、鞆に納めた太刀を浮彫したものあり、大形刀子を浮彫したものも存して居る。

【穴観音横穴】〔指定史蹟〕 那岐横穴の西北半軒、石貫村安世寺にある。凝灰岩の崖に西南面して三個並列し、構造は同様で最も大形な中央の穴は入口に山形の赤色紋様あり、内部には左右に床を造り、奥壁には造出した石厨子あり、瓦葺を模して瓦當を附した廂が前方に挺出して居る。奥壁の中央に舟形光背形に彫り窪めて千手觀音立像の浮彫がある。これは從來平安時

□南太王世奉 □晋人名 □工八月中用大鐵金并四尺延刀八十練 □十寸上好利刀作此刀者長壽子孫 □得曰恩也丁朱其所統作刀者各伊太 □書者張安也

これ等の遺物は東京帝室博物館に收藏せられ、またこの古墳に樹てられた石人は附近の祠堂内にある。この古墳は曾ては魏志倭人傳に見ゆる女王卑彌呼またはその一族の墳墓にも擬定せられたが、種々なる出土遺物の総合的研究から畢竟支那六朝中期、西曆第六世紀前後に營まれ、朝鮮、支那に密接な關係を有した豪族の墳墓であらうと云ふ事に歸着した。

【小天温泉】 高瀬驛の東南約一三軒、自動車の便がある。有明海に臨んで烟波十里の對岸に雲仙の秀峰が仰がれる。西南の役に知られた小天浦も近く、夏目漱石の草枕に書かれた峠の茶屋は小天峠の途中にある。温泉は鹽類泉で硼酸を多く含有し、温度三六度、加熱して浴用に供する。皮膚病に特效があり、胃腸病、神経痛、婦人病などに効くと云ふ。小天蜜柑はこの地の名産である。旅館 濱屋。

代初期の作爲とせられ、開口後に施されたものと考へられ、また更に溯り奈良時代となし當初からの作爲とする説もある。尙、その前に石造千手觀音坐像(平安時代中期)が安置されて居る。

【江田船山古墳】 高瀬驛の東北八軒、玉名郡江田村江田部落の西南半軒の高臺にあり、自動車の便がある。前方後圓墳で西面し、三段に築造され、長軸約四五米、埴輪圓筒存し、後圓部の中央に西面して屋根形横口式組合せ棺あり、方形の戸口を開き石椁が傍に遺存して居る。明治六年發掘せられ、鏡六面、勾玉、管玉、玻璃玉、鐵製甲冑、同頸鎧殘缺、直刀十四口、劍七口、同裝飾金具、槍身、鐵鏃、帶金具、金銅冠殘缺、金環、純金製耳飾、金銅沓一對、鐵鐙、環鈴、金銅鏡板付轡齊瓮土器等の夥だしき遺物が出土した。鏡、金銅製遺物等は何れも製作優秀なるものに屬し、直刀身の一には紐本の孔の周圍に一種の花紋形を、また刀背に近く羽翼を有する馬の圖象を銀で象嵌し、刀背には左の銘文が同じく銀象嵌せられて居る。

【小天蜜柑】 小天村の名産である。熊野岳の有明海に迫るところ、中腹以下は全部蜜柑山で、初冬の候觀光の客が集まる。當地の蜜柑は景行天皇の御代新羅から移植したのに創まると傳へ、加藤清正の獎勵によつて盛になつたと云ふ。

【木葉猿】 木葉驛のある木葉村では、古來木葉猿を製する。形態粗笨、色調原始的にして雅致があるので、好事家に愛玩される。また木葉猿を藏すれば盜賊にかゝる恐れがないと云ひ傳へて居る。

【田原坂古戰場】 (二圖や7) 木葉驛の東約二軒、鹿本郡田原村にあり、自動車の便がある。那知船底谷の東、七本北の谷の西、北は鈴麥の低地を控へ、南の一方稍平坦にして、三池往還豐岡の中央を貫き、休居以北に至つて坂路となる。これを田原坂と稱し、明治十年西南役に於ける劇戰地である。天然の要害をなし、薩軍この嶮によりて官軍の連絡を沮み、死力を盡して奮戦し、三月四日より同二十日にわたる十七晝夜の激戰に、兩軍の死傷四千に上つたと云ふ。有栖川宮熾仁親王御



染筆の明治十三年建設の崇烈碑が建つて居る。傍の人家に彈痕の室と稱する當時の家屋の一室を遺存し、官薩兩軍使用の銃彈丸、小銃、軍刀等の兵器、軍服、その他各種の遺留品を蒐集陳列して居る。  
木葉驛の北に官軍墳墓があり、谷村計介以下戦歿者の墓が並んである。

植木驛 熊本縣鹿本郡櫻井村鏡田

▽鹿本鐵道 植木山鹿間 二〇料三

▽乗合自動車 限府行

【平島温泉】 鹿本鐵道平島驛の東約三〇米、炭酸含有

食鹽泉でリウマチス、創傷、皮膚病、婦人病、胃腸病

などに効くと云ふ。旅館 いろは屋、洒水館外數軒。

附近宮原には含鐵炭酸泉の宮原鑛泉がある。

【不動岩】 鹿本鐵道來民驛の北三軒、鹿本郡三玉村浦

生にある。高さ約九一米、恰も人の立つが如く、老松

古苔茂生し、怪奇を極める。西麓に凡道寺と稱する細

川氏の靈祭所がある。

【山鹿町】 (二圖や7) 鹿本鐵道終點。菊池川の右岸に

あつて、支流吉田川にも沿ひ、温泉と紙燈籠で名高い。産物の主なものは傘である。人口一萬。

【山鹿温泉】 山鹿町にあり、町營である。後白河天皇の保元二年、宇野親治が狩に出で、溪谷の泉に鹿群の浸つて居るのを見て、温泉の涌出するを發見したと傳へ、今浴場は龍の湯、松の湯、紅葉湯、櫻湯、梅の湯の五つに分れて居る。龍の湯は御前湯とも云ひ、舊藩

主の入湯に充てられたもので、今は貴賓用に供せられる。温泉の排水を利用して洗濯場が設けられ、町の人々は皆こゝで洗濯したもので、昔は「山鹿千軒盥なし」と云つたものであるが、今も尙その風が残つて居る。温泉は炭酸アルカリ泉で温度四十二度、リウマチス、神經衰弱症、腹膜炎などに効くと云ふ。

町の燈籠祭は有名であるが、他に四月十日から十日間湯祭が行はれる、これは文明三年に突然温泉が涸涸した際、その再興に心を盡した金剛乘寺法印看明大徳に對する謝恩の祭である。旅館 洗心閣、鹿門館、松榮館、山福、末廣、櫻井旅館外數軒

【山鹿神社】 山鹿町山鹿にあり、景行天皇を祭神とし、

相殿に健甕龍命その他を祀つて居る。景行天皇筑紫御

巡幸の砌、玉名を経て阿蘇に到り給へる時、杉山の地

に行宮を營み給うたと傳へ、のち神靈を奉祀したのが

この社であると云ひ、大宮大明神と稱せられた。八月

十六日の燈籠祭には各氏子が、山鹿燈籠と稱せられる

一種の紙燈籠を獻ずる。厚紙製で一切骨を用ゐず、神

社、樓閣、大船等の模形を作り、内部に點燈したもの

で、起原は景行天皇この地に到り給うた時霧が深かつ

たので、土民所々に篝火を焚き迎へ奉つたのに濫觴し

古くは炬火を獻じたのが、後、紙燈籠となり、一旦中

絶したのを文祿年中復興し、細工次第に巧妙となりて

現今に繼續して居る。

【鍋田横穴】 (指定史蹟) 山鹿町から西約二軒、鹿本郡

川邊村鍋田にある。菊池川の西岸一帯に露出する岩壁

に開口して居る横穴群で總數二十餘個あり、このうち

で、岩野川を渡つて右手の民家の傍にある横穴は小規

模であるが、向つて左側の岩壁には、人物、弓、矢、

柄、靱、鎌の如きもの、弓に矢を番へたもの、楯等が半ば浮彫的に刻されて居る。尙、附近にある長岩と呼ぶ地の横穴にも人物、靱、馬(?)等の彫刻がある。

【チブサン古墳】 (指定史蹟) 山鹿町の西北約三軒、鹿本

郡平小城村の城原と呼ぶ部落の北半軒の鍋田川(岩

野川)に向つて傾斜した丘上の島地で、形勝の地にあ

る。前後徑四〇米餘、葺石あり、埴輪圓筒を存する

前方後圓墳で、後圓部に南面した石室が開口して居る

が、羨道は極めて狭小である。ヘギ石を以て築積した

穹窿石室で大小二室連續し、奥室は大で、奥壁に接

して、石厨子あり、五枚の板石を立てた上に屋根形の

屋蓋石を置き、板石内面には朱、白、水色様三色の顔

料を以て菱形、三角、小圓、その他一種不明の形象が

全面に彩畫せられて居る。乳の出ない婦人が祈願すれ

ば靈驗ありとて、牛乳その他が羨門及棺前に供へられ

て居る。この古墳に樹てられた石人は曾て縣立鹿本中

學校庭にあつたが今東京帝室博物館に所藏せられる。

尙附近にオブサンと呼ばれる一墳がある。



久留米熊本間

上熊本驛 熊本市池田町  
▽菊池電気軌道 上熊本限府間 二五九七  
熊本驛 熊本市春日町

門司から 一九八杆一 四時間  
博多から 一一九杆一 二時間半  
鹿兒島から 二〇一杆九 四時間

▽豊肥本線 熊本大分間 一四八杆

▽熊本電気軌道 熊本(田崎)百貫石間、熊本(長六橋)川尻間

▽市内電車

▽乗合自動車 杖立行、高森行、高千穂行

一日平均

乗車人員 二、四一四人 降車人員 二、四一六人

發送貨物噸數 五三七噸 到着貨物噸數 五六五噸

主要發送貨物 煙草、飼料、油脂蠟

主要到着貨物 石炭、木炭、石油、活鮮魚、砂糖

【熊本市】(一一二圖) 上熊本、熊本、春竹、水前寺四驛

所在地。白川流域より緑川流域に及び、東西一三杆餘

に及び、南北はこれよりも短くて九杆餘に止まり、面

積は約四五方杆半である。

この地は加藤清正が築城したところで、細川氏五十

四萬石の城下として繁榮し、明治十年の戦亂によつて市街の殆ど全部烏有に歸したが、その後次第に隆盛に向ひ、市域は數回擴張し、大正十年六月飽託郡の黒髮外十町村を、同十四年出水村を、昭和六年六月白坪村を、翌七年十二月畫圖村を編入した。

白川以南は地勢一般に平底であるが、市街は主として河北に連り、花岡山、荒尾山、天狗山、本妙寺山等はその西に、立田山は東に聳えて居る。

熊本は縣廳、師團司令部等の所在地であるのみならず、教育の中心である。一年の生産額は二千萬圓を出し、昭和七年に於ける約一千九百萬圓の九割は紡織食料品の二業を要部とする工業が占める。市内で最も繁華な町は新市街である。人口十四萬二千。

▽官公廳その他 市役所(手取本町)、縣廳(南千畑町)、地方裁

判所(京町一丁目)、稅務監督局(練兵町)、稅務署(同)、地方專賣

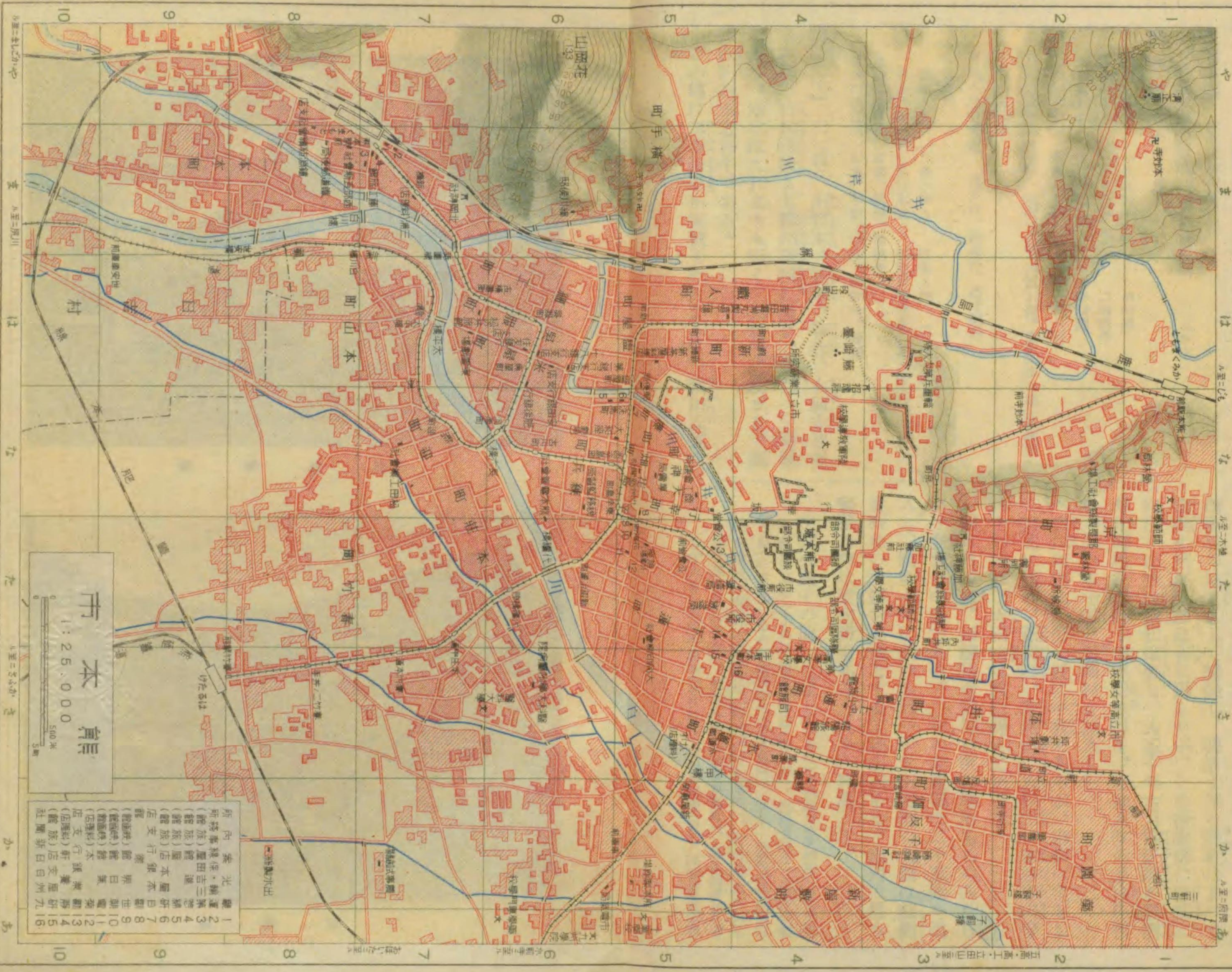
局(行幸町)、第六師團司令部(熊本城内)、第十一旅團司令部(同)

聯隊區司令部(千葉城町)、營林局(京町本町)、營林署(京町二丁

目)、遞信局(行幸町)、熊本郵便局(船場川端町)、鐵道郵便局(春

日町久末)運輸事務所(春日町)、保線事務所(同)、國立蠶業試驗





新潟市  
1 : 25,000

- 1 鐵道線
  - 2 主要街道
  - 3 普通街道
  - 4 支路
  - 5 河川
  - 6 公園
  - 7 神社
  - 8 寺
  - 9 學校
  - 10 官署
- 鐵道線 (鐵道線)  
 主要街道 (主要街道)  
 普通街道 (普通街道)  
 支路 (支路)  
 河川 (河川)  
 公園 (公園)  
 神社 (神社)  
 寺 (寺)  
 學校 (學校)  
 官署 (官署)

あ 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 か 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 さ 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 た 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 な 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 は 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 ち 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 つ 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 ぬ 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 ね 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 の 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 へ 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1  
 や 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

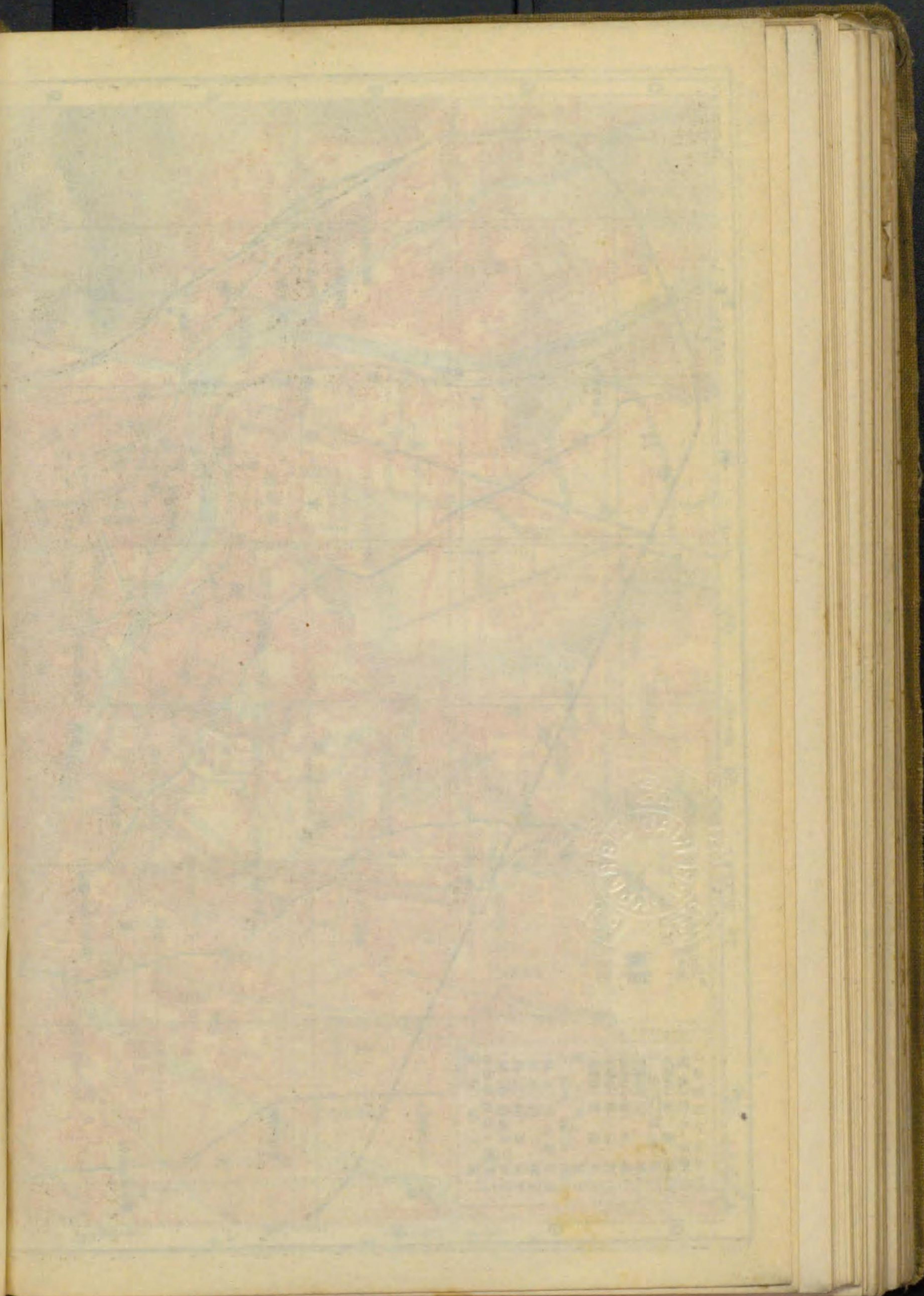




社 神 池 菊

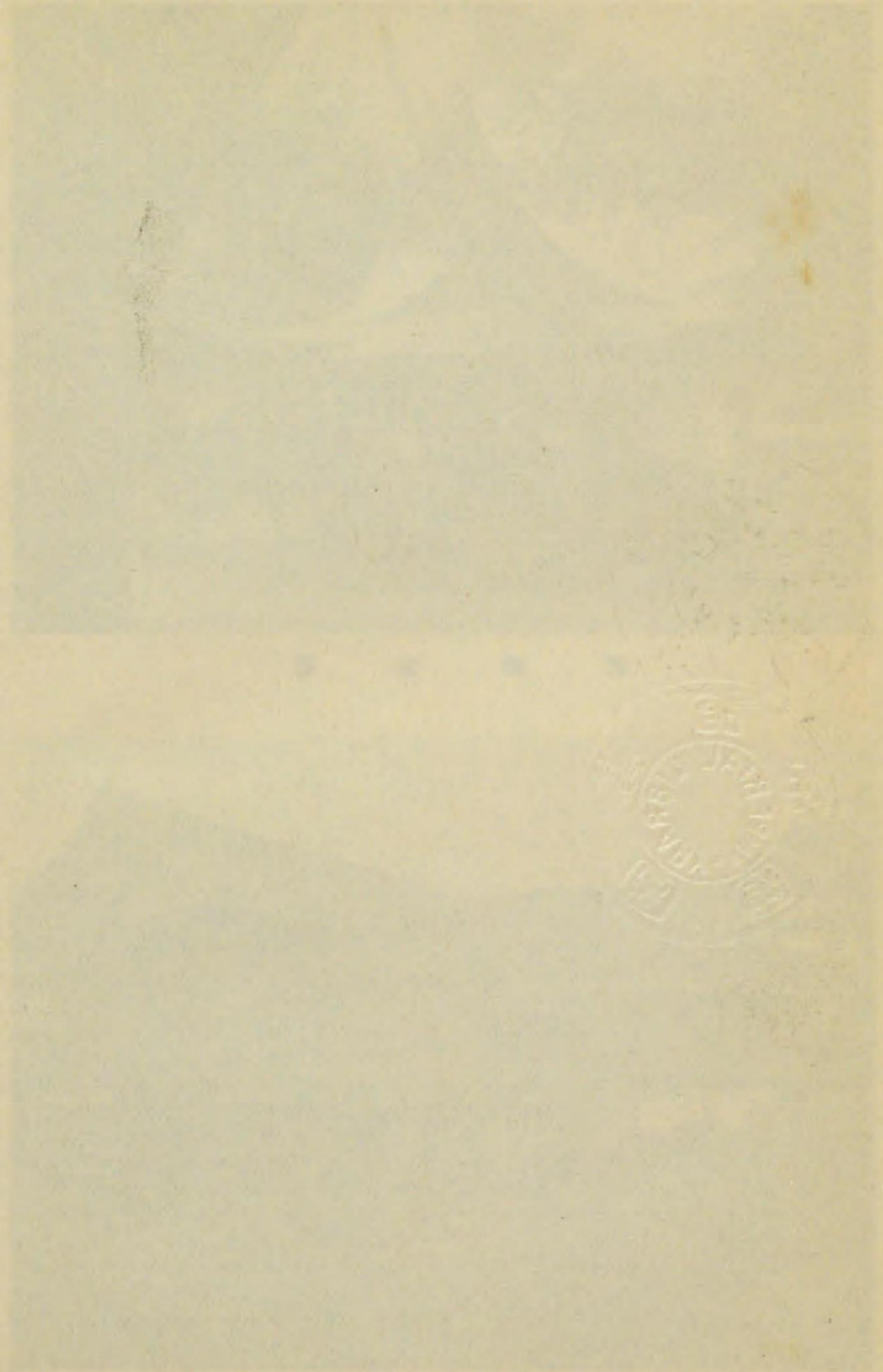
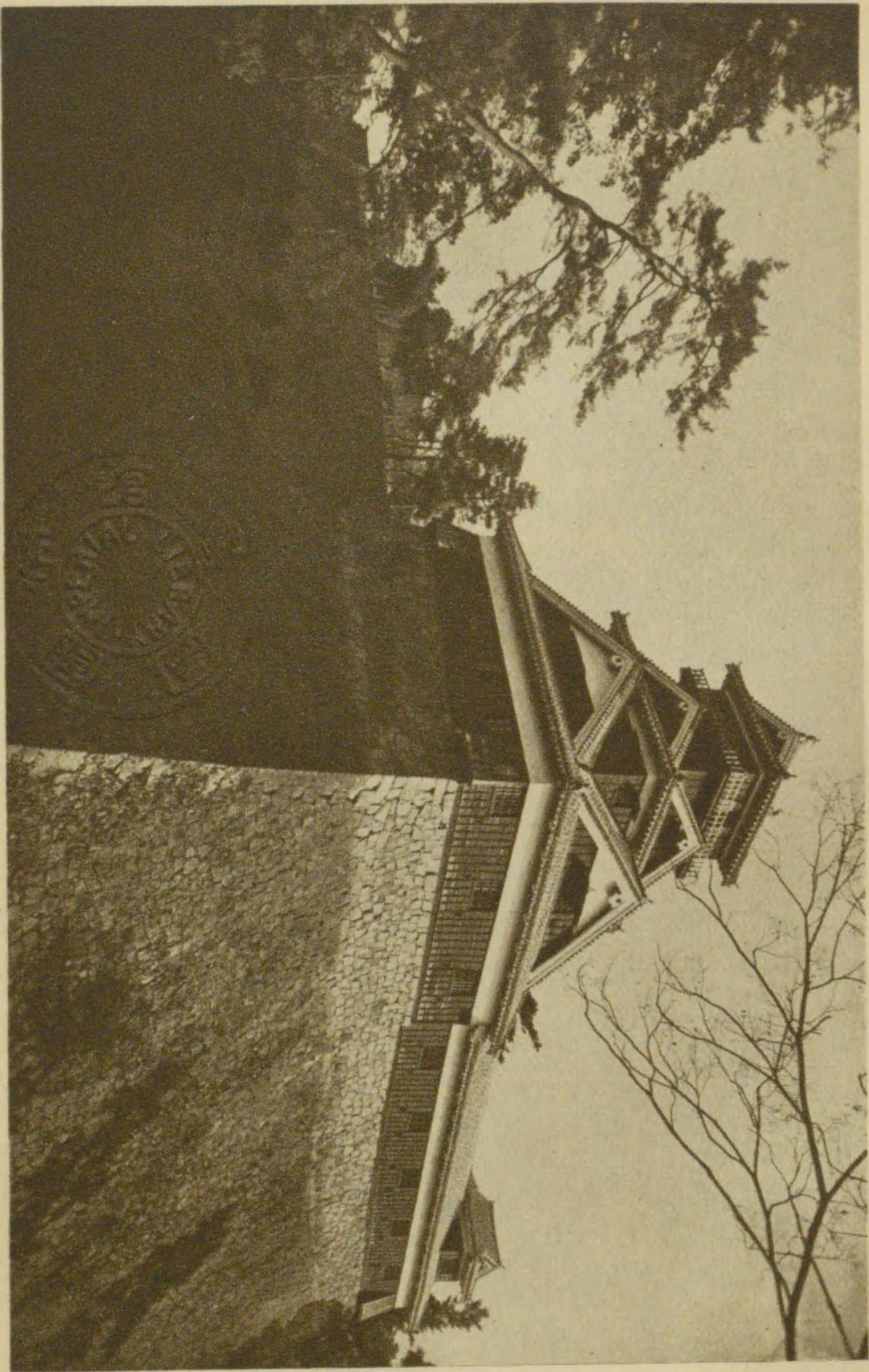


泉 温 鹿 山



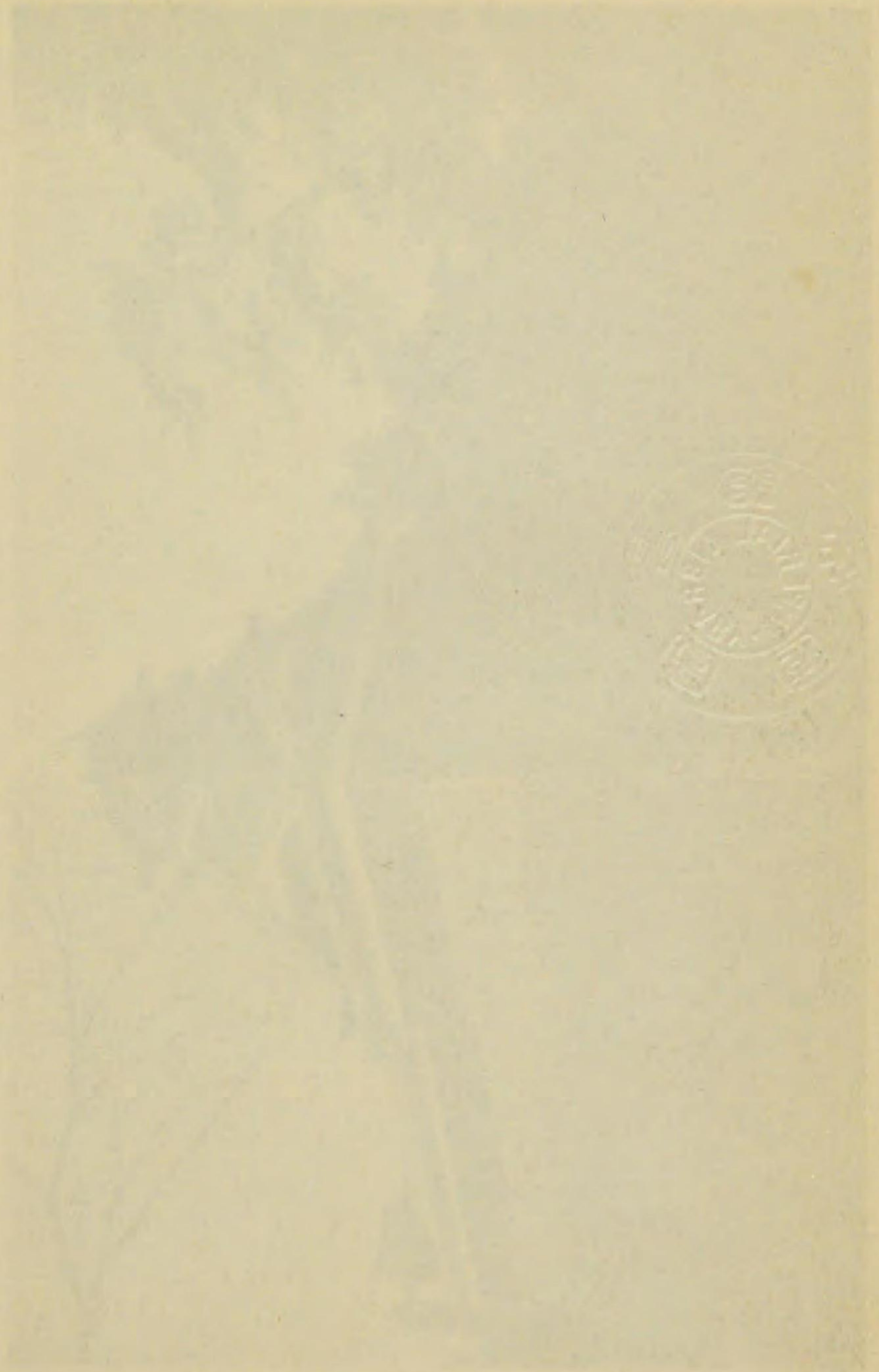


熊 本 城 宇 土 櫓



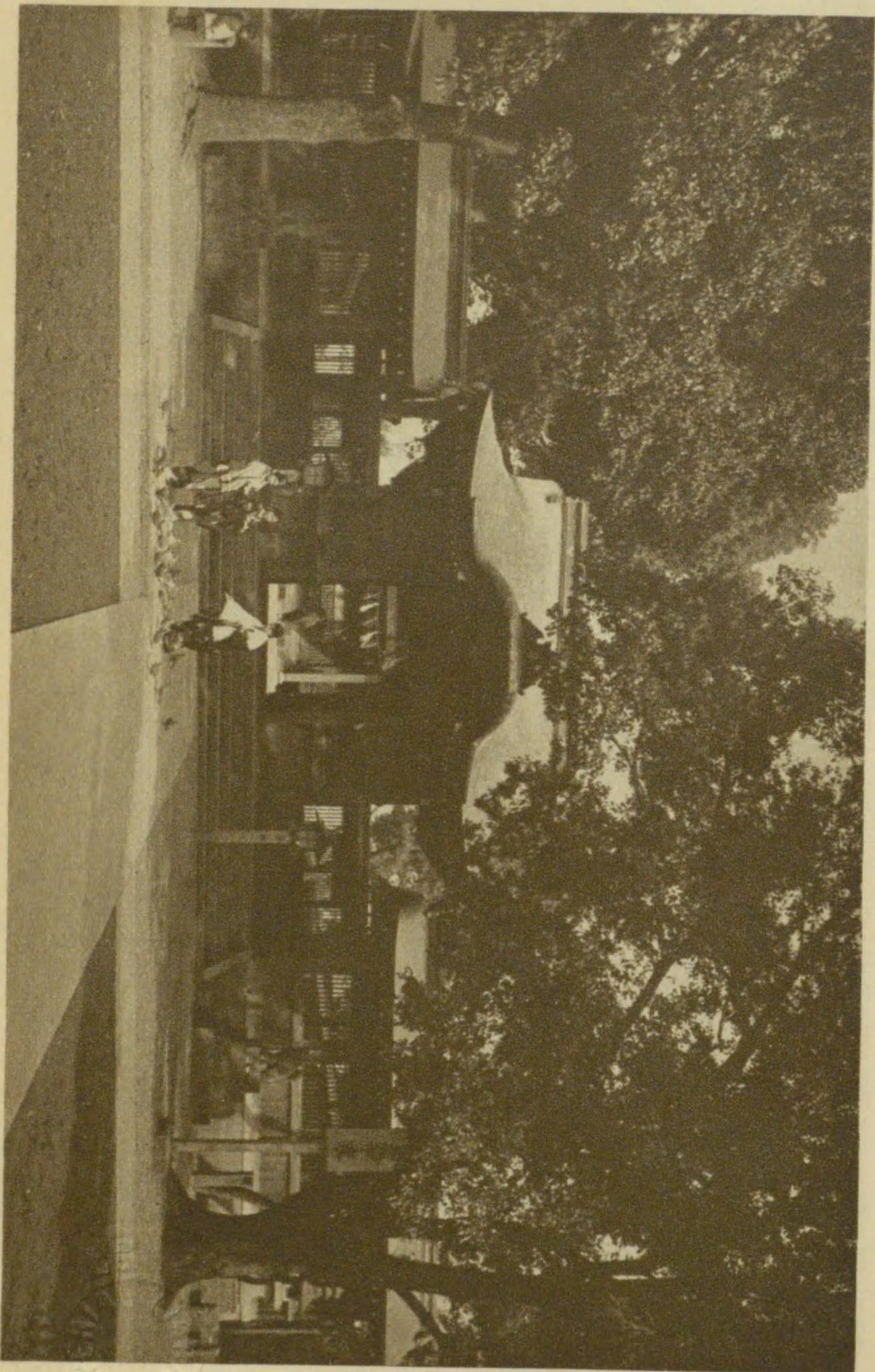


樟本七の墓所



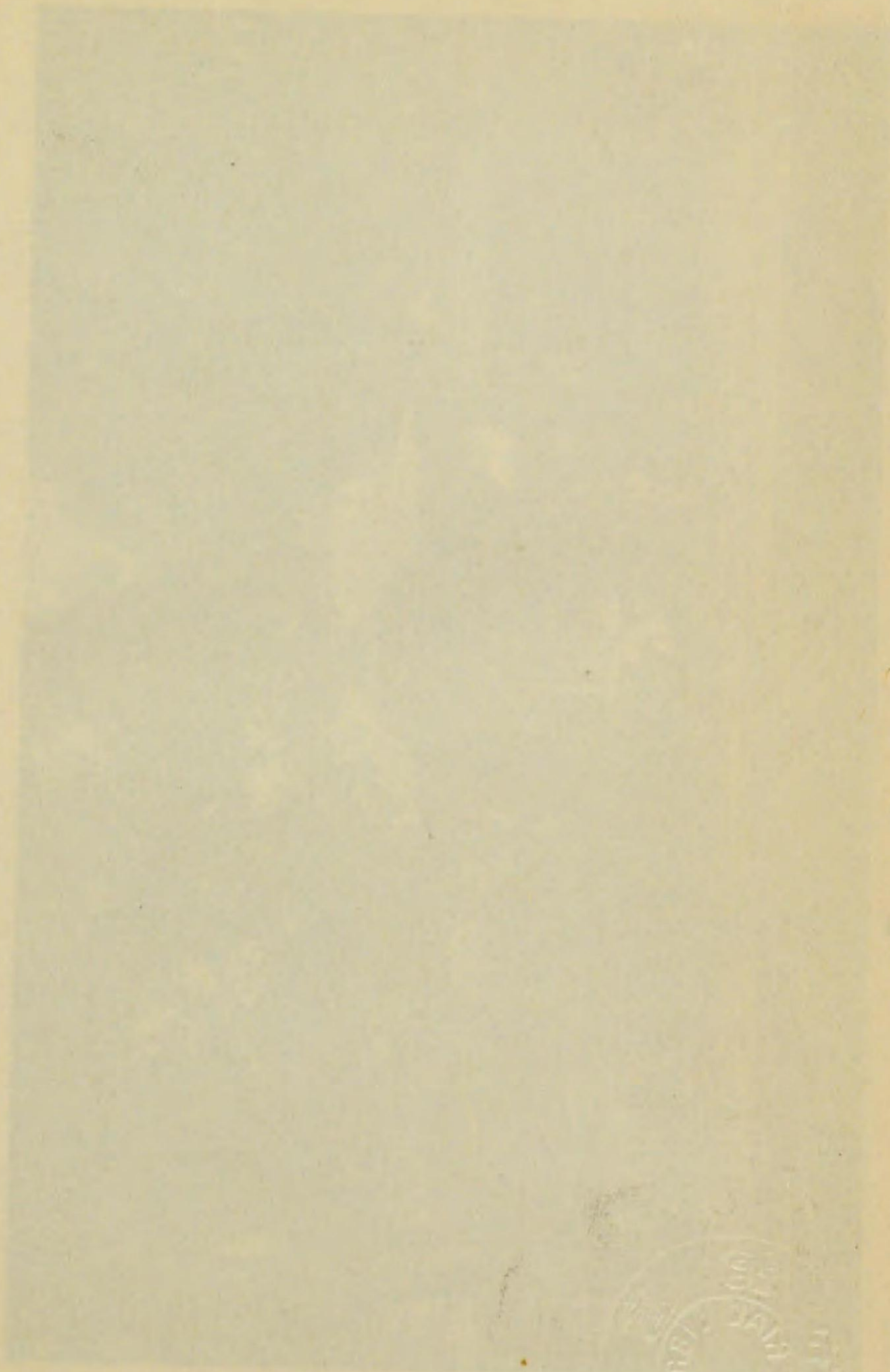
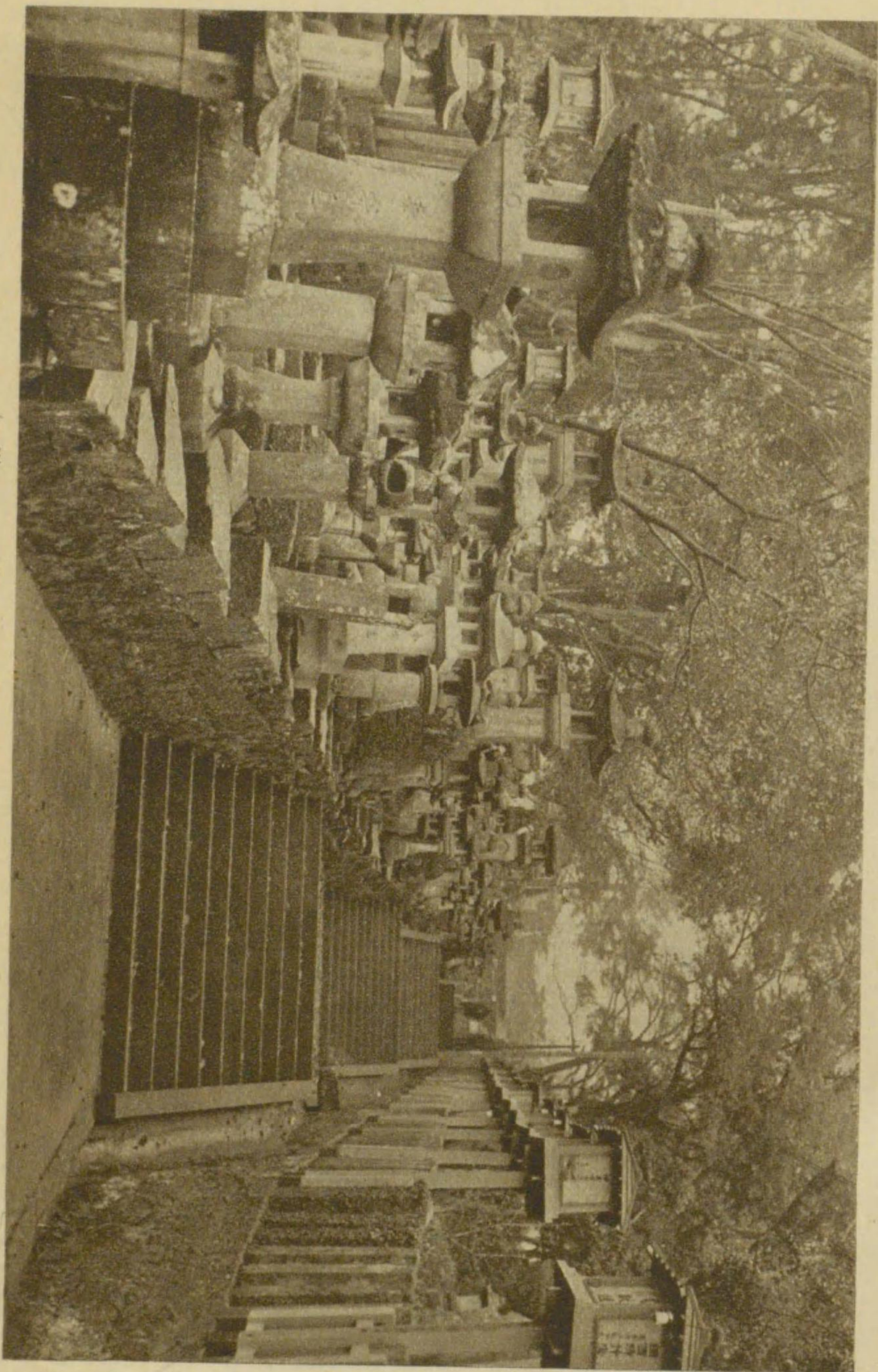


宮 旗 八 崎 藤





本 妙 寺 参 道





水前寺成趣園





場(市外健軍村)、蠶業試驗場(出水町今)、農事試驗場(出水町國分)、種馬所(市外西合志村)、種畜場(同)、醫科大學(本庄町)、第五高等學校(黒髮町)、高等工業學校(黒髮町宇留宅)、藥學專門學校(大江町九品寺)、陸軍教導學校(熊本城内)、工業研究所(宮内町)、商工會議所(行幸町)、勸業館(花畑町)、公會堂(天神町)、觀光案内所(熊本驛前)、放送局(花畑町)

▽銀 行 肥後銀行(紺屋町一丁目)、日本銀行支店(洗馬町)、日本勸業銀行支店(花畑町)、安田銀行支店(米屋町一丁目)、十八銀行支店(同)、第一銀行支店(中唐人町)、住友銀行支店(魚屋町二丁目)

▽會社 工場 郡是製絲會社工場(池田町)、片倉製絲紡績會社熊本尾澤製絲所(田崎町)、肥後製絲會社工場(内坪井町)、熊本製絲會社(大江町九品寺)、鐘淵紡績會社支店(春日町)、吉田毒消丸製造工場(新細工町)、肥後製蠟會社(出水町)、大同印刷會社(昇町)、松田工業會社(迎町)、大日本酒類釀造會社工場(出水町今)、熊本縣酒造研究所(島崎町)、西部瓦斯會社(春日町)、熊本電氣會社(紺屋町今)、熊本海產會社(春日町)、米穀取引所(鹽屋町裏二番丁)

▽新聞社 九州日日新聞社(上通町)、九州新聞社(花畑町)  
▽旅館 惣進館(春日町)、藤江旅館(同)、第三吉田屋(同)、松の井旅館(東阿彌陀寺町)、綿屋旅館(船場町)、研屋本店(同)、研屋支店(手取本町)、司旅館(櫻井町)、昭陽旅館(草葉町)、丸小旅館(上林町)

久留米熊本間

▽料理店 靜養軒(手取本町)、いけす(四軒町)、書津華壇(出水町今)、菊本(鷹匠町)、三浦(春日町)、新茶屋(古城堀端町)

▽娛樂場 [劇場] 旭座(下追廻田畑町)、大和座(山崎町) 東雲劇場(紺屋阿彌陀寺町)、坪井劇場(中坪井町)

[映畫館] 電氣館(下追廻田畑町)、世界館(花畑町)、朝日館(新市街)

[寄席] 文樂座(下追廻田畑町)  
▽土產物 朝鮮餛、水前寺苔、天草雲丹、燒鮎、球磨燒酎、赤酒、葛素麵、水平燒、高田燒、毒消丸、肥後象飲、木の葉環

廻覽順路 熊本驛—花岡山—清正公母堂の廟—本妙寺—藤崎八幡宮、吉田司家—八景水谷—立田山(または武藏塚)—櫻山祠堂—水前寺公園、動物園—書津湖 加藤神社—熊本城—新市街—東雲庭園—熊本驛

【北岡神社】(縣社)(二二圖ま7) 熊本驛の北約三〇〇米、市内春日町にあり、自動車の便がある。祇園社とも云ひ、素盞鳴尊、稻田媛命、八柱御子神を祀る。朱雀天皇の承平年間凶徒叛亂惡疫鎮護のため、勅願により京都の祇園社を肥後飽田郷に勧請したものであると云ふ。中頃衰へて神事が全く廢れたが、加藤清正入國の後復興し、細川氏も代々厚く崇敬した。社地は古來變



遷し、現地に奉遷したのは明治二十五年である。毎年八月一日より五日まで盛大な例祭が行はれ、四日には神幸式がある。境内に西南役の時西郷隆盛が自ら登つて大砲の照準を定めたと傳へられる樹齡千年の老楠がある。

【細川邸】(二二圖ま) 熊本驛の北東約一軒、市内横手町北岡にあり、北岡邸とも云ふ。もと妙解寺の跡で、細川氏歴代の靈廟があり、森林が繁つて居る。細川氏中興の英主として知られた重賢(靈感公)の墓はこゝにあり、許を得て參拜することが出来る。細川氏の墓は別に立田山泰勝寺にもある。

【妙永寺】(二二圖ま) 熊本驛の北一軒三、横手町にある。加藤清正がその母追福のため建立したもので、清正自作の尊像を安置してある。堂後の古びた墓石は清正が朝鮮から持ち歸つたものである。

【花岡山】(二二圖や) 熊本驛の西北四〇〇米、市の西境にあり、花陵山とも記され、高さ二三米の丘陵で、自動車容易に上下し、眺望がよく、櫻と紅葉の頃は遊山の

士が踵を接する。阿蘇大宮司惟光の哀史を物語る阿蘇殿松、熊本城築城を偲ぶ鐘掛松、八枚石、西南役に於ける薩軍砲陣の址、神風連の亂に斃れた将卒の墓等見るべきものが少くない。この山は昔山頂に今の北岡神社即ち祇園社があつたから、祇園山とも云ふ。

【東雲庭園】 熊本驛に近き二本木町にある。面積二〇九アール、明治十六年に起工し、十ヶ年の歳月を閲して竣工、假山泉石の雅趣成趣園に似て、菖蒲、躑躅の頃は縦覽者が多い。こゝは俗語東雲節で知られて居る遊亭のあつたところである。

【新市街】 熊本驛の東北約二軒、行幸町、天神町、櫻町、花畑町、辛島町、練兵町等の總稱で、電車の便がある。活動寫眞館、劇場、カフェー、料亭等櫛比し、夜は不夜城を呈し、市内第一の歡樂郷である。こゝには市役所、逓信局、公會堂、專賣局、勸業館、デパート等もある。明治三十五年頃までは、雜草茫茫たる第六師團の練兵場であつた。

【熊本城址】(指定史蹟)(二二圖た) 熊本驛の東北一軒

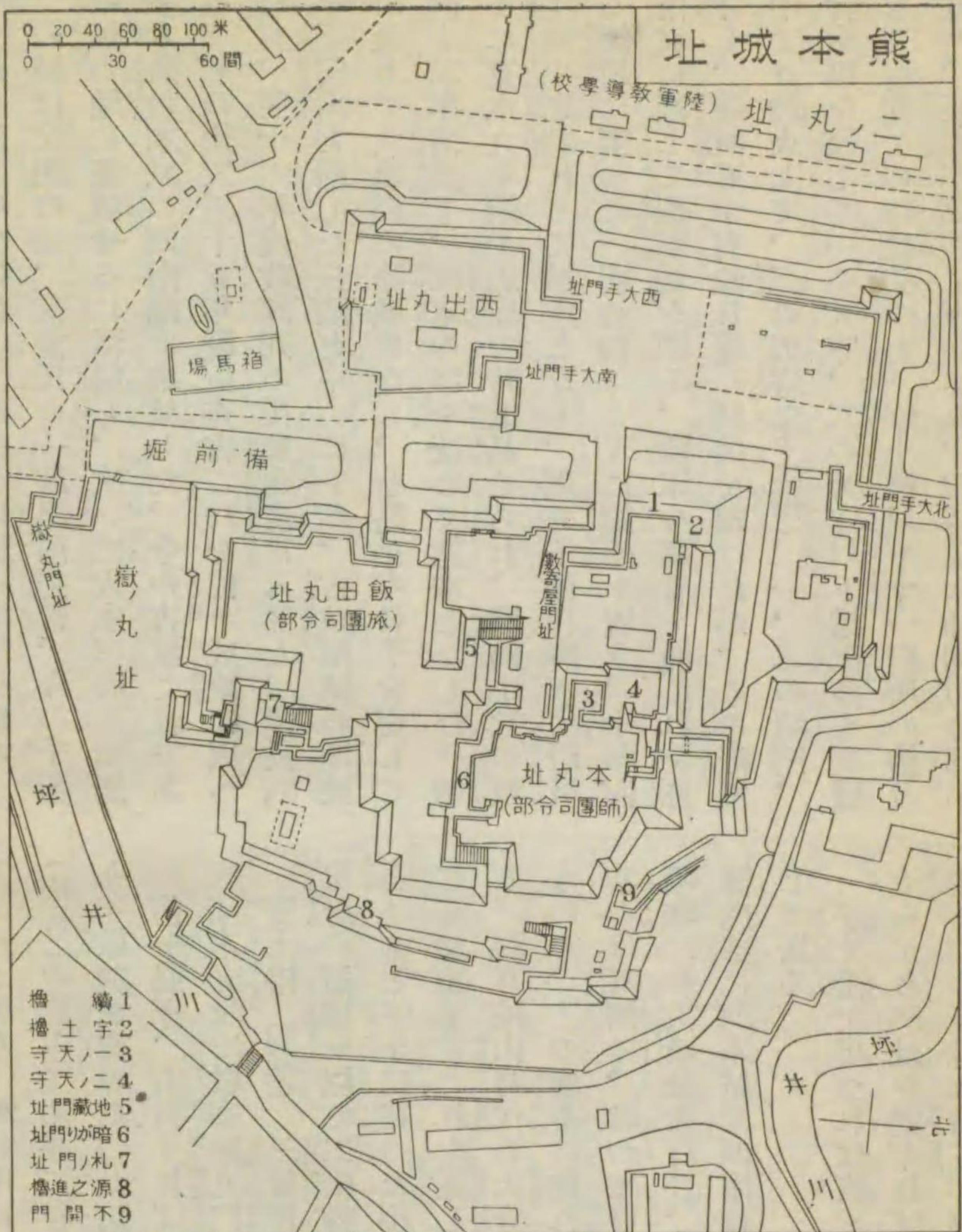
半、市のほと中央に位し、市電及自動車の便がある。この城は文明の頃、菊池氏の一族出田秀信、今の千葉城址の地に築城せるに濫觴し、次いで大永享祿の頃鹿子木親貞本城の西南端に築城した、今の古城これである。その後天正十五年豊臣秀吉これを佐々成政に與へたが、翌十六年成政誅死の後加藤清正入部し、慶長六年茶臼山と稱した丘陵を中心に千葉、古城兩城の地域に互りて大規模の築城をなし、七箇年の日子を費して同十二年落成し、隈本の字を改めて熊本となした。然るに寛永九年嗣子忠廣の時改易せられ、豊前小倉の城主細川忠利代りて城主となり、爾來子孫相繼ぎて居城し維新に至つた。明治初年こゝに鎮臺を置き、十年西南役に際して薩軍城を圍み、陸軍少將谷干城これを死守し、籠城五十有餘日遂に賊兵を却けたが、この際城中より發火して、三の天守(宇土櫓)、一、二の城門、倉庫等を残して一の天守、二の天守以下櫓樓多く焚毀して舊觀この時に失つた。宇土櫓以下十一箇所の櫓及城門、長堀が國寶に指定され、現時第六師團司令部が

置かれて居る。坪井川に架した行幸橋を渡り、行幸坂(南坂)を進みて右手に谷村計介銅像を見、左方に明治九年敬神黨亂のあつた舊砲兵營前を過ぎ、右に備前堀の傍を過ぎ、右折すれば第六師團司令部で、正門を潜れば本丸址で數寄屋丸門址を経て宇土櫓前に入る。

宇土櫓「國寶」三層櫓、内部五層、地階一層あり、單層の續櫓を以て二階櫓に聯續して居る。屋根總本瓦葺。もと宇土に在つた小西行長の居城の櫓で、小西滅亡後加藤清正これを遷して三の天守となしたものである。現存桃山時代の天守閣のうち初期の様式を示したもので、その屋蓋の流れは破風に多少起りを作つて居るのは異例で、却つて堅樑莊重な外觀を與へて居る。昭和二年大改修を行ひ、同年十一月以來公開した。各層内部に熊本城及西南役に關する遺品、寫眞類を陳列して居る。

宇土櫓を出づれば直ぐ左に一の天守閣の石壘存し、くらがり門址を過ぐれば左に師團司令部の建物あり、銀杏樹の老株は清正が築城記念の手植と傳へ、亭々と





して繁茂して居る。右折すれば午砲臺に成つて居る月見櫓址あり、十八間櫓「國寶」の下を過ぎ司令部前から左へ千葉城址に通ずる下り坂に不開門「國寶」あり、兵火を免れて舊形を完全に保存して居る唯一の城門で、屋根は左端入母屋造、右端切妻造の脇付樓門である。本丸址の西側は二の丸址で陸軍教導學校あり、細川重賢が建てた時習館のあつた場所、この北邊に東西に長く續いて居る百間石垣は二の丸北部の門で、二箇所に枡

形門が設けられて居る。石壘の下を過ぎ東して監物櫓(新堀櫓)「國寶」の下を通つて加藤神社の傍から京町を経て植木方面に至る國道は、加藤清正が開鑿したと云ふ四道である。

【行幸坂の櫻】(一二圖な4) 熊本驛の東北約二軒、舊城内にあり、電車の便がある。坂はもと南坂と云つたが、明治三十五年特別大演習の際、改修して現名に改め、明治天皇の行幸を記念するため、坂路の兩側に吉野櫻を植栽したもので、春は花の隧道が出来、観客が雑沓する。

【藤崎臺の樟樹群】(指定天然記念物)(一二圖は4) 熊本驛の東北約二軒、舊城内藤崎臺の南側に並び立つて居る。もと藤崎神社のこゝにあつた頃の遺木でその内大なるもの七本、俗に七本樟と云ふ。根まはり一三米乃至二二米、樹高二一米乃至三三米、大樹の群列をなせるもの他に類例なく、異常の壯觀を呈して居る。

【招魂社】(招魂社) 同じく藤崎臺にあり、最近の創建で社域清浄、結構壯麗である。

【加藤神社】(縣社)(一二圖な3) 上熊本驛の東南一軒、熊本驛からは四軒、京町臺(錦山)にあり、電車の便がある。もと本妙寺清正公墓の上にあつたが、明治四年神佛分離の際熊本城内に移され、明治七年熊本鎮臺設置のため現在の地に遷座し、錦山神社と稱したが、清正公三百年祭の時加藤神社と改められた。毎年四月十二日盛な神幸祭が行はれる。清正自作の烏帽子形兜、頬當、佩刀、陣太鼓等多くの寶物を藏して居る。征韓の役に分捕つた石橋も園内にある。土地高燥東方遙に阿蘇の噴煙を眺め得て、四時の風光がよい。

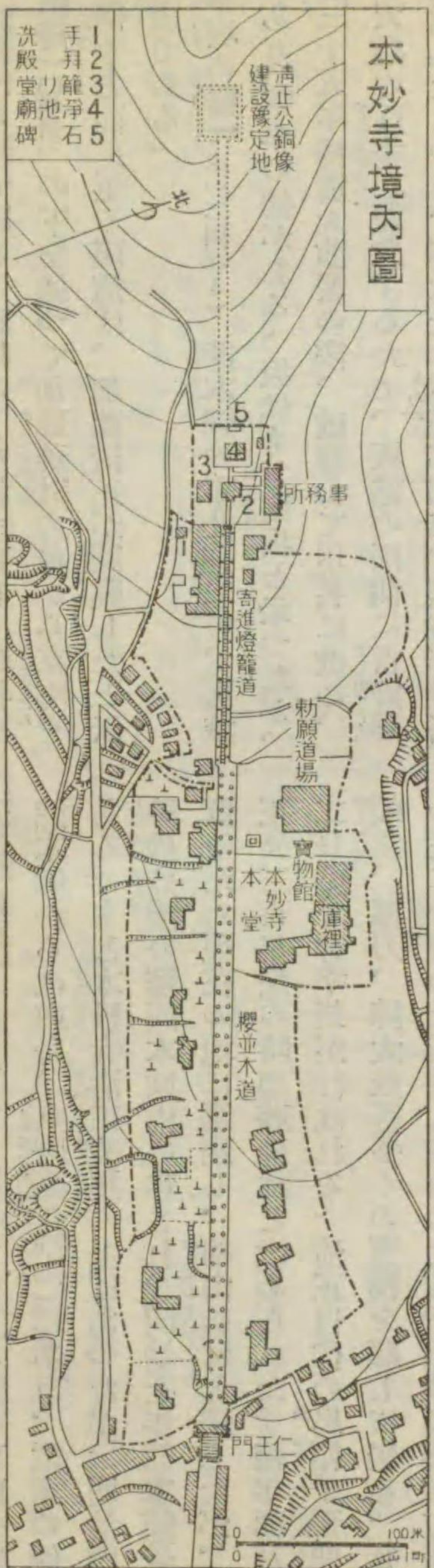
【本妙寺】(日蓮宗)(一二圖な1) 上熊本驛の西約一軒、熊本驛からは北五軒半、市内花園町にあり、自動車の便がある。發星山と稱し、京都本願寺末の有名な巨刹で、末寺は四十七ある。加藤清正が未だ大阪にあつた時、歸依僧日眞上人を開山として、先考清忠のために本妙寺を建て、後肥後の國主となるに及んで、これを熊本城内に移し、元和二年忠廣更に清正の廟地である中尾山の現地に移建した。明治十年西南役に薩軍の一



部の據るところとなり、爲に兵燹に罹りて伽藍悉く焼失し、現時の諸堂宇はその後の建築である。

上熊本驛から少し南にある鐵路を踏切ると、幅の廣い長さ約五〇〇米の參道がある。參道の盡きるところに宏大な石段があり、石段を上ると、莊麗な仁王門が高く聳えて居る。鐵筋コンクリート造、大正八年の建立、額の文字發星山は久瀨宮邦彦王殿下の御染筆である。仁王門から更に三〇〇米の參道があつて櫻馬場と呼ばれ、花の名所で、兩側に院坊が軒を並べて居る。馬場

が終れば、數百級の石段があつて、俗に胸突がんぎと呼ばれて居る。がんぎは熊本の方言で、石段を意味する。今はこの石段の左右に百六十段餘の石段が設けられ、樂に廟前へ參進することが出来る。がんぎには大小の石燈籠幾百となく並び、左右に商店、旅館が軒を連ね、晝尙暗い程に森林が繁つて居る。胸突がんぎを登り盡したところは淨地廟即ち清正廟のある靈域で、清正は慶長十六年十月ここに葬られた。漆塗の中門には、三條實美の筆に成る淨地廟の額が仰



一安南圖書 紙本墨書

二通

がれる。中門を潜れば拜殿があり、その奥に御靈屋がある。廟域には事務所を始め、數棟の堂宇、塔柱等が立ち、鳩舎もある、拜殿や拜殿横の籠り堂には、遠近より參詣の善男善女が籠つて、題目の聲、太鼓の音喧囂を極めて居る。廟の北側には大木土佐守兼能、南側には朝鮮人金宦の墓があり、何れも清正に殉じたものである。參拜者は年中多いが、殊に七月二十三、四日の頓寫會、春秋の彼岸には、終夜雜沓を極める。

本妙寺の本堂は胸突がんぎを下つた左側にある大建築で、山門には東郷元帥筆勸願道場の文字が讀まれる。慶長十年後陽成天皇は本寺に繪旨を賜りて、勸願道場となつた。堂前には元和七年熊本城内から移した十三重の古塔や、寛政四年雲仙岳崩壞の大津浪の際に於ける溺死萬靈供養塔等がある。本堂の右隣に寶物館があつて縦覽が出来る。

寶物

一短刀【國寶】

光世の銘があり、細川齊茲の寄進狀がある。

一口

久留米熊本間

一安南圖書 紙本墨書  
弘定十年五月拾柒日及弘定十一年五月二十四日の日附がある。  
【山伏塚】 上熊本驛の東北約二軒、市内池田町にあり、自動車の便がある。榎の大樹の根元に建ち、權大僧都法印龍藏院慶長の諸文字は讀まれるが、下の文字は根に包まれて知ることが出来ない。築城に手傳つた修驗道の山伏は清正の家來に送られてこゝまで来て、一刀の閃の下に朱に染まり、その遺髪が埋められたものと云ひ傳へて居る。

【成道寺】 上熊本驛の西北約三軒、花園町柿原にある。應永三十三年震中、元志和尚の建立したもので、今は廢寺となつて居るが、清泉あり紅葉あり、東方三〇〇米餘にある天福寺と共に、熊本市北方の一幽境である。成道寺梨の栽培は今尙盛である。

【藤崎八幡宮】 【國幣小社】 (二二圖か) 上熊本驛の東南

二軒半、市内井川淵町にあり、電車及自動車の便がある。祭神應神天皇を主神(一ノ宮)とし、右側に住吉大神(二ノ宮)左側に神功皇后(三ノ宮)を祀る。傳へて承



平五年十月平將門追討の勅願によりて山城石清水八幡宮を肥後飽田郡宮崎庄茶白山に勧請したのが創りである云ひ、古來上下の崇敬篤く、鎮護國家の靈社であつた。社殿は屢々天變變災を経て度々改築せられたが、寛永十四年細川忠利社殿を修理し、爾來十三年毎に造營するを例とした。もと藤崎に鎮座し、熊本城の鎮守であつたが、明治十年西南役の際に、城兵の一部社殿を守備して薩軍に對したため兵燹に罹り、同十七年現在の地に造營遷座した。

例祭九月十五日。

寶物

一僧形八幡神坐像 【國寶】 木造

一編

高さ二尺六寸、彩色は剥脱して居るが、鎌倉末期正和年間の作である。

一女神坐像 【國寶】 木造

一編

極彩色、胎内に應永廿五年十月二日鏡秀(花押)の墨書銘がある。

【放生會】 例年九月十五日に行はれる藤崎宮の祭禮で市中第一の賑ひである。當日未明に神輿社内を出でてもとの神社跡藤崎臺に向ふ、これを朝隨兵と云ひ、夕

【立田山やへくちなし自生地】 【指定天然記念物】 市内黒髪町下立田にある。熊本市第五高等學校の北方約一軒

細川侯爵家墓地の上方、通稱御廟裏より立田山を上れば、赤松、椎、あらかし等の林間に他の植物と混じて生じ、その數甚だ少く、莖の高さ三〇厘乃至六〇厘に止まり、花瓣は三重となり、交互に排列されて居る。

【泰勝寺址】 立田山の南麓泰勝寺馬場の奥にあり、今は細川侯爵家立田別邸となつて居る。寺は寛永十九年京都妙心寺の大淵和尚を請じて開かれた寺で、老樹鬱蒼、幽邃清絶、塵外の別境である。裏手の山蔭に遠くは幽齋近くは韻邦、護久その他の靈廟があり、許を得て拜することが出来る。

【櫻山祠堂】 上熊本驛の東約四軒、熊本驛からは東北約五軒、市内黒髪町宇留毛にあり、自動車の便がある。祠堂の後に二基の碑が建ち一は勤王の志土宮部鼎藏、高木右衛門等の誠忠の碑、一は加屋霽堅、太田黒伴雄以下神風連百二十三士の碑である。

【濟々覺】 熊本驛の東五軒、龍田口驛から西一軒、市

方は御歸りの行列が續く、これを夕隨兵と云ふ。一の宮、二の宮、三の宮、三つの神輿に勅使代理や甲冑乗馬の隨兵百騎、甲冑指物の長柄五十本、乗馬の御幸奉行など、昔の儘の慣例によつていかめしく、これに三四十の飾馬を數多の勢子がボシタ／＼の囃聲勇ましく追ひ立てるさま勇壯である。この行列の起りは加藤清正朝鮮征伐の時戦勝を祈り、爾來長柄百騎馬を獻じたのに始まると云ふ。

【吉田可家】 藤崎八幡宮の直ぐ近く、向つて道路の左側にある莊重な構への家である。角力界の大御所で、横綱の役號を名乗るには、吉田家の許可を要する。始祖豊後守家次以來七百年、當主二十三代善門追風翁に及んで居る。

【立田山】 熊本驛の東北約五軒、市の東北郊に聳ゆる小山で、途中まで電車の便がある。山頂に豊國廟址があり、眺望がよく、市の中心部さへ手に取るやうに見える、周圍には櫻、躑躅、楓の植ゑ込み多く、四時登山者の目を樂ませる。西南斜面に上水道の配水池がある。

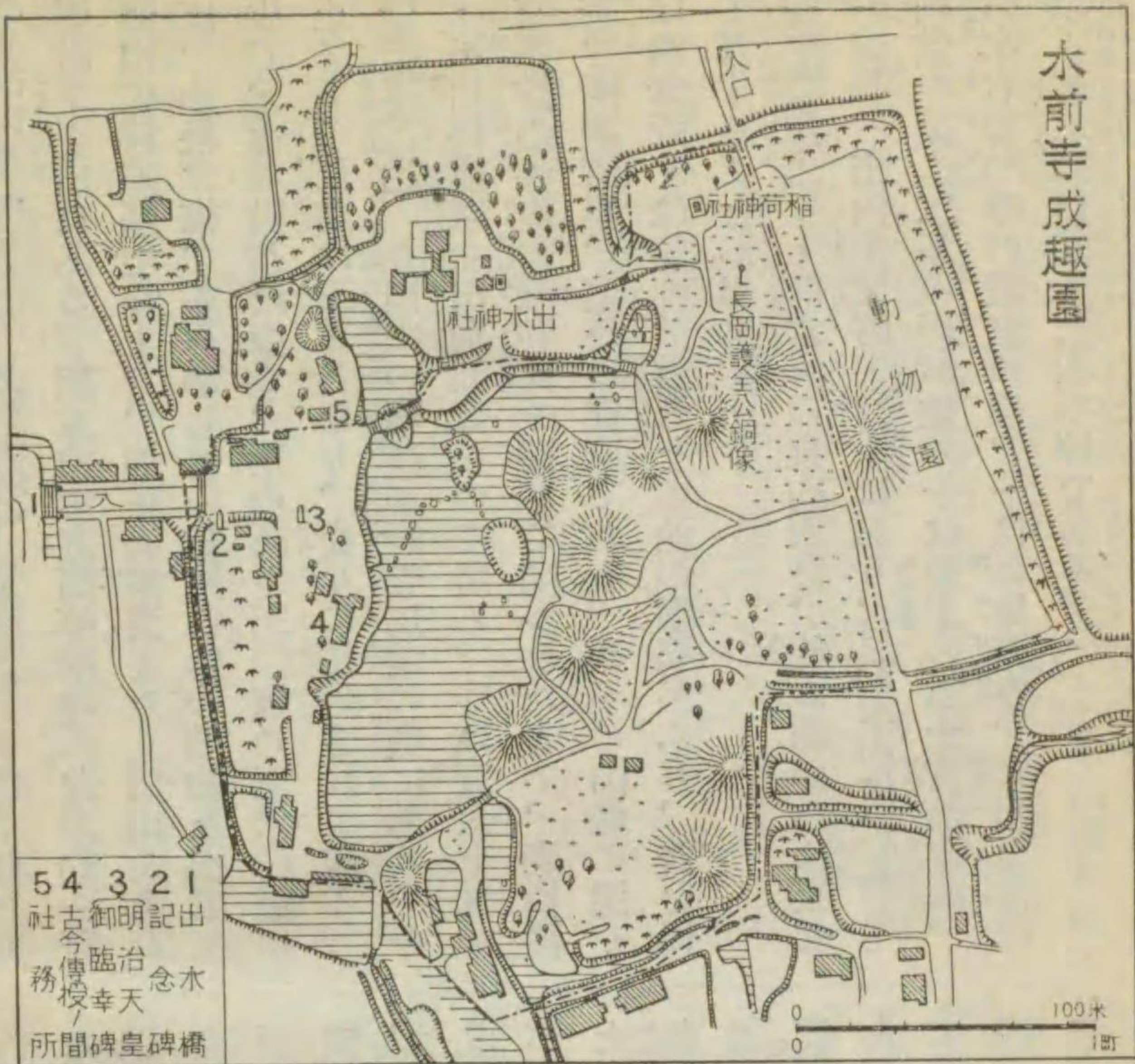
内黒髪町にある。明治十二年佐々友房の開創にかゝり、始め同心學舎と稱したが、同十五年濟々覺と改め、正倫理明大義、重廉恥振元氣、磨知識進文明の三綱領を宗とした。明治三十三年縣立中學校となり、現今に至つて居る。創立以來五十餘年を閱し一萬を超える卒業生中から政界その他に多數の人材が輩出して居る。

【八景水谷】 上熊本驛の東北約六軒、熊本驛からは東北約八軒、立田山の北、清水村山室にあり、電車の便がある。水前寺と同じく清泉滾々として湧出し、熊本上水道の水源である。細川綱利營てこに茶亭を構へ、龜井晚鐘、立田晴嵐等の八景を選んだ。附近に清水放送所、種畜場、ゴルフ場等がある。

【熊本醫科大學】 熊本驛の東北約二軒、市内本莊町にある。官立の醫科大學にして、昭和四年熊本縣立醫科大學を移管改稱したもので、嘗て熊本醫學專門學校と稱した時もあり、遠く寶曆六年に設けられた再春館に創まる。その附屬病院は明治三年に創設された病院に端を發して居る。



水前寺成趣園



【代継神社】「縣社」熊本驛の東北二軒餘、市内本莊町にあり、附近まで電車の便がある。住吉大神、紀貫之、藩祖細川幽齋を祀る。もと花畑公園附近にあつたが、加藤清正の時代に今の社地に遷座し、細川綱利の時幽齋を合祀した。

【水前寺成趣園】「指定名勝史蹟」水前寺驛の南約一軒、市内市水町にあり、上熊本、熊本兩驛からは各六軒、電車自動車の便がある。熊本の本勝地を擧げるものは先づ必ずこゝを指す。寛永九年細川忠利この地に水前寺を建てたが、後これを他に移し、その跡に藩公遊休の「御茶屋」を營み成趣園と云つた。しかし成趣園の本名よりも水前寺公園の方がよく通るのである。面積約三八アール、地域は岡山の後樂園程はないが、富士に形どつた芝山、大池、樹林、飛鳥、苔蒸せる岩等巧妙に配置され、純日本式庭園の妙趣を發揮して居る。殊に池の底から珠のやうな清水が五色の砂を分けてぶくぶくと隨所に湧き出

でて、水は絶えず變化して居る。園内に舊藩主細川氏の中祖藤孝、その子忠興等を祀る出水神社「縣社」があり、また藤孝（幽齋）古今傳授の間がある。近年附近に動物園が設けられた。

【古今傳授の間】成趣園の池畔、綠蔭濃きところにある清楚な純日本風の茅屋である。關ヶ原大戦の際丹後の田邊城にあつて、大阪方の小野木重勝と戦つて居つた細川幽齋は、當時和歌國文の道に通ずる第一人者であつたが、勅命によつて京都の桂宮の御茶屋に於て皇弟智仁親王に對し、親しく古今集の奥義を傳授された。その時の茶室を古今傳授の間と稱へ、明治初年特に肥後藩に賜はつたものである。三百年前の遺物で、今も室内に當時の有名な書畫、古器の類が飾られて居る。附近に名物水前寺苔、水前寺餅などの賣店、休憩所が多い。

【出水神社】「縣社」成趣園の池の北にあり、細川家歴代の神靈を祀る。石段を上ると拜殿に續いて本殿があり、拜殿の前庭向つて左方にある袈裟文の手水鉢は加

藤清正が朝鮮から凱旋の際將來した京城の門礎であると云ふ。祭典は四月と十月に行はれる。神社後方の竹藪中に、細川忠利が建立して僧玄宅を開山として居らしめた玄宅寺即ち水前寺の跡がある。

【肥後國分寺址】水前寺驛の南一軒、市内出水にあり、自動車の便がある。小堂宇あり、附近一帶から布目瓦が出る。隣の熊野神社の境内には心礎あり、金堂址と傳へて居る。

【畫津湖】水前寺驛の南一軒餘、熊本驛からは東六軒、市内畫圖町と市外健軍村に跨る。成趣園の水が流れ來つて湛へて居るところで、形状瓢箪に近く、周圍約六軒、中央の狭部に於ける土橋を境として、上畫津、下畫津の二湖に分れ、鯉、鮎、鰻等が多く、夏季は市内唯一の水郷として、無数の釣舟やボートが浮ぶ。湖の水は流れて加勢川に注ぐ。畫津は江津とも記す。

【するせんじのり發生地】「指定天然記念物」上江津湖の一部飽託郡健軍村字神水に屬する部分には「するせんじのり」が發生する。この苔は一八七二年和蘭の植物



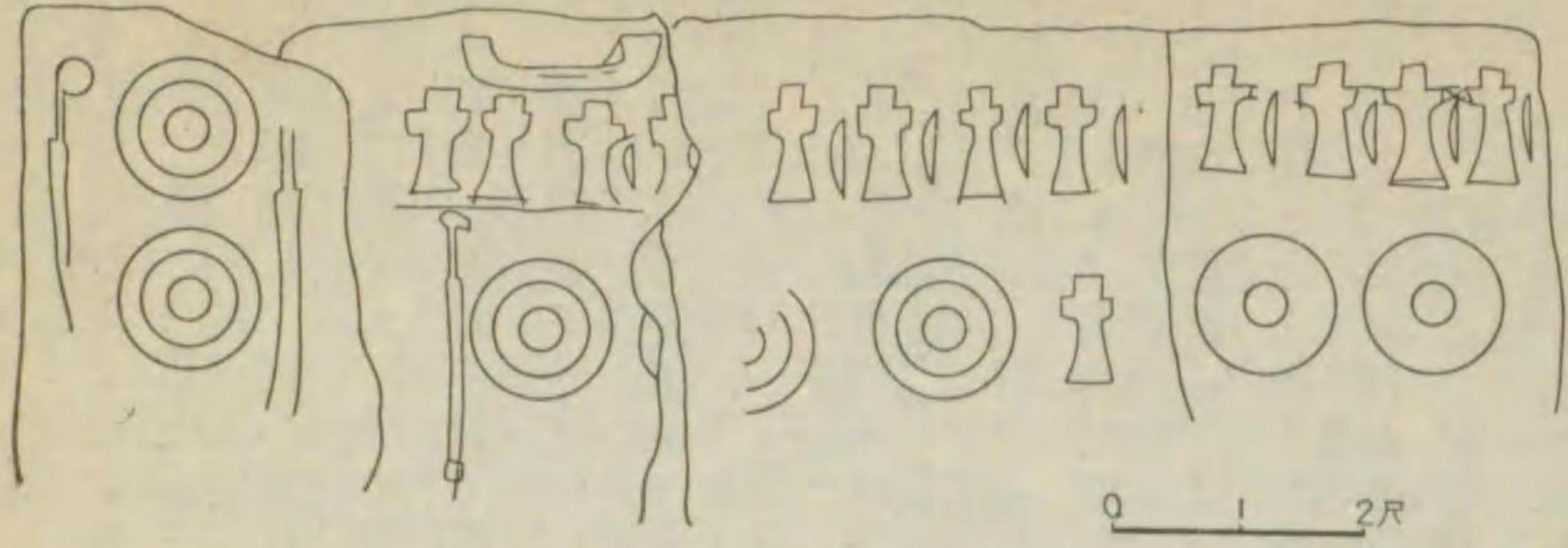
學者スーリンゲル氏が始めて記載せる珍奇な淡水藻にして、熊本水前寺地方の外は、九州の或地方にのみ産するものである。厚紙状に延べ乾燥して食料とする。砂糖漬、佃煮等としても販賣される。

【釜尾古墳】〔指定史蹟〕 上熊本驛の北三軒、飽託郡西里村釜尾の丘陵端に築かれた圓形墳で、鹿兒島本線鐵道線路の西側にあり、車窓から望見せられる。傍に菅原神社あり、墳丘の上には石室保護の目的を以て瓦葺葺屋が建設せられて居る。羨道は狭長で長さ四米餘、玄室は長幅共約三米で、高さは現存部約三米、四壁は板狀安山岩の小割片を積み巧に構築せられ、持送りなして上部に至るに従つてつぼみて一種の穹窿を作つて居るが、下底から約一米八〇厘の高さまでを朱塗とし、これより上部は白色顔料（白粘土）を以て塗り別けて居る。室内には奥壁に並行して七枚の板狀安山岩から成る障屏（石厨子）あり、向つて左壁にも並行して三枚の板石が殘存して居るが、板石には何れも表面に朱、白、藍の三色の顔料を以て紋様が彩畫せられ

て居る。彩紋は三角形紋、同心圓紋、その複合紋及一種の生物、假令は海盤車の如きを模したと思はれる異形の形象がある。この形象は奥の大形の板石に三個描かれ、その前方の二枚の小形の板石にも各々一個描かれて居る。また障屏覆蓋の石には内面に三角形紋を幾重にも重菱の如くに描かれて居るが、現今は取除かれて玄室天井を支へて居る柱に立掛けられて居る。また羨道から玄室に入らんとする所の左右の側柱の上にある楣石にも、重菱の如き紋様が描かれて居る。この古墳の出土遺物として管玉、齋瓮、埴瓮土器破片、甲冑及太刀、劍、鐵斧、鞍金具の殘缺等がある。

【金峰山】 上熊本驛の西約六軒、芳野村、松尾村の境に聳え、熊本市西方の最高峯で海拔六六六米、コニーデ式の火山である。頂上に金峰山神社があり、その横に菊池武重を祀る石殿もある。こゝに立つて四顧すれば、東に阿蘇、西に雲仙が望まれ、眺望快絶である。

刻彫墳古甲金千



にある權現山の麓から稍上つた勝負山と呼ぶ丘陵鞍部に築かれた圓形墳である。石室は羨道玄室何れも板狀安山岩の小割石を用ゐ、玄室は長さ幅共約三米で、底面楕圓形を呈し、壁は上部に至るに従つて狭まりて穹窿を呈して居るが、天井石は取去られて居る。玄室奥壁に接近して角閃安山岩から成る障屏あり、奥二枚、左右に各一枚、都合四枚の板石をたてた

上に大板石を載せて蓋となし一種の石厨子を形成して居る。この障屏（石厨子）の四枚の石の内面に線刻にて十三個の靱の略描があり、その大多數は傍に弓を添へ、同心圓七個（的を表はしたと云ふ説がある）、頭椎太刀、鹿角裝柄頭太刀と思はれるものを刻し、尙、靱の上部にゴンドラ式の船も刻されて居る。これ等の刻線は朱と緑の二色を以て彩色せられて居る。この古墳の東北に一基、同じく南方の麓に近い高城山に一基ある石室古墳には裝飾紋様はない。

【千金甲古墳（甲號）】〔指定史蹟〕 同權現山の中腹にある。乙號墳から更に上ること約四五米で海拔三〇〇米に近く、前面宇土半島を望み、極めて形勝の地である。

圓墳で石室略々西面し、羨道閉塞して玄室側壁の破壊口から入る事が出来る。

底面正方形で方約二米半、高さ約二米、小割にした板狀安山岩片を用ゐて積上げた壁は上部に到るに従つて持送りて穹窿をなして居る。壁に沿うて四周に高さ八五厘の阿蘇熔岩から成る槲壁が造られ、槲壁内は更



に三區に分たれて居る。北、東、南の檣壁及東壁（奥壁）に平行する隔障の面には彩色を施した彫刻紋様がある。上下二段に二重乃至三重の同心圓を太き刻線にて浮彫的に彫刻し、同心圓紋の間には二條の交叉した直線を刻して居るが、奥の部分の檣壁には、この上に別に靱の形象が重ねられて彫刻されて居る。彩色の顔料は朱、青及岱緒の三色で、朱色は石面の殆んど全面に塗抹せられ、青色顔料を以て靱の上部の箭の部分と同心圓の内圈等を彩り、靱の一部と同心圓の外圈等は岱緒を以て彩られて居る。

【明治天皇小島行在所】〔指定史蹟〕 同熊本電氣百貫線松尾停留場の西南二軒半、飽託郡小島町下松尾字御幸、米村氏方にあり、明治五年六月天皇西國御巡幸の際、同月十六日御召艦龍驤より百貫湊に御上陸あらせられ、行在所となし給うた所で、二階の御居間は當時の遺構を存し、御調度品が保存されて居る。

【雲巖寺（岩戸觀音）】〔曹洞宗〕 同松尾停留場の北約四軒、飽託郡松尾村字岩戸にある。背後の岩戸山は有明

海を距て、島原、雲仙を望み展望廣く、岩上各所に五百羅漢の石像がある。

寶物

一東陵永興禪師倚像〔國寶〕 一編 木造、高さ約三尺、玉眼、微入、兩手を膝の上に置き、個性の表現に富んだ作である。東陵は天童山雲外禪師の嗣で貞和十年鎌倉圓覺寺に住し、後南禪寺栖雲院に移り、貞治四年に入寂した。

【河内温泉】〔二圖や8〕 熊本驛の西一六軒、自動車の便がある。電車で百貫石まで行つてそこから自動車によつてもよい。有明海に突出する丘陵から成る小半島の麓で、雲仙岳を望む景勝の地である。鹽類泉でリウマチス、婦人病、神経痛などに効くと云ふ。小天温泉に接してこの地方も蜜柑の名所である。旅館 鹿木屋、潮明館外數軒。

【隈府町】〔二圖ま7〕 菊池電氣軌道終點。菊池川の上流地方に位し、古くは隈部と稱へて、肥人の集落地であつたと云ふ。菊池氏代々の居城であつたところで隈府城址、菊池神社、孔子堂の址、懷良親王の宮址、正觀寺、月見殿の址等がある。人口一萬。

【菊池神社】〔別格官幣社〕〔二圖ま7〕 菊池電氣隈府の東

北一軒半、隈府町隈府城山にあり、熊本市より自動車の便もある。菊池武時、武重、武光を祭神とし、同武士、武政、武朝以下殉難將士の靈を配祀して居る。慶應四年七月初廷菊池氏累代の精忠を嘉してその祭祀を命ぜられ、明治三年菊池城址に社殿を造営し、同十一年別格官幣社に加列した。菊池氏は九州の豪族で、武時は勤王の義兵を起して北條英時を博多に討ち、元弘三年戦死した。武重は武時の長子で弟武光と共に各所に足利方の軍を討ち、武光は正平三年以來征西將軍宮懷良親王を菊池城に迎へ奉り九州一圓宮方を統御した。現今の社域一帶の丘陵は菊池城または隈府城とも呼ばれ、正平年間以來菊池氏の本城であつた。

例祭は五月五日。特殊神事として十月十五日の秋祭の松籬子の能は將軍宮在府の時より傳ふる所と云ふ。將軍宮館址 城址の北端で、社域と谷を隔てた林中にあり、俗に内裏尾と呼ばれ、記念碑が建つて居る。觀月殿（月見殿）址 館址の東北突出した丘端にあ

り、懷良親王征西府を隈府に置き給ふ事十數年、菊池氏その旅情を慰め奉らんとして設けた殿址である。尙、觀燈殿址は城址の東端渡山にある。

寶物館 社殿の後側に立ち菊池氏關係の遺品約四十點、刀劍、古文書、武具、その他參考繪畫、繪圖等を陳列して居る。社寶の傳菊池能運像〔國寶〕は京都博物館に出陳中で、模本が陳列されて居る。

【菊池城址（隈府城址）】 また守山城とも稱せらる。菊池神社社域一帶で、正平以來菊池氏の本城であつた。本丸、天守臺、二の丸址等と稱せられる遺址を存し、山麓の平地には御所小路、南小路、中小路等と呼ばれる地字が遺つて居る。

また城址の東、南、西三面に半月狀に配置せられた菊池十八外城と稱せられる十八箇所の出城址がある。【正觀寺】〔臨濟宗南禪寺派〕隈府町にあり、興國五年菊池武光の創建で、鎌倉圓覺寺秀山の法弟大方恢和尚を開山とした。後、秀山またこの寺に住したので兩開山と稱する。武光卒するやこゝに葬り、菊池氏の菩提寺